

きこないちょう
木古内町
き こ ない い せき
木 古 内 遺 跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

木古内町

木古内遺跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成25年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



縄文時代早期後半の竪穴住居跡（H-20）



縄文時代前期後半の竪穴住居跡調査状況（H-7ほか）



溝状遺構

例 言

1. 本書は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構による北海道新幹線建設事業に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センター（平成24年4月付で公益財団法人へ移行）が平成22・23年度に実施した木古内遺跡の埋蔵文化財発掘調査についての報告書である。
2. 調査・整理は、第2調査部第3調査課が担当した。
3. 本書の執筆は、付篇を除き、村田 大・土肥研晶・新家水奈・愛場和人・大泰司統が分担し、文責は各項目の末尾に括弧で示した。編集は愛場が行った。
4. 写真の撮影は、現場では各担当者が行い、報告書掲載遺物の撮影は1部1課吉田裕史洋が行った。
5. 自然科学的分析の内容と委託・依頼先の機関、個人は、次のとおりである。
黒曜石原産地同定：(株)第四紀地質研究所
放射性炭素年代測定：(株)加速器分析研究所
炭化材樹種同定：(株)パレオ・ラボ
炭化種実同定：(株)パレオ・ラボ
P-12出土人骨鑑定：札幌医科大学 松村博文
P-12出土人骨の放射性炭素年代測定：(株)パレオ・ラボ
6. 調査・報告にあたり、下記の諸機関及び各氏から御指導・御協力をいただいた。（順不同・敬称略）
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
木古内町教育委員会 木元 豊
北斗市教育委員会 森 靖裕
知内町教育委員会 高橋豊彦
松前町教育委員会 前田正憲
厚沢部町教育委員会 石井淳平
市立函館博物館 佐藤智雄、大矢京右
七飯町歴史館 山田 央
北海道考古学会 大沼忠春
北海道考古学研究所 横山英介

記号等の説明

1. 確認した遺構は、下記の略号を用い、連番を付し本文及び図表中に用いた。
H：竪穴住居跡 P：土坑 TP：Tピット F：焼土 FC：フレイク集中
アルファベットと遺構番号の間にはハイフン「-」を入れ、発掘区（グリッド）名の表記と区別した。また縄文文化期の竪穴住居跡はSHとして区別した。
2. 遺構図の縮尺は、40分の1、遺物出土状況図は20分の1を基本とし、それ以外は任意の縮尺で、各図にスケールを付した。平面図の「+」は、4m方格の大グリッドラインの交点で、傍らのアルファベット・アラビア数字は発掘区名である。遺構平面図等のドット「・」付き数値はその地点の標高（m）を表す。
平面図の天方向は、N-50°-Eで、平面図には各図に方位記号を付した。
3. 遺構図の出土遺物分布については下記の記号を使用した。

黒塗り記号：覆土出土	白抜き記号：床面直上・床面出土
●：土器	○：土器
▲：石器	△：石器
▼：フレイク	▽：フレイク
■：礫	□：礫
4. 本文及び図表中では、遺構の規模を次の要領で示した。一部破壊されているものは、現存する計測値を括弧で示した。
竪穴住居跡・土坑・Tピット・溝状遺構：
確認面の長径×短径/床・底面の長径×短径/確認面からの最大深（m）
焼土：長径×短径/最大厚（m）
フレイク集中：長径×短径（m）
5. 遺物図の縮尺は、次のとおりで、各図にスケールを付した。
復元土器：4分の1 拓影土器：3分の1（一部4分の1）
剥片石器：2分の1 礫石器：3分の1（一部4分の1） 土・石製品2分の1
金属製品：2分の1
6. 写真図版の遺物の縮尺は、復原土器：任意、拓本土器：3分の1、剥片石器：2分の1、礫石器：6分の1を基本とし、それ以外のものは縮尺を付した。

目 次

カラー図版
例 言
記号等の説明
目 次
図 目 次
表 目 次
写真図版目次

I 章 調査の概要	
1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査に至る経緯	1
4. 調査結果の概要	3
5. 遺跡の位置と環境	4
6. 周辺の遺跡	4
II 章 調査の方法	
1. 発掘区の設定	7
2. 基本層序	8
3. 調査の方法	8
4. 整理の方法	10
5. 遺物の分類	10
III 章 遺構と出土遺物	
1. 概要	15
2. 竪穴住居跡	15
3. 土坑	86
4. Tピット	161
5. 溝状遺構	168
6. 焼土	169
7. フレイク集中	173
8. 遺構出土の遺物	174
(1) 竪穴住居跡出土の土器・土製品	174
(2) 土坑・Tピット出土の土器・土製品	177
(3) 竪穴住居跡出土の石器等	198
(4) 土坑・フレイク集中出土の石器等	222

IV 章 包含層の遺物	
1. 土器・土製品	255
2. 石器等	265
3. 金属製品	279
V 章 まとめ	
1. 遺構について	284
2. 遺物について	285
3. 自然科学的分析結果の評価について	287

付篇 自然科学的手法による分析結果	
1. 黒曜石原産地同定(第四紀地質研究所)	293
2. 放射性炭素年代(AMS測定)	299
(加速器分析研究所)	
3. 炭化材樹種同定(パレオ・ラボ)	307
4. 種実の同定(パレオ・ラボ)	309
5. P-12出土人骨について	314
(札幌医科大学 松村博文)	
6. P-12出土人骨の放射性炭素年代測定	318
(パレオ・ラボ)	

写真図版
引用参考文献
報告書抄録

挿 図 目 次

図Ⅰ-1	調査範囲図	2	図Ⅲ-54	H-27・28	82
図Ⅰ-2	遺跡の位置と周辺の地形	5	図Ⅲ-55	H-29 (1)	84
図Ⅱ-1	グリット設定図と年度別調査区	7	図Ⅲ-56	H-29 (2)	85
図Ⅱ-2	基本土層図と土層断面図	9	図Ⅲ-57	P-1~4	87
図Ⅲ-1	遺構位置図	13	図Ⅲ-58	P-5~9	89
図Ⅲ-2	SH-1 (1)	16	図Ⅲ-59	P-10・11	91
図Ⅲ-3	SH-1 (2)	17	図Ⅲ-60	P-12	93
図Ⅲ-4	SH-2 (1)	18	図Ⅲ-61	P-13・15・17・18	95
図Ⅲ-5	SH-2 (2)	19	図Ⅲ-62	P-16・19	96
図Ⅲ-6	H-1 (1)	22	図Ⅲ-63	P-20・22・24	97
図Ⅲ-7	H-1 (2)	23	図Ⅲ-64	P-23・25・26	99
図Ⅲ-8	H-1 (3)	24	図Ⅲ-65	P-27・29	101
図Ⅲ-9	H-2	25	図Ⅲ-66	P-30・32・34	103
図Ⅲ-10	H-3 (1)	26	図Ⅲ-67	P-33・35・38	105
図Ⅲ-11	H-3 (2)	27	図Ⅲ-68	P-39・40	107
図Ⅲ-12	H-4	29	図Ⅲ-69	P-41~44	109
図Ⅲ-13	H-5 (1)	30	図Ⅲ-70	P-45~49	111
図Ⅲ-14	H-5 (2)	31	図Ⅲ-71	P-50~53	113
図Ⅲ-15	H-6 (1)	32	図Ⅲ-72	P-54~57	115
図Ⅲ-16	H-6 (2)	33	図Ⅲ-73	P-58~61	117
図Ⅲ-17	H-7 (1)	35	図Ⅲ-74	P-62~68・70	121
図Ⅲ-18	H-7 (2)	36	図Ⅲ-75	P-69・71~73	123
図Ⅲ-19	H-8 (1)	38	図Ⅲ-76	P-74~79	125
図Ⅲ-20	H-8 (2)	39	図Ⅲ-77	P-80~84	127
図Ⅲ-21	H-8 (3)	40	図Ⅲ-78	P-85~89	129
図Ⅲ-22	H-9 (1)	41	図Ⅲ-79	P-90~94	131
図Ⅲ-23	H-9 (2)	42	図Ⅲ-80	P-95~98	133
図Ⅲ-24	H-9 (3)	43	図Ⅲ-81	P-99・100	135
図Ⅲ-25	H-10 (1)	45	図Ⅲ-82	P-101・102	137
図Ⅲ-26	H-10 (2)	46	図Ⅲ-83	P-103・104	138
図Ⅲ-27	H-10 (3)	47	図Ⅲ-84	P-105~107・109	139
図Ⅲ-28	H-11 (1)	48	図Ⅲ-85	P-108・113・131 (1)	141
図Ⅲ-29	H-11 (2)	49	図Ⅲ-86	P-108・113・131 (2)	143
図Ⅲ-30	H-12	51	図Ⅲ-87	P-110~112・114~116・118 ・119・123・124・126・128・129	146
図Ⅲ-31	H-13	52	図Ⅲ-88	P-111・112・114・116・118 ・119・123・124・126・128・129	147
図Ⅲ-32	H-14 (1)	54	図Ⅲ-89	P-117・120~122・125・127	149
図Ⅲ-33	H-14 (2)	55	図Ⅲ-90	P-130・132・133・135	153
図Ⅲ-34	H-15	57	図Ⅲ-91	P-134・136~140	155
図Ⅲ-35	H-16	58	図Ⅲ-92	P-141~144	157
図Ⅲ-36	H-17・18 (1)	59	図Ⅲ-93	P-145~153	159
図Ⅲ-37	H-17・18 (2)	60	図Ⅲ-94	TP-1・2	162
図Ⅲ-38	H-17・18 (3)	61	図Ⅲ-95	TP-3・4	163
図Ⅲ-39	H-19	63	図Ⅲ-96	TP-5・6	165
図Ⅲ-40	H-20 (1)	64	図Ⅲ-97	TP-7~9	167
図Ⅲ-41	H-20 (2)	65	図Ⅲ-98	溝状遺構 (1)	170
図Ⅲ-42	H-20 (3)	66	図Ⅲ-99	溝状遺構 (2)	171
図Ⅲ-43	H-20 (4)	68	図Ⅲ-100	F-1~5	172
図Ⅲ-44	H-21 (1)	70	図Ⅲ-101	F C-1~3	173
図Ⅲ-45	H-21 (2)	71	図Ⅲ-102	SH-1・2出土の土器・土製品	180
図Ⅲ-46	H-22 (1)	72	図Ⅲ-103	H-1・3~6出土の土器・土製品	181
図Ⅲ-47	H-22 (2)	73	図Ⅲ-104	H-7・8出土の土器	182
図Ⅲ-48	H-22 (3)	74	図Ⅲ-105	H-9出土の土器 (1)	183
図Ⅲ-49	H-23 (1)	76	図Ⅲ-106	H-9出土の土器 (2)・土製品	184
図Ⅲ-50	H-23 (2)	77	図Ⅲ-107	H-10・14出土の土器	185
図Ⅲ-51	H-23 (3)	78	図Ⅲ-108	H-16~19出土の土器	186
図Ⅲ-52	H-24	79			
図Ⅲ-53	H-25・26	80			

挿 図 目 次

図Ⅲ-109	H-20出土の土器 (1) ……………	187	図Ⅲ-140	P-1～5・10出土の土器……………	224
図Ⅲ-110	H-20出土の土器 (2) ……………	188	図Ⅲ-141	P-14～25出土の土器……………	225
図Ⅲ-111	H-21～25出土の土器……………	189	図Ⅲ-142	P-31出土の土器……………	226
図Ⅲ-112	H-27～29出土の土器……………	190	図Ⅲ-143	P-39～59出土の土器……………	227
図Ⅲ-113	P-1～47出土の土器……………	191	図Ⅲ-144	P-61～97出土の土器……………	228
図Ⅲ-114	P-50～94出土の土器……………	192	図Ⅲ-145	P-99～102出土の土器……………	229
図Ⅲ-115	P-96～102出土の土器……………	193	図Ⅲ-146	P-104・105出土の土器……………	230
図Ⅲ-116	P-104出土の土器……………	194	図Ⅲ-147	P-108出土の土器 (1) ……………	231
図Ⅲ-117	P-105・107出土の土器……………	195	図Ⅲ-148	P-108 (2)・P-112出土の土器 ……	232
図Ⅲ-118	P-108・111・112出土の土器・ 土製品……………	196	図Ⅲ-149	P-113～142出土の土器……………	233
図Ⅲ-119	P-113～142・T P-5出土の土器…………	197	図Ⅲ-150	F C-1・3出土の土器……………	234
図Ⅲ-120	S H-1・2出土の土器……………	202	図Ⅳ-1	包含層出土土器分布図 (1) ……………	258
図Ⅲ-121	H-1出土の土器……………	203	図Ⅳ-2	包含層出土土器分布図 (2) ……………	259
図Ⅲ-122	H-2～5出土の土器……………	204	図Ⅳ-3	包含層出土の土器 (1) ……………	260
図Ⅲ-123	H-6出土の土器……………	205	図Ⅳ-4	包含層出土の土器 (2) ……………	261
図Ⅲ-124	H-7出土の土器 (1) ……………	206	図Ⅳ-5	包含層出土の土器 (3) ……………	262
図Ⅲ-125	H-7出土の土器 (2) ……………	207	図Ⅳ-6	包含層出土の土器 (4) ……………	263
図Ⅲ-126	H-8出土の土器 (1) ……………	208	図Ⅳ-7	包含層出土の土器 (5)・土製品…………	264
図Ⅲ-127	H-8 (2)・H-9出土の土器……………	209	図Ⅳ-8	包含層出土土器分布図 (1) ……………	266
図Ⅲ-128	H-9出土の土器等 (2) ……………	210	図Ⅳ-9	包含層出土土器分布図 (2) ……………	267
図Ⅲ-129	H-10出土の土器等……………	211	図Ⅳ-10	包含層出土土器分布図 (3) ……………	268
図Ⅲ-130	H-11～14出土の土器……………	212	図Ⅳ-11	包含層出土土器分布図 (4) ……………	269
図Ⅲ-131	H-16～19出土の土器……………	213	図Ⅳ-12	包含層出土の土器 (1) ……………	270
図Ⅲ-132	H-20出土の接合資料模式図……………	214	図Ⅳ-13	包含層出土の土器 (2) ……………	271
図Ⅲ-133	H-20出土の土器 (1) ……………	215	図Ⅳ-14	包含層出土の土器 (3) ……………	272
図Ⅲ-134	H-20出土の土器 (2) ……………	216	図Ⅳ-15	包含層出土の土器 (4) ……………	273
図Ⅲ-135	H-20出土の土器 (3) ……………	217	図Ⅳ-16	包含層出土の土器 (5) ……………	274
図Ⅲ-136	H-20 (4)・H-21・22出土の土器等…………	218	図Ⅳ-17	包含層出土の土器 (6) ……………	275
図Ⅲ-137	H-23出土の土器……………	219	図Ⅳ-18	包含層出土の土器 (7) ……………	276
図Ⅲ-138	H-24・25・27～29 (1) 出土の土器…………	220	図Ⅳ-19	包含層出土の土器 (8)・土製品・ 金属製品……………	277
図Ⅲ-139	H-29出土の土器 (2) ……………	221	図Ⅴ-1	遺構出土のI群b-1類土器集成……………	286

表 目 次

表Ⅰ-1	遺物集計表……………	3	表Ⅲ-6	遺構出土掲載土器等一覽 (1)～(4)…………	251
表Ⅱ-1	測量基準点一覽表……………	7	表Ⅳ-1	包含層出土掲載土器等一覽 (1)・(2)…………	280
表Ⅲ-1	竪穴住居跡規模一覽……………	235	表Ⅳ-2	包含層出土掲載土器等一覽 (1)・(2)…………	282
表Ⅲ-2	土坑等規模一覽 (1)・(2)……………	235	表Ⅴ-1	黒曜石産地同定結果一覽(産地別)……………	288
表Ⅲ-3	付属遺構規模一覽 (1)～(3)……………	236	表Ⅴ-2	放射性炭素年代測定結果一覽(時代順)…………	289
表Ⅲ-4	遺構出土遺物一覽 (1)～(10)……………	238	表Ⅴ-3	遺構出土炭化種実同定結果一覽……………	290
表Ⅲ-5	遺構出土掲載土器等一覽 (1)～(4)…………	247			

写真図版目次

図版1	遺跡風景 表土除去後地形		
図版2	基本土層 (P56付近) 調査区南西側調査終了状況 (北から)		
図版3	S H-1 土層断面 S H-1 遺物出土状況 H F-1 および煙道土層断面 H F-1 周辺遺物出土状況		
図版4	S H-2 土層断面 煙道土層断面 H F-1 土層断面 S H-2 完掘状況		
図版5	H-1 土層断面 H P-5 土層断面 H P-7・8 土層断面 H P-9 土層断面 H-1 遺物出土状況		
図版6	H-2 土層断面 H P-1 土層断面 H P-2・3 完掘状況 H-2 完掘状況		
図版7	H-3 土層断面 H F-1 土層断面 H P-1 土層断面 H-3 完掘状況		
図版8	H-4 上面遺物出土状況 H-4 土層断面 H-4 遺物出土状況 H-4 付属遺構土層断面 H-4 完掘状況		
図版9	H-5 土層断面 H P-4 土層断面 H P-9 土層断面 H P-11 土層断面 H-5 完掘状況		
図版10	H-6 土層断面 H F-1 土層断面 H-6 遺物出土状況 H-6 完掘状況		
図版11	H-7-12 調査状況 調査状況 (H-9掘り上げ土検出)		
図版12	H-7 土層断面 H P-16 土層断面 覆土中土器出土状況 H P-4 遺物出土状況 H P-13 土層断面 H-7 完掘状況		
図版13	H-8 土層断面 H P-1 遺物出土状況 H F-3 遺物出土状況 H-8 完掘状況 周溝検出状況 H P-6 土層断面		
図版14	H-9 土層断面 H F-1 検出状況 H P-11 遺物出土状況 H-9 覆土中遺物出土状況		
図版15	H-9 完掘状況 H-10 土層断面 石製品出土状況 H P-4・5・6 土層断面 H P-10 土層断面 H-10 完掘状況		
図版16	H-11 土層断面 H-11 遺物出土状況 H P-2 土層断面 H P-3 土層断面 H P-5 土層断面		
図版17	H-12 土層断面 H P-1 土層断面 H P-2 土層断面 H-12 完掘状況		
図版18	H-13 土層断面 H-13 完掘状況		
図版19	H-17・18・14 調査状況		
図版20	H-14 土層断面 覆土中小礫出土状況 礫出土状況 H F-1 検出状況 周溝完掘状況 H-14 完掘状況		
図版21	H-15 遺物出土状況 H-16 遺物出土状況		
図版22	H-17 土層断面 H F-1 完掘状況 H P-1 完掘状況 周溝1 土層断面 H-17 完掘状況		
図版23	H-18 土層断面 H F-1 土層断面 炭化材検出状況 H P-1・2・3 完掘状況 H-18 完掘状況		
図版24	H-19 土層断面 H-19 遺物出土状況 H-20 土層断面		
図版25	H-20 覆土下位土器出土状況 床面土器出土状況 H-20 遺物出土状況 床面石器出土状況 床面石器出土状況		
図版26	H P-1・2・10 完掘状況 H P-6 遺物出土状況 H P-7 土層断面 周溝2 土層断面 H-20 完掘状況		
図版27	H-21 西側土層断面 H-21 東側土層断面 周溝1 完掘状況 H-21 遺物出土状況		
図版28	H-22 土層断面 H P-1 土層断面 炭化材出土状況 H-22 完掘状況		

圖版29	H-23 土層斷面	P-33 土層斷面
	覆土中土器出土狀況	P-34 遺物出土狀況
	H P-3 A·B土層斷面	P-35 完掘狀況
圖版30	H-23 完掘狀況	P-36 完掘狀況
	H-24 土層斷面	P-37 完掘狀況
	H P-2 土層斷面	P-38 完掘狀況
圖版31	H-24 西側完掘狀況	P-39 遺物出土狀況
	H P-3 土層斷面	P-40 土層斷面
	H-24 東側遺物出土狀況	P-41 完掘狀況
	H-25 土層斷面	P-42 完掘狀況
	H-25 土層斷面	P-43 完掘狀況
圖版32	H-25 完掘狀況	P-44 完掘狀況
	H-26 完掘狀況	P-45 土層斷面
	H-26 H P-1 土層斷面	P-46 完掘狀況
	H-26 H P-2 土層斷面	P-47 完掘狀況
	H-27 土層斷面	P-48 完掘狀況
圖版33	H P-1 土層斷面	P-49 完掘狀況
	H-27 完掘狀況	P-50 完掘狀況
	H-28 土層斷面	P-51 完掘狀況
	H-28 完掘狀況	P-52 完掘狀況
	H-29 土層斷面	P-53 完掘狀況
圖版34	床面遺物出土狀況	P-54 完掘狀況
	H P-9 砂檢出狀況	P-55 土層斷面
	H-29 炭化材檢出狀況	P-56 完掘狀況
	P-1 遺物出土狀況	P-57 完掘狀況
	P-2 遺物出土狀況	P-58 土層斷面
圖版35	P-3 完掘狀況	P-59 土層斷面
	P-4 遺物出土狀況	P-58·59 完掘狀況
	P-5 遺物出土狀況	P-60 完掘狀況
	P-6 完掘狀況	P-61 遺物出土狀況
	P-7 完掘狀況	P-62·63·64 完掘狀況
	P-8 遺物出土狀況	P-65·66·67·68 完掘狀況
	P-9 土層斷面	P-69 完掘狀況
	P-10 遺物出土狀況	P-70 完掘狀況
圖版36	P-11 遺物出土狀況	P-71 遺物出土狀況
	P-13 完掘狀況	P-72 遺物出土狀況
	調査区南西部土坑群	P-73 遺物出土狀況
	P-12 土層斷面	P-74 完掘狀況
	人骨檢出狀況	P-75·76 完掘狀況
圖版37	人骨檢出狀況	P-77 土層斷面
	P-14 完掘狀況	P-78 完掘狀況
	P-15 完掘狀況	P-79 完掘狀況 (H23年度)
	P-16 完掘狀況	P-80 完掘狀況
	P-17 土層斷面	P-81 完掘狀況
	P-18 完掘狀況	P-82 完掘狀況
	P-19 遺物出土狀況	P-83 完掘狀況
	P-20 完掘狀況	P-84 完掘狀況
	P-21 完掘狀況	P-85 完掘狀況
	P-22 完掘狀況	P-86 完掘狀況
圖版38	P-23 完掘狀況	P-87 完掘狀況
	P-24 完掘狀況	P-88 完掘狀況
	P-25 完掘狀況	P-89 遺物出土狀況
	P-26 土層斷面	P-89 完掘狀況
	P-27 完掘狀況	P-90·91 完掘狀況
	P-28 完掘狀況	P-92 完掘狀況
	P-29 完掘狀況	P-93 完掘狀況
圖版39	P-30 完掘狀況	P-94 完掘狀況
	P-31 遺物出土狀況	P-95·96 完掘狀況
	P-31 完掘狀況	P-96 遺物出土狀況
	P-32 完掘狀況	P-97 土層斷面

	P-98	遺物出土状況	P-151	完掘状況
図版47	P-99	遺物出土状況	P-152	完掘状況
	P-99	遺物出土状況	T P-1	完掘状況
	P-100	遺物出土状況	T P-2	完掘状況
	P-101	完掘状況	T P-3	完掘状況
	P-102	遺物出土状況	T P-4	完掘状況
	P-103	遺物出土状況	T P-5	完掘状況
	P-104	遺物出土状況	T P-6	完掘状況
	P-105	遺物出土状況	T P-7	完掘状況
図版48	P-106	遺物出土状況	T P-8	完掘状況
	P-107	遺物出土状況	T P-9	完掘状況
	P-108	遺物出土状況	図版54	溝状遺構34ライン土層断面
	P-108	遺物出土状況		33ライン土層断面
	P-113	遺物出土状況	MP-2	完掘状況
	P-113	遺物出土状況	MP-3	完掘状況
	P-108・113	完掘状況		崩先直検出状況
図版49	P-109	完掘状況		溝状遺構完掘状況
	P-110	完掘状況	図版55	S H-1・2出土の遺物
	P-111	完掘状況	図版56	H-4・7・8・9出土の復原土器
	P-112	遺物出土状況	図版57	H-9・14・20出土の復原土器
	P-114	完掘状況	図版58	H-23・29・土坑出土の復原土器・底部
	P-115・116	完掘状況	図版59	H-1~7出土の拓本土器
	P-117	完掘状況	図版60	H-8~11出土の拓本土器
	P-118	完掘状況	図版61	H-12~20出土の拓本土器
	P-119	完掘状況	図版62	H-20・21出土の拓本土器
	P-120	完掘状況	図版63	H-22~29出土の拓本土器
図版50	P-121・122	完掘状況	図版64	P-1~75出土の拓本土器
	P-123	完掘状況	図版65	P-77~102出土の拓本土器
	P-124	完掘状況	図版66	P-104~108出土の拓本土器
	P-125	完掘状況	図版67	P-108~142・T P出土の拓本土器
	P-126	完掘状況	図版68	H-1~6出土の石器
	P-127	完掘状況	図版69	H-6~8出土の石器等
	P-128	完掘状況	図版70	H-8~10出土の石器等
	P-129	完掘状況	図版71	H-10~20出土の石器等
	P-130	完掘状況	図版72	H-20出土の接合資料1
	P-131	遺物出土状況	図版73	H-20出土の接合資料2
	P-132	完掘状況	図版74	H-20出土の接合資料3・4・5
	P-133	完掘状況	図版75	H-20出土の接合資料6・7
図版51	P-134	土層断面	図版76	H-20出土の石器
	P-135	完掘状況	図版77	H-20~23出土の石器
	P-136	完掘状況	図版78	H-23~29出土の石器
	P-137	完掘状況	図版79	P-1~45出土の石器
	P-138	遺物出土状況	図版80	P-51~102出土の石器
	P-139	完掘状況	図版81	P-104~108出土の石器
	P-140	完掘状況	図版82	P-112~142・F C出土の石器
	P-141	完掘状況	図版83	包含層出土の復原土器・拓本土器(1)
	P-142	完掘状況	図版84	包含層出土の拓本土器(2)
図版52	P-143	完掘状況	図版85	包含層出土の拓本土器(3)
	P-144	完掘状況	図版86	包含層出土の拓本土器(4)・土製品
	P-145・147・153	完掘状況	図版87	包含層出土の石器(1)
	P-148	完掘状況	図版88	包含層出土の石器(2)
	P-149	完掘状況	図版89	包含層出土の石器(3)
	P-150	完掘状況	図版90	包含層出土の石器(4)・石製品・金属製品

I章 調査の概要

1. 調査要項

事業名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	独立法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局
事業受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター（平成24年4月付で公益財団法人へ移行）
遺跡名	木古内遺跡（北海道教育委員会登録番号B-05-3）
平成22年度	
所在地	上磯郡木古内町字木古内55-1ほか
調査面積	7,716㎡
調査期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日（現地調査5月10日～10月29日）
平成23年度	
所在地	上磯郡木古内町字木古内56-19ほか
調査面積	4,304㎡
調査期間	平成23年4月1日～平成24年3月31日（現地調査5月9日～7月15日）
整理期間	平成22年11月1日～平成26年3月31日

2. 調査体制

平成22年度	
第2調査部 部長	西田 茂
第2調査部第3調査課 課長	村田 大（発掘担当者）
主査 土肥 研晶	主査 新家 水奈
主査 阿部 明義	主任 大泰司 統
平成23年度	
第2調査部 部長	三浦 正人
第2調査部第3調査課 課長	村田 大（発掘担当者）
主査 新家 水奈	主査 愛場 和人（発掘担当者）
	主査 広田 良成
	主査 大泰司 統
平成24年度	
第2調査部 部長	三浦 正人
第2調査部第3調査課 課長	村田 大
	主査 愛場 和人
平成25年度	
第2調査部 部長	三浦 正人
第2調査部第3調査課 課長	村田 大
	主査 愛場 和人

3. 調査に至る経緯

北海道新幹線は、昭和45（1970）年5月に成立した全国新幹線鉄道整備法に基づき、昭和47年6月に青森－札幌間（約300km）を含む基本計画が決定した。

昭和58（1983）年に、津軽海峡線建設に伴い、日本鉄道建設公団（当時）から北海道教育委員会

(以下道教委)に埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。

協議を受けた道教委は、昭和58年5月に所在確認調査を、昭和58年11月に範囲確認調査を6,900㎡にわたって実施している。

平成10年(1998)年に、北海道新幹線本古内駅の設置が決定、平成17(2005)年4月27日新青森—新函館(仮称)の工事認可書が国土交通省から鉄道建設・運輸施設整備支援機構に交付され、同年工事が着工された。

北海道新幹線は、本古内町の行政区域内を約15kmにわたって通過する予定である。新幹線建設計画の具体化に伴い、建設工事にかかわる本古内町内の遺跡発掘調査は、平成21(2009)年度から財団法人(当時)北海道埋蔵文化財センターにより開始されている。

本古内遺跡の調査範囲(図I-1)に関しては、数度にわたって道教委による試掘調査が行われている。昭和56年11月5日・6日に団地造成に係るものとしてC地区とD地区の一部に相当する範囲で、昭和58年11月9日・10日に主にB地区に相当する範囲で、昭和62年1月19日～21日に縫製工場建設に係るものとしてD地区の一部で、平成21年10月6日・7日にA地区で実施されている。これらの試掘調査の結果から、発掘を必要とする面積9,560㎡が提示された(試掘未了部分は含まず)。当該地域における路線の変更は不可能なことから、当センターが発掘調査を実施することとなった。

そのうち、平成22年度は、A・B・Cの3地区6,890㎡の調査を実施し、D地区2,670㎡については、縫製工場の移転時期などから、着手時期は別途検討することとなった。A地区は遺構確認調査範囲、B・C地区は通常の発掘調査範囲である。表土除去作業後に、A地区の北西側と南東側に包含層が残存することが判明したため、この範囲は通常の発掘調査を行うことに変更された。

道教委は、C・D地区の北東側に隣接した地域について、住宅の移転がほぼ終了したことから、平成22年6月29日・30日に6,400㎡の範囲で試掘調査を実施した。その結果、発掘を必要とする面積2,460㎡が提示された。その後、工事工程の変更により、新たに提示された範囲のうち、E地区(644㎡)とF地区(182㎡)について、追加調査することとなった。これにより、平成22年度の調査面積は7,716㎡となった。

平成23年度は、D地区(2,670㎡)、G地区(1,454㎡)、H地区(180㎡)の計4,404㎡を調査することとなった。調査計画の作成中、本古内町教育委員会から、平成23年2月から3月にかけて、本古内町建設水道課が、G地区およびH地区の北東側で工事を実施した旨の連絡があった。関係機関と協議の結果、破壊された包含層部分については遺構確認範囲とし、面積については減じないことで調整が行われた。

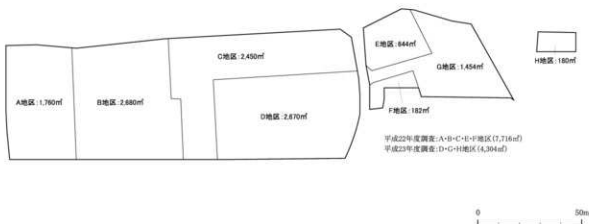


図 I - 1 調査範囲図

調査は、できる限り工事を急ぎたいとの事業者の要請を受け、調査が終了した地区について、順次引き渡しを行った。引き渡し日は、H地区は5月30日、G地区は6月6日、D地区の東側が6月27日、D地区の残りが7月15日である。

平成22年・23年の2か年で調査した面積の合計は、12,020㎡となった。

(村田 大)

4. 調査結果の概要

平成22・23年度の調査で確認した遺構は、竪穴住居跡31軒、土坑153基、Tピット9基、溝状遺構1か所、焼土5か所、フレイク集中4か所である。

竪穴住居跡は、縄文時代早期後半、縄文時代前期後半、縄文時代後期前葉、擦文文化期のものがある。早期の住居跡は、東鋼路Ⅱ式相当の時期である。

土坑は、縄文時代早期後半、縄文時代前期後半、縄文時代後期前葉のものが主体である。直径1m未満のフラスコ状の土坑が、調査区南西側と北側にまとまって分布する。また、近世以降の租人の土坑墓が1基検出している。

溝状遺構は幅37cm、深さ40cm程の溝が27mにわたってみられるもので、擦文文化期の木柵設置のための布掘り跡の可能性がある。

出土した遺物は、土器等42,373点、石器等96,197点、金属製品4点である。土器は、縄文時代早期後半の東鋼路Ⅱ式相当土器、東鋼路Ⅳ式土器、縄文時代前期の円筒下層式土器が多く、ついで縄文時代後期前葉の土器、少量ではあるが、縄文時代早期の貝殻痕文土器、東鋼路Ⅲ式土器、中斧路式土器、縄文時代前期の春日町式土器、円筒土器上層a式、縄文時代晩期の土器、擦文土器などが出土している。

石器は、剥片石器ではスクレイパー、石核、フレイク、礫石器ではたたき石、扁平打製石器が多い。

表I-1 遺物集計表

土器	細分類	遺構	包含層
	I a	2	
	I b	6,103	16,428
	II a	249	10
	II b	7,177	7,869
	III a	99	21
	III b		4
	IV a	972	2,675
	IV c	64	2
	V	10	255
	VI	21	21
	VII	69	49
	陶磁器など		113
	不明		4
土製品等	土製品	4	6
	焼成粘土塊	88	79
	計	14,835	27,538

金属製品	釘・キセル	4
------	-------	---

石器等	細分類	遺構	包含層
	石刀剣		1
	石鏃	58	174
	石剣またはナイフ	15	75
	両面調整石器	42	130
	石鏃	48	71
	つまみ付きナイフ	47	206
	蹄状石器	5	17
	スクレイパー	318	857
	楕円石器		2
	石核	159	270
	Uフレイク		544
	Rフレイク	277	93
	フレイク	27,365	46,408
	石斧	23	45
	たたき石	80	233
	オウリ石	21	40
	北海道式石冠	5	10
	石鏃	5	2
	扁平打製石器	119	108
	砥石	63	48
	石鏃	3	33
	白石・石鏃	34	28
	加工痕ある礫	2	6
	礫・原石	6,967	11,107
	石製品	8	24
旧石器	礫石刀核	1	
	計	35,665	60,532

出土遺物	遺構	包含層	総計
点数	90,900	88,074	138,574

剥片石器はほとんどが頁岩製である。また、頁岩製の石刃鋸が1点出土している。

旧石器は、H-10覆土から細石刃が1点のみ出土した。

金属製品はキセルが3点出土した。

(愛場 和人)

5. 遺跡の位置と環境

本古内町は、北海道の南西部、渡島半島の函館湾の西側に位置する。函館市と松前町のほぼ中間に位置し、函館市からは約42km西にあたる。北東側は北斗市、北西側を厚沢部町、西側を上ノ国町、南側を知内町と町界を接している。南部は津軽海峡に面し、晴れた日には青森県下北、津軽南半島を眺望できる。

町の地形は、細長く幅の狭い平坦地が東西15kmの海岸線に沿って発達し、海岸より数百メートル内陸には、海岸段丘と、北側の急峻な山間部から津軽海峡へと注ぐ大小河川により形成された河岸段丘が帯状に続く。また町域全体の9割近くが海拔100～500mの山岳・丘陵地帯である。山林の多くはスギの植林地であり、畑地・牧草地として利用されている場所もある。市街中心部は、町南部の本古内川、佐女川両河口付近の比較的広い平坦部に形成されている。

本古内遺跡は、J R江差線本古内駅から北東へ約1kmの海岸段丘上にあり、現海岸線からは直線距離で400m程山側に位置する。調査区は、標高約6～12mで、北から南へ緩やかに傾斜する。調査区南西端では、旧河川の跡が検出した。調査前の現況は、J R江差線と平行に走る町道に挟まれた住宅地である。

6. 周辺の遺跡

平成25年度までに登録されている本古内町の遺跡は、52か所である。遺跡の位置や概要は、本古内2遺跡(1)・(2)(北理調報278・293)でまとめられている。ここでは、平成21年度より平成25年度までに、町内で発掘調査が行われた遺跡について述べる。

本古内町内の遺跡は、平成21年度より北海道新幹線建設工事に伴い、大平遺跡、大平4遺跡、蛇内2遺跡、本古内遺跡、本古内2遺跡、新道4遺跡、高規格幹線道函館江差自動車道建設工事に伴い、大平遺跡、釜谷8遺跡、札苅5遺跡、札苅6遺跡、札苅7遺跡が、それぞれ公益財団法人(平成23年度まで財団法人)北海道埋蔵文化財センターにより調査されている。

大平遺跡は、平成21～23年度に新幹線建設工事に伴う調査、平成25年度に高規格幹線道建設工事に伴う調査が行われた。平成21～23年度の調査では堅穴住居跡55軒、土坑230基(うちフラスコ状土坑83基、柱穴状土坑106基)、焼土94か所、礫集中2か所、剥片集中130か所、盛土遺構(縄文時代前期後半～中期初頭)などを検出した。遺物点数は約180万点で、土器は縄文時代前期後半の円筒土器下層式が主体で、縄文時代晩期の土器や撥文土器もある。また帨状耳飾り、棒状垂飾、北海道式石冠に似た小型の軽石製石製品なども出土している。平成25年度の調査は先の調査の30mほど海側で行われた。縄文時代晩期中葉の土坑墓を3基検出し、土器や漆塗りの縦櫛、サメの歯などが出土している。

大平4遺跡は、平成21・22年度が新幹線建設工事、24・25年度が高規格幹線道建設工事に伴う調査が行われた。平成21・22年度の調査では縄文時代早期後半の堅穴住居跡2軒、土坑28基、焼土3か所、剥片集中16か所を検出し、平成24・25年度は縄文時代中期後半の堅穴住居跡11軒、土坑17基、焼土15か所、剥片集中13か所などを検出した。

蛇内2遺跡は、平成21～23年度まで調査が行われた。堅穴住居跡15軒(うち縄文時代後期前葉10軒)、土坑96基などを検出した。



図 1-2 遺跡の位置と周辺の地形

本古内2遺跡は、平成21・22年度に調査が行われた。台地平坦部から竪穴住居跡6軒、フレイク集中1か所を検出した。遺構の時期は縄文時代前期後半の円筒土器下層c～d式頃である。また、台地から続く、標高3～7mの低位部を調査し、縄文時代前期後半の円筒土器下層b式が主体的に出土したほか、縄文時代後期前葉の壺がほぼ完形で出土した。

札苺5遺跡、札苺6遺跡は平成23年度に調査が行われた。

札苺5遺跡は、縄文時代前期後半の竪穴住居跡9軒、Tピット6基、小ピット126基、焼土6か所、フレイク集中2か所を検出したほか、旧石器時代の石器群も確認されている。

札苺6遺跡は、竪穴住居跡（縄文時代中期後半、後期前葉）13軒、土坑（主に縄文時代中期後半）71基、焼土20か所、埋設土器3か所、遺物集中5か所、フレイクチップ集中3か所を検出した。また、縄文時代中期の土偶片が複数みつき、三角形石製品、大珠なども出土している。

釜谷8遺跡は、平成23年度より平成24年度まで調査が行われた。竪穴住居跡2軒、土坑27基、Tピット3基、柱穴状ピット15基、焼土65か所、フレイクチップ集中36か所を検出した。土器は、縄文時代後期前葉土器のほか、貝殻文土器、爪形文が施された縄文時代早期中葉の土器も出土している。石器は、笥状石器のトランシェ様石器が多く出土した。

札苺7遺跡は、平成25年度に調査が行われ、縄文時代後期前葉の竪穴住居跡4軒、後期後葉8軒、土坑45基、焼土9か所などを検出した。土坑は、底面の直径が2m程の大型のフラスコ状土坑が12基検出している。

新道4遺跡は、平成25年度に調査が行われた。昭和59～61年度に調査されたB・C・D・G地区に隣接する745㎡を調査し、竪穴住居跡10軒、土坑41基、柱穴様小ピット52基、焼土14か所、盛土1か所を検出した。盛土は調査区南西堺に一部が確認されたもので、時期は縄文時代後期前葉である。

（新家 水奈・愛場）

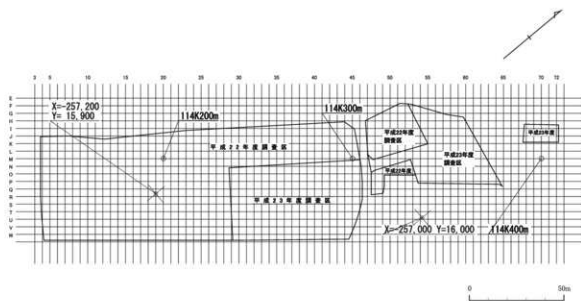
II章 調査の方法

1. 発掘区の設定

基図は、「北海道新幹線 新青森起点 114K500m～114K300付近 補助基準点網図」(平成20年)を使用した。北海道新幹線計画中心線(センター)を基線とし、「Mライン」とした。南西から北東方向で、遺跡付近の114K200m～114K400mの間は直線である。また、114K200mでこの基線と直交する線を設け、算用数字を付した。基線の方向角は $39^{\circ}50'53''$ である。

グリッドは4m区画とし、Mラインから北西方向へL、K、J～Eと降順し、南東方向へN、O、P～Xの平行するラインを設けた。これと直交する数字ラインは、114K200mを「20ライン」とし、南西から北東側へと昇順する。グリッドの呼び名は、南西側の杭名とし、アルファベットと算用数字を列記した。

平成22・23年度ともに、北海道新幹線建設のために設置されていた、既設3級基準点、3-NO8(3008)と3-NO9(3009)を使用した。水準測量は、標高値のある後者の基準点から行った。



図II-1 グリッド設定図と年度別調査区

表II-1 測量基準点一覧表

杭名	種類	世界測地系				真北 方向角 ($^{\circ}$ ′″)	標高 (m)	備考	
		平面座標 Ⅹ1高 (m)		地理座標 ($^{\circ}$ ′″)					
		X	Y	北緯	東経				
114K 200m	北海道新幹線 計画 中心線	平成22年度 調査区 グリッド杭: M-20	-257,104,967	15,686,289	—	—	—	平成22年度 基線 測高標準点杭	
114K 300m	北海道新幹線 計画 中心線	平成22年度 調査区 グリッド杭: M-45	-257,106,192	15,952,365	—	—	—	平成22年度 基線 北東側標準点杭	
114K 400m	北海道新幹線 計画 中心線	調査区 M-70	-257,031,415	16,016,440	—	—	—	平成23年度 基線 上杭	
3-NO 8 (3008)	既設3級基準点	北海道新幹線建設 計画 平成22年7月24日 新設	-257,549,321	15,634,904	41 49 53.7	140 26 16.1	-0 07 29.6	10,622	「真の2」 GPS測量 既設
3-NO 9 (3009)	既設3級基準点 B.M	北海道新幹線建設 計画 平成22年7月24日 新設	-257,225,161	15,836,304	41 41 02.9	140 26 24.9	-0 07 26.5	7,768	「真の2」 GPS測量 既設
Nライン (南西～北東) 基線 方向角			$39^{\circ}50'53''$			基線 距離計測		100m	

2. 基本層序

観察方法

土層の観察は、「土壌調査ハンドブック」(ペトロジスト懇話会1984)・「新版標準土色帖」を参考に、必要な項目を設け行った。

基本層序

I層：現地表土 耕作土や盛土、攪乱層など

II層：黒色土層

黒色(10YR1.7/1～2/1)壤土～埴土で、粘着性は中、堅密度は堅、III層層界は判然である。層厚は20～60cmで、近代から縄文時代早期の遺構・遺物を包含する。

II層中で2つの火山灰が認められた。

駒ヶ岳dスコリア(Ko-d 噴出年代1640年)は、調査区南西側旧河部道でみられた。色調は灰白色(10YR8/1)、層厚は1～3cm程で、点在する。白頭山苦小牧降下スコリア(B-Tm 噴出年代10世紀)は、掠文文化期の遺構上位のII層中でみられた。色調は暗褐色(10YR3/4)、層厚は8cm程である。2次堆積層で腐植土と混在する部分もある。

縄文時代前期、後期の竪穴住居跡遺みのII層中では、赤褐色土がレンズ状に堆積していた。当センター花岡による検鏡(H-8～10試料)によれば、「どの試料も多量のプラントオパールを含み、鉱物は角閃石、輝石、雲母、鉄-チタン鉱物、長石、火山ガラスなどがある。鉱物は角が丸く、破片状となることから、土の母材は風成塵である。赤褐色は熱による高温酸化によるもので、函館市中野A遺跡、中野B遺跡、石倉貝塚でみられたP.D.3と同様の土」とのことである。起因は不明だが、自然焼土の堆積と考えられる。

III層：漸移層

暗褐色(10YR3/3)～灰黄褐色(10YR5/2)壤土で粘着性は中～強、堅密度は堅、IV層層界は漸変である。層厚は2～15cmである。

IV層：ローム質土

褐色(10YR4/6)壤土で粘着性は強、堅密度は堅である。調査区南西側の舌状台地縁では水つきとなり、グライ化し、明褐色(7.5YR7/2)となる。

土層断面図

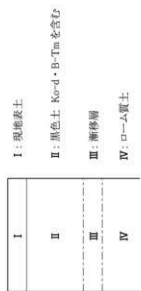
比較的攪乱の影響が少ない調査区は中央のM36～M45ラインの土層断面図を掲載した。

3. 調査の方法

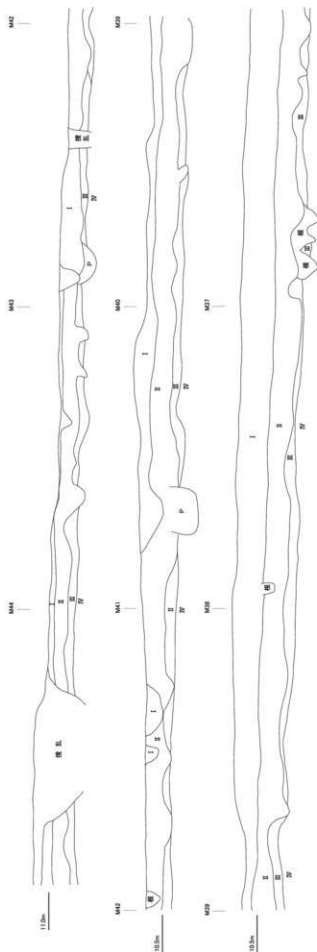
はじめに建設機械によりI層(住宅基礎の一部、ブロック塀、敷き砂利等)の除去作業を行った。調査区域は住宅地で、その造成により広く削平・攪乱を受けており、IV層まで削平される範囲もあった。

II層からIV層までは人力により掘り下げた。包含層調査は層ごとに掘り下げ、出土遺物はグリット・層ごとに取り上げた。II～IV層で遺構・包含層を調査し、遺構がない場合はIV層上面で調査を終了した。またP・Q・T・Vの15ラインでは旧石器確認のためIV層を幅1m、深さ1m程を人力で掘り下げたが、遺物は出土しなかった。

遺構調査はトレンチ、半截等で土層を観察し、壁・床面・底面の確認により遺構であるかを判断した。土層断面を記録後、全体を掘り下げ完掘した。遺物は状況の良い土器や石器について出土状況や



基本階序



図II-2 基本土層図と土層断面図

出土位置を記録した。住居跡では床面の土器・石器のみ位置を記録したものがある。それ以外は層ごとにとまとめて取り上げた。

地形測量図は、表土除去後地形と最終地形について作成した。

4. 整理の方法

一次整理

現場での遺物の取り上げは、ビニール袋に「遺跡名(略:キ)・出土地点(遺構名・グリッド)・出土層位・遺物種別・取り上げ番号(出土位置記録のもの)・取り上げ年月日」の情報を記し、遺物を収納した。遺物は水洗・乾燥後、分類を行い、出土地点・出土層位・取り上げ番号・取り上げ年月日の情報を「遺物カード」に記載した。遺物カードの情報は遺構別・グリッド別に遺物台帳に記載していた。土器については2cm以上を目安に注記作業を行った。内容は「キ・遺構グリッド名・層位・(取り上げ番号)」で、ポスターカラーとクリアラッカーを使用した。

二次整理

遺物台帳をExcelに入力し、データ化を行い、二次整理作業の基礎データとした。

土器は分類ごとに接合を行い、遺構、包含層の順序で作業を進めた。接合作業後、復原可能なものは番号を与え、復原作業を行った。その後立面図等の実測図を作成した。破片は接合により大きくなったもの、特徴が認識しやすい口縁部や底部の破片を中心に選び出し、拓影図および垂直方向の断面図を組み合わせて図示した。掲載土器は観察表を作成した。

石器は遺構の石器について接合を行った。石器は完形のものを中心に器種や形態の多様性を示せることを考慮し、掲載する石器を選び出し、実測図を作成した。

遺物は集計し、その結果を出土点数表、出土分布図にまとめた。

5. 遺物の分類

土器の分類

土器は(公財)北海道埋蔵文化財センターの一般的な分類に準じ、縄文時代早期から縄文文化期に至るまでⅠ～Ⅳ群に分類し、遺物の出土のみられる時期については細分類を使用している。

Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器群

- a 類：貝殻・沈線文系土器群および条痕文系土器群
- b 類：縄文・捺糸文・絡条体圧痕文・貼付文・縄線文のあるもの
 - b 1 類：東銅路Ⅱ・Ⅲ式に相当するもの
 - b 2 類：コッタロ式に相当するもの
 - b 3 類：中茶路式に相当するもの
 - b 4 類：東銅路Ⅳ式に相当するもの

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの

- a 類：胎土に繊維を含み厚手で縄文が施された丸底・尖底の土器群
- b 類：円筒土器下層式に相当する土器群

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

a類：天佑寺式・涌元式・トリサキ式・大津式・白板Ⅲ式に相当するもの

b類：ウサクマイC式・手稲式・ホッケマ式に相当するもの

c類：堂林式・三ツ谷式・湯の里3式に相当するもの

V群 縄文時代晩期に属するもの

VI群 統縄文時代に属するもの

VII群 擦文文化期に属するもの

土製品等 紡錘車、再生土製円盤、土器片錘がある

石器等の分類

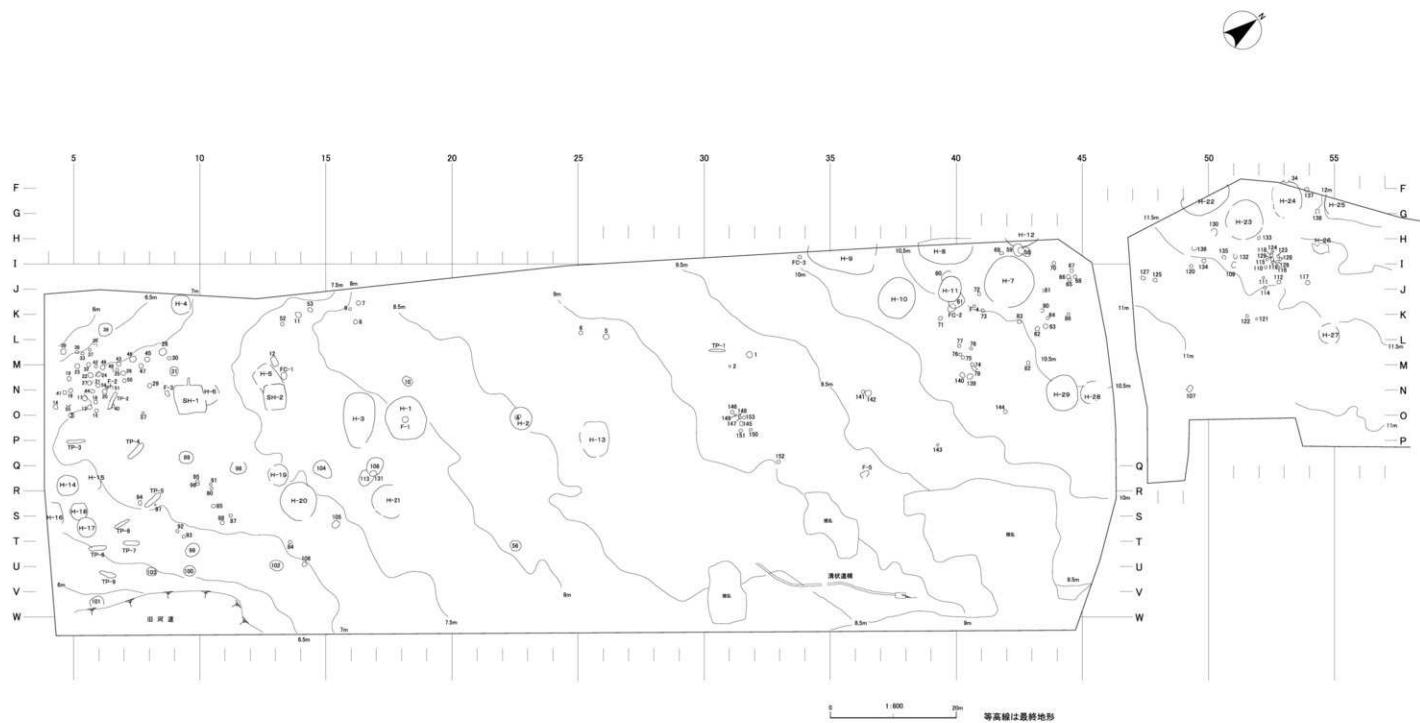
分類に使用している器種名称は以下のとおり

縄文時代の石器

石刃鎌、石鎌、石槍またはナイフ、両面調整石器、石鎌、つまみ付きナイフ、筒状石器、スクレイパー、楔形石器、Rフレイク、Uフレイク、フレイク、石核、石斧、たたき石、すり石、北海道式石冠、扁平打製石器、石鏝、砥石、台石、石皿、加工痕ある礫、礫、原石、石製品

旧石器

細石刃核



図III-1 遺構位置図

III章 遺構とその遺物

1. 概要

確認した遺構は、竪穴住居跡31軒、土坑153基、Tピット9基、溝状遺構1か所、焼土5か所、フレイク集中3か所である。

竪穴住居跡の時期は、縄文時代早期（H-1～3・13・19～21）、縄文時代前期後半（H-7～12・22～26・28・29）、縄文時代後期前葉（H-4・6・14・15・17・18）、擦文文化期（SH-1・2）などがある。分布域は明瞭に分かれ、縄文時代早期の住居跡は、調査区12～26ラインの標高7～9mの範囲、前期後半の住居跡は、調査区北側34～55ラインの標高10～12mの範囲、後期前葉の住居跡は、調査区南西の標高6～7mの範囲、擦文文化期の住居跡は、9～14ラインの標高7～8mの範囲にそれぞれ分布する。

土坑は、平面形が直径1m未満の円形・不整形で、断面形がフラスコ状になるものが多く、これらは調査区南西の旧河道近くと、調査区北側30～55ラインの標高9～12mの範囲とに、まとまって分布する。時期は、出土遺物から南西端側が縄文時代前期後半から後期前葉、北側が早期後半（東館路IV式期）の可能性がある。これ以外の土坑は、平面形が直径1mを超える楕円形・不整形で、遺物を伴うものが多い。時期は縄文時代早期後半（P-96・102・104・105・108・112・113）、縄文時代前期前半（P-100・107）、縄文時代前期後半（P-58～61・89・99）、縄文時代後期前葉（P-11・19）、近世以降（P-12）などがある。P-12は底面から人骨を検出したもので、人骨鑑定や放射性炭素年代測定結果などから近世以降の土坑墓と考えられる。

溝状遺構は、幅約30cm、深さ30～40cmの溝が27mにわたって、等高線に沿ってみられるものである。底面では、柱穴が数か所確認され、本棚跡の可能性もある。溝覆土にはB-Tm火山灰が堆積するため擦文文化期の遺構と考える。

Tピット・焼土・フレイク集中の時期は縄文時代である。Tピットは舌状台地先端部に分布する。

2. 竪穴住居跡

SH-1（図III-2・3 図版3）

位置 M8・9・10/N8・9・10/O9・10 立地 標高約7.5mの平坦面に位置し、北東約9mにSH-2がある。縄文時代の竪穴住居跡（H-6）を切る。

規模 4.71×4.44/4.53×4.3/0.31m 平面形 菱形

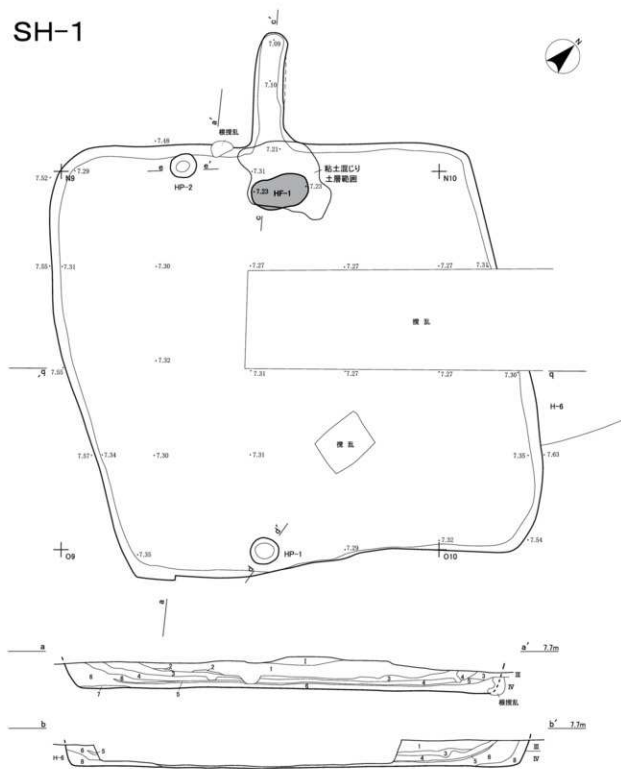
調査 II層下部～IV層面で、黒色・黒褐色土の隅丸方形の堆積を確認した。セクションaラインより西側ではII層面が残存していたが、それ以外はIV層まで削平されていた。土層観察ベルトを設定し、全体を掘り下げ、床面・壁を検出した。カマド周辺と床面では、土壌を採取し、フロートーションにより微細遺物を回収した。カマドとHF-1採取の炭化材2点については、放射性炭素年代測定を行った（付篇2・4参照）。

覆土 8層に分層した。覆土1～5は自然堆積層である。覆土4は白頭山一苦小牧降下火山灰（B-Tm）で、4～8cm程の厚さではは住居の窪み全体を覆っていたようである。その直下には黒色土層（覆土5）が2～3cm堆積する。覆土6～8は屋根土などの崩落土と推測され、壁際に厚く堆積する。

形態 平面形は菱形に近い隅丸方形で、床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

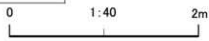
付属遺構 カマドおよび煙道と土坑2基（HP-1・2）を確認した。

SH-1

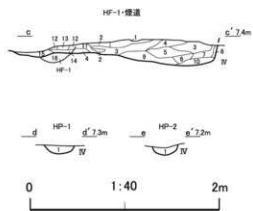


SH-1 土層

層名	マッシュルーム	土層名	野外地性	地層性	層厚	土層層・層厚
1	10001/1	黒褐色	礫土	00	00	0.10~0.15(厚薄不均)
2	10001/2	赤褐色	礫土	00	00	0.10~0.15(厚薄不均)
3	10001/3	黒褐色	礫土	00	00	0.10~0.15(厚薄不均)
4	10001/4	黒褐色	2/3の(厚薄不均)	00	00	0.10~0.15(厚薄不均)
5	10001/5	黒褐色	礫土	00	00	0.10~0.15(厚薄不均)
6	10001/6	黒褐色	礫土	00	00	0.10~0.15(厚薄不均)
7	10001/7	赤褐色	礫土	00	00	0.10~0.15(厚薄不均)
8	10001/8	黒褐色	礫土	00	00	0.10~0.15(厚薄不均)



図Ⅲ-2 SH-1 (1)

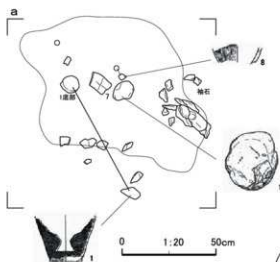


SH-1埋蔵土層

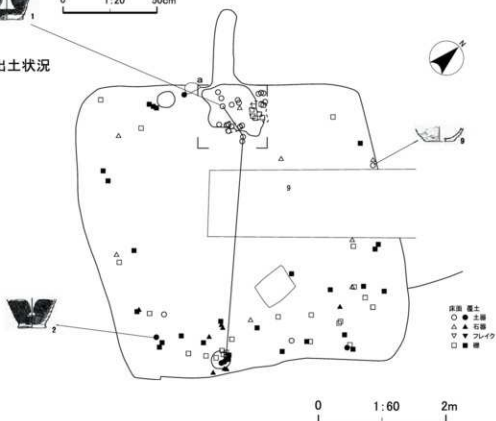
層名	中心点座標	土壌色	顕微鏡	顕微鏡	顕微鏡	土壌層・遺物層
1	10782.7	黒褐色	腐土	中	常	埋土層・遺物層
2	10780.8	にがい	硬質土	弱	常	埋土層
3	10783.2	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
4	10782.2	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
5	10784.9	にがい	腐土	中	弱	埋土層
6	10784.8	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
7	10782.7	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
8	10784.8	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
9	10783.8	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
10	10784.2	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
11	10784.2	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
12	10784.2	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
13	10784.8	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
14	10784.8	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
15	10782.2	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
16	10784.8	黒褐色	腐土	中	常	埋土層

SH-1HP-1土層

層名	中心点座標	土壌色	顕微鏡	顕微鏡	顕微鏡	土壌層・遺物層
1	10782.2	黒褐色	腐土	中	常	埋土層
1	10784.8	にがい	腐土	中	常	埋土層

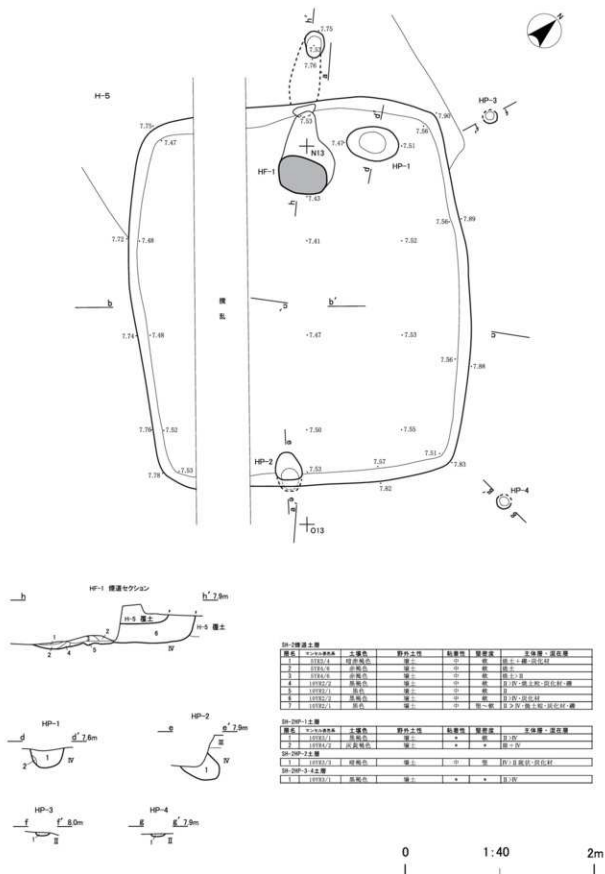


遺物出土状況



図III-3 SH-1(2)

SH-2



SH-2 遺跡土層

層名	土層名	野方之状	粘着質	管状体	瓦磁器・炭化層
1	11111/1 緑黄色土	硬土	◎	◎	硬土・土塊・炭化層
2	11111/2 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土
3	11111/3 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土
4	11111/4 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土
5	11111/5 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土
6	11111/6 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土
7	11111/7 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土

SH-2HP-1土層

層名	土層名	野方之状	粘着質	管状体	瓦磁器・炭化層
1	11111/1 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土
2	11111/2 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土

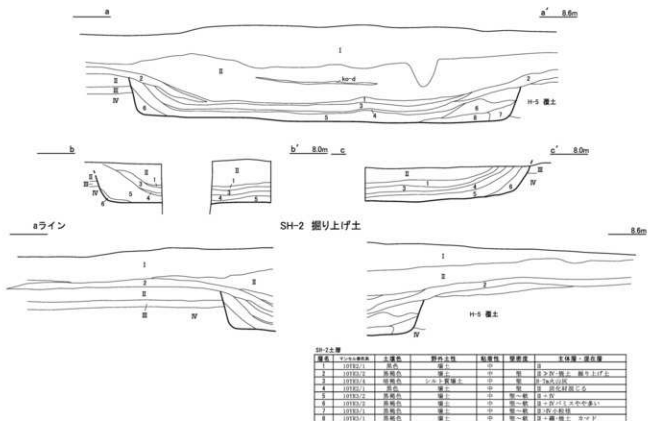
SH-2HP-2土層

層名	土層名	野方之状	粘着質	管状体	瓦磁器・炭化層
1	11111/1 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土

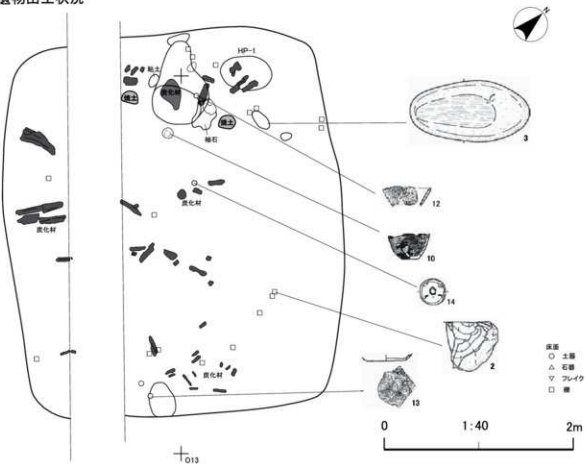
SH-2HP-3-4土層

層名	土層名	野方之状	粘着質	管状体	瓦磁器・炭化層
1	11111/1 赤褐色土	硬土	◎	◎	硬土

図Ⅲ-4 SH-2 (1)



遺物出土状況



カマドと煙道は北西壁の中央にあり、いずれも上部は削平されていた。カマド焼土は壁から20cm程離れた床面で検出し、その上部にカマド構築粘土と推測される礫や粘土塊混じりの粘土層があるのみで残存状況は悪い。カマド焼土の北東側では袖石とみられる扁平な角礫が破碎して出土した。焼土の平面形は長径約60cmの楕円形で、被熱層は9cm程である。

煙道は幅が約30cmで、壁から1.2m程まっすぐ突出する。深さは先端に向かって床面より10cm程深くなっている。煙道覆土中には褐色粘土が少量みられた。上部が削平されているが、側面壁が筒状になる部分がみられたことからトンネル式の煙道と考える。

HP-1・2は直径30cm程の平面形が円形となる小土坑で、断面は皿状となる。HP-2はカマドから西側へ60cm程の壁際にあり、粘土塊や礫混じりの焼土が充填する。柱穴は床面および住居周辺を精査したが検出しなかった。

遺物 遺物はⅦ群土器46点、たたき石1点、砥石1点、フレイク126点、礫85点など319点出土したが、縄文時代後期の堅穴住居跡を切って構築されるため、縄文時代の遺物が多い。擦文文化期の遺物はカマド周辺や壁際に分布する。

時期 出土遺物や住居構造から擦文文化期と考える。8世紀末頃の可能性がある。

(愛場 和人)

SH-2 (図Ⅲ-4・5 図版4)

位置 M12・13/N12・13 **立地** 標高約8mの平坦面に位置し、南西側9m程にはSH-1がある。縄文時代の堅穴住居跡(H-5)を切る。

規模 4.06×3.6/3.83×3.39/0.36m **平面形** 長方形

調査 II層調査中、B-Tm火山灰が周縁にみられる隅丸方形の黒色土の堆積を確認した。グリット13ラインに土層観察用のベルトを設定し、北東側から掘り下げていった。床面直上では炭化材が比較的良好に残る部分があり、位置を記録し、サンプルを採取した。平坦な床面と壁の立ち上がりを確認し、規模から住居跡と判断した。カマド周辺の土壌はフローテーションにより微細遺物を回収した。床面とHF-1土壌から採取した炭化材については樹種同定および放射性炭素年代測定を行った(付篇2・3・4参照)。

覆土 8層に分層した。覆土2は掘り上げ土と推測する。覆土3はB-Tm火山灰で、5~8cmの厚さで窪み全体に堆積する。その下部は薄い黒色土(覆土4)があり、それ以下では概ね黒褐色土が堆積する。

形態 平面形は北西-南東に長軸がある隅丸長方形である。床面は平坦で壁は斜めに立ち上がる。**付属遺構** カマド跡および煙道、土坑4基(HP-1~4)を確認した。

カマド跡と煙道は北西壁のほぼ中央にある。カマド構築粘土はほとんど残存しておらず、周辺には被熱した礫・焼土が混じる黒色・黒褐色土層がみられるのみである。カマド焼土は壁から40cm程離れた床面で検出し、平面形は長径50cm程の楕円形となる。カマド焼土東側には袖石とみられる板状礫が破碎して出土した。煙道は断面がL字となるトンネル式で、幅は20~30cm、壁から75cm程突出する。煙道の深さはほぼ床面と同レベルである。煙道覆土は概ね黒色土で、炭化材や被熱した小礫が少量混じる。

HP-1はカマド北側、HP-2は南西壁際の中央にある。HP-2は壁側に斜めに掘り込まれている。覆土は黒色土とIV層起源の黄褐色土が斑状に混じる。HP-3・4はそれぞれ住居北と西角の外側50~60cmで確認した。深さは3cm程で、外柱穴の可能性はある。

掘り上げ土は土層断面での確認で、平面形は不明である。色調は黒褐色で、最厚部分で10cm程とな

る。住居周囲2.5m程の範囲に広がっていたようである。

遺物 遺物は、Ⅱ群土器23点、すり石1点、礫518点など751点出土した。小型の完形土器(図Ⅲ-102-10)がカマド焼土南側床面から出土した。礫は、棒状礫が多く、住居南西側覆土を中心に出土した。

時期 出土遺物や住居構造から擦文文化期と考える。8世紀末頃の可能性がある。(愛場)

H-1 (図Ⅲ-6～8 図版5)

位置 N17・18/O17・18/P17・18 **立地** 標高約8mの平坦面に位置し、南西にはH-3がある。

規模 6.96×6.68/5.96×5.64/0.96m **平面形** ほぼ円形

調査 N・O18区のⅡ層が周囲のグリッドより深く落ち込み状況を確認した。下水道の攪乱を掘りぬいたところ、ローム質土層中から遺物が検出した。このため付近を精査すると、住居跡の一部を検出し、その覆土に遺物が入っていることが確認された。住居跡周辺の包含層調査がⅢ～Ⅳ層に達し、O18杭を中心に直径約7mの円形にⅡ層が落ち込むのが確認された。これをH-1とし、杭を中心に幅50cmのベルトをほぼ東西・南北方向に設定し、周囲の包含層を掘り進めた。

Ⅱ層を30cmほど掘り下げると、住居跡の覆土上面である黄褐色土層が平坦に検出され、窪みの中央付近で焼土(F-1)を1か所検出した。この面付近では縄文時代早期後半の土器片や頁岩フレイクのみとまりなどが出土しており、窪み内で石器作りなどの作業が行われていたものとみられる。検出面からの深さは住居跡西側で約1mあり、東側ほど浅くなり、壁の立ち上がりも緩やかになる。床面は南西側で緩やかな凹凸がみられるが、全般に平らであったが、炉跡は検出されなかった。

覆土 住居跡上位にはⅡ層の黒色土が落ち込み、下位は全般にⅣ層起源のローム質土壌が層厚50cmで堆積する。下位に堆積する土量から上屋構造は土葺であったとみられる。

形態 長径約7m、短径約6.7mのほぼ円形の住居跡である。

付属遺構 小土坑17か所(HP-1～17)を確認した。このうち柱穴の可能性のあるものはHP-1の1か所だけである。ただ、HP-17付近の壁際で検出された柱穴の痕跡とみられるものの状況から、削りすぎで失われているが、壁際には小柱穴が並んでいた可能性がある。

遺物 遺物は2,700点出土した。覆土では全般に頁岩フレイクが2,167点出土し、覆土上部ではI群b-1類土器がみられた。石器では石鏃、石槍またはナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石核のほか、早期と思われる赤身を帯びた蛇紋岩製の石斧、砂岩製のたたき石、すり石なども出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(土肥 研司)

H-2 (図Ⅲ-9 図版6)

位置 N22・23/O22・23 **立地** 標高8.5m付近の平坦面

規模 3.66×3.39/3.45×3.17/0.28m **平面形** 円形

調査 Ⅳ層面で黒色～黒褐色土の円形の堆積を確認した。土層観察用のベルトを残し周囲を掘り下げていったところ、ベルトに土坑の覆土断面がみられた。このため土坑(P-4)を先行して調査した。その後、確認面から30cm程下で床面と壁の立ち上がりを確認し、規模や平坦な床面から竪穴住居跡と判断した。

覆土 覆土は7層に分層した。覆土1はⅡ層起源の黒色土、覆土2～7が屋根土や壁などの崩落土と考えられる。

形態 平面形はやや多角形に近い円形となり、床面は平坦で、壁は曲線的で斜めに立ち上がる。

H-1

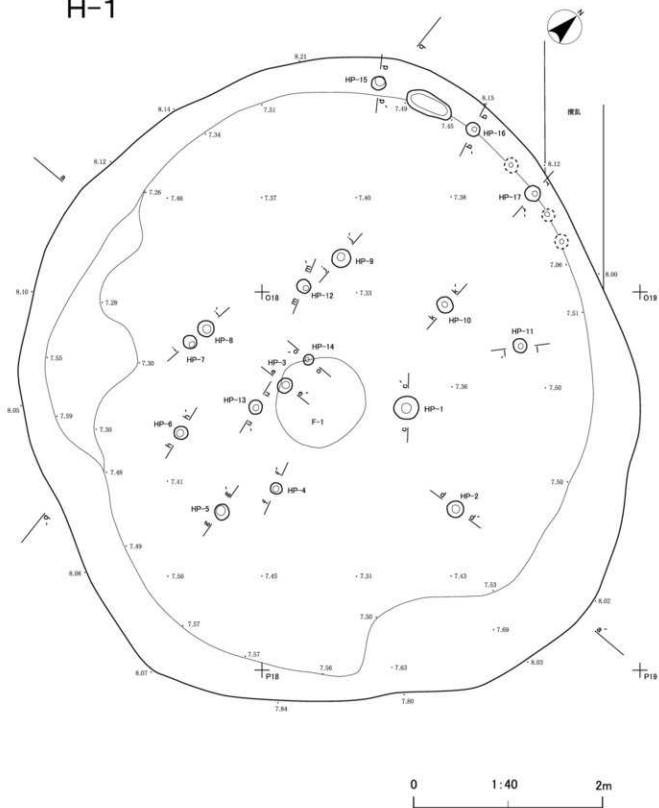
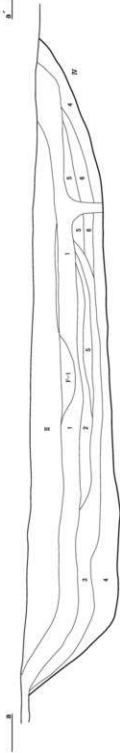
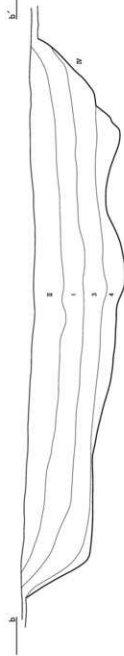


圖 III-6 H-1 (1)

a' 0.3m



b' 0.3m

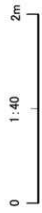
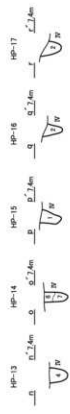


HP-1~7の土層

層位	土層名	土質	厚さ	調査方法
1	HP-1	黄砂	0.74m	掘削
2	HP-2	黄砂	0.74m	掘削
3	HP-3	黄砂	0.74m	掘削
4	HP-4	黄砂	0.74m	掘削
5	HP-5	黄砂	0.74m	掘削
6	HP-6	黄砂	0.74m	掘削
7	HP-7	黄砂	0.74m	掘削

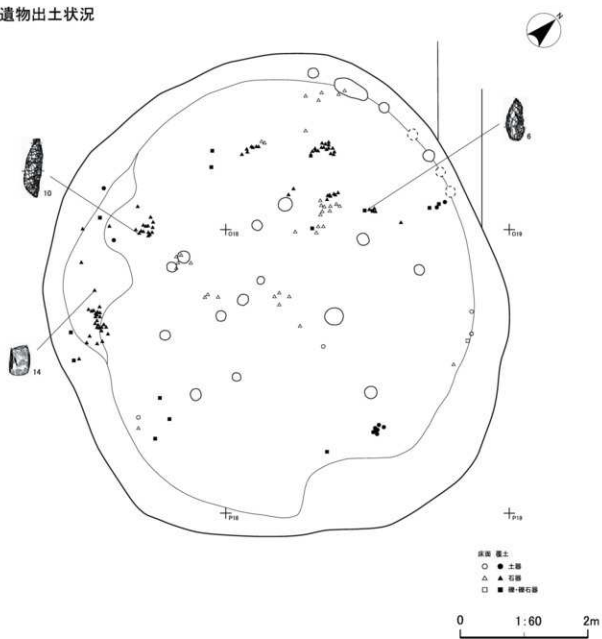
HP-8~12の土層

層位	土層名	土質	厚さ	調査方法
8	HP-8	黄砂	1.24m	掘削
9	HP-9	黄砂	1.24m	掘削
10	HP-10	黄砂	2.24m	掘削
11	HP-11	黄砂	2.24m	掘削
12	HP-12	黄砂	2.24m	掘削



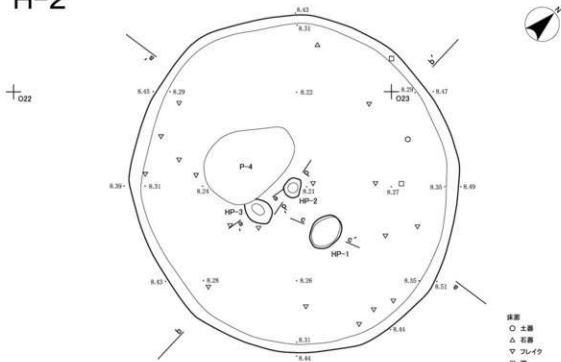
図III-7 H-1 (2)

遺物出土状況



図Ⅲ-8 H-1 (3)

H-2



跡画
 ○ 土牆
 △ 石磨
 ▽ フレイク
 □ 礎



出土品表

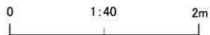
層名	フナトシ地層	土層名	野付土質	総重量	発見数	主産層・産出層
1	10191/1/1	灰点	硬質土へ硬土	0	0	層
2	10191/2	硬灰点	硬質土へ硬土	0	1	10191/2 灰点/灰点
3	10191/3	硬灰点	硬質土へ硬土	0	4	10191/3 灰点/灰点
4	10191/4	硬灰点	硬質土へ硬土	0	0	層
5	10191/5	硬灰点	硬質土へ硬土	0	0	層
6	10194/3	にじみ	硬質土へ硬土	0	0	層
7	10191/1	硬灰点	硬質土へ硬土	0	4	10191/1 灰点/灰点

H-2HP-1土層

層名	フナトシ地層	土層名	野付土質	総重量	発見数	主産層・産出層
1	10191/1	硬灰点	硬質土へ硬土	0	0	層
2	10191/2	硬灰点	硬質土へ硬土	0	0	層

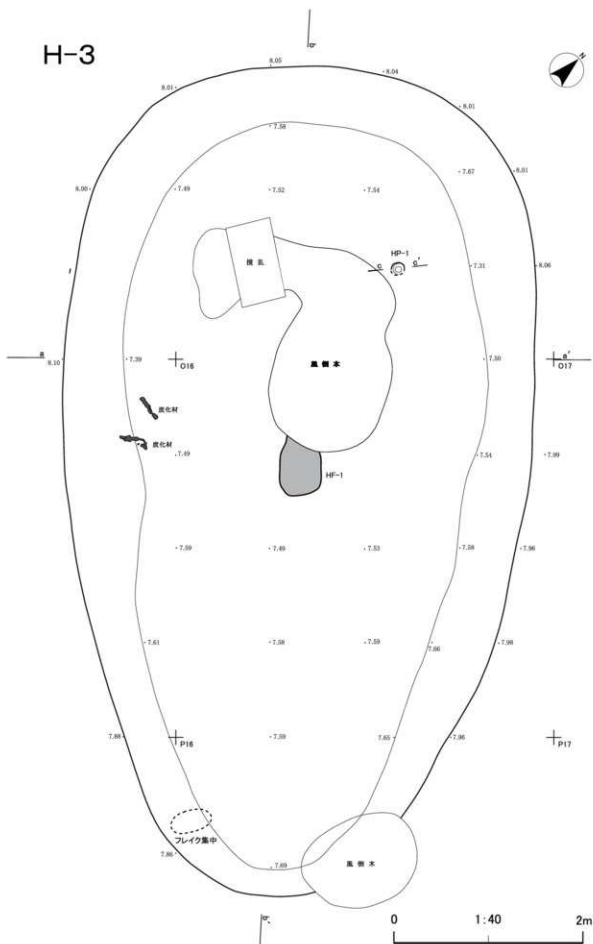
H-2HP-2土層

層名	フナトシ地層	土層名	野付土質	総重量	発見数	主産層・産出層
1	10191/2	硬灰点	硬質土へ硬土	0	4	10191/2 灰点/灰点



図III-9 H-2

H-3



図Ⅲ-10 H-3 (1)

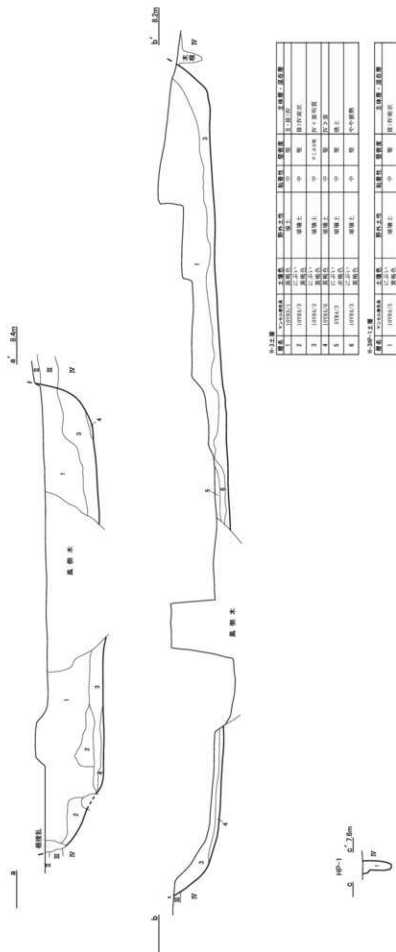


図 11 H-3 (2)

付属遺構 小土坑3基（HP-1～3）を確認した。いずれも断面形が皿形で、深さは6～7cm程である。

遺物 遺物は257点出土した。床面出土はI群b類土器3点、石鏃1点、フレイク42点など少ない。

時期 周辺の遺構や出土遺物から縄文時代早期後半と考える。（愛場）

H-3（図Ⅲ-10・11 図版7）

位置 N15・16/O15・16/P15・16 **立地** 標高約7.9～8mの平坦面に位置し、北東側にはH-1がある。

規模 8.75×4.99/7.89×3.83/0.75m **平面形** 不整の楕円形
調査 II層～III層上面で黒褐色土の楕円形の堆積を確認した。土層観察用のベルトを設定し、周辺を掘り下げていった。中央付近には大きな風倒木があり、覆土と地山IV層の土色の差があまりなかったため、床面や壁の立ち上がりは不明瞭であった。精査の結果、平坦な床面と斜めに立ち上がる壁を認め、規模から住居跡と判断した。

覆土 6層に分層した。覆土上部（覆土1）は黒褐色土で、下部はIV層主体のぶい黄褐色・黄褐色土層である。床面・壁のIV層との境界は不明瞭である。

形態 平面形は不整の楕円形となる。床面は概ね平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 焼土1か所を確認した。焼土は風倒木の南東側にあり、床面より上部の黄褐色覆土中にある。

遺物 遺物は2,939点出土した。床面からはI群b-1類土器2点、フレイク8点のみの出土である。住居南側壁付近の覆土ではフレイクの集中（438点）がみられた。

時期 周辺の遺構や出土遺物から縄文時代早期後半と考える。（愛場）

H-4（図Ⅲ-12 図版8）

位置 J8・9/K8・9 **立地** 標高6.5～7m付近の緩斜面

規模 3.04×3.02/2.80×2.64/0.30m **平面形** 隅丸方形に近い不整な円形

調査 III層で黒色～黒褐色土を主とした土の堆積が認められ、不整な円形の平面形を想定できた。土層確認用のベルトを設定し、掘り下げた。床面と想定できるおおよそ平坦な面とゆるく外側に開きながら立ち上がる壁を検出し、規模と付属遺構から竪穴住居跡と判断した。掘り込み面はIII層中～下位である。

覆土 覆土1層としたぶい黄褐色土から成る。IV層由来土を含んでおり、掘り上げ土の再流入、あるいは土葺き屋根の崩落の可能性がある。検出面で確認した、II層から連続する黒色土は廃絶後のくほみに自然堆積したものとする。

付属遺構 炉跡1か所（HF-1）と小土坑6基（HP-1～6）を確認した。

HP-1は石組炉の炉石抜き取り跡を思わせる形状をしているが、實際熱を受けた可能性がある酸化した土の分布がみられたのはHF-1である。ただし住居中央のくほみに対して、水がたまり水分が無くなった際に含まれていた鉄分やマンガンが残され、酸化して発色した可能性がある。壁際では壁柱穴を思わせる溝状の土坑HP-2・3及び、住居南側の不明瞭な窪みHP-6がある。また、不整な平面形をした浅い土坑HP-4・5がある。

遺物 遺物は覆土から189点出土した。IV群a類土器、フレイクが主な遺物である。II群b土器も出土するが、これは流入と考える。

時期 住居構造と出土遺物から縄文時代後期前葉と考える。（大泰司 統）

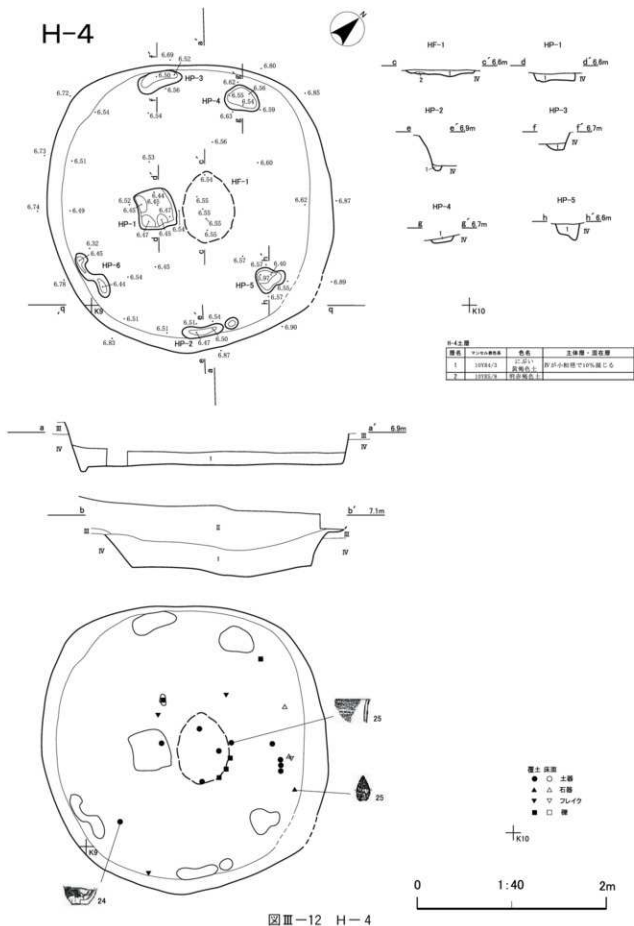
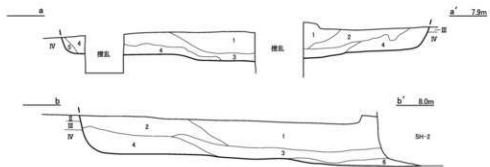
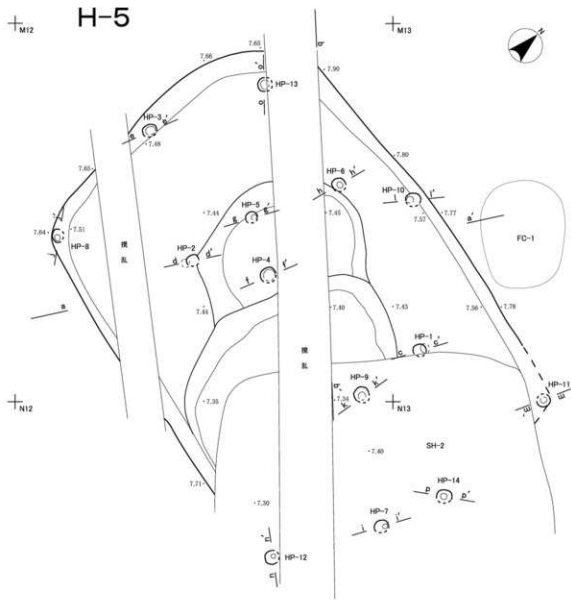
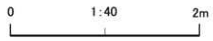


図 III-12 H-4

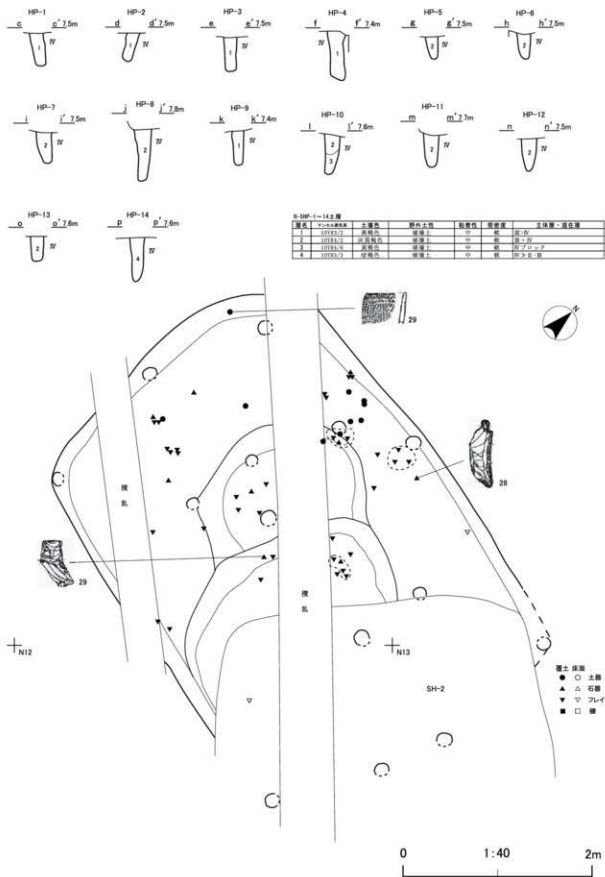


H-5土層

層位	年代	土層名	層位名	層位属性	層位厚	土層層・層位厚
1	1010/221	黄砂	埋藏土層上	埋	約	
2	1010/771	埋土	埋藏土層上	埋	約	約20cm厚
3	1010/1	埋土	埋藏土層上	埋	約	約20cm厚
4	1010/3	C-01+	埋藏土	中~強	約	約20cm厚
5	1010/5	埋土	埋藏土層上	埋	約	約20cm厚
6	1010/2	埋土	埋藏土層上	埋	約	約20cm厚

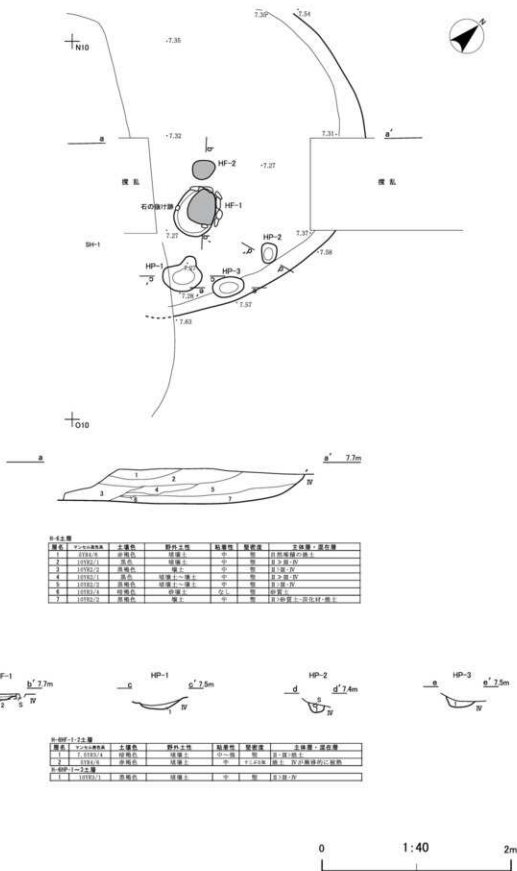


図III-13 H-5 (1)



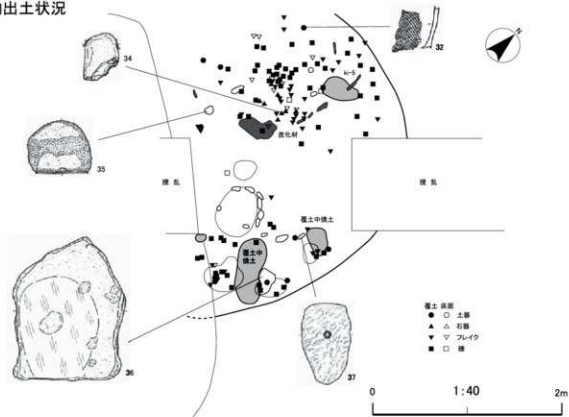
図III-14 H-5 (2)

H-6



図III-15 H-6 (1)

遺物出土状況



図III-16 H-6 (2)

H-5 (図Ⅲ-13・14 図版9)

位置 M12・13/N12・13 立地 標高約8mの平坦面に位置し、北東側にFC-1が近接する。

規模 (5.26) × 3.62 / (5.0) × 3.34 / 0.52m 平面形 長方形

調査 SH-2調査時、北西側の壁全面と一部床面に黒色土の堆積を確認した。遺構の覆土と考え、北西側を精査すると平面形が長方形となる落ち込みであることがわかった。水道管敷設の攪乱を掘り抜き、土層を確認したところ、床面と壁の断面がみられ、規模から住居跡と判断した。床面は中央から南東側が皿状にやや窪んでいた。

覆土 6層に分層した。覆土1・2はⅡ層黒色土主体の自然堆積層である。覆土3～6はⅣ層を主体とするもので屋根土、壁などの崩落・流入土と考える。

形態 西側はSH-2によって壊されているが、平面形は東西に長軸がある隅丸長方形となる。床面は中央から南東側が窪み、段差がみられる。

付属遺構 柱穴14か所(HP-1～14)を確認した。柱穴は住居四隅(HP-8・11・12・13)、壁際(HP-3・7・10・14)、住居内側に並ぶもの(HP-2・5・6/HP-1・9)がある。径は13～19cm、深さは24～54cmである。HP-1・2はやや内傾するがそれ以外はほぼまっすぐな断面形状である。先端部は平坦もしくは丸味を帯びるものがあり、覆土はⅣ層を主体とするものとⅡ・Ⅲ層に少量のⅣ層が混じるものがある。

遺物 遺物は312点出土した。覆土ではⅠ群b類土器4点、Ⅱ群a類土器1点、Ⅱ群b類土器15点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー6点などが出土している。床面出土はフレイク8点のみである。

時期 出土遺物から時期は縄文時代で、形態から縄文時代前期前半の可能性が高い。(愛場)

H-6 (図Ⅲ-15・16 図版10)

位置 M10/N10 立地 標高約7.5mの平坦面

規模 (3.44) × (2.80) / (3.16) × - / 0.37m 平面形 円形・卵形?

調査 SH-1検出時、北側に赤褐色土を伴う黒色土の堆積を確認した。SH-1調査終了後、土層観察用ベルトを残して周辺を掘り下げた。覆土中からは礫を主体とした遺物が多く出土し、床直上では覆土中焼土と炭化材がまとまってみられた。検出面から30cm程掘り下げたところで床面および石組炉を検出し、住居跡と判断した。炭化材は状況のよいものを採取し、放射性年代測定を行った(付篇2参照)。

覆土 7層に分層した。覆土1・2はⅡ層起源の自然堆積層である。覆土3～7はⅡ層黒色土にⅢ・Ⅳ層が混じる土層で、屋根土、壁などの崩落・流入土と考えられる。覆土6は薄い砂壤土層である。

形態 平面形は円形もしくは卵形となる。床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 石組炉(HF-1)、焼土(HF-2)、土坑3基(HP-1～3)を確認した。

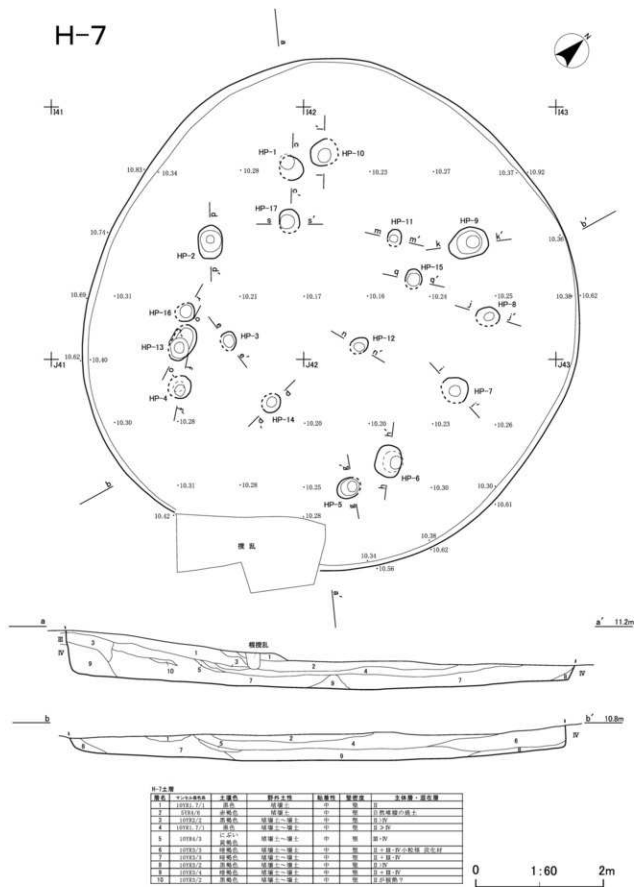
HF-1は住居中央より、南西壁側に位置する。床面をやや掘り込んだ面に焼土層があり、掘り込みの東から北側には円礫が埋め込まれる。HF-2はHF-1北西側にある小型の焼土である。

土坑は住居南西壁側に3基近接している。HP-1は平面形が不整形で、浅皿状となる。覆土上部には石皿がみられた。HP-2は柱穴の可能性があるので、平面形は隅丸方形となる。

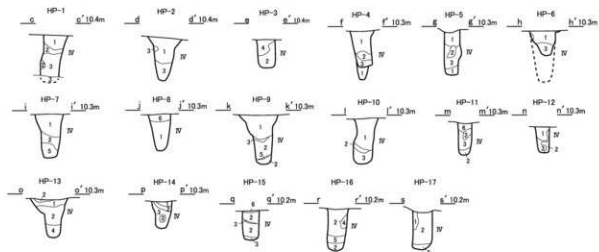
遺物 遺物は333点出土した。覆土ではⅣ群a類土器やフレイク、礫が多く、北海道式石冠、石製品もみられる。床面や付属遺構からはⅣ群a類土器やフレイク、礫が少量出土する。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉で、炭化材の状況から焼失住居跡である。(愛場)

H-7



図III-17 H-7 (1)

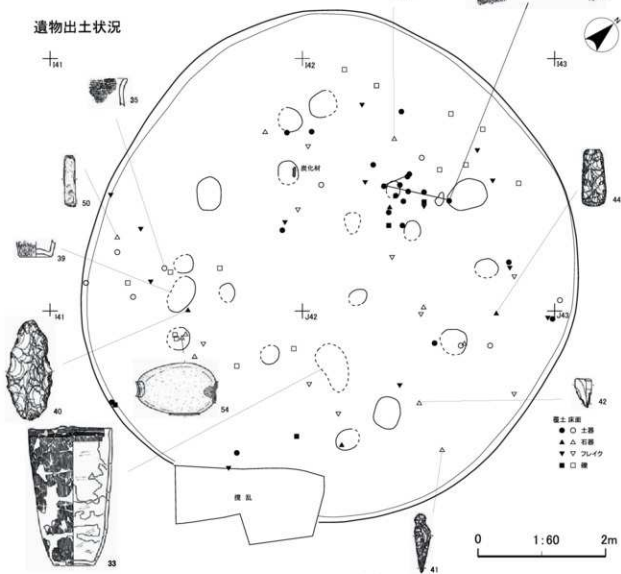


H-7P-1~17土層

層数	文化層	土層名	別名	土質	厚さ	埋没層	埋没層	土層厚	土層深	埋没深
1	10751.0	黒色土	埋没土	砂	0.1~0.2	○	○	0.1	0.1	0.1
2	10751.0	黒色土	埋没土	砂	0.1~0.2	○	○	0.1	0.1	0.1
3	10751.0	黒色土	埋没土	砂	0.1~0.2	○	○	0.1	0.1	0.1
4	10751.0	黒色土	埋没土	砂	0.1~0.2	○	○	0.1	0.1	0.1
5	10751.0	黒色土	埋没土	砂	0.1~0.2	○	○	0.1	0.1	0.1
6	10751.0	黒色土	埋没土	砂	0.1~0.2	○	○	0.1	0.1	0.1
7	10751.0	黒色土	埋没土	砂	0.1~0.2	○	○	0.1	0.1	0.1



遺物出土状況



図Ⅲ-18 H-7 (2)

H-7 (図III-17・18 図版12)

位置 H41・42/I41・42・43/J41・42・43 立地 標高約10.5~11mの平坦面

規模 8.13×7.85/7.99×7.71/0.93m 平面形 円形

調査 表土除去後、削平されたⅢ~Ⅳ層面で円形の堆積を確認した。土層観察ベルトを十字に設定して全体を掘り下げた。検出面から40cm程掘り下げたところで堅くしまった平坦な床面と壁を確認し、住居跡と判断した。床面で採取した炭化材は放射性炭素年代測定を行った(付篇2参照)。

覆土 10層に分層した。覆土1・2・4・10は自然堆積である。覆土2は赤褐色の自然焼土で住居中央部に堆積する。覆土3・5~9は概ねⅣ層を主体とする屋根土および壁の崩落土の可能性が高い。覆土10は焼土の可能性が高い。

形態 平面形は円形で、床面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。

付属遺構 柱穴17か所(HP-1~17)を確認した。東と西壁から1~1.3m程離れて並ぶものと、その内側に分布するものがある。径はすべて20cm以上で、30cmを超えるものもある。柱の先端形状は平ら、もしくは丸みを持つ。HP-1・10やHP-4・13・16など近接して柱穴がみられる部分があり、HP-3・13・15・16・17はⅣ層主体土で上部が埋め戻されている。数回の柱の更新、拡張などが行われたと想定される。

遺物 遺物は2,753点出土した。多くは覆土出土で、Ⅱ群b類土器が1,467点出土したほか、フレイク、礫などが多い。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

(愛場)

H-8 (図III-19~21 図版13)

位置 H38・39・40/I38・39・40 立地 標高10.5~10.8mの平坦面

規模 (8.60)×(4.10)/(8.26)×(3.92)/0.76m 平面形 楕円形?

調査 調査区北東側の表土除去後、調査区壁に沿って長さ8m程の規模で黒色土の堆積を確認した。大半を町道に削平されている。短軸にベルトを設定し、確認面から60cm程掘り下げたところ、堅い地山の床面と壁が現れた。床面では炭化材が検出し、放射性炭素年代測定を行った(付篇2参照)。

覆土 6層に分層した。覆土1層はⅡ層起源の自然堆積層で、火山灰層(Ko-dやB-Tm)も確認できた。覆土3・4・6層はⅣ層起源で非常に堅くしまっている。

形態 壁の立ち上がりの角度は垂直に近く、非常に明瞭である。床面は堅固で平坦である。

付属遺構 灰跡3か所(HF-1~3)、柱穴7か所(HP-1~7)、周溝1か所を確認した。

HF-2・3は直径1m、深さ20cm程の円形の掘り込みを持つ。焼土層はいずれもⅣ層が焼けたもので、非常に堅固である。柱穴は径約30~60cm、深さ約20~80cmである。覆土は上部が堅く、下部にしまりが無いものが多い。深さや位置から、HP-1・3・5・6は主柱穴と考えられる。

周溝は住居北側の壁際で検出した。長さは約2m、幅は20cm弱、深さは5cm程である。

遺物 遺物は1,554点出土した。Ⅱ群b類土器は覆土、床面から847点出土した。他にフレイクが514点と多くみられる。HF-2・3周辺からは土器やスクレイパー、フレイク、礫石器、礫がまとまって出土し、HP-1覆土からは扁平打製石器、礫が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半の時期と考える。

(新家)

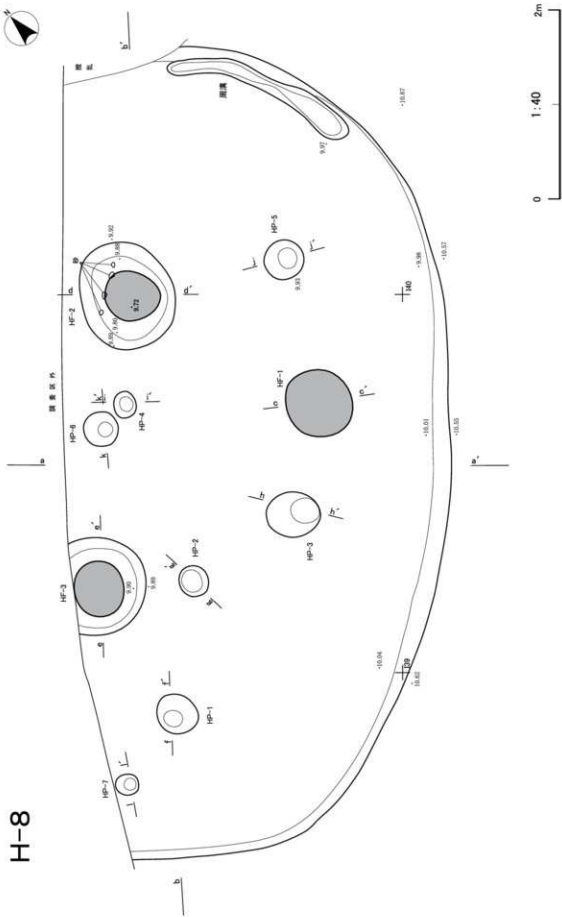


表 1-1 土質調査結果表

試料番号	土質	層位	採取深度 (m)	含水率 (%)	液性指数 (L)	塑性指数 (P)	土質分類	備考
1	砂	1	0.0-0.5	15.0	0.0	0.0	砂	表層部
2	砂	2	0.5-1.0	18.0	0.0	0.0	砂	表層部
3	砂	3	1.0-1.5	20.0	0.0	0.0	砂	表層部
4	砂	4	1.5-2.0	22.0	0.0	0.0	砂	表層部
5	砂	5	2.0-2.5	25.0	0.0	0.0	砂	表層部
6	砂	6	2.5-3.0	28.0	0.0	0.0	砂	表層部
7	砂	7	3.0-3.5	30.0	0.0	0.0	砂	表層部
8	砂	8	3.5-4.0	32.0	0.0	0.0	砂	表層部
9	砂	9	4.0-4.5	35.0	0.0	0.0	砂	表層部
10	砂	10	4.5-5.0	38.0	0.0	0.0	砂	表層部
11	砂	11	5.0-5.5	40.0	0.0	0.0	砂	表層部
12	砂	12	5.5-6.0	42.0	0.0	0.0	砂	表層部
13	砂	13	6.0-6.5	45.0	0.0	0.0	砂	表層部
14	砂	14	6.5-7.0	48.0	0.0	0.0	砂	表層部
15	砂	15	7.0-7.5	50.0	0.0	0.0	砂	表層部
16	砂	16	7.5-8.0	52.0	0.0	0.0	砂	表層部
17	砂	17	8.0-8.5	55.0	0.0	0.0	砂	表層部
18	砂	18	8.5-9.0	58.0	0.0	0.0	砂	表層部
19	砂	19	9.0-9.5	60.0	0.0	0.0	砂	表層部
20	砂	20	9.5-10.0	62.0	0.0	0.0	砂	表層部

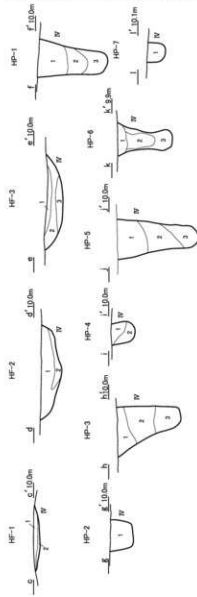
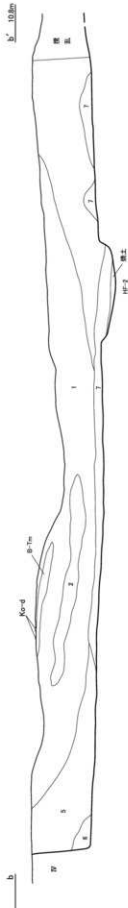
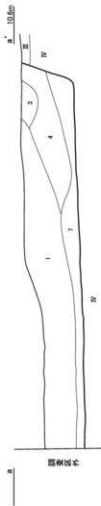
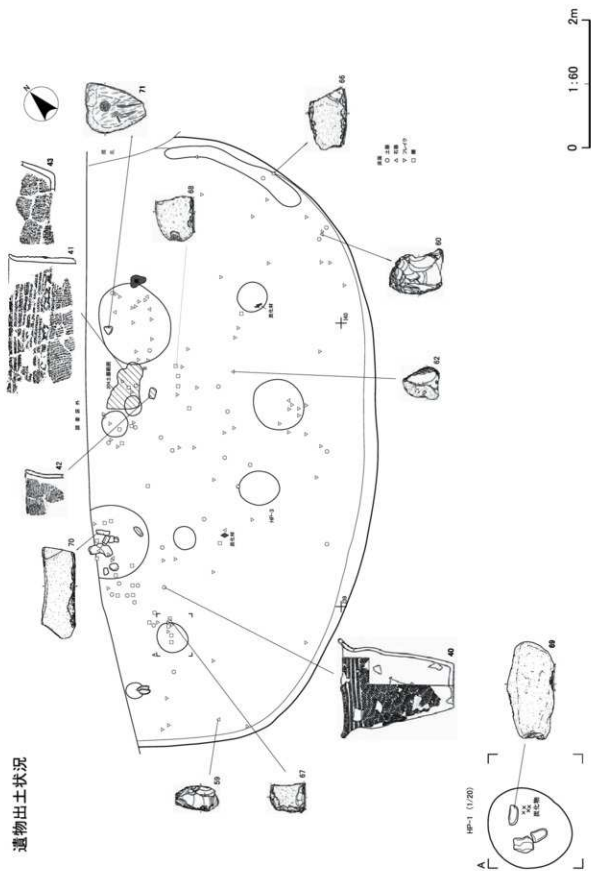


表 1-2 土質調査結果表

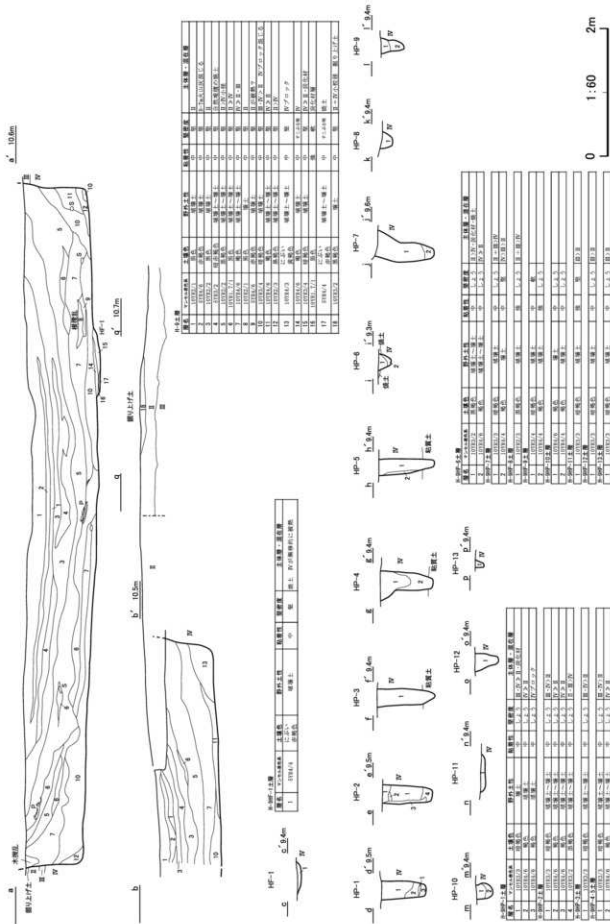
試料番号	土質	層位	採取深度 (m)	含水率 (%)	液性指数 (L)	塑性指数 (P)	土質分類	備考
1	砂	1	0.0-0.5	15.0	0.0	0.0	砂	表層部
2	砂	2	0.5-1.0	18.0	0.0	0.0	砂	表層部
3	砂	3	1.0-1.5	20.0	0.0	0.0	砂	表層部
4	砂	4	1.5-2.0	22.0	0.0	0.0	砂	表層部
5	砂	5	2.0-2.5	25.0	0.0	0.0	砂	表層部
6	砂	6	2.5-3.0	28.0	0.0	0.0	砂	表層部
7	砂	7	3.0-3.5	30.0	0.0	0.0	砂	表層部
8	砂	8	3.5-4.0	32.0	0.0	0.0	砂	表層部
9	砂	9	4.0-4.5	35.0	0.0	0.0	砂	表層部
10	砂	10	4.5-5.0	38.0	0.0	0.0	砂	表層部
11	砂	11	5.0-5.5	40.0	0.0	0.0	砂	表層部
12	砂	12	5.5-6.0	42.0	0.0	0.0	砂	表層部
13	砂	13	6.0-6.5	45.0	0.0	0.0	砂	表層部
14	砂	14	6.5-7.0	48.0	0.0	0.0	砂	表層部
15	砂	15	7.0-7.5	50.0	0.0	0.0	砂	表層部
16	砂	16	7.5-8.0	52.0	0.0	0.0	砂	表層部
17	砂	17	8.0-8.5	55.0	0.0	0.0	砂	表層部
18	砂	18	8.5-9.0	58.0	0.0	0.0	砂	表層部
19	砂	19	9.0-9.5	60.0	0.0	0.0	砂	表層部
20	砂	20	9.5-10.0	62.0	0.0	0.0	砂	表層部

0 1:40 2m
図 III-20 H-8 (2)

遺物出土状況



図III-21 H-8 (3)

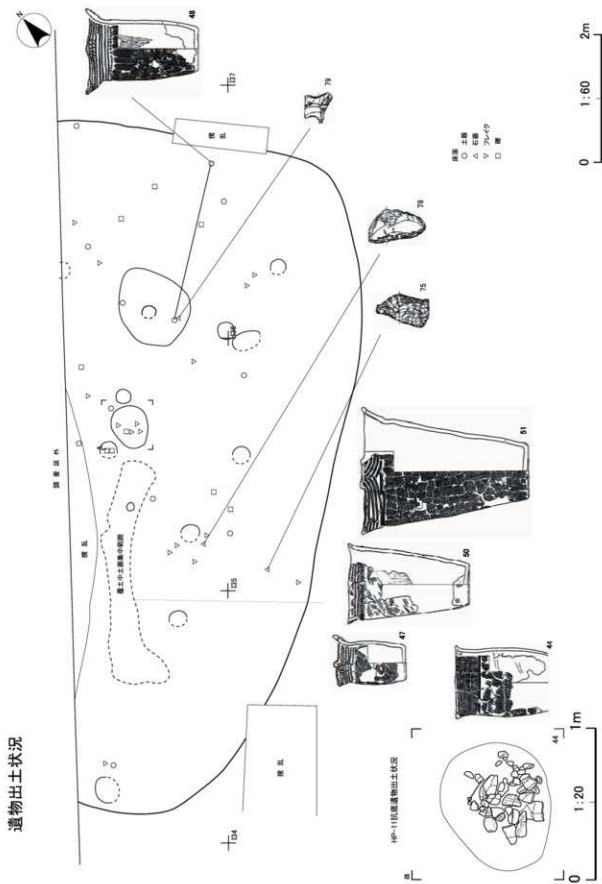


調査地点	地質	地層	地層番号	地層名	地層厚	地層色	地層構造	地層説明
1	砂	砂	1	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
2	砂	砂	2	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
3	砂	砂	3	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
4	砂	砂	4	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
5	砂	砂	5	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
6	砂	砂	6	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
7	砂	砂	7	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
8	砂	砂	8	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
9	砂	砂	9	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
10	砂	砂	10	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
11	砂	砂	11	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
12	砂	砂	12	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
13	砂	砂	13	砂	0.5	黄褐色	均質	砂

調査地点	地質	地層	地層番号	地層名	地層厚	地層色	地層構造	地層説明
1	砂	砂	1	砂	0.5	黄褐色	均質	砂

調査地点	地質	地層	地層番号	地層名	地層厚	地層色	地層構造	地層説明
1	砂	砂	1	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
2	砂	砂	2	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
3	砂	砂	3	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
4	砂	砂	4	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
5	砂	砂	5	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
6	砂	砂	6	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
7	砂	砂	7	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
8	砂	砂	8	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
9	砂	砂	9	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
10	砂	砂	10	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
11	砂	砂	11	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
12	砂	砂	12	砂	0.5	黄褐色	均質	砂
13	砂	砂	13	砂	0.5	黄褐色	均質	砂

図 Ⅲ-23 H-9 (2)



図III-24 H-9 (3)

H-9 (図Ⅲ-22~24 図版14)

位置 H34・35・36/I34・35・36 立地 標高約10~10.5mの平坦面

規模 (10.71) × (4.87) / (10.57) × (4.75) / 1.21m 平面形 隅丸長方形?

調査 調査区北境付近のⅡ層面で、掘り上げ土と思われる黒褐色土が帯状に広がっていたことから堅穴住居跡を想定した。掘り上げ土内側の黒色土堆積に土層観察用のベルトを設定し、周辺を掘り下げた。30cm程掘り下げたところで自然焼土層を確認した。それ以下の覆土は遺物が多く、土器はつぶれた状態で出土するものが数個みられた。検出面から1m程掘り下げたところで平坦な床面と壁を確認した。住居跡は北西側半分が町道によりすでに削平されており、今回は南東部半分程を調査した。HF-1上面では炭化材が検出し、放射性炭素年代測定を行った(付篇2参照)。

覆土 17層に分層した。覆土1~4は自然堆積層である。覆土4は赤褐色自然焼土層で6mの範囲でレンズ状に堆積している。覆土5・6は黒色・黒褐色土が入り混じる層で周辺からの流入土の可能性がある。覆土7~13はⅣ層主体で屋根土や壁の崩落土などである。覆土7上部では土器がつぶれたような状態で出土し、中央部は比較的平坦な土層になる。住居廃絶後のくぼみが二次的に利用された可能性がある。覆土7中には焼土層(9)がみられる。覆土14~16はHF-1の掘り込みを埋め戻した土層である。

形態 平面形は長径10mを超える隅丸長方形か。床面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

付属遺構 炉跡(HF-1)1か所、土坑1基(HP-11)、柱穴12か所(HP-1~10・12・13)を確認した。

HF-1は住居長軸上北東壁から3m程の床面にあり、径約55cm、層厚約6cmである。床面を皿状に掘り込んだくぼみに形成され、焼土上には粘質の炭化材層がある。この掘り込みは床面と同レベルまでⅣ層主体で埋め戻されている。HP-11は浅皿状の土坑で、住居長軸上、HF-1から1m中央より位置する。底面からは土器が敷き詰められるように出土した。

柱穴は南側壁長軸壁から1.1~1.5m内側に並び、径約25~35cmで、深さ約70~90cmのもの(HP-1~5・7・10)、住居中央長軸付近に並ぶ比較的浅いもの(HP-6・8・9・13)がある。HP-6はHF-1を切って構築されている。

住居跡東~南側には5m程の幅で掘り上げ土がみられた。層厚は薄く、厚いところでも10cm程である。

遺物 遺物は2,832点出土した。覆土中からはⅡ群b類~Ⅲ群a類土器が1,724点出土した。潰れたような状態で出土するものがあり、住居廃絶後窠みに廃棄された可能性がある。床面の遺物は少ないがHP-11坑底から円筒土器下層d1期(図Ⅲ-105-44)の土器がまとめて出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(愛場)

H-10 (図Ⅲ-25~27 図版15)

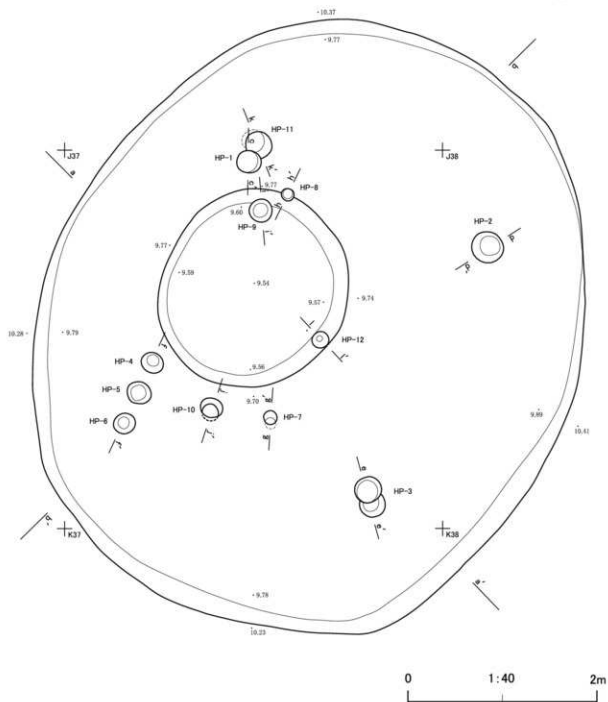
位置 I37・38/J36・37・38/K37・38 立地 標高10.5~10.6mの平坦面

規模 6.55×5.72/6.22×5.52/0.82m 平面形 楕円形

調査 Ⅲ層上面で径6m程の黒色土の堆積を確認した。土層観察ベルトを設定し掘り下げたところ、明瞭に立ち上がる壁と、平坦な床面を検出した。また、中央よりやや西よりにベンチ状の掘り込みを検出した。その後床面から柱穴12本を検出した。焼土や炉はなかった。

覆土 5層に分層した。覆土1はⅡ層起源の自然堆積層で、赤褐色の自然焼土層も一部みられる。覆土3は中央のベンチ状の落ち込みの覆土で、Ⅱ層起源の黒色土である。覆土4・5層はⅣ層起源のローム質土を含み非常に堅くしまった層である。

H-10



図III-25 H-10 (1)

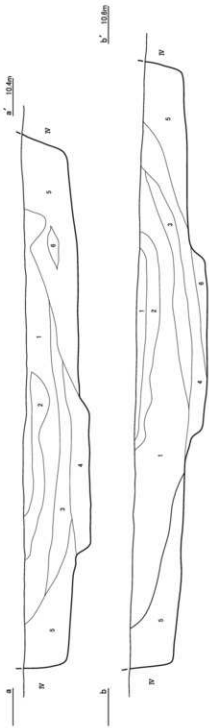
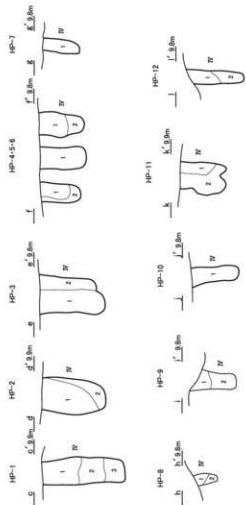


表 11-2 層

層名	土質	層厚 (m)	層底標高 (m)	層頂標高 (m)	層底深度 (m)	層頂深度 (m)
IV	砂	0.5	10.0	9.5	0.0	0.5
3	砂	0.5	9.5	9.0	0.5	1.0
4	砂	0.5	9.0	8.5	1.0	1.5
5	砂	0.5	8.5	8.0	1.5	2.0
6	砂	0.5	8.0	7.5	2.0	2.5

表 10P-12 層

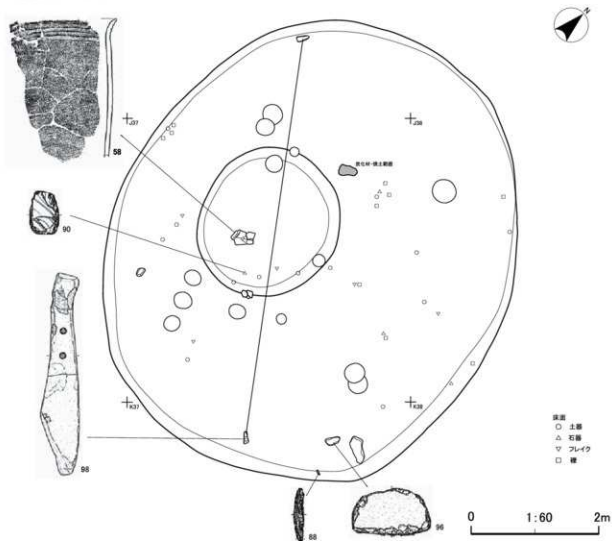
層名	土質	層厚 (m)	層底標高 (m)	層頂標高 (m)	層底深度 (m)	層頂深度 (m)
IV	砂	0.5	10.0	9.5	0.0	0.5
3	砂	0.5	9.5	9.0	0.5	1.0
4	砂	0.5	9.0	8.5	1.0	1.5
5	砂	0.5	8.5	8.0	1.5	2.0
6	砂	0.5	8.0	7.5	2.0	2.5
7	砂	0.5	7.5	7.0	2.5	3.0
8	砂	0.5	7.0	6.5	3.0	3.5
9	砂	0.5	6.5	6.0	3.5	4.0
10	砂	0.5	6.0	5.5	4.0	4.5
11	砂	0.5	5.5	5.0	4.5	5.0
12	砂	0.5	5.0	4.5	5.0	5.5
13	砂	0.5	4.5	4.0	5.5	6.0
14	砂	0.5	4.0	3.5	6.0	6.5
15	砂	0.5	3.5	3.0	6.5	7.0
16	砂	0.5	3.0	2.5	7.0	7.5
17	砂	0.5	2.5	2.0	7.5	8.0
18	砂	0.5	2.0	1.5	8.0	8.5
19	砂	0.5	1.5	1.0	8.5	9.0
20	砂	0.5	1.0	0.5	9.0	9.5
21	砂	0.5	0.5	0.0	9.5	10.0



0 1:40 2m

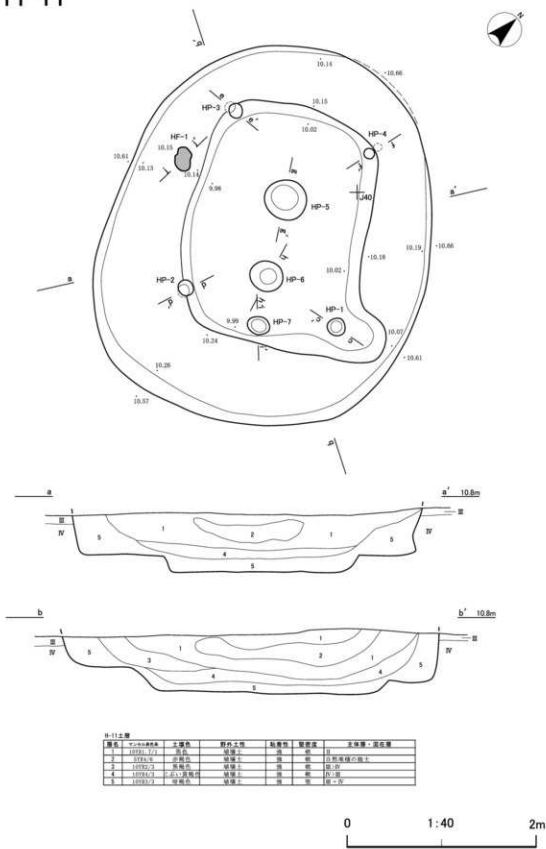
図 11-26 H-10 (2)

遺物出土状況



図III-27 H-10 (3)

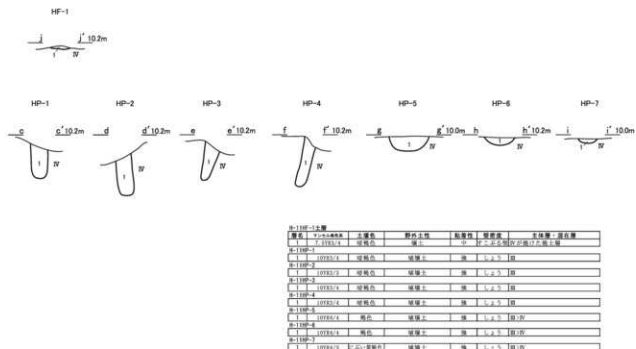
H-11



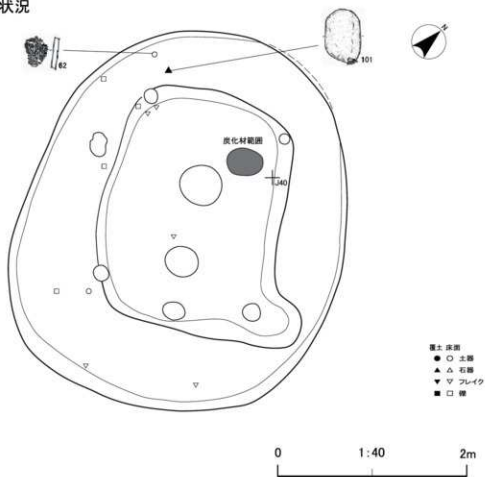
H-11之層

層位	文化層名稱	土質色	剖面之情況	胎土質	胎土質	主要層、或底層
1	HP1A/1	赤褐色	砂壤土	赤褐色	赤褐色	IV
2	HP1A/2	赤褐色	砂壤土	赤褐色	赤褐色	IV
3	HP1A/3	赤褐色	砂壤土	赤褐色	赤褐色	IV
4	HP1A/4	赤褐色	砂壤土	赤褐色	赤褐色	IV
5	HP1A/5	赤褐色	砂壤土	赤褐色	赤褐色	IV

圖 III-28 H-11 (1)



遺物出土状況



図III-29 H-11 (2)

形 態 平面形は南北を長軸とした楕円形で、周辺のH-7~9と比べると小型の住居跡である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床面は平坦である。

付属遺構 ベンチ構造、柱穴12か所（H-P-1~12）を確認した。

住居床面やや南西よりに、径2m、深さ16cm程のベンチ状の掘り込みがある。平面形はほぼ円形で、床面は平坦である。柱穴は直径約15~40cm、深さ約30~80cmである。覆土はいずれも非常に厚く、しまりはない。H-P-1~3・5の4本が主柱穴と思われる。

遺 物 遺物は729点出土した。床面ではⅡ群b類土器がまとまって出土した。また穿孔を施した石製品が、床面北西端と南東端で出土し、接合した。同じく南東端の床面からは石錐1点、扁平打製石器1点も出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。 (新家)

H-11 (図Ⅲ-28・29 図版16)

位 置 I39・40/J39・40 **立 地** 標高10.6~10.8mの平坦面

規 模 4.08×3.48/3.96×3.31/0.70m **平 面 形** 楕円形

調 査 H-8の南東側包含層を調査中、Ⅲ層上面で長径4m程の楕円形の黒色土の堆積を確認した。十字に土層観察ベルトを設定し、掘り下げたところ、ベンチ構造のある住居跡であった。また、住居の東西壁にそれぞれ土坑の断面が検出され、H-11はこの2つの土坑（P-60・61）を切って構築されている。床面では炭化材が検出し、放射性炭素年代測定を行った（付篇2参照）。

覆 土 5層に分層した。覆土1層はⅡ層が自然堆積して落ち込んだもの、覆土2層は赤褐色焼土層で、層厚は20cm強である。覆土3~5層はⅢ・Ⅳ層を起源とした埋め戻し土である。床面とベンチに一番近い覆土である覆土5層は非常に堅く締まる。

形 態 平面形は楕円形で、壁は明瞭に立ち上がる。床面は50~60cmほど掘り込まれ、平坦で非常に堅い。ほぼ中央に長軸約2.5mのベンチ構造がある。

付属遺構 ベンチ構造、焼土1か所（H-F-1）、小土坑3基（H-P-5~7）、柱穴4か所（H-P-1~4）を確認した。

ベンチ構造の平面形はやや隅丸方形で、段差は20cm程である。床は平坦で堅く締まり、東側角が舌状に若干突出している。焼土は床面西側壁際で検出した。層厚約4cmで非常に堅く締まる。小土坑は浅い土坑で、ベンチ構造の床面の長軸に沿って並ぶ。直径は25~45cm、深さは5~15cmである。覆土は非常に軟らかく、色味はH-P-1~4よりもやや明るい。

柱穴はベンチ構造の四隅に位置する。いずれも直径20cm弱と、同時期の住居跡の柱穴に比べると細い。深さは40cm程である。覆土は非常に軟らかく、もろい暗褐色土である。

遺 物 遺物は155点出土した。多くは覆土出土で、床面からはⅡ群b類土器2点、フレイク5点、扁平打製石器破片1点、礫3点が出土したのみである。

時 期 出土遺物や住居構造から、縄文時代前期後半と考える。 (新家)

H-12 (図Ⅲ-30 図版17)

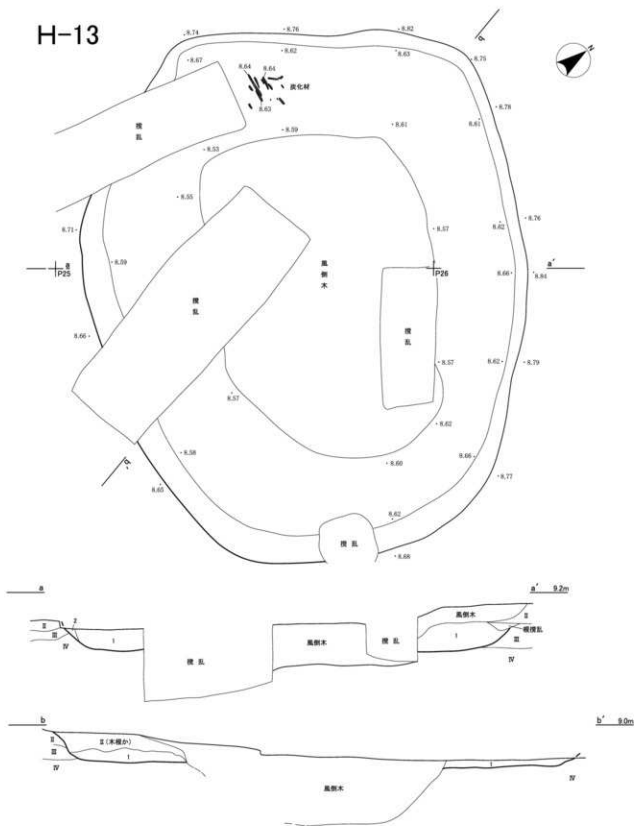
位 置 H41・42・43

立 地 標高約10.9mの平坦面。南東側にはP-58・59があり、P-59に切られている。

規 模 (5.20) × (1.76) / (4.87) × (1.64) / 0.26m **平 面 形** 円形?

調 査 Ⅳ層面で暗褐色・黒褐色の堆積を確認した。調査区境と短軸のT字状に土層観察ベルトを

H-13



※1は土庫

階名	構造	色名	主材料・図例
1	10YR4/2	図例の色1	IV 土庫
2	*	*	図例の色2, 10YR5/6より。機庫の壁は2と3の色。

図Ⅲ-31 H-13

設定し、周辺を掘り下げた。検出面から20cm程で平坦面を確認し、その面で柱穴が検出したことから住居跡と判断した。住居跡は北西側が町道により削平されており、今回南東側の1/3程度を調査した。覆土3層に分層した。IV層を主体とした黒褐色土・暗褐色土層で屋根土などの崩落・流入土の可能性がある。

形態 平面形は円形または楕円形と推測される。床面は概ね平坦で壁は緩やかに立ち上がる。周辺の竪穴住居跡に比べ、掘り込みは浅い。

付属遺構 柱穴2か所（HP-1・2）を確認した。

HP-1は径23cm・深さ66cm、HP-2は径27cm・深さ65cmで、いずれもやや外傾し、先端形状は平坦となる。

遺物 遺物は82点出土し、床直上・床面からはII群b類土器2点、フレイク2点、石鋸2点と少ない。

時期 遺物から縄文時代で、周辺の遺構から縄文時代前期後半の可能性ある。（愛場）

H-13（図Ⅲ-31 図版18）

位置 O25・26/P25・26 **立地** 標高8.5～9m付近の緩斜面

規模 5.60×4.70/5.20×4.26/0.48m **平面形** 不整な隅丸の六角形

調査 III層上面で灰黄褐色土の堆積を確認した。攪乱および風倒木によって大部分が破壊されていたが、不整な六角形の平面形を想定できた。掘り込み面はIII層上位である。土層確認用ベルトを設定し、関連する攪乱を全て掘りぬいた。そこから灰色黄褐色土を遺構覆土と想定し、調査を行った。床面と想定できるおおよそ平坦な面とゆるく外側に開きながら立ち上がる壁を検出し、規模から竪穴住居跡と判断した。住居西側において、床面より約2cm上位から構造物の可能性ある炭化した木の枝がまとまって出土した。放射性炭素年代測定を行った（付篇2参照）。

覆土 覆土1層としたにぶい黄褐色土から成る。IV層由来土を含んでおり、掘り上げ土の再流入、あるいは土葺き屋根の崩落の可能性ある。

付属遺構 付属遺構は検出出来なかったが、攪乱によって破壊された可能性が高い。

遺物 遺物はI群b類土器9点、石鏃1点、フレイク29点など計43点出土した。

時期 調査状況と出土遺物、周辺の遺構から縄文時代早期後半と考える。（大泰司）

H-14（図Ⅲ-32・33 図版20）

位置 Q4・5/R4・5 **立地** 標高約7mの平坦面

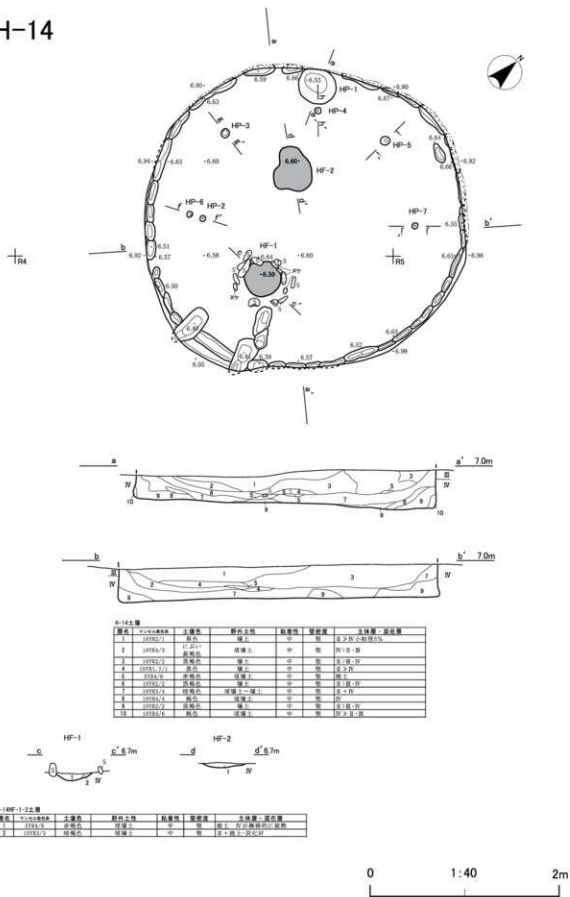
規模 3.57×3.35/3.38×3.22/0.42m **平面形** 不整の円形

調査 III～IV層面において円形で中央に赤褐色土がみられる黒色・黒褐色土の堆積を確認した。十字に土層観察ベルトを設定し、トレンチ調査を行いながら全体を掘り下げた。覆土中位では礫の集中とその上に土器片が出土した。これはHF-2上部にあたる。検出面から40cm程掘り下げたところで、床面・焼土・壁の立ち上がりを確認し、住居跡と判断した。床面炭化材は炭化樹種同定、石組炉の焼土から回収した炭化材については放射性炭素年代測定をそれぞれ行った（付篇2・3参照）。

覆土 10層に分層した。図には現れていないが、最上面には赤褐色の自然焼土層がある。覆土1はII層起源の自然堆積土である。覆土2はにぶい褐色土層で礫の集中がみられた。覆土7～10は屋根土や壁などの崩落土と考えられる。

形態 平面形は多角形にもみえる不整円形で、南側がやや突き出る。壁はほぼ垂直もしくはややオーバーハングして立ち上がる。

H-14



図III-32 H-14 (1)

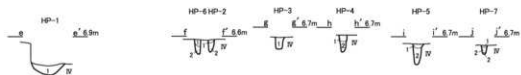
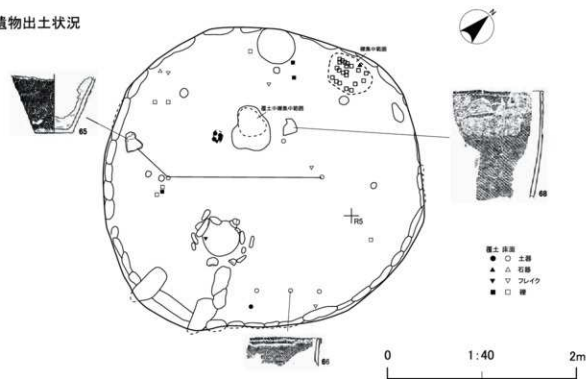


図-14HP-1の遺構

層名	土壌色	貯内土色	胎産物	炭化層	土質層・混成層
1	10Y2.5/2	灰褐色	中	無	目土層・IV土層混成土

層名	土壌色	貯内土色	胎産物	炭化層	土質層・混成層
1	10Y2.5/2	灰褐色	中	無	目土層・IV
2	10Y2.5/2	灰褐色	中	無	IV

遺物出土状況



図III-33 H-14 (2)

付属遺構 石組炉1か所(HF-1)、焼土1か所(HF-2)、土坑1基(HP-1)、柱穴5か所(HP-2~6)、周溝、出入口構造を確認した。

石組炉は住居中央からやや南側にある。礫はほぼ円形に組まれ、一部抜き取られている。焼土は長さ40cm程で被熱層は約7cmである。HF-2は住居中央からやや西側の床面に位置する。

HP-1は北西壁際にある径40cm程の土坑で、底面は皿状となる。覆土中からは礫が500点程出土した。柱穴は石組炉より北側で確認した。壁から50cm程内側に約80~90cmの間隔でめぐり、径は6~10cmで深さは9~22cmで先端は尖る。住居壁際には溝がほぼ全周する。長さ約15~40cm単位の溝状の掘り込みが連続するもので、深さは概ね5cm程である。南南西側のやや突き出た壁際には出入口構造があり、出入口と石組炉の間には2か所の礫抜き取り痕がある。

遺物 遺物は4,725点出土した。内訳はIV群a類土器439点、フレイク592点、礫3,657点などである。HF-2上面の覆土中では30cm程の範囲から径2~4cmの円礫が3,000点近くまとまってみられた。また住居北側の壁際床面からは棒状礫が506点出土した。

時期 出土遺物や住居構造から縄文時代後期前葉と考える。(愛場)

H-15 (図Ⅲ-34 図版21)

位置 Q5・6/R5・6 立地 標高約7mの平坦面

規模 (2.14) × (1.38) / (2.14) × (1.32) / 0.05m 平面形 円形?

調査 IV層面で焼土を確認した。周辺の黒褐色・暗褐色土層を掘り下げると、北東側でわずかに壁の立ち上がりが見られた。焼土から北東側にかけ、床面と壁がわずかに残る住居跡と判断した。

覆土 3層に分層した。黒褐色~暗褐色の土層で、もっとも残りの良い部分で層厚5cm程である。形態は不明であるが、円形か。

付属遺構 炉跡2か所(HF-1・2)を確認した。HF-1は床面から3cm程掘り込まれた窪みに形成され、径34×28cm、被熱層厚4cmである。HF-2は径約30cm、被熱層厚4cmで、HF-1の掘り込みに切られる。

遺物 遺物は10点出土した。内訳はII群b類1点、フレイク7点、礫2点である。

時期 出土遺物から縄文時代で、住居構造から縄文時代後期前葉の可能性がある。(愛場)

H-16 (図Ⅲ-35 図版21)

位置 R4/S4 立地 標高約6~7mの平坦面

規模 (3.74) × (1.42) / (3.55) × (1.17) / 0.62m 平面形 隅丸方形?

調査 調査区南西壁での層面で黒色土の堆積を確認した。調査区界にそった長軸とそれに直交する短軸の土層観察ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。確認面から50cm程掘り下げたところで床面と壁の立ち上がりを認定した。住居跡は南側が水路により削平されており、今回は住居跡北側1/3程度を調査した。

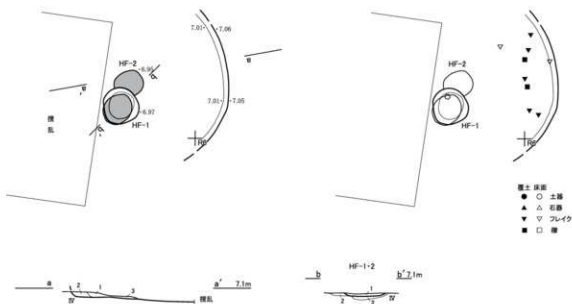
覆土 8層に分層した。覆土1は自然堆積で、覆土2は漸移的に焼けた焼土層である。覆土3~8は屋根土、壁などに関連した崩落土、流入土と考えられる。

形態 平面形は隅丸方形か。床面は平坦で壁は急角度で立ち上がる。南東側は風倒木で壊される。

付属遺構 検出していない。

遺物 遺物は414点出土した。フレイク(190点)や礫(92点)が多い。土器はI群b類土器、II群b類土器、IV群a類土器がみられ、床面からはI群b類土器9点、IV群a類土器14点が出土している。

H-15



H-15上層

層名	マテリアル番号	土種名	野外土質	粘着性	堅固度	土結層・硬直層
1	10T02.2	赤褐色土	硬質土	中	弱	1.5m以下
2	10T02.3	赤褐色土	硬質土	中	弱	1.5m以下
2	10T02.4	赤褐色土	硬質土	中	弱	1.5m以下

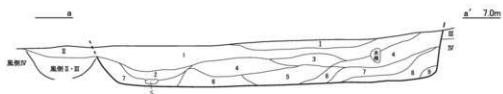
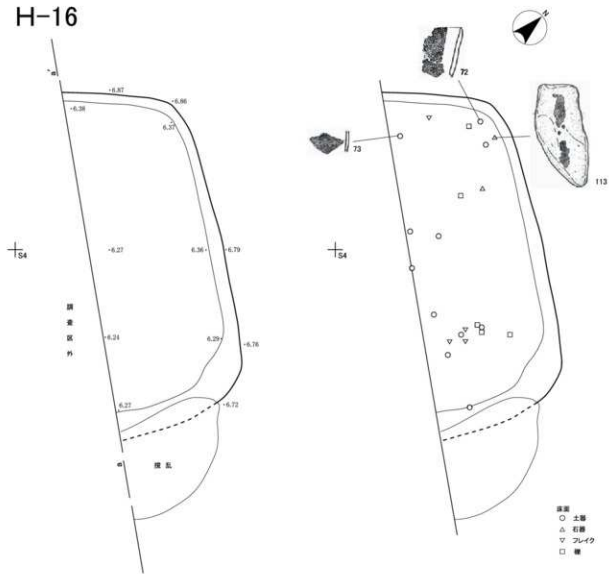
H-15F-1.2土層

層名	マテリアル番号	土種名	野外土質	粘着性	堅固度	土結層・硬直層
1	10T02.2	赤褐色土	硬質土	中	弱	1.5m以下
2	10T02.3	赤褐色土	硬質土	中	弱	1.5m以下



図 III-34 H-15

H-16



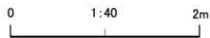
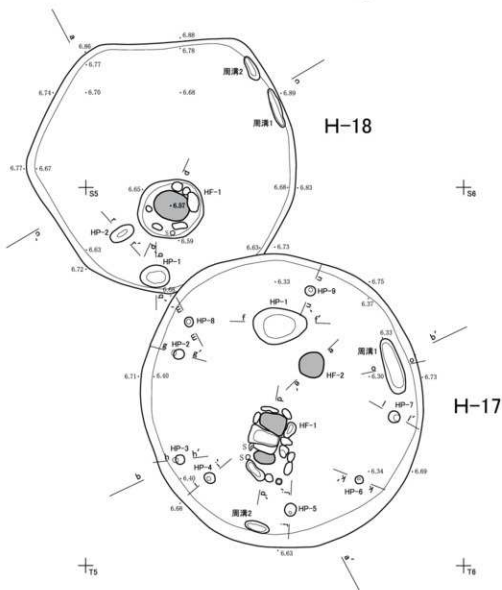
H-16土層

層位	ソイル層番号	土層色	層内土質	粘着性	層厚	土層層ノ位置
1	10101.1	赤褐色	硬粘土	中	厚	表
2	8104.1	赤褐色	硬粘土	中	厚	自然埋没の粘土
3	10102.1	赤褐色	硬粘土	中	厚	表-IV
4	10103.1	赤褐色	硬粘土	中	厚	表-IVa
5	10102.2	赤褐色	硬粘土	中	厚	表-IVa副層
6	10103.2	赤褐色	硬粘土	中	厚	表-IV
7	10103.3	赤褐色	硬粘土	中	厚	表-IVa副層
8	10102.3	赤褐色	硬粘土	中	厚	表-IVa副層 (上下取巻)
9	10103.4	褐色	硬粘土	中	厚	表-IV

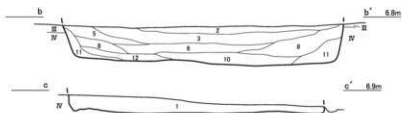


図 III-35 H-16

H-17・18



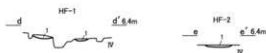
図Ⅲ-36 H-17・18 (1)



H-17-18 地層

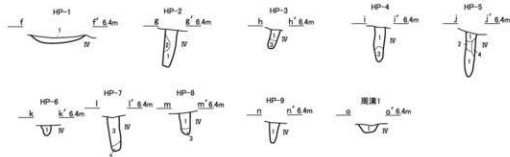
層號	Unit/Stratum	土層名	野的土質	黏着性	稜角度	土體層、透水性
1	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好、砂文材料の混入
2	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
3	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
4	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
5	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
6	10T21/2	砂土	硬質上一層土	○	強	透水性良好、砂文の混入
7	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
8	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
9	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
10	10T21/2	砂土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
11	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
12	10T21/2	礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好

H-17



H-17HF-1 2 地層

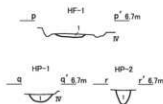
層號	Unit/Stratum	土層名	野的土質	黏着性	稜角度	土體層、透水性
1	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好、砂文の混入



H-17HP-1-9 層薄し層

層號	Unit/Stratum	土層名	野的土質	黏着性	稜角度	土體層、透水性
1	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好、砂文の混入
2	10T21/2	砂土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
3	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好
4	10T21/2	礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好

H-18



H-18HF-1 地層

層號	Unit/Stratum	土層名	野的土質	黏着性	稜角度	土體層、透水性
1	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好、砂文の混入

H-18HP-1 2 地層

層號	Unit/Stratum	土層名	野的土質	黏着性	稜角度	土體層、透水性
1	10T21/2	砂礫土	硬質上一層土	○	強	透水性良好

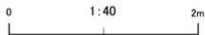
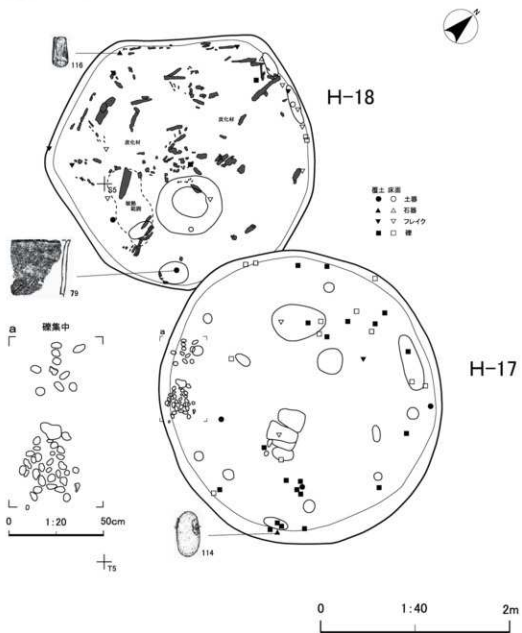


図 III-37 H-17・18 (2)

遺物出土状況



図Ⅲ-38 H-17・18(3)

時期 出土遺物から縄文時代である。

(愛場)

H-17 (図Ⅲ-36~38 図版22)

位置 S5 立地 標高約7mの平坦面

規模 3.19×2.96/2.88×2.75/0.45m 平面形 円形

調査 III層面で黒褐色・褐色土の円形の堆積が2つ連なって検出した。2か所の落ち込みにかかる長い土層観察ベルトと、それに直交するベルトをそれぞれに設定した。H-17は東側の落ち込みで、検出面から45cm程掘り下げたところで平坦な床面と壁を確認し、住居跡と判断した。土層の観察によりH-17が西側のH-18より新しい。石組炉焼土から回収した炭化材については、放射性炭素年代測定を行った(付篇2参照)。

覆土 11層(覆土2~12)に分層した。覆土2は炭化材混じりの黒褐色土、覆土3はIV層主体土である。覆土4は漸移的に焼ける焼土層である。覆土6層はII層主体の黒色土で、少量のIV層粒を含む。覆土7~11は屋根土や壁などの崩落・流入土の可能性がある。

形態 平面形は円形で、床面は概ね平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 石組炉1か所(HF-1)、炉跡1か所(HF-2)、土坑1基(HP-1)、柱穴8か所(HP-2~9)、周溝1か所を確認した。

HF-1は住居中央よりやや南東側にある。大きな礫の抜き取り痕を挟んで2か所に焼土があり、その周囲にそれぞれ礫の抜き取り痕がめぐっている。規模は北西側が径29×21cm、被熱層厚が4cm、南東側が径23×12cm、被熱層厚が2cmである。HF-2は石組炉から50cm程北側にあり、円形で直径は29cmである。

HP-1は平面形が卵形で、底面は皿状となる。柱穴は壁際をめぐっており、直径は9~12cm程である。深さは11~48cmとばらつきがあり、やや内傾するものが多い。

周溝は北西壁近くにみられる。長径60cm、幅20cmで深さは5cm程度である。南東の壁際には周溝とも礫の抜き取り痕とも判断しにくい窪みがみられる。

遺物 遺物は361点出土した。土器はI群b類、II群b類、IV群a類土器があるがIV群a類土器が多く、床面直上からも1点出土している。住居南西の壁際では80×30cm程の範囲に棒状礫が60点程まとまって出土した。その中には両端に挟りが入られたII群b類土器片(未掲載)もみられた。

時期 出土遺物や住居構造から縄文時代後期前葉と考える。

(愛場)

H-18 (図Ⅲ-36~38 図版23)

位置 R4・5/S4・5 立地 標高約7mの平坦面

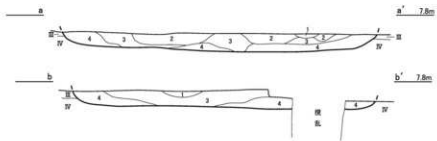
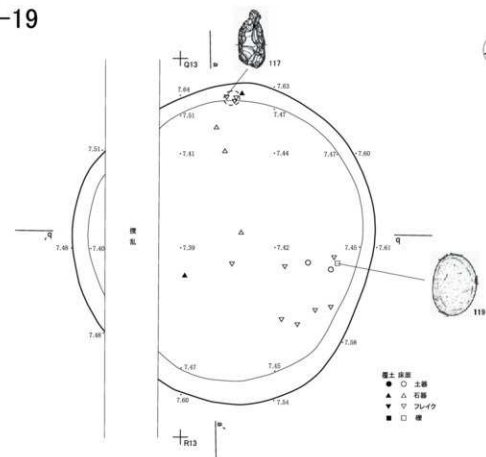
規模 2.85×2.66/2.69×2.54/0.3m 平面形 六角形

調査 III層面で黒褐色・褐色土の円形の堆積が2つ連なって検出した。2か所の落ち込みにかかる長い土層観察ベルトと、それに直交するベルトをそれぞれに設定した。H-18は西側の落ち込みで、検出時から炭化材が多くみられた。このため炭化材を残して掘り下げ、位置を記録した。状況の良いものはサンプルを採り、樹種同定と放射性炭素年代測定を行った(付篇2・3)。検出面から15cm程掘り下げたところで床面と壁を確認し、住居跡と判断した。

覆土 炭化材を含むIV層主体の暗褐色土である。

形態 住居の平面形は一辺が1.3~1.6m程の六角形?で、東側壁際の一部がH-17により壊されている。炭化材は中央から壁へ放射状に建材が組まれた構造が見て取れた。

H-19



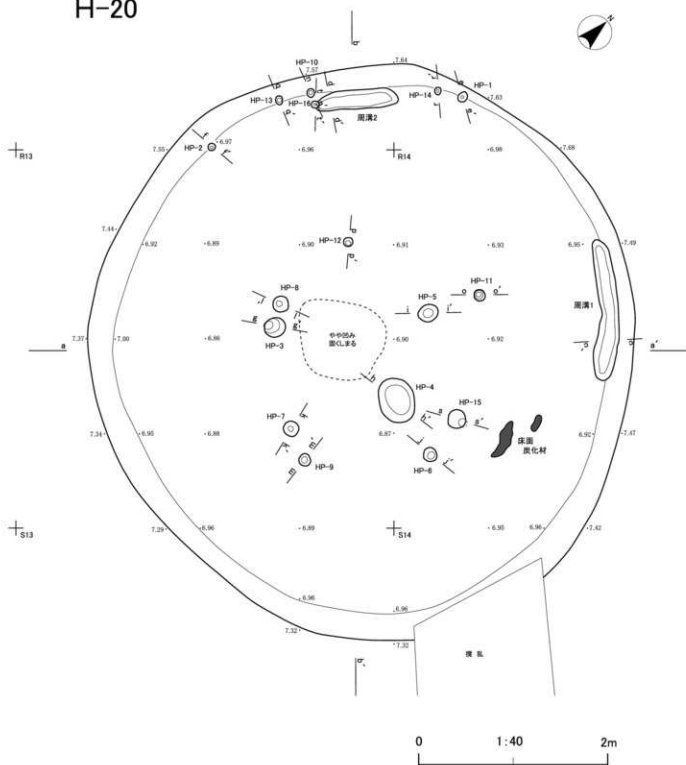
H-19土層

層番号	ソイル層番号	土質色	断面形状	土層厚	層厚	土層厚 - 測定値
1	10192/1	黒褐色	緩衝土一層上	-	約	18.30m
2	10191/2	暗褐色	緩衝土一層上	-	約	20.20m
3	10191/3	暗褐色	緩衝土一層上	-	約	19.70m
4	10192/2	黒褐色	緩衝土一層上	-	約	18.30m



図III-39 H-19

H-20



図Ⅲ-40 H-20 (1)

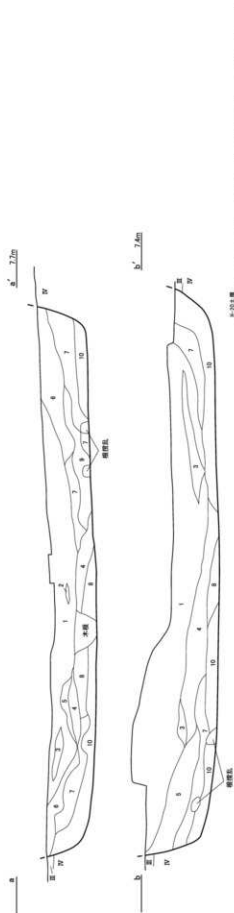


表 1-1-1 遺構・遺物の位置関係

遺構・遺物の位置関係	遺構・遺物の位置関係	遺構・遺物の位置関係	遺構・遺物の位置関係
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

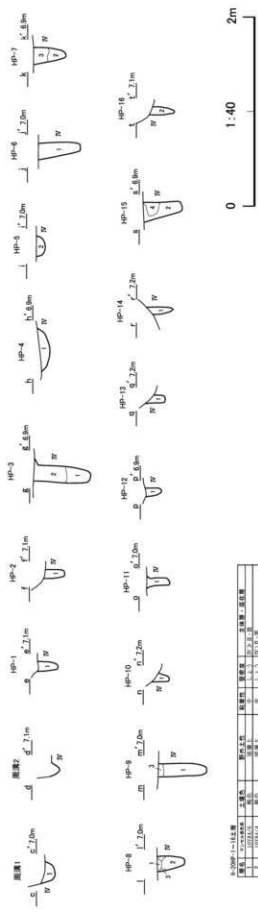
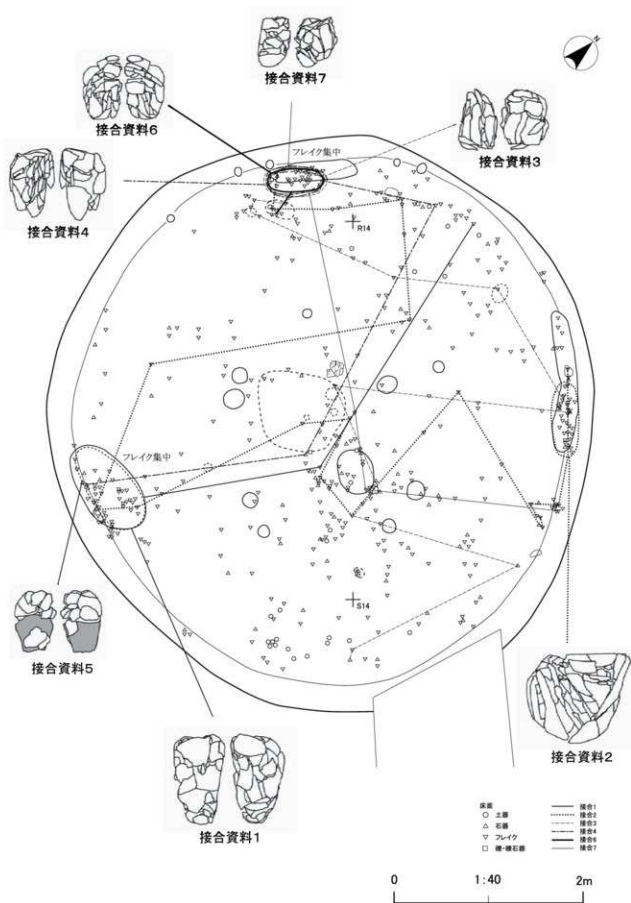


表 1-1-2 遺構・遺物の位置関係

遺構・遺物の位置関係	遺構・遺物の位置関係	遺構・遺物の位置関係	遺構・遺物の位置関係
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

図 III-41 H-20 (2)



図Ⅲ-42 H-20 (3)

付属遺構 石組炉1か所（HF-1）と小土坑2か所（HP-1・2）、溝状遺構を確認した。

石組炉は住居中央よりやや南東側にある。床面を円形に掘りくぼめ、その外周に礫の抜き取り痕が残る。HP-1・2は南東壁側にあり、礫の抜き取り痕の可能性もある。

遺物 遺物は157点出土した。このうち114点はフレイクである。床面ではIV群a類土器、フレイクがみられた。

時期 出土遺物や住居構造から縄文時代後期前葉で、炭化材の状況から焼失住居跡である。

（愛場）

H-19（図III-39 図版24）

位置 Q12・13 立地 標高約7.5mの平坦面

規模 3.4×3.21/2.96×2.91/0.23m 平面形 不整円形

調査 III～IV層で円形の暗褐色主体土の堆積を確認した。十字に土層観察用のベルトを設定し、全体を掘り下げていった。20cm程掘り下げたところで、平坦な床面と斜めに立ち上がる壁を確認し、規模から住居跡と判断した。

覆土 4層に分層した。覆土1はII層起源の自然堆積黒色土層である。覆土2・3は暗褐色土層、覆土4は黒褐色土で、いずれもIII・IV層の混合土である。

形態 平面形は不整の円形となる。床面は平坦で壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 検出していない。

遺物 遺物は103点出土した。床直上・床面からはI群b-1類土器2点、つまみ付きナイフなどが出土した。

時期 出土遺物や周辺の遺構から縄文時代早期後半と考える。

（愛場）

H-20（図III-40～43 図版25・26）

位置 Q13・14/R13・14/S13・14 立地 標高約7.5mの平坦面

規模 6.1×5.8/5.56×5.36/0.78m 平面形 円形

調査 III～IV層面で円形の黒色土の堆積を確認した。十字に土層観察ベルトを設定し、トレンチ調査を先行しながら全体を掘り下げていった。覆土中からは土器、フレイクなどが多く出土した。50～70cm程掘り下げたところで平坦な床面と壁を検出し堅穴住居跡と判断した。床面には頁岩の石核・フレイク・フレイクチップがほぼ全面にみられた。これらは3cm未満のフレイクをのぞき位置を記録して取り上げた。また床面採取の炭化材について放射性炭素年代測定を行った（付箋2参照）。

覆土 10層に分層した。覆土1～3はII層起源の自然堆積土で、覆土2は火山灰の可能性もある。覆土4～8・10はIV層主体土層で屋根土などの崩落土の可能性もある。

形態 平面形はほぼ円形で、床面は平坦で、壁は急角度で立ち上がる。

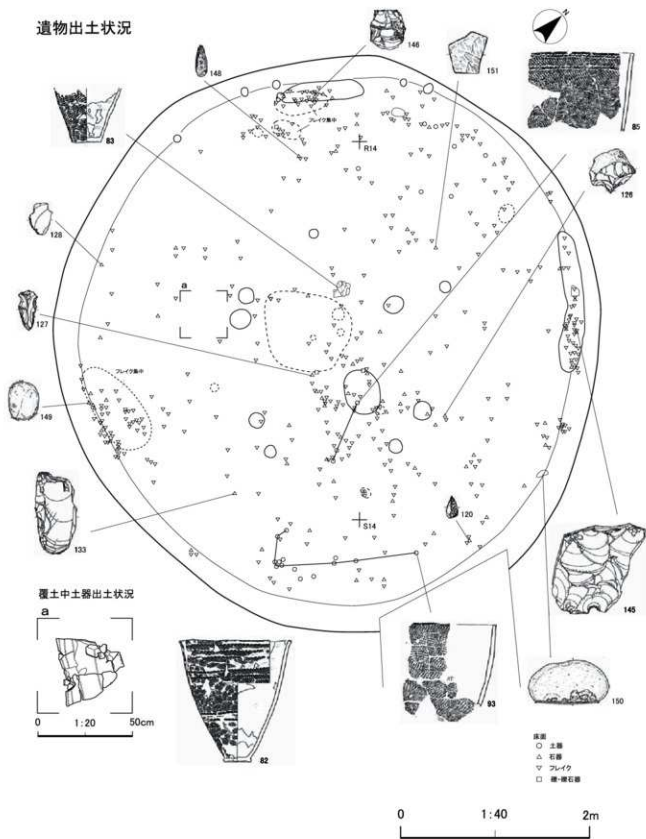
付属遺構 土坑1基（HP-4）、柱穴15か所（HP-1～3・5～16）、周溝2か所を確認した。

土坑HP-4は住居中央よりやや南東側にある。平面形は不整楕円形で断面形は浅い皿状となる。

柱穴は中央部2m程の範囲を取り囲むもの（HP-3・5～9・11・12・15）と、北西壁際に位置するもの（HP-1・2・13・14・16）がある。中央付近の柱穴はHP-3・6・7・8・9など直径13～20cm、深さ25cmを超える比較的大型の柱穴である。北西壁際の柱穴は直径10cm未満で、先端形状は丸や尖るものが多い。

周溝は住居北西と北東側の壁際にみられる。幅20cm、深さは10cm程で、長さは周溝1では約90cm、

遺物出土状況



図Ⅲ-43 H-20 (4)

周溝2では約1.5mである。いずれも剥片石器、石核、フレイクが多く出土した。なお住居は中央床面には50cm程の範囲がやや窪み、硬くしまる部分があり、焼土層はないが炉跡の可能性はある。

遺物 遺物は12,971点出土し、床面や付属遺構からはI群b-1類土器98点、石鏃5点、両面調整石器2点、石鎌4点、スクレイパー26点、石核12点、頁岩フレイクが9,407点、石斧1点、たたき石1点、砥石1点などが出土した。土器は覆土下位(図Ⅲ-109-82)、床面(図Ⅲ-109-83)で2個体が潰れた状態で出土した。

フレイク・Rフレイク・石核は、住居床面全面から出土し、特に周溝1・2周辺や住居南壁際に集中して見られた。これらについて接合作業を行ったところ、多くの頁岩の接合資料が得られ、7つの接合資料(接合資料1~7)について写真、模式図を掲載した。接合資料は周溝1周辺(接合資料3・4・6・7)、周溝2周辺(接合資料2)、住居南側フレイク集中域(接合資料1・5)にそれぞれ主体があるが、いずれも住居内で広く接合する傾向がある。接合資料2は住居内のほか、P-108・72のスクレイパーと接合している。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。頁岩原石を持ち込み、石器製作を行っている。(愛場)

H-21(図Ⅲ-44・45 図版27)

位置 Q17/R16・17/S17 **立地** 標高約7.6~7.8mの平坦面

規模 5.45×(4.52)/5.08×(4.54)/0.44m **平面形** 不整形円形?

調査 Ⅲ層調査中、フレイクがややまとまって出土する範囲があり、ベルトを設定して周囲を掘り下げた。その結果、北東側半分を攪乱・削平された暗褐色の堆積をⅣ層上面で確認した。残った堆積の輪郭はほぼ円形で、さらに掘り下げると、床面と思われる平坦で堅い床面が現れた。

覆土 2層に分層した。いずれも非常にしまりが良く、堅固である。Ⅲ・Ⅳ層を起源とする褐色~暗褐色層である。

形態 平面形は円形で、掘り込みはⅡ層中である。地形標高が低い側の壁の立ち上がりは明瞭である。床面は水平・平坦である。床面に周溝のような長楕円形の浅い掘り込みが1か所ある。

付属遺構 周溝1か所を検出した。床面西側の壁寄りに位置し、長さ約90cm、幅約30cm、深さ約5cmである。

遺物 遺物は234点出土した。床面からはI群b-1類土器7点、石鎌1点、石核5点、フレイク84点、すり石1点などが出土している。広くフレイクや石核が分布していることから、石器製作の場であったかもしれない。

時期 出土遺物と周辺の遺構から縄文時代早期後半と考える。(新家)

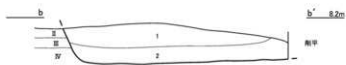
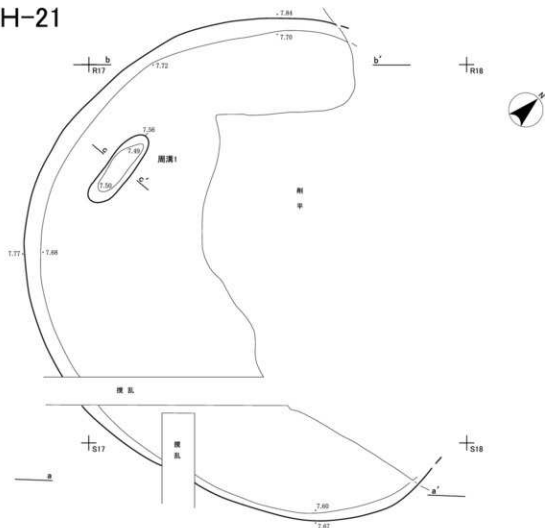
H-22(図Ⅲ-46~48 図版28)

位置 F48・49・50/G49・50 **立地** 標高11.5~11.8m付近の緩斜面

規模 7.88×(3.32)/7.28×(2.24)/0.84m **平面形** 不整形楕円形?

調査 表土除去後、Ⅲ~Ⅳ層中で黒褐色土を主体土の堆積を確認した。西側は宅地造成によって削平されていたが、楕円形の平面形を想定できた。土層観察ベルトを設定し、掘り下げた。Ⅱ層主体土中には、赤く酸化した土のまとまりが混じっていた。さらに掘り下げて中央にくぼみを有する床面とほぼまっすぐに立ち上がる壁を検出した。壁が開口部で屈曲して外側へ開くのは壁面が崩落したためと考える。規模と付属遺構から住居跡と判断した。住居南側では、床面より約2cm上位から炭化し

H-21



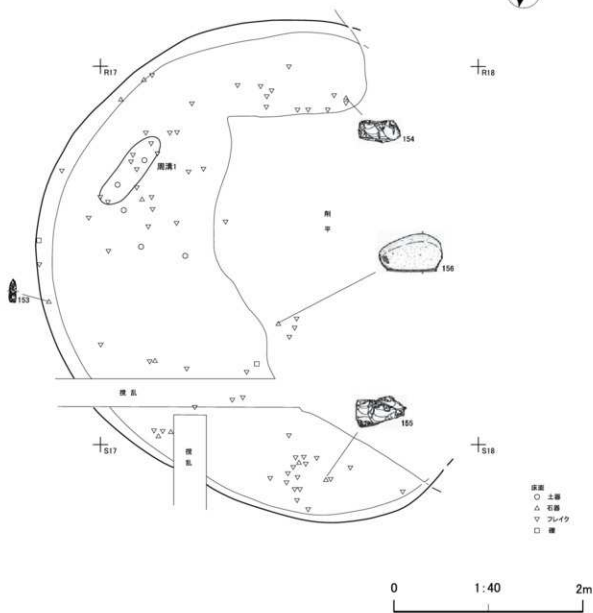
H-21之數

圖名	比例尺	本圖號	設計士名	監製者	製圖者	本圖第二號位置
1	1:100	船底	張士	王	王	船底
2	1:100	船甲	張士	王	王	船甲
H-21船底圖						
1	1:100	船底	張士	王	王	船底



圖 III-44 H-21 (1)

遺物出土状況



図Ⅲ-45 H-21 (2)

H-22

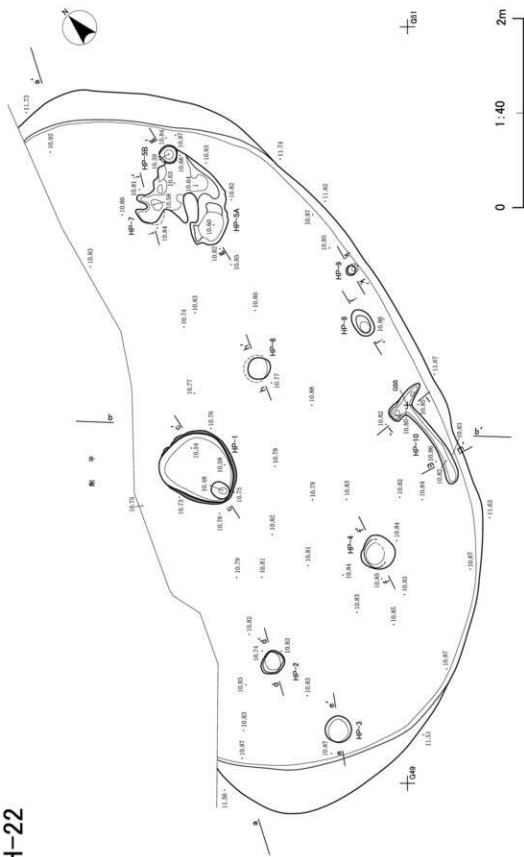
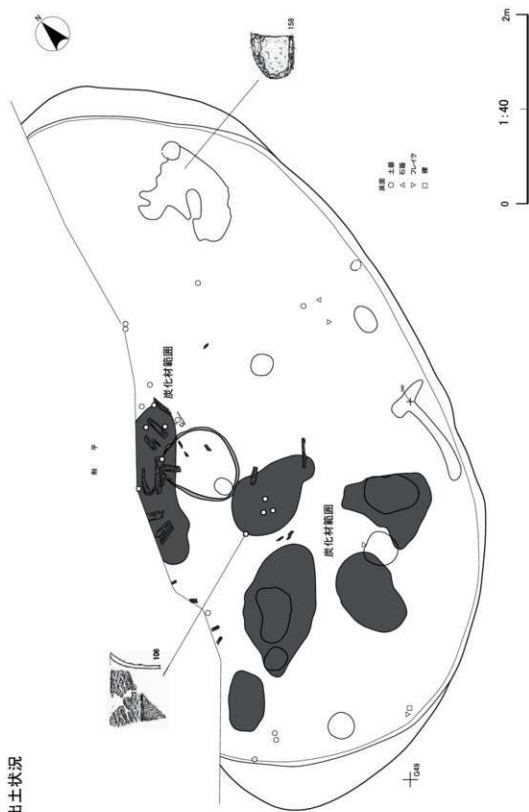


图 III-46 H-22 (1)

遺物出土状況



図Ⅲ-48 H-22(3)

た木の枝がまとまって出土し、炭化樹種同定と放射性炭素年代測定を行った（付篇2・3参照）。屋根材のような構造物が炭化した可能性もある。

覆土 覆土4層とした黄褐色土が下半分をしめる。掘り上げ土の再流入の可能性もあるが、その量と壁付近から中心までおおよそ水平な堆積がみられることから、土葺き屋根の崩落の可能性もある。その上の黒褐色土は廃絶後のくぼみに自然堆積したものと考え、覆土2層は住居廃絶後のくぼみに発生したもので、住居そのものの性質とは無関係と判断した。床面より2cm程度上には平面形の南側を中心に薄く炭化物層が途切れ途切れに広がり、いくつかは炭化材形状を残していた。北側に見当たらないのは風倒木によって乱された可能性がある。

付属遺構 土坑2か所（HP-1・10）と柱穴7か所（HP-2～9）を確認した。

HP-1は炉を思わせる状況で、全体的に被熱し、炭化した小型のクルミが詰まっていた。床面よりやや上の炭化物層とはHP-1覆土1層によって連続していない。東壁際に溝状のHP-10が巡る。小型の柱穴HP-8・9もこれに関連するものと推測される。

柱穴は長方形に近い平面形の輪郭にそって並ぶと推定される。四隅に位置するものを主柱穴とするHP-4・5Bであり長方形の長辺中央に位置するのがHP-6である。HP-2・3は浅く、HP-5Aはこの周辺の床を壊している風倒木痕に関連する可能性がある。

遺物 遺物は375点出土した。床面ではII群b類土器47点、フレイク、礫が出土している。なお床面として取り上げたものは、1cm程床面より上であり、覆土最下位とした方が適切とも言える。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

（大泰司）

H-23（図Ⅲ-49～51 図版29）

位置 F50・51・52/G50・51・52/H50・51 **立地** 標高11.5～12m付近の緩斜面

規模 5.96×5.84/5.70×5.70/0.68m **平面形** 不整な楕円形

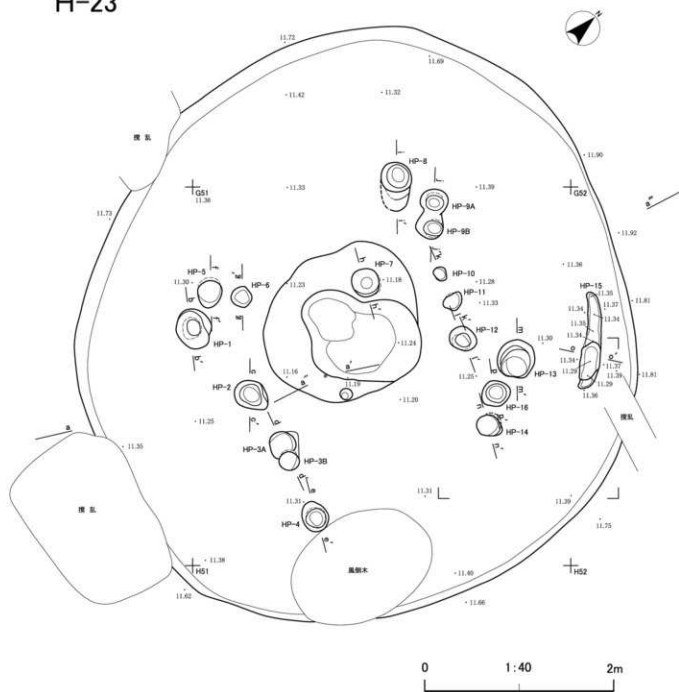
調査 削平されたⅢ～Ⅳ層中で、黒褐色土主体土の堆積を確認した。住宅基礎によって分断されていたが、おおよそ円形をした平面形をみてとれた。Ⅱ層主体土中には、自然焼土のまとまりが混じっていた。自然焼土は確認面よりやや上から分布しており、本遺構の掘り込み面も確認面より上と考える。土層確認ベルトを設定し、掘り下げた。中央にくぼみを有する床面とほぼまっすぐに立ち上がる壁を検出した。壁が開口部で屈曲して外側へ開くのは壁面が崩落したためと推察できる。規模と付属遺構から住居跡と判断した。また住居東側では床面より2～10cm程度上から炭化した木の枝がまとまって出土した。屋根材などの構造物の可能性を考えたが年代が新しく出ている（付篇2参照）。

覆土 覆土3層とした黄褐色土が下半分をしめる。掘り上げ土の再流入の可能性もあるが、その量と壁付近から中心までおおよそ水平な堆積がみられることから、土葺き屋根の崩落の可能性もある。その上の黒褐色土は廃絶後のくぼみに自然堆積したものと考え、覆土2層は住居廃絶後のくぼみに発生したもので、住居そのものの性質とは無関係と判断した。

付属遺構 土坑1基（HP-15）と柱穴と思われる土坑17か所（HP-1～14・16）を確認した。

柱穴は住居中央に正方形に近い輪郭にそって並ぶ。四隅に位置するものを主柱穴とするとHP-1・5・6、HP-8・9A・9B、HP-13・14・16、HP-3A・3B・4の組み合わせである。同じ番号でAとした方が土層から新しい。3回の建て替えが想定されるが、セット関係は不明である。またこの四角形の輪郭線上には主柱穴以外にも浅い土坑HP-6、HP-10・11・12も並ぶ。床面中央部分は窪んでおり、窪みの平面形内に、HP-7が主柱穴のように深く掘られている。柱穴と考えるが、家を支えるためのものかどうか、用途は不明である。また柱穴は覆土の類似からHP-5

H-23



図Ⅲ-49 H-23 (1)

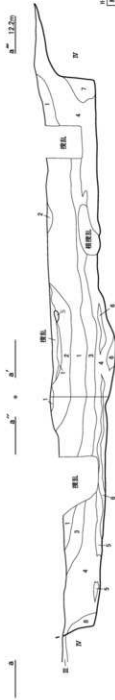


表1 地質調査

調査番号	調査日	調査場所	調査結果
1	1955.12.1	調査地	紅土層
2	1957.1.6	調査地	調査地周辺に土器片や瓦片等存在
3	1955.12.2	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
4	1956.1.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
5	1955.12.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
6	1956.1.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
7	1956.1.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
8	1956.1.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在

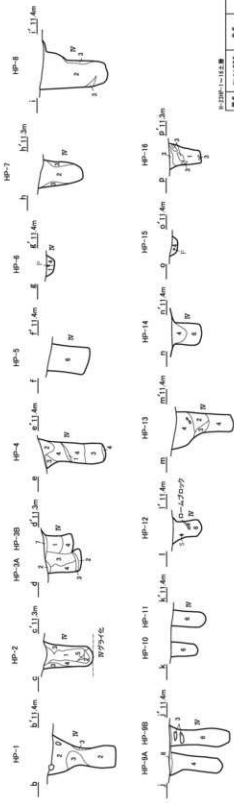
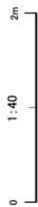
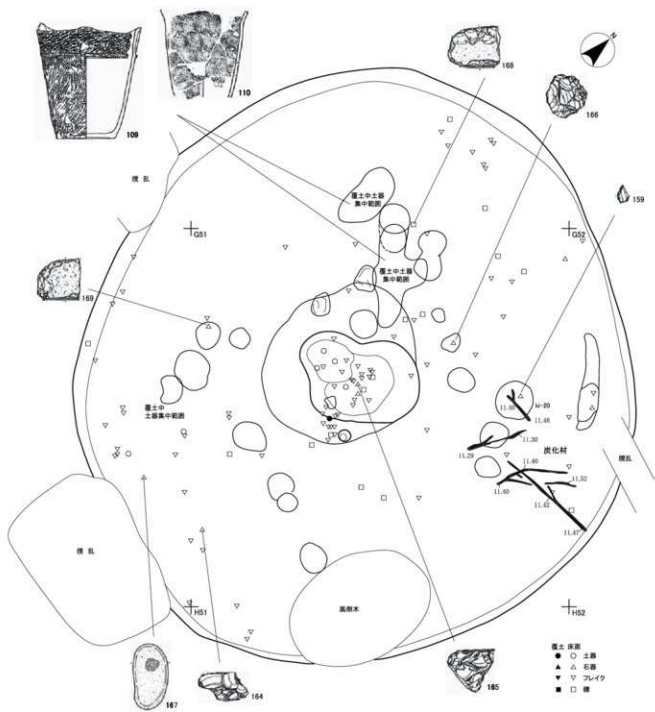


表2 遺構の地質調査

調査番号	調査日	調査場所	調査結果
1	1955.12.1	調査地	調査地
2	1957.1.6	調査地	調査地周辺に土器片や瓦片等存在
3	1955.12.2	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
4	1956.1.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
5	1955.12.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
6	1956.1.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
7	1956.1.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在
8	1956.1.3	調査地	調査地、調査地周辺に土器片の存在



図III-50 H-23 (2)

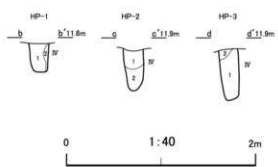
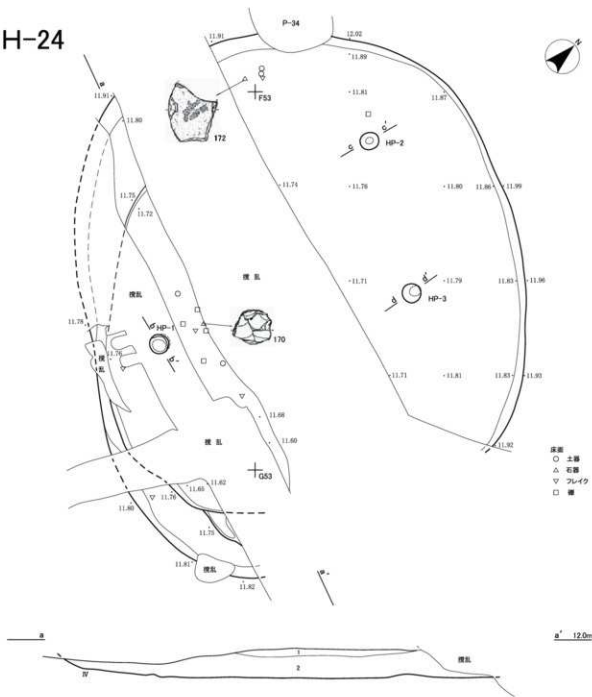


遺物出土状況

0 1:40 2m

図Ⅲ-51 H-23 (3)

H-24



H-24土層

層名	マウスホム	土層色	主体層・埋存層
1	18922.2	灰褐色	埋・露・露
2	18926.3	灰褐色	IV>III・露

H-24BP-1土層

層名	マウスホム	土層色	野の土層	埋存層	埋存層	主体層・埋存層
1	18922.2	埋褐色	埋	中	中	埋・露・露
2	18926.3	埋褐色	埋	中	中	IV>III・露

H-24BP-2土層

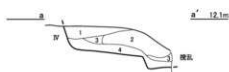
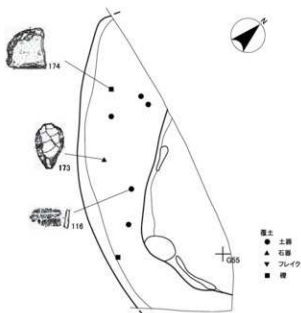
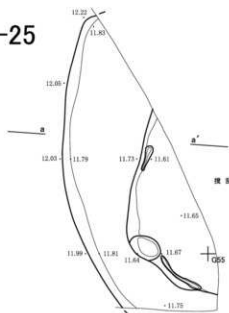
1	18922.2	埋褐色	埋	中	中	埋・露・露
2	18926.3	埋褐色	埋	中	中	埋・露・露

H-24BP-3土層

1	18922.2	埋褐色	埋	中	中	埋・露・露
2	18926.3	埋褐色	埋	中	中	IV>III・露

図III-52 H-24

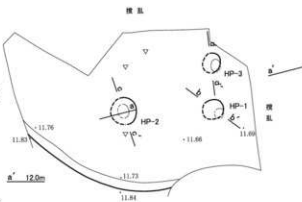
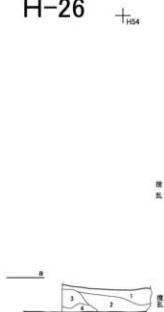
H-25



H-25土層

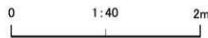
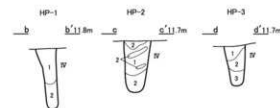
層別	ワットシキ	土層色	野外土質	粘着性	堅固性	土層厚・埋込層
1	10782.2	黄褐色	硬粘土	○	○	1.5m以上埋込
2	10783.2	黄褐色	硬粘土	○	○	1.5m以上埋込
3	10784.2	黄褐色	硬粘土	○	○	1.5m以上埋込
4	10785.2	黄褐色	硬粘土	○	○	1.5m以上埋込

H-26



H-26土層

層別	ワットシキ	土層色	野外土質	粘着性	堅固性	土層厚・埋込層
1	10782.2	黄褐色	硬粘土	○	○	1.5m以上埋込
2	10783.2	黄褐色	硬粘土	○	○	1.5m以上埋込
3	10784.2	黄褐色	硬粘土	○	○	1.5m以上埋込
4	10785.2	黄褐色	硬粘土	○	○	1.5m以上埋込



図III-53 H-25・26

・9A・10・11・12・14、HP-1・7・8、HP-6・9A・13・4・3Aの組み合わせも想定できるが、四隅の主柱穴という構造は満たさない。土坑（HP-15）は北東壁際に溝状に巡る。これは3回の建て替えのうち一時期について壁の位置を反映している可能性がある。

遺物 遺物は1,661点出土した。覆土1層からその下面ではII群b類土器（952点）を主体とする遺物の出土があり、住居廃絶後、廃棄された可能性が高い。床面からはII群b類土器12点、石鏃1点、石核2点、フレイク135点、扁平打製石器4点などが出土した。なお床面として取り上げたものは、厳密には1cm程床面より上であり、覆土最下位とした方が適切とも言える。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

（大泰司）

H-24（図III-52 図版30）

位置 E52・53/F52・53/G52・53 **立地** 標高11.5～12m付近の緩斜面

規模 (5.50) × 4.67 / (5.20) × 4.51 / 0.32m **平面形** 不整な楕円形

調査 年度別の調査区の境にあり平成21（南側）・22年度（北側）の2か年で調査した。

削平されたIV層中で黒褐色土主体土の堆積を検出した。住居中央と南側は住宅基礎により破壊されていたが、楕円形の平面形を想定できた。土層確認ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。床面と想定できるおおよそ平坦な面とゆるく外側に開きながら立ち上がる壁を検出した。規模と付属遺構から住居跡と判断した。

覆土 2層に分層した。にぶい黄褐色土（覆土2）が下半分をしめる。掘り上げ土の流入、あるいは土葺き屋根の崩落の可能性がある。その上の黒褐色土は廃絶後のくぼみに自然堆積したものとする。付属遺構 柱穴3か所（HP-1～3）とベンチ構造を確認した。柱穴はいずれも径20cm以上で、先端形状は平らもしくは丸みを帯びる。住居南側には段差が3～10cmのベンチ構造がある。

遺物 遺物は622点出土した。覆土中ではII群b類土器が543点出土したが、床面ではI群b類土器3点、II群b類土器2点、スクレイパー1点、フレイク6点、扁平打製石器破片36点、台石1点など散漫である。なお床面として取り上げたものは、厳密には1cm程度床面より上であり、覆土最下位とした方が適切とも言える。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

（大泰司・愛場）

H-25（図III-53 図版31）

位置 F54・55/G54・55 **立地** 標高約12mの平坦面

規模 (3.36) × (1.25) / (3.09) × (1.10) / 0.43m **平面形** 不明

調査 表土除去後、IV層面で不整形の黒褐色土の堆積を確認した。堆積中央部に土層観察用ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。ベンチ構造をもつ床面と壁の立ち上がりがみられたため住居跡と判断した。北側は住宅基礎などで深く擾乱を受けており、南側の一部が残存するのみである。

覆土 4層に分層した。床面は黒褐色土（覆土4）で覆われ、上位にはIV層主体土（覆土2・3）がみられる。

形態 平面形は不明である。ベンチ構造があり、壁は斜めに立ち上がる。

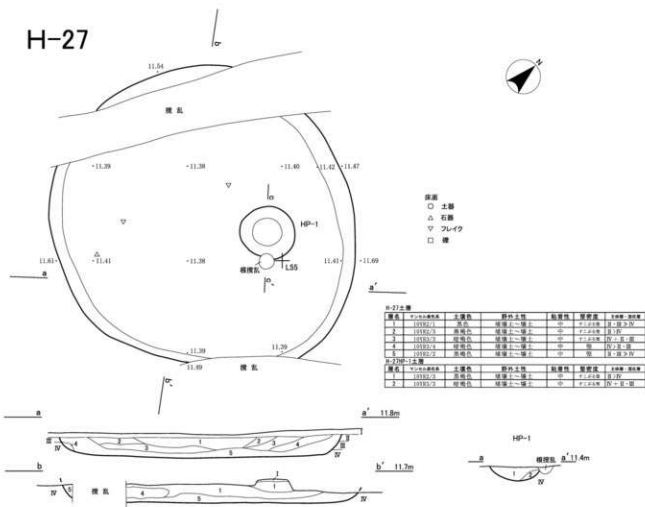
付属遺構 ベンチ構造を確認した。壁から0.4～1m内側では10cm程の段差があり、南側角には柱穴の可能性のある窪みや幅5cm程度の溝状の窪みがみられた。

遺物 遺物はII群b類土器12点、スクレイパー1点、扁平打製石器1点、鏃1点の計15点出土した。

時期 出土遺物や周辺の遺構から縄文時代前期後半と考える。

（愛場）

H-27



H-28

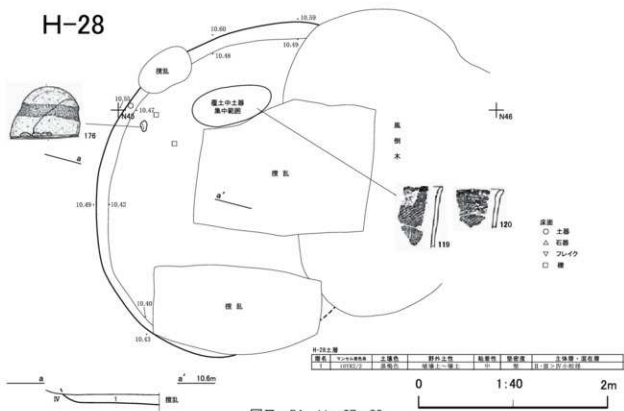


図 III-54 H-27・28

H-26 (図III-53 図版31)

位置 H54 立地 標高約11.8mの平坦面

規模 (2.53) × (1.69) / (2.53) × (1.60) / 0.32m 平面形 不明

調査 表土除去後、IV層面で不整形の黒褐色土の堆積を確認した。堆積中央に土層観察用ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。床面と壁の立ち上がりが見られ、柱穴が検出したため住居跡と判断した。南側の一部のみ残存しており、それ以外は住宅基礎・水道管などにより攪乱される。

覆土 4層に分層した。いずれもII層黒色土とIV層褐色土の混合土層となる。

形態 平面形は不明である。床面は平坦で壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 柱穴3か所(HP-1~3)を確認した。径は15~20cm、深さは40~60cm程で、先端形状は丸くなる。

遺物 遺物は覆土中からフレイクが3点出土した。

時期 周辺の遺構から縄文時代前期後半の可能性ある。(愛場)

H-27 (図III-54 図版32)

位置 K54・55/L54・55 立地 標高約11.5~11.7mの平坦面

規模 3.38×3.14/3.15×2.83/0.23m 平面形 円形

調査 III層で遺物を多く含む円形の黒色土の堆積を確認した。堆積中央部に十字状に土層観察ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。平坦な床面と壁の立ち上がりが見られたため、規模から住居跡と判断した。

覆土 5層に分層した。床面は黒褐色土(覆土5)で覆われ、その上部にIV層主体土(覆土3・4)が見られる。

形態 平面形は円形で、床面は平坦、壁は曲線的に緩やかに立ち上がる。

付属遺構 土坑1基(HP-1)を検出した。住居中央よりやや北東側にある。平面形は直径50cmを超える楕円形で底面は皿状となる。

遺物 遺物は125点出土した。覆土からはI群b類土器37点、II群b類土器17点、扁平打製石器3点、礫36点などが出土したが、床面からはフレイクが2点出土したのみである。

時期 出土遺物から縄文時代と考える。(愛場)

H-28 (図III-54 図版32)

位置 M45/N44・45 立地 標高約10.4~10.6mの平坦面

規模 3.70 × (2.87) / 3.44 × (2.70) / 0.10m 平面形 楕円形

調査 III~IV層面で攪乱や風倒木の間に円形の黒色土の堆積を確認した。土層観察ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。平坦な床面と壁の立ち上がりが見られたため、規模から住居跡と判断した。北東側は風倒木、中央・南東部分は攪乱により壊されている。

覆土 黒褐色土層が堆積する。

形態 平面形は楕円形である。床面は平坦で、壁は曲線的に緩やかに立ち上がる。

付属遺構 検出していない。

遺物 遺物は覆土からII群b類土器53点、フレイク37点、北海道式石冠2点など98点出土した。

時期 出土遺物や周辺の遺構から縄文時代前期後半と考える。(愛場)

H-29

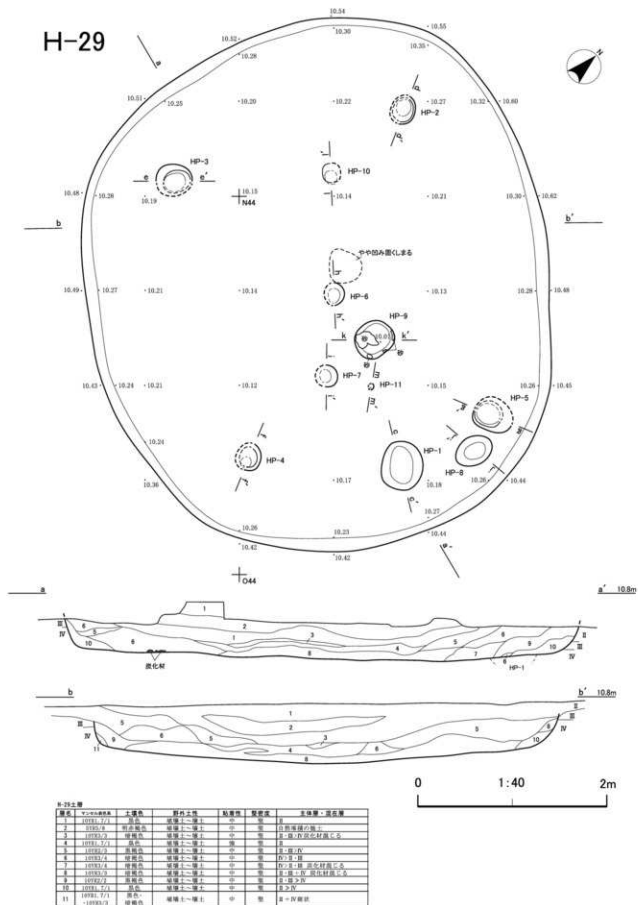
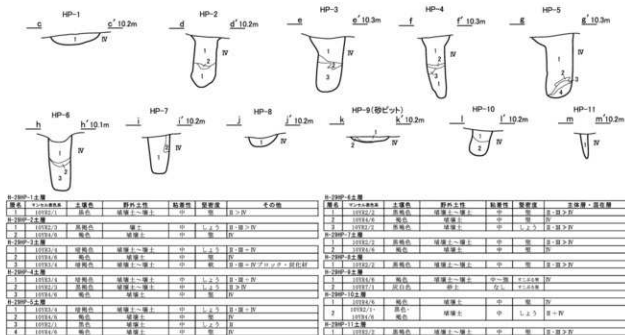
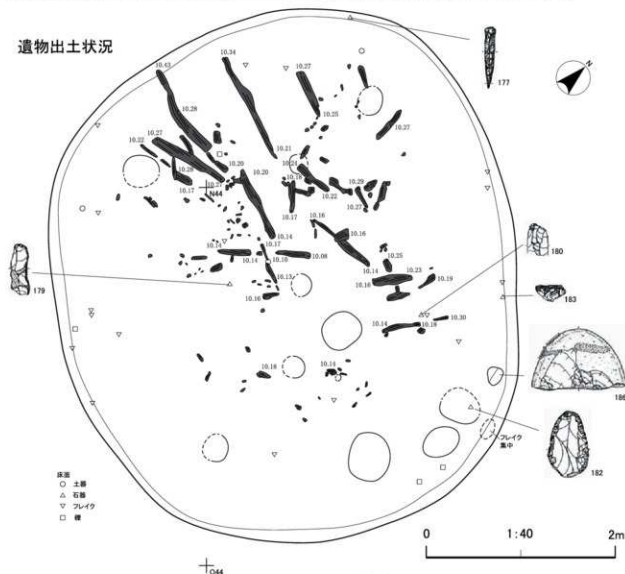


圖 III-55 H-29 (1)



遺物出土状況



H-29 (図Ⅲ-55・56 図版33)

位置 M43・44/N43・44 立地 標高約10.4~10.5mの平坦面

規模 5.51×4.97/5.34×4.71/0.50m 平面形 楕円形

調査 II層面で赤褐色の自然焼土層と黒色の堆積を確認した。堆積中央部に十字に土層観察ベルトを設定し、周辺を掘り下げた。焼土以下の黒色土層では土器がままとまてみられ、床面直上の黒褐色土層では炭化材が多く検出した。炭化材は位置を記録し、残存状況のよいものについては採取し、樹種同定および放射性炭素年代測定を行った(付篇2・3)。検出面から40cm程掘り下げたところで平坦な床面と壁を検出し、規模から住居跡と判断した。

覆土 11層に分層した。覆土1はII層起源、覆土2は自然焼土層である。覆土3・4では土器がままとまて出土した。覆土5~11は黒褐色から暗褐色土層で、屋根土の崩落や掘り上げ土の流入土の可能性がある。

形態 平面形は隅丸長方形に近い楕円形である。床面は平坦で、壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構 土坑3基(HP-1・8・9)・柱穴8か所(HP-2~7・10・11)を検出した。

HP-1・8は平面形が楕円形で断面は皿状となる。覆土は住居最下部の覆土11層と同じ土層である。HP-9はいわゆる砂ピットである。平面形は直径約40cmの不整楕円形で、掘り込みは5cm程である。灰白色の砂が土坑縁に残存する。覆土はIV層起源の褐色土で埋め戻された可能性がある。

支柱穴4か所(HP-2・3・4・5)を確認した。いずれも直径20cmを超えるもので、床面からの深さは50cmを超える。先端形状はHP-2が丸みを帯びる以外は平らとなる。HP-6・7・10は規模的に支柱穴と変わらないもので住居中央長軸上に並ぶ。HP-11は径5cmで先端形状が尖る杭状の柱穴で、砂ピットの南西側に位置する。

遺物 遺物は836点出土した。床直上・床面と付属遺構の遺物はI群b類土器3点、II群b類土器5点、石錐1点、スクレイパー3点、フレイク82点、北海道式石冠1点など少量である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半で、炭化材出土状況から焼失住居跡である。(愛場)

3. 土坑

直径1m未満の土坑は、調査区南西端と北側にまとまりがみられる。調査区南西端の土坑はP-3・13~33・35~39・41・43・45~51・54・55・57がある。調査区北側の土坑はP-62~83・110・112・114~130・132~153がある。それ以外は平面形が1mを超える楕円形で、遺物を伴うものが多い。

P-1 (図Ⅲ-57 図版34)

位置 L31 立地 標高9.4m付近の緩斜面

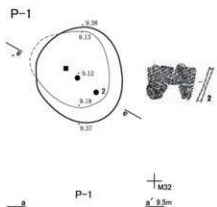
規模 1.01×0.92/0.8×0.74/0.31m 平面形 不整な円形

調査 IV層面で黒褐色土の円形の堆積を確認した。長軸で半截し、ほぼ平坦な底面と斜めに立ち上がる壁面を検出し、規模から土坑と判断した。西壁は一部オーバーハングする。

覆土 5層に分層した。II層起源の黒色土にIV層黄褐色土が混じる黒褐色土層となる。

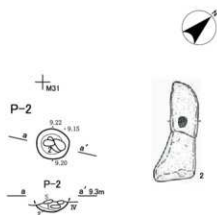
遺物 I群b-4類土器77点、石錐1点、スクレイパー1点、Rフレイク1点、フレイク25点、すり石1点、礫10点の計116点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)



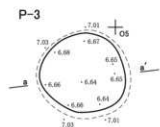
P-1土層

層名	マッシュルーム	土質色	形状・土質	粘着性	層厚	出土物・遺存物
1	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	
2	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	土・瓦片・土器
3	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	土・瓦片・土器
4	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	土・瓦片・土器
5	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	土・瓦片・土器



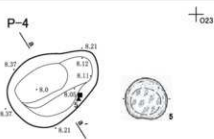
P-2土層

層名	マッシュルーム	土質色	形状・土質	粘着性	層厚	出土物・遺存物
1	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	
2	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	土・瓦片・土器



P-3土層

層名	マッシュルーム	土質色	形状・土質	出土物・遺存物
1	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	日正東で粘土製の灰が5%以上
2	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	
3	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	
4	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	粘土製の灰が1%以上
5	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	
6	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	粘土製の灰が1%以上
7	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	粘土製の灰が1%以上
8	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	



P-4土層

層名	マッシュルーム	土質色	形状・土質	粘着性	層厚	出土物・遺存物
1	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	
2	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	土・瓦片・土器
3	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	土・瓦片・土器
4	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	土・瓦片・土器
5	10192/2	黒褐色	硬塊土層上	中	約 1.0m	土・瓦片・土器

- 土層
- ▲ 柱礎
- ▼ フレイク
- 礎



図III-57 P-1~4

P-2 (図Ⅲ-57 図版34)

位置 M30・31 立地 標高9.2m付近の緩斜面

規模 0.35×0.31/0.22×0.2/0.11m 平面形 円形

調査 IV層面で礫のまとまりと黒褐色土の堆積を確認した。出土遺物を記録し、遺物取り上げ後、北西側を半載した。皿状の底面と壁面を検出し、規模から土坑と判断した。

覆土 2層に分層した。上部は黒褐色土で、底面直上には暗褐色土が薄く堆積する。

遺物 砥石2点、礫2点が出土した。砥石2点は接合した。

時期 出土遺物から縄文時代と考える。 (愛場)

P-3 (図Ⅲ-57 図版34)

位置 O4・5 立地 標高7.0~7.5m付近の緩斜面

規模 0.90×0.84/1.00×0.92/0.36m 平面形 不整な円形

調査 削平されたIV層中にて黒褐色~褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすはまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。

遺物 Ⅱ群b類土器1点、つまみ付きナイフ1点、フレイク1点、メノウ礫1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代のもので、前期後半以降と考える。 (大泰司)

P-4 (図Ⅲ-57 図版34)

位置 O22 立地 標高8.4m付近の緩斜面

規模 1.03×0.74/0.82×0.53/0.31m 平面形 不整な楕円形

調査 H-2 覆土調査中、土層観察用ベルト断面に落ち込みを確認した。断面を記録し、掘り下げたところ不整な底面と急角度で立ち上がる壁面を検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 5層に分層した。底面上部や壁際には黒褐色・褐色土層がみられ、その上部にはⅡ層起源の黒色土が堆積する。土質は固くしまる。

遺物 Ⅱ群b類土器1点、石鉄1点、すり石1点、フレイク7点など12点出土した。

時期 出土遺物から縄文時代で、H-2より新しい。 (愛場)

P-5 (図Ⅲ-58 図版34)

位置 K26/L26 立地 標高9m付近の緩斜面

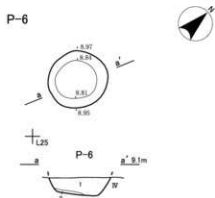
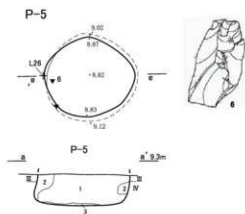
規模 0.94×0.84/0.93×0.92/0.34m 平面形 不整な円形

調査 Ⅲ層調査中、ほぼ円形の黒色土の堆積を確認した。北西側を半載し、平坦な底面とややオーバーハングする壁の立ち上がりを検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 3層に分層した。壁際に黒褐色土層が少量みられるが、主体はⅡ層起源の黒色土でⅣ層バミスをごく少量含む。底面直上には黒色土と褐色土が斑状に混じった薄い土層がみられる。

遺物 フレイク7点が出土した。1点は10cmを超える大型のフレイクである。

時期 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

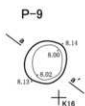
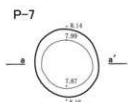


P-5土層

層号	シラス層番号	土層名	野付土質	粘着性	貫入度	土層種・所在層
1	10192/1	黄土	硬質土	中	堅	B1層(下)・C層
2	10192/2	黒褐色土	硬質土	中	堅	B1層(上)
3	10193/0	黄土	硬質土	中	堅	B1層(中)層位

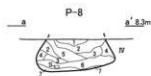
P-6土層

層号	シラス層番号	土層名	野付土質	粘着性	貫入度	土層種・所在層
1	10192/2	黒褐色土	硬質土	中	堅	B1層(上)
2	10192/1 ~10192/2	黄土	硬質土	中	堅	B1層(中)層位



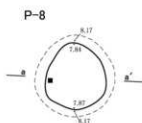
P-7土層

層号	シラス層番号	土層名	野付土質	粘着性	貫入度	土層種・所在層
1	10192/1	黄土	硬質土・硬土	中	堅	B1層(中)・B2層
2	10192/2	黒褐色土	硬質土・硬土	中・強	堅	B1層(上)層位



P-8土層

層号	シラス層番号	土層名	野付土質	粘着性	貫入度	土層種・所在層
1	10193/0	黄土	硬質土	中	堅	B1層(上)
2	10192/1	黄土	硬質土	中	堅	B1層(中)・B2層
3	10193/1	黄土	硬質土	中	堅	B1層(中)・B2層
4	10193/2	黄土	硬質土	中・強	堅	B1層(上)層位
5	10192/2	黒褐色土	硬質土	中・強	堅	B1層(上)層位
6	10192/1	黄土	硬質土	中	堅	B1層(中)・B2層
7	10193/1	黄土	硬質土	中	堅	B1層(上)層位



- 土器
▲ 石碁
▼ フライブ
■ 礎

P-9土層

層号	シラス層番号	土層名	野付土質	粘着性	貫入度	土層種・所在層
1	10192/1 ~10192/2	黄土	硬質土	中	堅	B1層(中)・B2層



図III-58 P-5~9

P-6 (図Ⅲ-58 図版34)

位置 K25 立地 標高9m付近の緩斜面

規模 0.64×0.59/0.43×0.39/0.2m 平面形 円形

調査 Ⅲ層調査中、円形の黒褐色土の堆積を確認した。西側を半載し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 2層に分層した。底面直上には黒色土と褐色土が斑状に混じった薄い土層がみられる。その上部はすべてⅡ層起源の黒色土で、少量のⅣパミスを含む。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-7 (図Ⅲ-58 図版34)

位置 J16 立地 標高8.1m付近の緩斜面で、P-8・9が近接する。

規模 0.72×0.67/0.51×0.53/0.17m 平面形 円形

調査 削平されたⅣ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。北西側を半載し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 2層に分層した。底面直上には黒色土と褐色土が斑状に混じった薄い土層がみられる。その上部はすべてⅡ層起源の黒色土で、少量のⅣパミスを含む。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-8 (図Ⅲ-58 図版34)

位置 K16 立地 標高8.2m付近の緩斜面で、P-7・9が近接する。

規模 0.71×0.63/0.87×0.83/0.34m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。北西側を半載し、平坦な底面とオーバーハングする壁の立ち上がりを検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 7層に分層した。黒色土主体土層と黄褐色土主体土層が互層となる。人為的な埋戻し土の可能性が高い。

遺物 覆土中から礫2点が出土した。時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-9 (図Ⅲ-58 図版35)

位置 J15・16 立地 標高8.1m付近の緩斜面で、P-7・8が近接する。

規模 0.48×0.44/0.34×0.34/0.14m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。北側を半載し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅢ層主体でⅣ層パミスごく少量含む。遺物 遺物は出土していない。

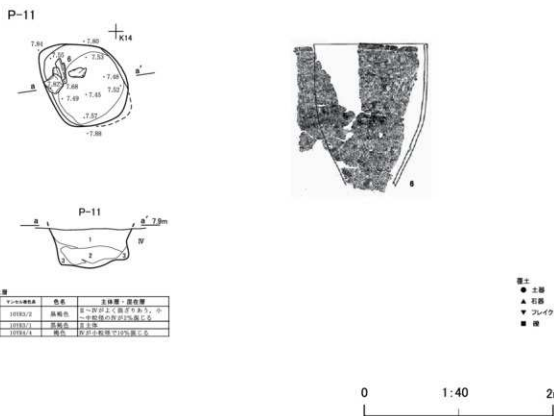
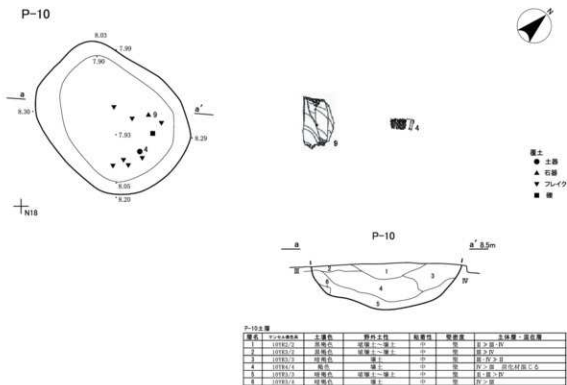
時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-10 (図Ⅲ-59 図版35)

位置 M18 立地 標高8m付近の緩斜面、2mほど南東にH-1がある。

規模 1.65×1.34/1.34×1.04/0.49m 平面形 不整な隅丸方形

調査 Ⅲ層調査中、楕円形の黒褐色土の堆積を確認した。南東側を半載し、皿状の底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。



図III-59 P-10・11

覆土 覆土は6層に分層した。上部にⅡ層主体の黒褐色土がみられるが、それ以下はⅢ・Ⅳ層主体の暗褐色土・褐色土が堆積する。人為的な埋め戻し土の可能性もある。

遺物 Ⅰ群b-4類土器2点、スクレイパー1点、石核2点、フレイク35点、たたき石1点など43点が出土した。

時期 出土遺物や周辺の遺構から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-11 (図Ⅲ-59 図版35)

位置 K13・14 **立地** 標高7.5～8m付近の緩斜面

規模 1.10×0.84/0.62×0.72/0.40m **平面形** 不整な円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。底面はいびつであり、壁面は外側に開きながら立ち上がる。東壁のみ一か所内側にすままる。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土にⅣ層が斑状に微量混じったものである。上半分については、Ⅱ～Ⅳ層が混じり合った状況がみてとれる。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。埋め戻しの可能性がある。

遺物 覆土1層上面からⅣ群a類土器がまとまって53点出土した。ほかにⅡ群b類土器1点、礫1点がある。

時期 確認状況から縄文時代で、後期前葉以降と考える。(大泰司)

P-12 (図Ⅲ-60 図版36)

位置 L12・13/M12・13 **立地** 標高7.5～8m付近の緩斜面

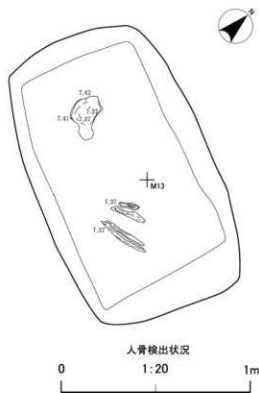
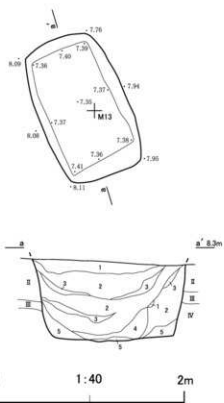
規模 1.54×0.94/1.23×0.71/0.85m **平面形** 長方形

調査 Ⅱ層中、およびグリットライン壁面に黒褐色土とにぶい黄褐色土の広がりとして検出した。掘り込み面は確認面より上である。平坦な底面と、ゆるく外側に立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。掘り込み面が擦文住居等と比較してかなり上であるため、中世以降の土坑と考えられた。しかし、駒ヶ岳の火山灰は分布していない場所のため、土坑の時期が近世か中世かは不明である。発掘時に頭部と脚部と思われる骨を土坑底部より検出した。人骨は棚状であり、顔面は土圧でつぶれたため、90度にねじれたような状況であった。骨の分布状況から右体側を下にして、顔面を南向きにした屈葬と考えられる。そのため位置とおおよその形状から脚部は両足の脛部分と推測され、頭骨と腓骨と考えられる。土圧による変形で、左右の確認は出来なかった。片足の腓骨は棚化が進み取り上げられなかった。もう片方は放射性年代計測を行うこととした。結果、土坑は近世以降の可能性が高いと判断するに至った。また残存する人骨について形質人類学的な分析を札幌医科大学 松村博文氏に依頼した。歯の残存状況がよかつたことから、その分析が主に行われた。その結果、和人社年(20～40歳)男子の可能性が高いという結果がでた。これは屈葬であることや、放射性炭素年代計測結果と矛盾しない。

覆土 底面付近の覆土はⅡ～Ⅳ層の混じり合った覆土4・5層によって構成される。開口部付近には覆土1層、Ⅳ層主体土が入り込む。1層と4・5層の間に関してはⅡ層主体土2層とⅣ層主体土3層が交互に堆積している。2・3層の上半と1層に関しては、別な掘り込みがからんだ、あるいは遺体の腐敗・消滅に伴い土鏝じゅうの落ち込んだものという可能性がある。掘り込み面は地表にかなり近い。埋め戻しの土坑墓であると判断する。

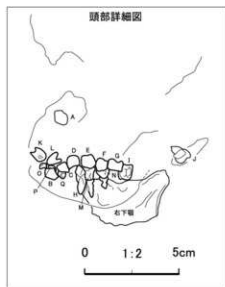
遺物 Ⅳ群・Ⅴ群土器、頁岩フレイク、頁岩・安山岩・珪岩の礫が出土した。四角い形状から棺

P-12



P-12土層

層名	土層の構成	色名	土質層・厚白層
1	10YR7/0	黒褐色	IV 土層
2	10YR3/2	黒褐色	III 土層
3	10YR5/0	白土質	II 砂中層 砂中層(中粒層)2% 混じる
4	10YR3/1	黒褐色	I 砂中層 黄土層の上層部のみ
5	10YR6/0	暗黄色	砂中層 砂中層(中粒層)5% 混じりにより構成される。黄土層の厚白層と境界が不明である。



図III-60 P-12

の存在を想定し、釘を探したが検出されなかった。また、副葬品と考えられる遺物の出土はなかった。
時 期 確認状況から中世～近世以降、年代測定結果から近世～近代の墓と考える。(大泰司)

P-13 (図Ⅲ-61 図版35)

位 置 N 5 立 地 標高7m付近の緩斜面

規 模 0.74×0.66/0.82×0.84/0.40m 平 面 形 不整な楕円形

調 査 削平されたIV層中にて明～に黄褐色土の堆積を確認した。中央がややくぼむ底面と、内側にすばまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆 土 覆土上半部は塊状のIV層とII～IV層が混在した土層である。下半部も同様だが、II層の比率が高い。黒褐色土が分布する。黒褐土にはIV層が斑状に広がり、埋め戻しの可能性もある。

遺 物 II群b類土器が2点出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-14 (図Ⅲ-61 図版37)

位 置 N 4 立 地 標高6.5～7m付近の緩斜面

規 模 0.80×0.68/0.70×0.60/0.38m 平 面 形 不整な楕円形。

調 査 削平されたIV層中にて黒褐色～褐色土の堆積を確認した。底面は浅くくぼみ、壁面はゆるく開きながら立ち上がるが、東部分のみ内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆 土 覆土はII～IV層が混じり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。

遺 物 II群b土器6点、スクレイパー1点、フレイク3点が散点的に出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-15 (図Ⅲ-61 図版37)

位 置 N 5・O 5 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規 模 0.60×0.54/0.62×0.56/0.34m 平 面 形 不整な円形

調 査 削平されたIV層中にて灰黄褐色土の堆積を確認した。中央がややくぼむ底面と、ほぼまっすぐに立ち上がる壁面を持つ。底面と壁面から土坑と判断した。

覆 土 覆土上半部はII～IV層が混在した土層が主体である。下半部も同様だが、II層の比率が高い。壁面側にはIV層の崩落土と思われる土層が分布する。埋め戻しの可能性もある。

遺 物 II群b類土器小片1点、フレイク6点、珪岩礫1点が出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-16 (図Ⅲ-62 図版37)

位 置 N 4 立 地 標高6.5～7m付近の緩斜面

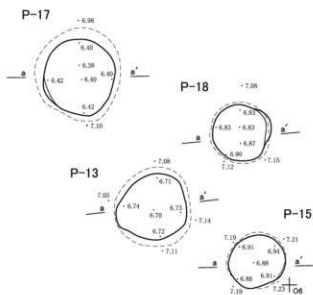
規 模 0.72×0.64/0.78×0.68/0.46m 平 面 形 不整な円形

調 査 削平されたIV層中で黄褐色～黄橙色土の堆積を確認した。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすばまる。

覆 土 覆土はII～IV層が混じり合った土によって構成され、埋め戻しと考える。

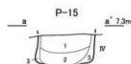
遺 物 II群b類土器1点、スクレイパー1点、フレイク5点、安山岩礫1点が出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)



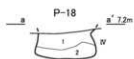
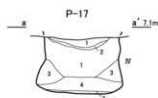
P-13土層

層名	マシンの標高	色名	主体層・遺存層
1	10793/2	灰黄褐色	埋没土層
2	10793/4	にがい	B→序層内、序小→中範囲で埋没土層
3	10793/2	黒褐色	B→序→序



P-15

層名	マシンの標高	色名	主体層・遺存層
1	10793/2	灰黄褐色	B→序層内、序小→中範囲で埋没土層
2	10793/2	黒褐色	B→序層内、序小→中範囲で埋没土層
3	10794/9	褐色	B→序層の小→大範囲の埋没土層

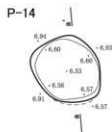


P-17土層

層名	マシンの標高	色名	主体層・遺存層
1	10793/2	灰黄褐色	B→序層内、序小→中範囲で埋没土層
2	10793/2	黒褐色	B→序層内、序小→中範囲で埋没土層
3	10794/4	灰黄褐色	B→序層内、序小→中範囲で埋没土層
4	10793/2	黒褐色	B→序層内、序小→中範囲で埋没土層
5	10793/2	黒褐色	B→序層内、序小→中範囲で埋没土層

P-18土層

層名	マシンの標高	色名	主体層・遺存層
1	10793/2	灰黄褐色	埋没土層
2	10793/2	黒褐色	B→序層内、序小→中範囲で埋没土層



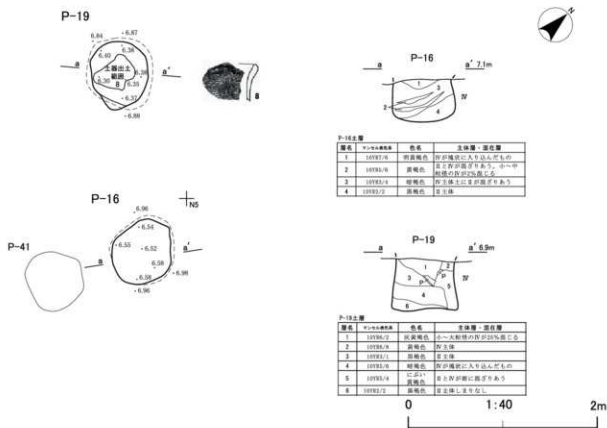
P-14土層

層名	マシンの標高	色名	主体層・遺存層
1	10792/2	黒褐色	B→序層内、序小→中範囲の埋没土層
2	10794/9	褐色	B→序層内、序小→中範囲の埋没土層
3	10794/4	褐色	B→序層内、序小→中範囲の埋没土層

04



III-61 P-13~15・17・18



図Ⅲ-62 P-16・19

P-17 (図Ⅲ-61 図版37)

位置 N5 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.80×0.74/1.00×0.90/0.60m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて灰黄褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。覆土下半部には黒褐色土が分布する。埋め戻しの可能性がある。開口部の覆土1層については、削平時にずれてきたIV層の可能性がある。

遺物 Ⅱ群b類土器14点、スクレイパー1点、フレイク14点、礫1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。

(大泰司)

P-18 (図Ⅲ-61 図版37)

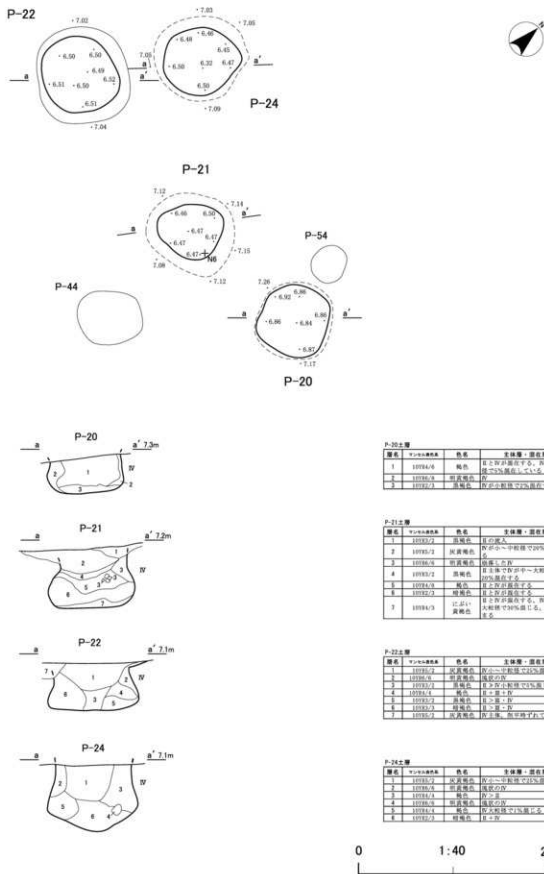
位置 N5 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.58×0.6/0.64×0.62/0.30m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて明黄褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、内側にすぼまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土上半部は塊状のIV層である。下半部には黒褐色土が分布する。黒褐色土にはIV層が斑状に入り込み、埋め戻しの可能性もある。

遺物 Ⅱ群b類土器3点、石鏃1点、フレイク7点が出土した。



P-20台層

層名	マテリアル	色相	土質層・遺物層
1	10194/4	褐色	柱土が露出する、灰が不純物として混入している
2	10194/5	暗灰褐色	灰
3	10194/3	黒褐色	灰が土粒状で2%混入する

P-21台層

層名	マテリアル	色相	土質層・遺物層
1	10193/2	黒褐色	柱土の混入
2	10193/3	灰灰褐色	灰の小～中粒状で20%混入する
3	10193/6	暗灰褐色	硬化した灰
4	10193/7	黒褐色	10%混入する
5	10193/8	褐色	柱土が混入する
6	10193/3	暗褐色	柱土が混入する
7	10194/3	黒褐色	柱土が混入する、灰が小～中粒状で20%混入、中粒～粗粒

P-22台層

層名	マテリアル	色相	土質層・遺物層
1	10192/2	灰灰褐色	灰の小～中粒状で20%混入
2	10194/5	暗灰褐色	硬化した灰
3	10192/3	黒褐色	柱土が不純物として混入
4	10194/4	褐色	柱土が混入
5	10192/7	黒褐色	柱土が混入
6	10194/3	黒褐色	柱土が混入
7	10193/3	暗褐色	灰が土粒状で2%混入

P-24台層

層名	マテリアル	色相	土質層・遺物層
1	10193/2	灰灰褐色	灰の小～中粒状で20%混入
2	10194/5	暗灰褐色	硬化した灰
3	10194/4	褐色	柱土が混入
4	10194/5	暗灰褐色	硬化した灰
5	10194/4	褐色	柱土が混入
6	10193/3	暗褐色	灰が土粒状で2%混入

図 III-63 P-20~22・24

時 期 確認状況から縄文時代で前期後半以降と考える。(大泰司)

P-19 (図Ⅲ-62 図版37)

位 置 M4 立 地 標高6.5～7 m付近の緩斜面

規 模 0.70×0.56/0.78×0.72/0.56m 平 面 形 不整な楕円形

調 査 削平されたIV層中にて明黄褐色～黄褐色土の堆積を確認した。底面は浅くくぼみ、壁面は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆 土 覆土はII～IV層が混じり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。

遺 物 II群b類土器2点、IV群a類土器27点、フレイク3点、焼成粘土塊が出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で、後期前葉以降と考える。(大泰司)

P-20 (図Ⅲ-63 図版37)

位 置 N6 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規 模 0.74×0.70/0.84×0.78/0.38m 平 面 形 不整な楕円形

調 査 削平されたIV層中にて褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、内側にややすばまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆 土 覆土はII～IV層の混じり合った土によって構成される。壁面際には崩落したIV層、底面直上にはII層主体の土が薄く入り込む。埋め戻しの可能性がある。

遺 物 II群b類土器3点、フレイク67点、扁平打製石器1点、礫3点が出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-21 (図Ⅲ-63 図版37)

位 置 M5・6/N5・6 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規 模 0.66×0.58/0.92×0.88/0.66m 平 面 形 不整な楕円形

調 査 削平されたIV層中にて灰黄褐色土と黒色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、内側にすばまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆 土 覆土はII～IV層の混じり合った土によって構成される。覆土中位にはII層主体の土が薄く入り込む。開口部のIV層主体土は、削平時にずれてきた土の影響もある。埋め戻しの可能性がある。

遺 物 II群b類土器1点、頁岩フレイク11点、礫5点が散発的に出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で前期後半以降と考える。(大泰司)

P-22 (図Ⅲ-63 図版38)

位 置 M5 立 地 標高7 m付近の緩斜面

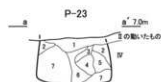
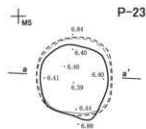
規 模 0.88×0.80/1.08×1.04/0.48m 平 面 形 不整な円形

調 査 削平されたIV層中にて灰黄褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、すばまるように立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆 土 覆土はII～IV層が混ざりあった土と、II層主体土と、塊状のIV層が混在する。埋め戻しの可能性がある。確認面の覆土7層は削平時にずれてきた土の可能性が高い。

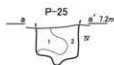
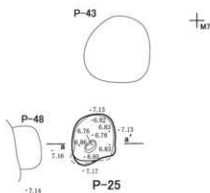
遺 物 II群b類土器3点、フレイク22点、礫2点が散発的に出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)



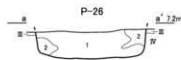
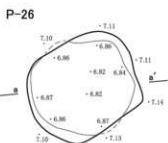
P-23土層

層名	マテリアル番号	色名	土層層・遺存層
1	10193/2	黄褐色土	IV層埋没P23土層に比
2	10193/3	赤褐色土	埋没土層
3	10193/3	硬質土	IV層埋没土層
4	10193/4	褐色	IV層土層
5	10193/5	黄褐色土	IV層埋没土層の埋没土層
6	10193/4	褐色	IV層埋没P23土層に比
7	10193/4	褐色	IV層土層



P-25土層

層名	マテリアル番号	色名	土層層・遺存層
1	10193/2	黄褐色土	IV層埋没P25土層に比
2	10193/2	黄褐色土	IV層埋没土層に比



P-26土層

層名	マテリアル番号	色名	土層層・遺存層
1	10193/2	黄褐色土	IV層埋没P26土層に比
2	10193/8	黄褐色土	IV層埋没土層に比



図 III-64 P-23・25・26

P-23 (図Ⅲ-64 図版38)

位置 M5 立地 標高6.5~7m付近の緩斜面

規模 $0.84 \times 0.78 / 0.74 \times 0.66 / 0.50\text{m}$ 平面形 四角形に近い不整な円形

調査 削平されたIV層中にて灰~明褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面とまっすぐ立ち上がる壁面から、土坑と判断した。壁は徐々に内側へすぼまる。

覆土 覆土はII~IV層が混ざりあった土に、IV層主体の土や塊状のIV層から構成される。埋め戻しの可能性がある。覆土1層は削平時にずれてきた土と考える。

遺物 II群b類土器4点、フレイク5点、礫1点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-24 (図Ⅲ-63 図版38)

位置 M5・6 立地 標高7m付近の緩斜面

規模 $0.84 \times 0.70 / 1.00 \times 0.90 / 0.68\text{m}$ 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて褐~明黄褐色土の堆積を確認した。中央がくぼむ底面と、ややすぼまるように立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はII~IV層が混ざりあった土と、塊状のIV層が混在する。埋め戻しの可能性がある。

遺物 II群b類土器1点、頁岩フレイク3点、台石1点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-25 (図Ⅲ-64 図版38)

位置 M6 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面

規模 $0.52 \times 0.44 / 0.50 \times 0.42 / 0.40\text{m}$ 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて黒褐色土の広がりとして検出した。およそ平坦な底面と、ほぼまっすぐに立ち上がる壁面を持つ。壁面はおおむねゆるやかに外側へ開くが、南壁の一部のみ内側へややすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。底面のほぼ中央に楕円形をした10cmほどのくぼみがある。用途等は不明である。

覆土 覆土はII層主体の黒褐色土である。色調にはII層の混在比率の多少に由来する濃淡があり、そこにIV層が散点的に混じったものである。埋め戻しの可能性がある。

遺物 Rフレイク1点、フレイク1点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-26 (図Ⅲ-64 図版38)

位置 L8 立地 標高7m付近の緩斜面

規模 $1.20 \times 1.00 / 1.02 \times 1.12 / 0.28\text{m}$ 平面形 四角形に近い不整な円形

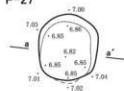
調査 III層中にて黒褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面とまっすぐ立ち上がる壁面から、土坑と判断した。西壁と東壁は一部オーバーハングする。

覆土 覆土はII層主体土に、IV層が小粒径でわずかに混じる。壁際にはIV層主体土が分布する。埋め戻しの可能性がある。

遺物 I群b類土器1点、IV群a類土器3点、フレイク3点、メノウ礫1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

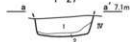
P-27



P-21



P-27



P-27土層

層名	マテリアル番号	色名	主成分・透水性
1	10784/2	黒褐色	粘土質、大粒径の片石を含む。砂土状。東側の面がやや傾斜している。
2	10784/3	暗茶褐色	粘土質。

P-43

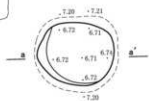


M7

P-25



P-28



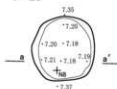
P-28



P-28土層

層名	マテリアル番号	色名	主成分・透水性
1	10784/8	褐色	2～10号層と手前には露出している。
2	10784/6	褐色	8～10号層と手前には露出している。砂土状。砂の混入による。
3	10784/2	黒褐色	粘土質。大粒径の片石を含む。
4	10784/2	褐色	粘土質。
5	10784/3	暗茶褐色	粘土質。大粒径の片石を含む。
6	10784/9	褐色	2～10号層と手前には露出している。1層に相当する。

P-29

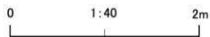


P-29



P-29土層

層名	マテリアル番号	色名	主成分・透水性
1	10784/2	黒褐色	粘土質。
2	10784/3	褐色	8 + IV 砂土質。



図Ⅲ-65 P-27～29

P-27 (図Ⅲ-65 図版38)

位置 M5 立地 標高7m付近の緩斜面

規模 0.70×0.62/0.64×0.52/0.20m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、やや広がるように立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ層主体土にⅣ層が斑状に混じる。また底面付近にはⅣ層主体土が分布する。埋め戻しの可能性もある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-28 (図Ⅲ-65 図版38)

位置 M6・7 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.80×0.64/0.88×0.80/0.54m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。ややくぼむがおおよそ平坦な底面と、内側にすばまる壁面を持つ。南壁はとりわけ著しく内側へすばまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層がよく混じり合った土によって構成される。覆土中位には黒色土の土層が薄く入り込む。埋め戻しの可能性がある。

遺物 Ⅱ群b類土器5点、フレイク7点、安山岩礫1点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-29 (図Ⅲ-65 図版38)

位置 M7・8/N7・8 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.68×0.64/0.64×0.56/0.1m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅢ層中にて褐～黒褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、ゆるやかに外側に立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土は上部がⅡ層主体、下部はⅡ層とⅣ層が混在している。

遺物 Ⅱ群b類土器2点、フレイク5点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-30 (図Ⅲ-66 図版39)

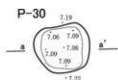
位置 L8 立地 標高7m付近の緩斜面

規模 0.58×0.52/0.42×0.42/0.16m 平面形 四角形に近い不整な円形

調査 Ⅲ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。中央がやや窪む底面とゆるやかに広がりがながら立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあったもの。Ⅱ層の割合が多い。埋め戻しかどうかは判然としなない。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

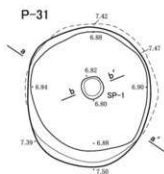


↑M9



P-30土層

層名	マテリアル	色名	主体層・底位置
1	10192-7	暗褐色土	B>B・IV



P-31



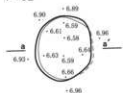
P-31土層

層名	マテリアル	土層名	階層土質	陥没性	壁傾度	主体層・底位置
1	10192(1)	緑点層土	硬質土一層土	中	傾	地上
2	10192(2)	暗褐色土	硬質土一層土	中	傾	地上
3	10192(3)	褐色土	硬質土一層土	中	傾	地上
4	10192(4)	暗褐色土	硬質土一層土	中	傾	地上
5	10192(5)	褐色土	硬質土一層土	中	傾	地上
6	10192(6)	暗褐色土	硬質土一層土	中	傾	地上
7	10192(7)	暗褐色土	硬質土一層土	中	傾	地上
8	10192(8)	暗褐色土	硬質土一層土	中	傾	地上

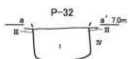
P-31SP-1土層

層名	マテリアル	土層名	階層土質	陥没性	壁傾度	主体層・底位置
1	10192(2)	暗褐色土	硬質土一層土	中	傾	B>B・IV

P-32



↑M8



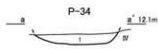
P-32土層

層名	マテリアル	色名	主体層・底位置
1	10193-3	暗褐色土	B>B・IV 階土一層土(傾)が表に

P-34



↑F63



P-34土層

層名	マテリアル	土層名	階層土質	陥没性	壁傾度	主体層・底位置
1	10193(3)	暗褐色土	硬質土一層土	中	傾	B>B・IV



図 III-66 P-30~32・34

P-31 (図Ⅲ-66 図版39)

位置 M8・9 立地 標高7.5m付近の緩斜面

規模 1.47×1.29/1.44×1.38/0.7m 平面形 不整な円形

調査 II層調査中、黒色土中に赤褐色土の堆積を確認し、南側を半載した。底面は平坦で壁は垂直に立ち上がり、底部付近ではややオーバーハングする部分もある。底面中央では径約20cm、深さ12cm程の柱穴状の小土坑を検出した。

覆土 8層に分層した。覆土1～3は自然堆積層で、覆土1は自然焼土層である。覆土4以下は黒褐色土・黒色土が互層となり、底部付近の黒褐色土層は細かく分層できる。

遺物 II群b類土器10点、IV群a類土器37点、石槍またはナイフ1点、両面調整石器1点、スクレイパー4点、フレイク130点、たたき石1点、扁平打製石器1点、砥石1点など214点出土した。覆土上面では大型のスクレイパー、底面近くでは砥石、礫などが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。

(愛場)

P-32 (図Ⅲ-66 図版39)

位置 M5 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面

規模 0.68×0.60/0.64×0.64/0.36m 平面形 六角形に近い不整な円形

調査 削平されたⅢ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。中央がやや窪む底面とまっすぐ立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土に、Ⅳ層が斑状に点在する。埋め戻しの可能性がある。

遺物 II群b類土器片1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。

(大泰司)

P-33 (図Ⅲ-67 図版39)

位置 L5 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面

規模 0.52×0.42/0.56×0.32/0.20m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。底面は北側の方が深く窪む。壁はゆるく広がりながら立ち上がる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。

遺物 II群b類土器が3点出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。

(大泰司)

P-34 (図Ⅲ-66 図版39)

位置 E52・53 立地 標高12m付近の緩斜面

規模 0.91×(0.47) / 0.60×(0.33) / 0.13m 平面形 不整な円形?

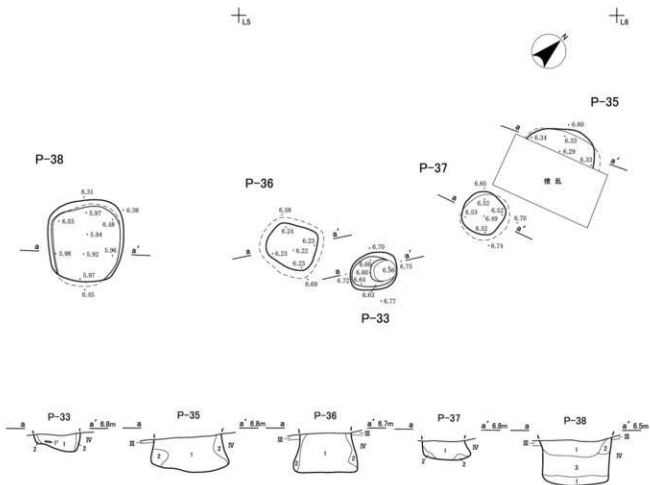
調査 H-24調査時、北西壁際で暗褐色土の堆積を確認した。北側は攪乱を受けていたため南東側を半載し、皿状の底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 覆土は1層でⅡ層起源の黒色土とⅣ層黄褐色土が混じる。

遺物 I群b類土器1点、石鏃1点、礫1点が出土した。

時期 H-24を切って構築しているため、縄文時代前期後半以降と考える。

(愛場)



P-33-37之層

層名	マシンの検出	色名	主成分・成分層
1	10193/7	暗褐色	黒〜灰褐色を有する、 灰心状態で%混じる
2	10193/4	褐色	赤シロ土層

P-35-38之層

層名	マシンの検出	色名	主成分・成分層
1	10193/7	暗褐色	黒〜灰褐色を有する、 灰心状態で%混じる
2	10193/4	褐色	赤シロ土層

P-38之層

層名	マシンの検出	色名	主成分・成分層
1	10193/7	暗褐色	黒〜灰褐色を有する、 灰心状態で%混じる
2	10193/4	褐色	赤シロ土層
3	10193/4	褐色	黒〜灰褐色を有する、 灰心状態で%混じる



図III-67 P-33・35~38

P-35 (図Ⅲ-67 図版39)

位置 L 5 立地 標高6.5~7m付近の緩斜面

規模 $(0.76) \times (0.26) / (0.86) \times (0.24) / 0.38\text{m}$ 平面形 不整な楕円形?

調査 削平されたⅣ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。南側半分が電柱のアンカーによって破壊される。中央がくぼみ底面を持つ。壁面は内側にすばまる形状だが、南東壁のみゆるやかに外側にひろがる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。

遺物 Ⅱ群b類土器1点、フレイク1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前後半以降と考える。 (大泰司)

P-36 (図Ⅲ-67 図版39)

位置 L 5 立地 標高6.5m付近の緩斜面

規模 $0.52 \times 0.44 / 0.64 \times 0.60 / 0.42\text{m}$ 平面形 隅丸四角形

調査 削平されたⅢ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。

遺物 頁岩フレイク4点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-37 (図Ⅲ-67 図版40)

位置 L 5 立地 標高6.5~7.0m付近の緩斜面。

規模 $0.42 \times 0.46 / 0.50 \times 0.52 / 0.20\text{m}$ 平面形 四角形に近い不整な円形

調査 削平されたⅣ層中にて暗褐色土の広がりを確認した。中央がくぼみ底面を持つ。壁面は内側にすばまる形状だが、南東壁はゆるやかに外側にひろがる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。

遺物 メノウ礫が1点出土した。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-38 (図Ⅲ-67 図版40)

位置 L 4 立地 標高6.5m付近の緩斜面

規模 $0.88 \times 0.80 / 0.86 \times 0.70 / 0.48\text{m}$ 平面形 四角形に近い不整な円形

調査 削平されたⅢ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。中央がやくくぼみ底面とまっすぐ立ち上がる壁面から、土坑と判断した。壁はおおむね徐々に外側へひろくが北壁と南東壁の一部はオーバーハングする。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。埋め戻しの可能性がある。

遺物 遺物は出土しなかった。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

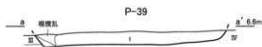
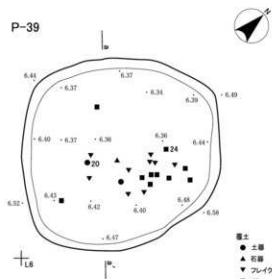
P-39 (図Ⅲ-68 図版40)

位置 K 6 立地 標高6.5m付近の緩斜面

規模 $2.10 \times 2.04 / 1.90 \times 1.84 / 0.14\text{m}$ 平面形 八角形に近い不整な方形

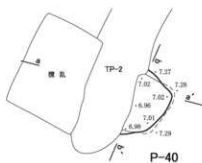
調査 Ⅲ層上面にて暗褐色土の広がりを確認した。掘り込み面は確認面より上だが、近いものと

P-39

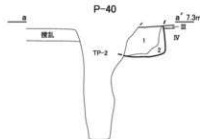


P-39土層

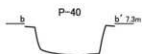
層名	マテリアル番号	色相	主成分・産出層
1	19193/3	暗褐色	5~10%の腐葉土を含む、砂質の泥層で1%、大部分で4%腐炭を含む
2	19191/3	にぶい暗赤褐色と見られるにぶい赤褐色腐炭	腐炭の層を人工的に造成した層



P-40



107



P-40土層

層名	マテリアル番号	色相	主成分・産出層
1	19193/3	黄褐色	土質の砂質泥層である
2	19195/3	暗黄褐色	砂土層より、中程度の腐葉土1%、中程度の腐炭10%層による



図III-68 P-39・40

想定する。おおそ平坦な底面とゆるく外側へ開くように立ち上がる壁面から遺構と判断した。規模的に小型住居の可能性もあったが、深さが浅く、付属遺構のないことから土坑と判断した。

覆土 II～IV層が混ざりあったものが主体である。IV層が散点的に混ざり込む事から埋め戻しの可能性もある。

遺物 II群b類土器2点、Uフレイク1点、フレイク11点、扁平打製石器1点、礫8点が出土した。礫は拳大の亜角礫で、土坑中央よりやや東側にまとまって出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前後半以降と考える。(大泰司)

P-40 (図Ⅲ-68 図版40)

位置 N6 **立地** 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.74×(0.34)／0.62×(0.36)／0.32m **平面形** 不整な円形で隅丸方形に近い

調査 III層上面にて黒褐色土の堆積を確認した。T P-2を挟んで現代の攪乱が連続していたため、当初は攪乱と判断していた。まず平面形が明瞭だったT P-2を調査後にその壁面に現れた土層断面の観察をもとに土坑を認知した。底面はおおよそ平坦である。壁面はゆるく開きながら立ち上がるが、東側のみ内側にすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。T P-2との新旧は不明である。しかしP-40覆土2層の分布を明瞭に確認できなかったのでTピットの方が新しい可能性もある。

覆土 覆土はII層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土はII層にIV層が混ざり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。

遺物 II群b類土器3点、石核1点、頁岩フレイク9点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代のものとする。(大泰司)

P-41 (図Ⅲ-69 図版40)

位置 N4 **立地** 標高6.5～7m付近の緩斜面

規模 0.62×0.60／0.64×0.64／0.36m **平面形** 不整な円形

調査 削平されたIV層中で黄褐色～にぶい黄褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はII～IV層が混ざり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。

遺物 フレイク5点が散点的に出土した。 **時期** 確認状況から縄文時代と考える。

(大泰司)

P-42 (図Ⅲ-69 図版40)

位置 M5 **立地** 標高6.5～7m付近の緩斜面

規模 0.48×0.48／0.80×0.76／0.56m **平面形** 不整な円形

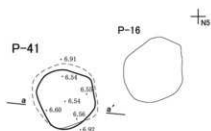
調査 削平されたIII層中にて暗～明黄褐色土の堆積を確認した。中央はややくぼむが、ほぼ平坦な底面と、すぼまるように立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土の上半分はII～IV層が混ざりあった土に、下半分はII層主体土に、それぞれ塊状のIV層が混在する。埋め戻しの可能性がある。確認面の覆土1層は削平時にずれてきた土の可能性がある。

遺物 II群b類土器片4点が散点的に出土した。

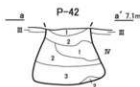
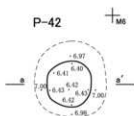
時期 確認状況から縄文時代で、前後半以降と考える。

(大泰司)



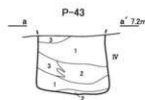
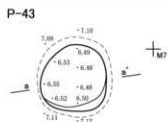
P-41土層

層名	マウソウ地層	色名	土体層・遺物層
1	10YR5/2	赤褐色	砂の塊状に入らぬ部分
2	10YR5/4	こぶい	砂→砂が厚くなる。砂が中心部で厚くなる
3	10YR2/2	赤褐色	砂主体で砂が厚くなる(1%以上)



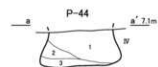
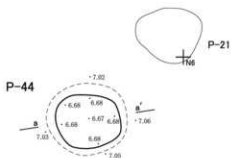
P-42土層

層名	マウソウ地層	色名	土体層・遺物層
1	10YR5/8	赤褐色	塊状の砂
2	10YR5/2	赤褐色	砂→砂が厚くなる(中心部)
3	10YR3/2	赤褐色	砂主体



P-43土層

層名	マウソウ地層	色名	土体層・遺物層
1	10YR5/8	赤褐色	塊状の砂
2	10YR5/2	赤褐色	砂→砂が厚くなる(中心部)
3	10YR3/2	赤褐色	砂(中心部)の厚くなる(1%以上)



P-44土層

層名	マウソウ地層	色名	土体層・遺物層
1	10YR5/8	赤褐色	砂→大粒径の砂が厚くなる(中心部)



図 III-69 P-41~44

P-43 (図Ⅲ-69 図版40)

位置 L 6 / M 6 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.70×0.68/0.88×0.76/0.60m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層中にて明黄褐色土の堆積を確認した。浅く窪むが、およそ平坦な底面と内側にややすはまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅣ層主体の明黄褐色土とⅡ層主体の黒褐色土によって構成される。埋め戻しの可能性がある。

遺物 フレイク8点が散点的に出土した。時期 確認状況から縄文時代と考える。

(大泰司)

P-44 (図Ⅲ-69 図版40)

位置 N 5 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.68×0.56/0.86×0.76/0.36m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて明黄褐色土の広がりとして検出した。おおよそ平坦な底面と、内側にすはまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土は塊状のⅣ層によって構成される。底面直上にはⅡ層主体の黒色土が分布する。埋め戻しの可能性もある。

遺物 礫1点が出土した。時期 確認状況から縄文時代と考える。

(大泰司)

P-45 (図Ⅲ-70 図版41)

位置 L 7・L 8 / M 7 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.82×0.76/0.84×0.78/0.36m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中で黒褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、おおよそ内側にすはまる壁面を持つ。北西壁のみゆるく外側に開く。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土は上部がⅡ層主体、下半はⅣ層主体である。埋め戻しの可能性がある。

遺物 Ⅱ群b類土器1点、スクレイパー1点、フレイク16点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。

(大泰司)

P-46 (図Ⅲ-70 図版41)

位置 L 7 / M 7 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 1.02×0.84/1.06×1.04/0.56m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて環状をした暗褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、内側にすはまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。壁面南側のみ開口部が外側に開く

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土から構成される。底面には黒褐色土が分布する。埋め戻しの可能性がある。開口部の覆土1層については、削平時にずれてきたⅣ層の可能性もある。

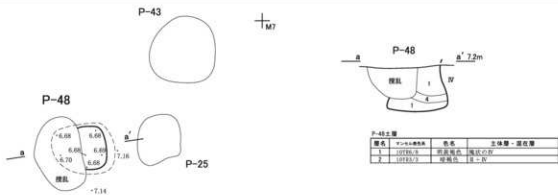
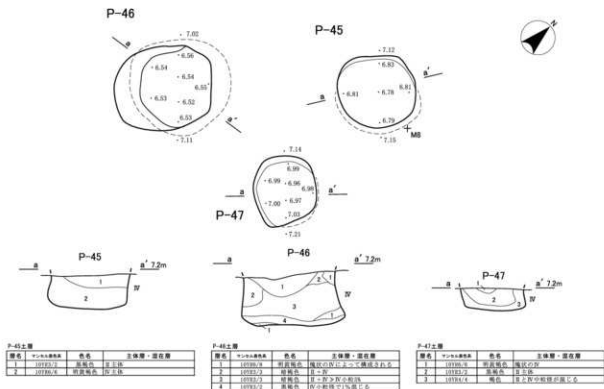
遺物 Ⅱ群b類土器1点、フレイク9点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。

(大泰司)

P-47 (図Ⅲ-70 図版41)

位置 M 7 立地 標高7.0～7.5m付近の緩斜面



図III-70 P-45~49

規 模 0.74×0.66/0.66×0.66/0.24m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 削平されたⅣ層中にて褐～黒色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面と、ほぼまっすぐ立ち上がる壁面を持つ。壁はおおむねゆるやかに外側にひろがるように立ち上がるが、一部東側は内側にややすはまる。
覆 土 覆土は上部がⅡ層主体、下部はⅡ層とⅣ層が混在している。最上部の塊状に入り込むⅣ層は削平時に入り混んだ可能性がある。
遺 物 Ⅱ群b類土器3点、フレイク29点が散点的に出土した。
時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)

P-48 (図Ⅲ-70 図版41)

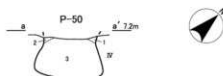
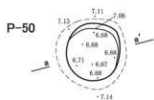
位 置 M6 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面
規 模 0.56×0.44/0.64×0.54/0.48m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 削平されたⅣ層中にて暗黄褐色土の堆積を確認した。南西側は攪乱によって無くなっている。中央が浅く窪むが、およそ平坦な底面と内側にすはまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆 土 覆土南西側は攪乱により不明であるが、覆土は塊状のⅣ層によって構成され、間にⅡ層主体の土が入り込む。埋め戻しの可能性がある。
遺 物 フレイク2点が出土した。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-49 (図Ⅲ-70 図版41)

位 置 M6 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面
規 模 0.72×0.70/0.52×0.48/0.22m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 削平されたⅣ層中にて攪乱を検出した。遺物の有無を確認していたところ、暗黄褐色土の堆積が認められた。およそ平坦な底面と、外側にゆるく開きながら立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆 土 覆土上半部は攪乱により不明である。残った下半部の覆土は塊状のⅣ層によって構成される。埋め戻しの可能性がある。
遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

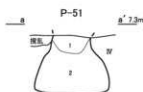
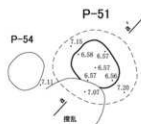
P-50 (図Ⅲ-71 図版41)

位 置 M7 立 地 標高7～7.5m付近の緩斜面
規 模 0.60×0.56/0.72×0.76/0.42m 平 面 形 不整な円形
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。ややくぼむがおおよそ平坦な底面と、内側にすはまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。
覆 土 覆土は開口部際あたりに塊状のⅣ層や、Ⅱ～Ⅳ層がよく混じり合った土が分布するが、ほとんどがⅡ層主体土で構成される。それには微量のⅣ層が、散点的に混じる。埋め戻しの可能性もある。
遺 物 Ⅱ群b類土器3点、頁岩フレイク5点が散点的に出土した。
時 期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。 (大泰司)



P-50土層

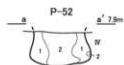
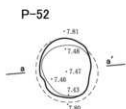
層名	マウソウ層番号	色名	主成分・遺存層
1	10750/2	暗褐色	縄文時代
2	10750/4	褐色	古～新石器より後に作製が疑われる。古石器層で20%混入
3	10750/3	黒褐色	古石器層で15%混入



P-51土層

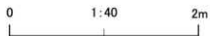
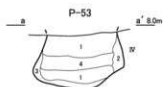
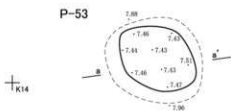
層名	マウソウ層番号	色名	主成分・遺存層
1	10751/2	赤褐色	古石器層で15%混入
2	10751/1	暗褐色	古～新石器で3%

K13



P-52土層

層名	マウソウ層番号	色名	主成分・遺存層
1	10752/2	黒褐色	古石器層で15%混入
2	10752/1	暗褐色	古～新石器で2%



P-53土層

層名	マウソウ層番号	色名	主成分・遺存層
1	10753/4	褐色	古～新石器より混入が認められ、特に古石器層が混入が認められる。古～新石器層の割合が15%混入。中～古石器
2	10753/3	暗褐色	古石器層の混入が認められる。古～新石器

図III-71 P-50～53

P-51 (図Ⅲ-71 図版41)

位置 N6・M6 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.52×0.44/0.86×0.76/0.60m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中に、黒褐色土の堆積を確認した。平坦な底面と、内側にすままる形状の壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。開口部南側は木根と思われる擾乱で破壊されている。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層の混じり合った土によって構成される。開口部付近はⅡ層主体で、大半はⅡ層とⅣ層の混在土である。壁面際には崩落したⅣ層が分布する。埋め戻しの可能性がある。

遺物 スクレイパー1点、Uフレイク1点、石核1点、フレイク10点、礫1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。

(大泰司)

P-52 (図Ⅲ-71 図版41)

位置 K13 立地 標高7.5～8m付近の緩斜面

規模 0.62×0.52/0.60×0.66/0.36m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層中で褐色土の堆積を確認した。底面は中央が浅くくぼむ。壁面は内側にすままるが、北壁のみ一か所外側に開く。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混在した土層から成る。壁面付近の覆土は斑状のⅣ層によって構成される。埋め戻しの可能性がある。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。

(大泰司)

P-53 (図Ⅲ-71 図版42)

位置 J14/K14 立地 標高7.5～8m付近の緩斜面

規模 0.92×0.64/1.08×0.90/0.58m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面は中央がくぼむ。壁面は内側にすままる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混在した土層から構成される。底面から壁面付近にかけての覆土はⅡ層主体土に斑状のⅣ層によって構成される。壁面際の一部には壁面の崩落と思われるⅣ層が塊状に入り込む。埋め戻しの可能性がある。

遺物 Ⅱ群b類土器小片が1点出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。

(大泰司)

P-54 (図Ⅲ-72 図版42)

位置 M6/N6 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面

規模 0.38×0.36/0.36×0.34/0.40m 平面形 不整な楕円形

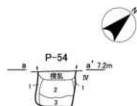
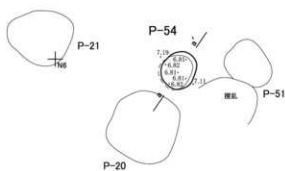
調査 削平されたⅣ層中に擾乱土層を確認した。遺物回収を目的に擾乱を掘り下げたところ、黒褐色土の堆積を確認した。平坦な底面と、まっすぐに立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層の混じり合った土によって構成される。上半分はⅡ層主体。下半分はⅡ層とⅣ層の混在土である。壁面際には崩落したⅣ層が分布する。埋め戻しの可能性がある。

遺物 フレイク2点、礫4点が散点的に出土した。

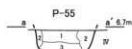
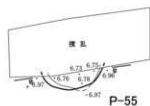
時期 確認状況から縄文時代のものと考えられる。

(大泰司)



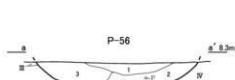
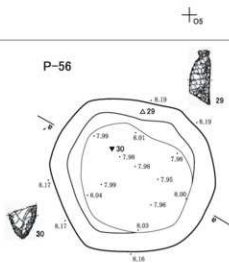
P-54土層

層名	マッシュルーム	色名	主成分・遺物層
1	10195/6	灰褐色	焼灰の砂
2	10193/2	灰褐色	灰が小粒状で混入する
3	10192/2	暗褐色	砂→灰が粒状で混入する



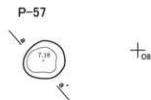
P-55土層

層名	マッシュルーム	色名	主成分・遺物層
1	10192/8	灰褐色	灰が塊状に入らぬから6.0
2	10193/1	灰褐色	層位で砂から中粒の灰が2%混入
3	10192/4	灰褐色	砂→灰が粒まきみ



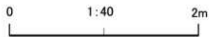
P-56土層

層名	マッシュルーム	色名	主成分・遺物層
1	10192/2	灰褐色	土層
2	10194/4	褐色	砂→灰が粒まきみより、灰が小粒状で混入する
3	10194/3	灰褐色	砂→灰が粒まきみより、灰が小粒状で混入する



P-57土層

層名	マッシュルーム	土層名	砂の土層	灰褐色	暗褐色	土層・遺物層
1	10191/2	灰褐色	砂	中	暗	砂→灰が小粒



図III-72 P-54~57

P-55 (図Ⅲ-72 図版42)

位置 N4 立地 標高6.5~7m付近の緩斜面

規模 (0.64) × (0.16) / (0.56) × (0.12) / 0.24m 平面形 不整な楕円形?

調査 削平されたIV層中にて黒褐色土~黄褐色土の堆積を確認した。西側の半分以上は攪乱によって破壊されている。底面は浅くくぼみ、壁面はゆるく開きながら立ち上がるが、東部分のみ内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。埋め戻しと考える。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-56 (図Ⅲ-72 図版42)

位置 T22 立地 標高8m付近の緩斜面

規模 1.74×1.50/1.16×1.06/0.24m 平面形 六角形に近い不整な円形

調査 IV層上面にて褐色~にぶい黄褐色土の堆積を確認した。ほぼ平坦な底面とすり鉢状に立ち上がる壁面から、土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土に、IV層が小粒径で散点的に混じる事から、埋め戻しの可能性がある。

遺物 つまみ付きナイフ1点、フレイク1点出土した。つまみ付きナイフはゆるやかな壁面の直上から出土し、坑底面直上とも言い得る。石器の端部は切り出し状であり、縄文時代早期後半の足形付土板に伴うつまみ付きナイフに似る。当該期に定型的な可能性がある。また、覆土の底面に近い位置から黒曜石フレイクが出土した。近隣に黒曜石の産地はなく、意図的に埋めた可能性もある。

時期 縄文時代早期後半の土坑墓の可能性もある。(大泰司)

P-57 (図Ⅲ-72 図版42)

位置 N7/O7 立地 標高9m付近の緩斜面

規模 0.45×0.39/0.32×0.27/0.14m 平面形 不整な円形

調査 IV層面で小型円形の黒色土の堆積を確認した。北側を半截し、皿状の底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。

覆土 Ⅱ層起源の黒色土主体で、IV層バミスが少量混じる。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-58 (図Ⅲ-73 図版42)

位置 H42 立地 標高10.9m付近の緩斜面。P-59に切られる。

規模 1.63×1.33/1.42×1.09/0.13m 平面形 楕円形

調査 H-12調査中、南東壁際に楕円形の黒褐色・暗褐色土の堆積が2つ重なるように確認された。遺構の切りあいが予想されたため、それぞれの長軸に土層観察ベルトを設定するとともに、堆積が重なる部分にもベルトを設定して掘り下げた。平坦な底面と穏やかに立ち上がる壁を確認し、土坑と判断した。また西側の堆積は土坑P-59であった。切りあいの先後関係は抜根跡で不明瞭だが、覆土断面の状況から本遺構がP-59に西側角を切られているものとする。

覆土 黒褐色土と暗褐色層が互層となる。いずれもⅡ層黒色土とⅣ層黄褐色土の混合土である。

遺物 I群b類土器1点、Ⅱ群b類土器3点、フレイク10点、礫2点が出土した。

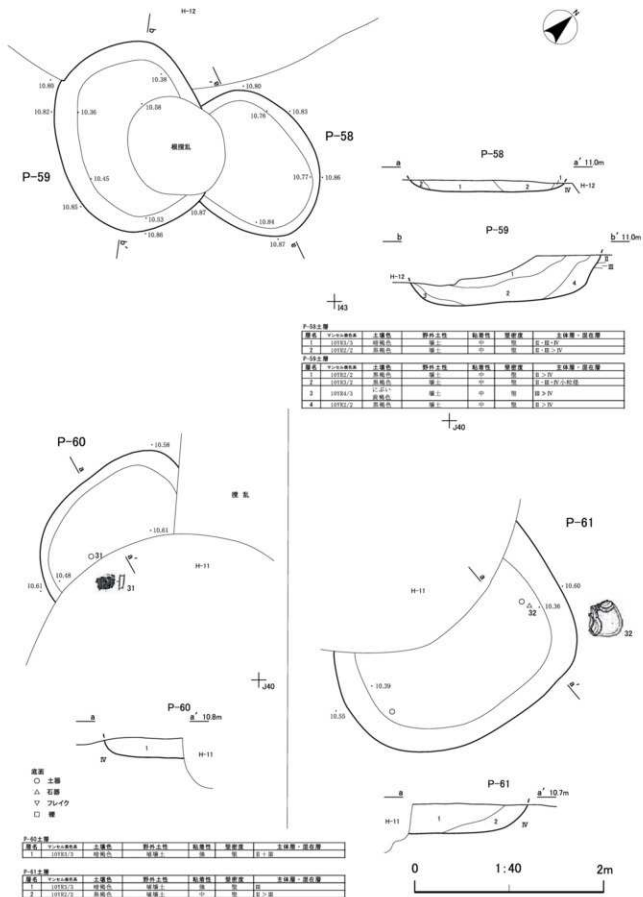


図 III-73 P-58~61

時期 出土遺物から縄文時代と考える。H-12より新しい。(愛場)

P-59 (図Ⅲ-73 図版42)

位置 H42 立地 標高10.9m付近の緩斜面

規模 $1.96 \times 1.57 / 1.62 \times 1.18 / 0.52\text{m}$ 平面形 楕円形

調査 H-12調査中、南東壁際に楕円形の黒褐色・暗褐色土の堆積が2つ重なるように確認された。遺構の切りあいが予想されたため、それぞれの長軸に土層観察ベルトを設定するとともに、堆積が重なる部分にもベルトを設定して掘り下げた。抜根跡が残り、底面もやや不整であったため風倒木の可能性も考えたが、斜めに立ち上がる壁を確認し、土坑と判断した。また東側のP-58との先後関係は抜根跡で不明瞭だが、覆土断面の状況から本遺構がP-58より新しく構築されたと考える。

覆土 4層に分層した。覆土2は遺物が多く出土し、炭化材が多く含まれていた。

遺物 II群b類土器63点、スクレイパー4点、Uフレイク2点、フレイク33点、たたき石1点、台石1点、礫23点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。H-12・P-58より新しい。(愛場)

P-60 (図Ⅲ-73 図版43)

位置 I39 立地 標高約10.8mの平坦面

規模 $1.94 \times 1.62 / (1.10) \times (0.96) / 0.22\text{m}$ 平面形 楕円形?

調査 H-11調査中、西側壁に長さ約1.5m、深さ約20cmの暗褐色土の落ち込みの断面を確認した。平面の輪郭を精査し、ベルトを設定して掘り下げたところ、平坦な坑底面と壁の立ち上がりを確認した。東側をH-11に切られている。

覆土 暗褐色土の1層である。

遺物 遺物は坑底面からII群b類土器片が1点出土した。覆土からはI群b類土器2点、II群b類土器7点、フレイク5点、扁平打製石器片1点、礫4点が出土した。

時期 出土遺物と類似するP-61の特徴から、縄文時代前期後半と考える。(新家)

P-61 (図Ⅲ-73 図版43)

位置 J39・40 立地 標高約10.8mの平坦面

規模 $2.58 \times 2.00 / (1.90) \times (1.40) / 0.32\text{m}$ 平面形 楕円形?

調査 H-11調査中、東側壁に長さ約2m、深さ約30cmの暗褐色土の落ち込みの断面を確認した。平面の輪郭を精査し、ベルトを設定した。P-60よりもやや大きめの土坑で、平坦な坑底面とゆるやかな壁の立ち上がりを持つ。西側をH-11に切られている。

覆土 2層に分層した。両層とも堅くしまる。覆土1層はIII層を含む暗褐色土、壁際に堆積する。覆土2層は1層よりやや黒味を帯びた黒褐色土である。

遺物 坑底からII群b類土器2点、フレイク1点、覆土からII群b類土器31点、石核1点、フレイク126点、礫3点が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代前期後半と考える。(新家)

P-62 (図Ⅲ-74 図版43)

位置 K43 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面

規模 0.78×0.66/0.52×0.42/0.14m 平面形 不整な楕円形
 調査 削平されたIV層中で黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
 覆土 覆土はII層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土はII層にIV層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
 遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-63 (図III-74 図版43)

位置 K43 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
 規模 0.76×0.72/0.70×0.64/0.14m 平面形 不整な円形
 調査 削平されたIV層中で黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
 覆土 覆土はII層主体の黒褐色土で、覆土下半は上半よりやや褐色味がかっている。自然堆積と考える。
 遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-64 (図III-74 図版43)

位置 K43 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
 規模 0.50×0.44/0.44×0.36/0.08m 平面形 不整な楕円形
 調査 削平されたIV層中で黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
 覆土 覆土はII層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土はII層にIV層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
 遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-65 (図III-74 図版43)

位置 I44 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
 規模 0.56×0.44/0.48×0.40/0.24m 平面形 不整な楕円形
 調査 削平されたIV層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。当初攪乱と誤認したため土層断面図は無い。
 覆土 覆土はII層主体の黒褐色土である。自然堆積と考える。
 遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-66 (図III-74 図版43)

位置 I44 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
 規模 0.68×0.62/0.50×0.40/0.24m 平面形 不整な楕円形
 調査 削平されたIV層中にて黒褐色土の広がりとして検出した。底面は中央がややくまむ。壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。当初攪乱と誤認。覆土上半分について、土層断面図は無い。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。自然堆積と考える。
遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-67 (図Ⅲ-74 図版43)

位置 I44 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
規模 0.62×0.54/0.50×0.48/0.22m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面は中央にくぼみを有するがおおよそ平坦である。壁面は東側が外側に向きながら立ち上がり、西側が内側へすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。当初擾乱と判断したため、覆土上部について、土層断面図は無い。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-68 (図Ⅲ-74 図版43)

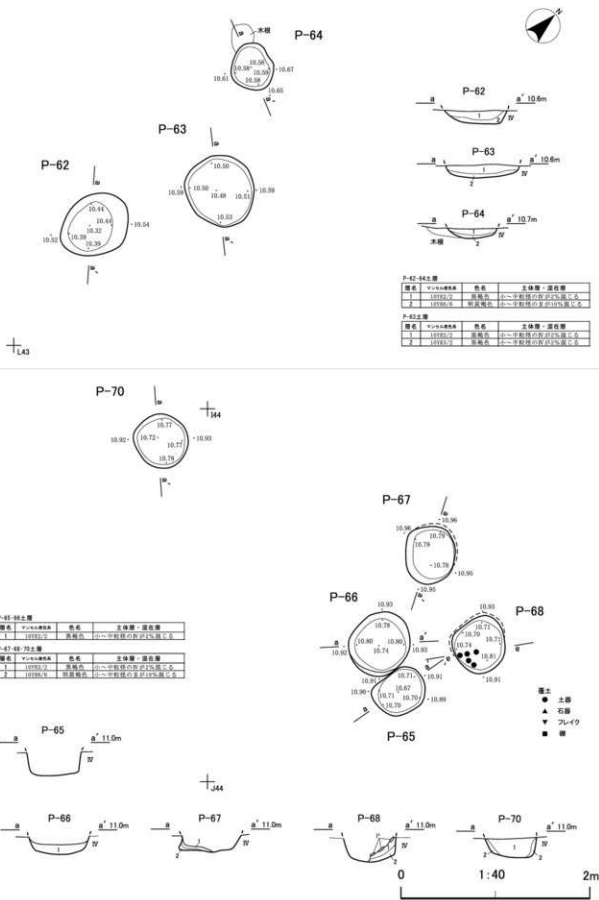
位置 I44 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
規模 0.58×0.54/0.50×0.48/0.22m 平面形 不整な楕円形
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の広がりとして検出した。底面はくぼむ。壁面は外側に向きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。当初擾乱と判断したため、覆土上部について、土層断面図は無い。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。床面付近から壁面にかけての覆土は、Ⅱ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
遺物 I群b-4類土器が12点出土した。
時期 確認状況から縄文時代早期後半と考える。(大泰司)

P-69 (図Ⅲ-75 図版43)

位置 H41 立地 標高10.8m付近の緩斜面
規模 0.66×0.52/0.59×0.59/0.33m 平面形 不整な円形
調査 Ⅳ層面で小型円形の黒色土の堆積を確認した。南側を半載し、平坦な底面とややオーバーハングする壁の立ち上りを検出した。
覆土 Ⅱ層起源の黒色土で、Ⅳ層バミスが少量混じる。
遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-70 (図Ⅲ-74 図版43)

位置 I43 立地 標高10.5~11m付近の緩斜面
規模 0.60×0.56/0.50×0.48/0.20m 平面形 不整な円形
調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はくぼむ。壁面は外側に向きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。壁面側の覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。
遺物 安山岩礫が1点出土した。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)



図III-74 P-62~68・70

P-71 (図Ⅲ-75 図版43)

位置 K39 立地 標高約10.5mの平坦面

規模 0.75×0.44/0.54×0.32/0.15m 平面形 楕円形

調査 H-11の東側包含層を調査中、径70cmほどの黒色土の堆積を確認した。半截し、断面を観察した。平坦な坑底と緩やかに立ち上がる壁を検出した。

覆土 覆土は黒色土の1層で、堅くしまる。

遺物 覆土からI群b-4類土器片4点、フレイク1点が出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺には同規模の土坑P-70・72-79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-72 (図Ⅲ-75 図版43)

位置 J40 立地 標高 約10.8mの平坦面

規模 0.59×0.34/0.52×0.30/0.12m 平面形 楕円形

調査 H-11とH-7の間の包含層を調査中、径60cm程の黒褐色土の堆積を確認した。半截し、平坦な坑底と緩やかに立ち上がる壁を検出した。

覆土 黒褐色土の1層で、堅くしまる。

遺物 坑底からI群b類土器片が1点出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺には同規模の土坑P-71・73-79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-73 (図Ⅲ-75 図版44)

位置 J40・41/K41 立地 標高 約10.6mの平坦面

規模 0.61×0.43/0.48×0.30/0.12m 平面形 楕円形

調査 H-11とH-7の間の包含層を調査中、径60cm程の黒色土の堆積を確認した。半截し、丸みを持つ坑底と緩やかに立ち上がる壁を検出した。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。

遺物 I群b類土器片5点、スクレイパー2点が出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺には同規模の土坑P-71・72・74-79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-74 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 M40 立地 標高 約10.2mの平坦面

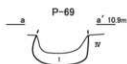
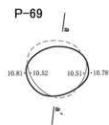
規模 0.66×0.51/0.53×0.43/0.27m 平面形 楕円形

調査 調査区南東側の壁際に径60cm程の黒色土の堆積を確認した。半截し、やや傾斜があり丸みを持つ坑底と明瞭に立ち上がる壁を検出した。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。

遺物 遺物は出土しなかった。

時期 周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71-73・75-79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

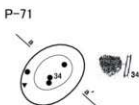


P-69土層

層名	ソイル層番号	土層色	野外土質	粘着性	堅固度	土砂層・混在層
1	10192(1)	黒色	硬塊土	0	弱	鉄ナゲル混在層

↑K32

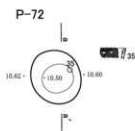
↑K39



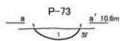
P-71土層

層名	ソイル層番号	土層色	野外土質	粘着性	堅固度	土砂層・混在層
1	10191(1)	黒色	硬塊土	0	弱	鉄ナゲル混在層

↑J41



P-73



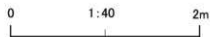
P-72土層

層名	ソイル層番号	土層色	野外土質	粘着性	堅固度	土砂層・混在層
1	10192(1)	黒色	硬塊土	0	弱	鉄ナゲル混在層

P-73土層

層名	ソイル層番号	土層色	野外土質	粘着性	堅固度	土砂層・混在層
1	10192(1)	黒色	硬塊土	0	弱	鉄ナゲル混在層

- 遺土 成層
- ○ 土層
 - ▲ △ 切跡
 - ▽ フレイク
 - □ 跡



図III-75 P-69・71~73

P-75 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 L40 立地 標高 約10.2mの平坦面

規模 0.58×0.44/0.55×0.38/0.22m 平面形 円形

調査 調査区南東側の壁際で径60cm程の黒色土の堆積を確認した。半載し、平坦な坑底と明瞭に立ち上がる壁を検出した。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。遺物 I群b類土器片が1点出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71~74・76~79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-76 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 L40 立地 標高約10.2mの平坦面

規模 0.53×0.37/0.43×0.30/0.35m 平面形 楕円形

調査 調査区南東側の壁際で径50cm程の黒褐色土の堆積を確認した。半載し、丸みのある坑底と明瞭に立ち上がる壁を認定した。

覆土 黒褐色土の1層と、やや赤味を帯びた焼けの弱い焼土のような2層である。

遺物 遺物は出土していない。

時期 周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71~75・77~79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-77 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 L40 立地 標高 約10.3mの平坦面

規模 0.58×0.75/0.54×0.68/0.33m 平面形 楕円形

調査 調査区南東側の壁際で径60cmほどの黒色土の堆積を確認した。半載し、やや丸みのある坑底と、オーバーハングしながら明瞭に立ち上がる壁を認定した。小規模のフラスコ状土坑と思われる。

覆土 黒色土の1層で堅くしまる。

遺物 坑底からI群b類土器片が1点出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71~76・78・79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-78 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 L40 立地 標高 約10.3mの平坦面

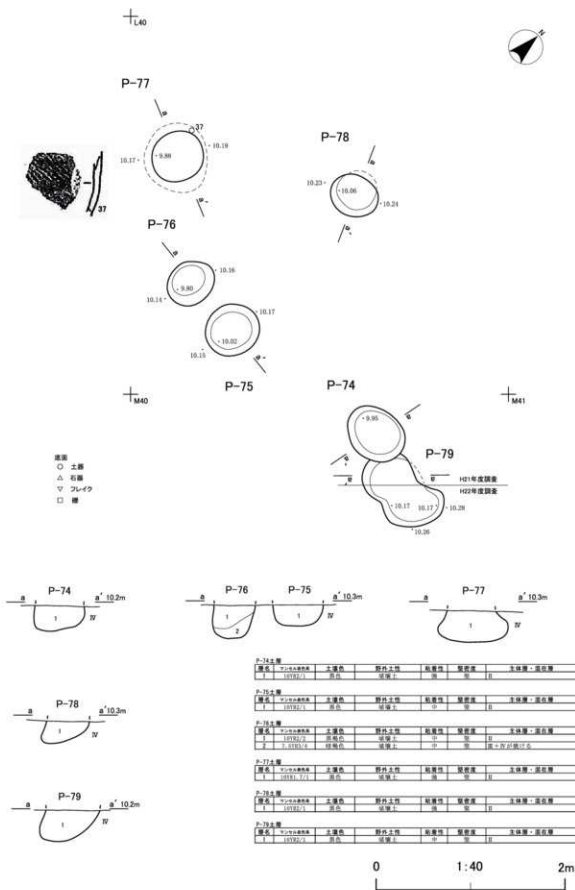
規模 0.52×0.43/0.43×0.41/0.22m 平面形 楕円形

調査 調査区南東側の壁際で径50cmほどの黒色土の堆積を確認した。東側がややオーバーハングし、坑底は傾斜する。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。

遺物 I群b類土器片22点、フレイク1点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71~77・79があり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)



図III-76 P-74~79

P-79 (図Ⅲ-76 図版44)

位置 M40 立地 標高 約10.3mの平坦面

規模 0.93×0.54/0.79×0.48/0.34m 平面形 不整形

調査 年度別調査区界にあったため平成20年度・21年度の2か年で調査した。IV層で黒色土～黒褐色土の堆積を確認した。断面は北側がややオーバーハングし、坑底は傾斜する。

覆土 黒色土のI層で、堅くしめる。遺物 I群b-4類土器片が1点出土した。

時期 出土遺物や周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑P-71～78があり、時期・性格の似た土坑と思われる。
(新家・大泰司)

P-80 (図Ⅲ-77 図版44)

位置 J43/K43 立地 標高10.7m付近の緩斜面

規模 (0.52)×0.55/(0.42)×0.4/0.2m 平面形 不整な円形

調査 IV層面で円形の黒色土の堆積を確認した。南西側を半載し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を認定した。土坑南西側の立ち上がりは攪乱で壊されている。

覆土 II層起源の黒色土主体で、IV層が少量混じる。

遺物 遺物は出土していない。時期 周辺の土坑から縄文時代早期後半と考える。

(愛場)

P-81 (図Ⅲ-77 図版44)

位置 J43 立地 標高10.8m付近の緩斜面

規模 0.55×(0.25)/0.37×(0.13)/0.08m 平面形 不整な円形?

調査 IV層面で黒色土の堆積を確認した。攪乱により南西半分が破壊されており、攪乱断面に皿状の土坑断面がみられた。残りの半分を掘り下げた。

覆土 II層起源の黒色土主体で、IV層が少量混じる。

遺物 遺物は出土していない。時期 周辺の土坑から縄文時代早期後半と考える。

(愛場)

P-82 (図Ⅲ-77 図版45)

位置 L42/M42 立地 標高10.5m付近の緩斜面

規模 0.64×0.54/0.64×0.52/0.15m 平面形 不整な楕円形

調査 IV層面で円形の黒色土の堆積を確認した。北西側を半載し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を確認した。

覆土 II層起源の黒色土で、下部はIV層バミスが多く混じる。

遺物 遺物は出土していない。時期 周辺の土坑から縄文時代早期後半と考える。

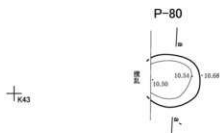
(愛場)

P-83 (図Ⅲ-77 図版45)

位置 K42 立地 標高10.5m付近の緩斜面

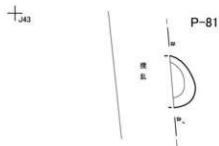
規模 0.71×0.53/0.49×0.35/0.19m 平面形 楕円形

調査 IV層面で楕円形の黒色土の堆積を確認した。南側を半載し、平坦な底面と斜めに立ち上がる



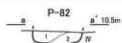
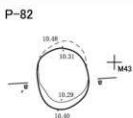
P-80土層

層名	マテリアル番号	土層色	階状土質	粘着性	堅硬度	主体層・底位置
1	10YR5/1	褐色	硬質土	中	強	底より
2	10YR5/1	褐色	硬質土	中	強	底より



P-81土層

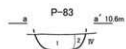
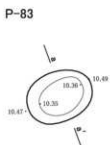
層名	マテリアル番号	土層色	階状土質	粘着性	堅硬度	主体層・底位置
1	10YR5/1	褐色	硬質土	中	強	底より



P-82土層

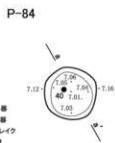
層名	マテリアル番号	土層色	階状土質	粘着性	堅硬度	主体層・底位置
1	10YR5/1	褐色	硬質土	中	強	底より浅部層
2	10YR5/1	褐色	硬質土	中	強	底より

↑K43



P-83土層

層名	マテリアル番号	土層色	階状土質	粘着性	堅硬度	主体層・底位置
1	10YR5/1	褐色	硬質土	中	強	底より
2	10YR5/1	褐色	硬質土	中	強	底より



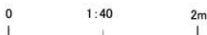
↑T14



P-84土層

層名	マテリアル番号	土層色	主体層・底位置
1	10YR5/1	褐色	底より
2	10YR5/1	褐色	底より浅部層(中心部のみ)

- 土層
- ▲ 石群
- ▼ フレイク
- 炭



図III-77 P-80~84

る壁を確認した。

覆土 2層に分層した。壁際に一部暗褐色土がみられる他は、Ⅱ層起源の黒色土である。

遺物 遺物は出土していない。 **時期** 周辺の土坑から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-84 (図Ⅲ-77 図版45)

位置 T13 **立地** 標高7~7.5m付近の緩斜面

規模 0.56×0.56/0.46×0.44/0.12m **平面形** 不整な楕円形、隅丸の六角形に近い

調査 削平されたⅢ層中、暗褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、ゆるやかに外側にひらく壁面を持つ。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の土にⅢ層が混じる。自然堆積の可能性が高い。

遺物 I群b-1類土器が1点出土した。

時期 確認状況から縄文時代早期後半と考える。(大泰司)

P-85 (図Ⅲ-78 図版45)

位置 R10 **立地** 標高7.3m付近の緩斜面

規模 0.67×0.55/0.49×0.36/0.1m **平面形** 不整の円形

調査 Ⅳ層面で円形の黒色土の堆積を確認した。半載し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。規模から土坑と判断した。

覆土 Ⅱ層起源の黒色土である。 **遺物** Ⅱ群b類土器が1点出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-86 (図Ⅲ-78 図版45)

位置 K44 **立地** 標高約11mの平坦面

規模 0.46×0.32/0.41×0.30/0.17m **平面形** 円形

調査 調査区北東側で径50cm程の黒色土の堆積を確認した。掘り込みは浅いが、坑底は平坦で壁は明瞭に立ち上がる。

覆土 黒色土の1層で、堅くしめる。 **遺物** 遺物は出土していない。

時期 周辺の土坑群から縄文時代早期後半と考える。周辺に同規模の土坑が複数あり、時期・性格の似た土坑と思われる。(新家)

P-87 (図Ⅲ-78 図版45)

位置 S11 **立地** 標高7~7.5m付近の緩斜面

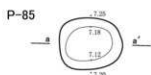
規模 0.56×0.54/0.48×0.44/0.32m **平面形** 不整な円形

調査 削平されたⅢ層中で黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面はほぼまっすぐに立ち上がり、ゆるく外側へ開く。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。

遺物 I群b-4類土器が2点出土した。

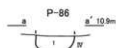
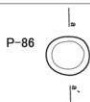
時期 確認状況から縄文時代早期以降と考える。(大泰司)



P-85土層						
層名	ソイルシフト	土質	掘削土質	取捨物	層厚	土層層・遺物層
1	10192.1	褐色	硬土	中	0.30m	土層層・遺物層

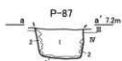
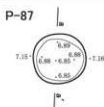
↑S11

↑K44



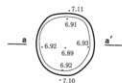
P-86土層						
層名	ソイルシフト	土質	掘削土質	取捨物	層厚	土層層・遺物層
1	10193.1	褐色	硬土	中	1.70m	土層層・遺物層

↑S11



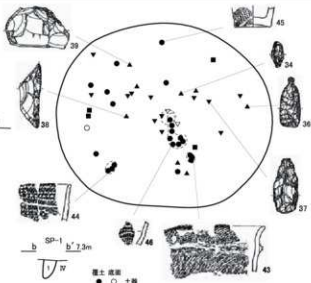
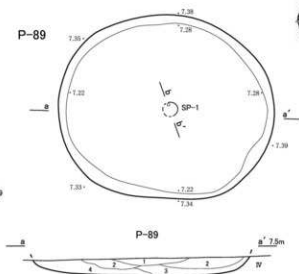
P-87土層						
層名	ソイルシフト	土質	掘削土質	取捨物	層厚	土層層・遺物層
1	10192.2	褐色	硬土	中	0.30m	土層層・遺物層
2	10194.1	褐色	硬土	中	1.40m	10%灰土で10%混じる

P-88



P-88土層						
層名	ソイルシフト	土質	掘削土質	取捨物	層厚	土層層・遺物層
1	10192.1	褐色	硬土	中	1.70m	土層層・遺物層

↑G9



P-89土層						
層名	ソイルシフト	土質	掘削土質	取捨物	層厚	土層層・遺物層
1	10192.1	褐色	硬土	中	0.30m	土層層・遺物層
2	10192.2	褐色	硬土	中	0.30m	土層層・遺物層
3	10192.3	褐色	硬土	中	0.30m	土層層・遺物層
4	10192.4	褐色	硬土	中	0.30m	土層層・遺物層

P-89SP-1						
層名	ソイルシフト	土質	掘削土質	取捨物	層厚	土層層・遺物層
1	10192.1	褐色	硬土	中	0.30m	土層層・遺物層

図III-78 P-85~89

P-88 (図Ⅲ-78 図版45)

位置 S10 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面

規模 0.66×0.62/0.58×0.54/0.10m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅢ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面は中央が浅くくぼみ、壁面はほぼまっすぐに立ち上がり、ゆるく外側へ開く。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。自然堆積の可能性がある。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-89 (図Ⅲ-78 図版45)

位置 P9/Q9 立地 標高7.4m付近の緩斜面

規模 2.29×1.95/2.12×1.77/0.21m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層面で楕円形の黒色~黒褐色土の堆積を確認した。長軸中央に土層観察ベルトを残し、全体を掘り下げた。平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。長径2.3m程の比較的大型の土坑である。底面中央には径13cmの柱穴があり、先端形状は尖る。

覆土 4層に分層した。層界は不明瞭だが、Ⅱ層起源の黒色土と黒褐色土の互層となる。

遺物 遺物は566点出土した。Ⅱ群a類土器2点、Ⅱ群b類土器310点、フレイク214点の他、石鏃、つまみ付きナイフ、寛状石器、スクレイパー、たたき石、扁平打製石器などがある。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半の可能性はある。(愛場)

P-90 (図Ⅲ-79 図版46)

位置 Q10/R10 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面

規模 0.50×0.46/0.36×0.34/0.18m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅢ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側へ開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。壁面付近の覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。

遺物 遺物は出土しなかった。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-91 (図Ⅲ-79 図版46)

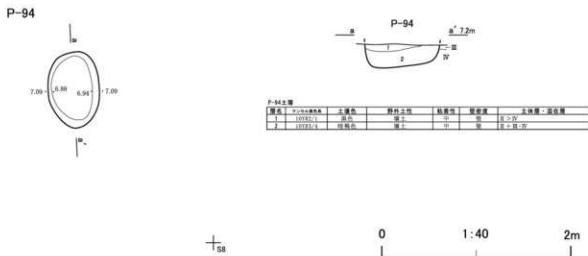
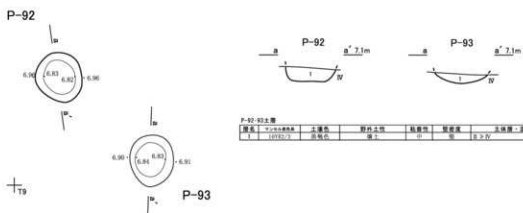
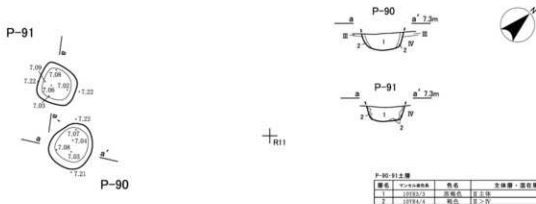
位置 Q10 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面

規模 0.40×0.40/0.30×0.30/0.14m 平面形 不整な円形、隅丸方形に近い

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は外側へ開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。壁面付近の覆土はⅡ層にⅣ層が混じり込んだ土によって構成される。自然堆積と考える。

遺物 フレイク4点が出土した。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)



図III-79 P-90~94

P-92 (図Ⅲ-79 図版46)

位置 S 9 立地 標高7m付近の緩斜面、P-93・94と近接する。

規模 0.53×0.48/0.32×0.29/0.16m 平面形 不整の円形

調査 IV層面で円形の黒褐色土の堆積を確認した。南西側を半載し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。

覆土 II層起源の黒色土にIV層が少量混じる。

遺物 I群b類土器3点、フレイク1点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-93 (図Ⅲ-79 図版46)

位置 S 9 立地 標高7m付近の緩斜面、P-92・94と近接する。

規模 0.56×0.46/0.36×0.32/0.12m 平面形 不整の円形

調査 IV層面で円形の黒褐色土の堆積を確認した。南西側を半載し、平坦な底面と斜めに立ち上がる壁を検出した。

覆土 II層起源の黒色土にIV層が少量混じる。遺物 遺物は出土していない。

時期 周辺のP-92と規模・形状が似ており、縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-94 (図Ⅲ-79 図版46)

位置 R 7 立地 標高7m付近の緩斜面、P-92・93と近接する。

規模 0.81×0.54/0.68×0.43/0.26m 平面形 不整楕円形

調査 IV層面で楕円形の黒色土の堆積を確認した。長軸南側を半載し、平坦な底面と急角度で立ち上がる壁を検出した。

覆土 2層に分層した。上部がII層起源の黒色土、下部がII・III層とIV層が混じる暗褐色土である。覆土2は人為的な埋戻し土の可能性が有る。

遺物 I群b-3類土器1点、フレイク4点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-95 (図Ⅲ-80 図版46)

位置 Q 9 立地 標高7.3m付近の緩斜面、P-96が隣接する。

規模 0.57×0.49/0.34×0.28/0.18m 平面形 不整の円形

調査 IV層面で楕円形の黒色土の堆積から土器がまとまって出土した。土器のまとまりを記録し、土器を残して長軸北側を半載した。土層観察から2つの土坑があることがわかり、西側をP-95、土器のまとまり側をP-96とした。本土坑がP-96を切って構築している。

覆土 II層起源の黒色土にIV層が少量混じる。

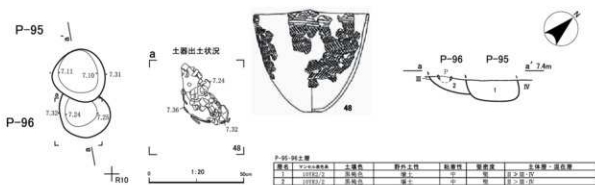
遺物 I群b-4類土器9点、フレイク3点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-96 (図Ⅲ-80 図版46)

位置 Q 9 立地 標高7.3m付近の緩斜面。P-95が隣接する。

規模 0.57×0.36/0.49×0.28/0.18m 平面形 不整の円形



P-97



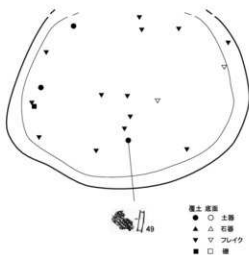
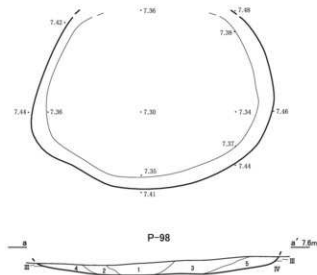
P-97土器

層名	マウスロウ番号	土層色	野の土性	製器所	製器量	土器部・器具部
1	10197.1	灰褐色	硬土	中	多	片・破片
2	10197.2	灰褐色	硬土	中	多	片・破片

158

P-98

159



P-98土器

層名	マウスロウ番号	土層色	野の土性	製器所	製器量	土器部・器具部
1	10194.1	灰褐色	硬土	中	多	片・破片
2	10194.2	灰褐色	硬土	中	多	片・破片
3	10194.3	灰褐色	硬土	中	多	片・破片
4	10194.4	灰褐色	硬土	中	多	片・破片
5	10194.5	灰褐色	硬土	中	多	片・破片

図 III-80 P-95~98

調査 IV層面で楕円形の黒色土の堆積から土器がまとまって出土した。土器のまとまりを記録し、土器を残して長軸北側を半載した。斜めに立ち上がる壁を確認し、土層からP-95によって本遺構の北西側が切られていることがわかった。

覆土 II層起源の黒色土にIV層が少量混じる。

遺物 I群b-4類土器が横倒しに潰れて(324点)出土した(図III-115-46)。他に石核1点、フレイク2点がある。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-97(図III-80 図版46)

位置 R8 **立地** 標高7m付近の緩斜面

規模 0.26×0.24/0.22×0.22/0.22m **平面形** 不整な円形。隅丸方形に近い

調査 III層にて灰黄褐色土の広がりを確認した。底面はおおよそ平坦である。壁面はまっすぐ立ち上がるが東側のみやや内側にすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はIV層主体土である。開口部付近に礫が並んでいた。埋め戻しの可能性がある。

遺物 覆土上部に安山岩のすり石1点と礫1点とが並んで出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-98(図III-80 図版46)

位置 P11/Q11 **立地** 標高7.5m付近の緩斜面

規模 2.58×(1.86)/2.23×(1.63)/0.2m **平面形** 不整の楕円形

調査 III層調査中、黒色土にぶい黄褐色土が斑状に混じる楕円形の堆積を検出した。長軸中央に土層観察ベルトを設定し、全体を掘り下げた。平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁を確認し、規模から土坑と判断した。

覆土 5層に分層した。南側はII層起源の黒色土主体土で、北側はIV層起源の黄褐色土主体土層となっている。

遺物 II群b類土器3点、Uフレイク1点、フレイク27点、礫30点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半の可能性がある。(愛場)

P-99(図III-81 図版47)

位置 T9 **立地** 標高6.9m付近の緩斜面

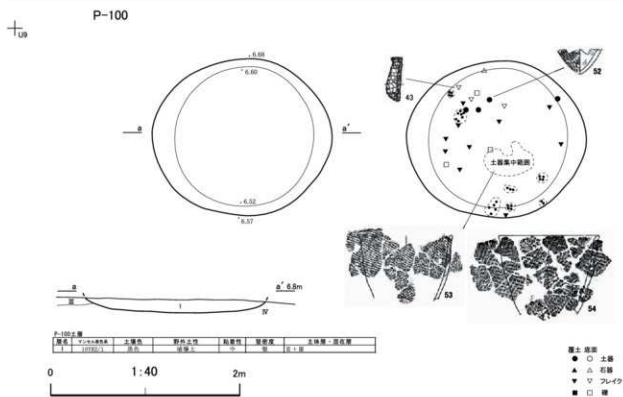
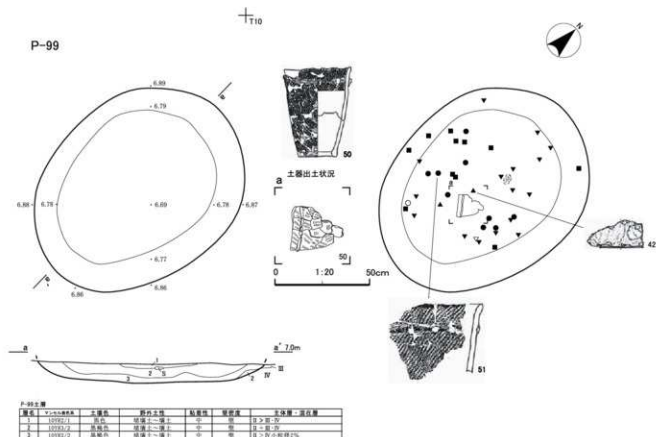
規模 2.43×1.89/1.82×1.40/0.24m **平面形** 楕円形

調査 III層調査中、黒色土・褐色土が斑状に混じる楕円形の堆積を確認した。長軸中央に土層観察ベルトを設定し、全体を掘り下げた。平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁を確認し、規模から土坑と判断した。

覆土 3層に分層した。最下層は黒褐色土が壁際からほぼ全面にみられ、その上部に褐色土・黒色土が堆積する。人為的な埋め戻し土の可能性もある。

遺物 II群b類土器194点、フレイク242点、石斧片1点、扁平打製石器1点が出土した。土坑中央やや南側の底面直上からは円筒土器下層b式(図III-115-50)が潰れて出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(愛場)



図III-81 P-99・100

P-100 (図Ⅲ-81 図版47)

位置 U 9 立地 標高 約6.8mの緩斜面

規模 1.90×1.50/1.46×1.48/0.14m 平面形 円形

調査 調査区南側の旧河道に向かって傾斜する緩斜面上で、径2m程の黒色土の堆積を確認した。掘り込みは浅いが、坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。

遺物 遺物はⅡ群a類土器246点、つまみ付きナイフ2点、フレイク77点、礫4点の計329点が出土した。西壁寄りの覆土から尖底部(図Ⅲ-115-52)が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期前半と考える。

(新家)

P-101 (図Ⅲ-82 図版47)

位置 V 5・6 立地 標高5.9m付近の緩斜面

規模 2.26×(1.45)/1.93×(1.28)/0.22m 平面形 不整の円形?

調査 旧河道縁のⅣ層斜面で黒褐色土の堆積を確認した。斜面上部から下部へ向けて土層観察ベルトを設定し、全体を掘り下げた。皿状となる底面と壁を確認した。斜面下の河道側は側溝により壊されている。

覆土 Ⅱ層起源の黒色土にⅣ層が均質に混じる。

遺物 Ⅱ群b類土器2点、Ⅳ群a類土器12点、石錐1点、スクレイパー1点、フレイク15点、扁平打製石器1点、礫12点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代と考える。

(愛場)

P-102 (図Ⅲ-82 図版47)

位置 T12・13/U12・13 立地 標高約7mの緩斜面

規模 2.14×1.84/1.65×1.20/0.23m 平面形 楕円形

調査 調査区南側の旧河道に向かって傾斜する緩斜面上で、径2mほどの黒色土の堆積を確認した。掘り込みは浅いが、坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。

遺物 I群b-3類土器47点、石錐1点、つまみ付きナイフ3点、フレイク11点、すり石1点、礫3点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。

(新家)

P-103 (図Ⅲ-83 図版47)

位置 U 7・8 立地 標高 約6.6mの緩斜面

規模 1.64×1.43/1.32×1.12/0.12m 平面形 楕円形

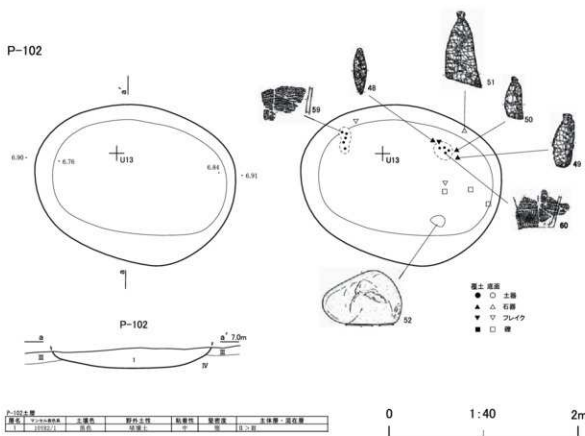
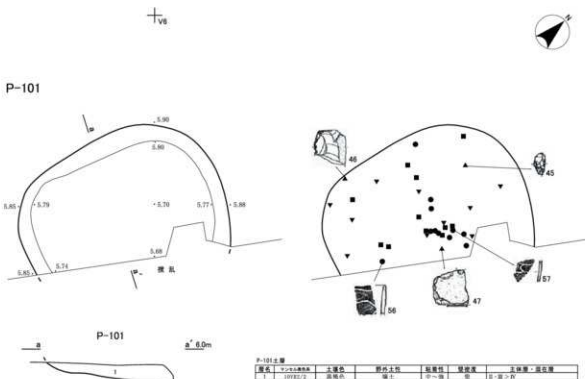
調査 調査区南側の旧河道に向かって傾斜する緩斜面上で、径1.5m程の黒色土の堆積を確認した。掘り込みは浅いが、坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

覆土 黒色土の1層で、堅くしまる。

遺物 I群b類土器片1点、フレイク5点が出土した。

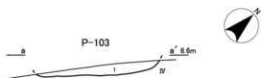
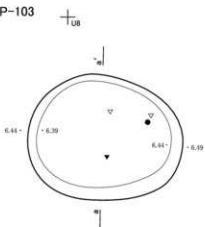
時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。

(新家)



図III-82 P-101・102

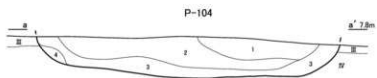
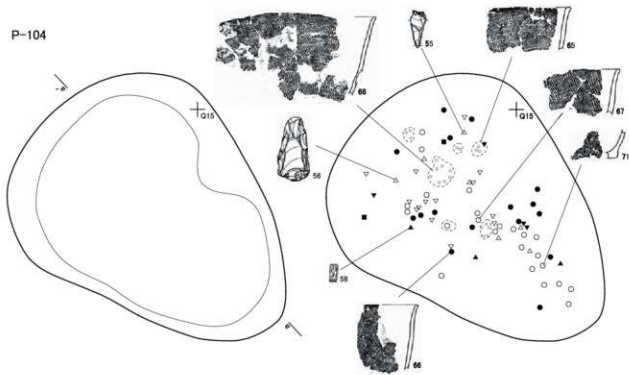
P-103



P-103土層

層名	年代・地層	土質色	野付土質	胎土質	質層数	土層厚・埋込層
1	10752/1	赤褐色	硬質土	赤	第1層	約2.0m

P-104



- 出土品
- ○ 土器
 - ▲ △ 石器
 - ▼ ▽ フレイク
 - □ 炭

P-104土層

層名	年代・地層	土質色	野付土質	胎土質	質層数	土層厚・埋込層
1	10752/2	赤褐色	硬質土	赤	第1層	約2.0m
2	10752/2	赤褐色	硬質土	赤	第2層	約2.0m
3	10752/2	赤褐色	硬質土	赤	第3層	約2.0m
4	10752/2	赤褐色	硬質土	赤	第4層	約2.0m



図Ⅲ-83 P-103・104

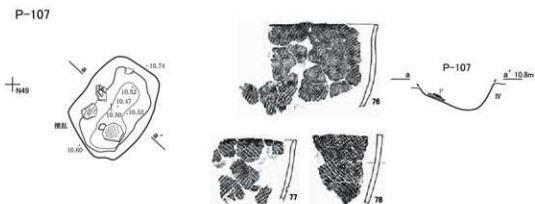
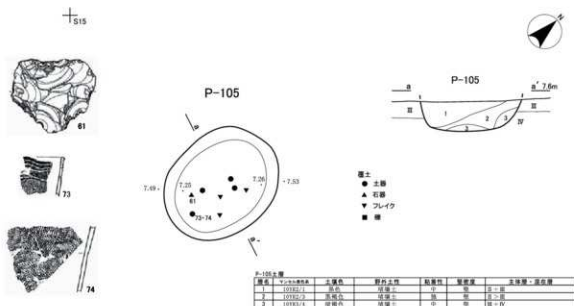


図 III-84 P-105~107・109

P-104 (図Ⅲ-83 図版47)

位置 P14・15/Q14・15 立地 標高約8mの平坦面

規模 3.24×2.72/2.51×1.94/0.46m 平面形 隅丸三角形?

調査 P・Q14・15付近の包含層調査中、遺物のまとまりと長さ3m程の黒褐色土の堆積を確認した。掘り込みは深いところで50cm程あったと考えられる。平面形は不整形で、壁や坑底は平坦でなく凹凸がある。柱穴や焼土等はなく、住居跡とせず土坑とした。

覆土 4層に分層した。覆土1～3は黒～暗褐色土で覆土3層は非常に堅くしめる。覆土4層はIV層起源の黄褐色土で堅くしめる。

遺物 I群b-1類土器833点、両面調整石器2点、石錐1点、寛状石器1点、スクレイパー3点、石核1点、フレイク353点、石斧1点、たたき石1点、すり石1点など1,228点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。

(新家)

P-105 (図Ⅲ-84 図版47)

位置 S15 立地 標高約7.6mの平坦面

規模 1.30×1.08/1.06×0.84/0.33m 平面形 楕円形

調査 S15付近の包含層調査中、径1m程の黒色土の堆積を確認した。半截し、平坦な坑底面と緩やかに立ち上がる壁を検出した。

覆土 3層に分層した。いずれも堅くしまっている。

遺物 I群b-1類土器44点、石核1点、フレイク6点、台石1点、礫25点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。

(新家)

P-106 (図Ⅲ-84 図版48)

位置 T14/U14 立地 標高約7.2mの緩斜面

規模 0.77×0.62/0.69×0.45/0.22m 平面形 楕円形

調査 調査区南側の旧河道に向かって傾斜する緩斜面上で、径80cm程の黒色土の堆積を確認した。半截し、丸みを帯びる坑底面と緩やかに立ち上がる壁を検出した。

覆土 黒色土の1層で、堅くしめる。遺物 I群b類土器片1点、礫1点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。

(新家)

P-107 (図Ⅲ-84 図版48)

位置 M49/N49 立地 標高10.5～11m付近の緩斜面

規模 1.08×0.76/0.92×0.42/0.26m及びその周辺4m程 平面形 不整楕円形

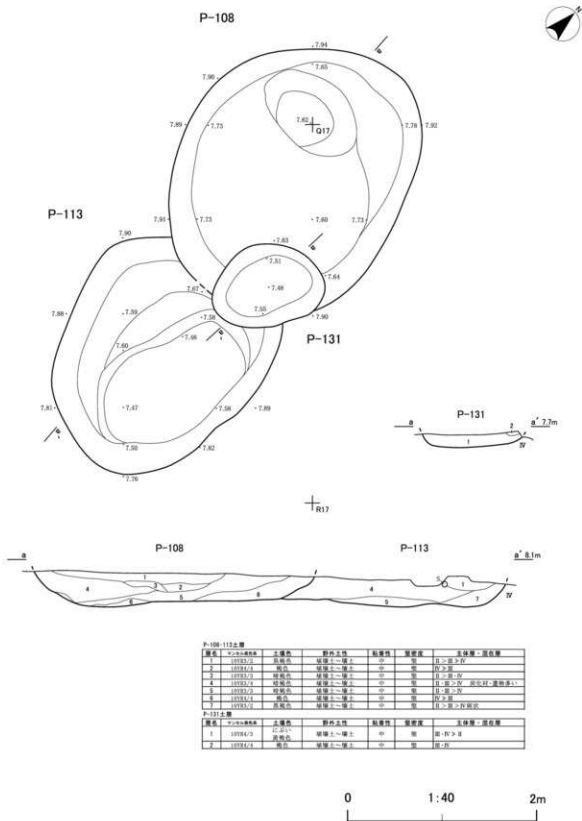
調査 削平されたⅢ層中から、褐灰色～黒色土の堆積を確認した。くぼみ底面と、ゆるやかに外側にひらく壁面を持つ。底面と壁面は不明瞭である。くぼみの3か所に遺物がまとも出土したため、土坑の可能性をもつものとした。しかし、木の根跡のくぼみに土器をまとめて廃棄した可能性が高い。

覆土 覆土はⅡ層主体の土にⅣ層が混じる。自然堆積の可能性が高い。

遺物 Ⅱ群a類土器が3か所で282点まとも出土したほか、フレイクが5点出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期前半の土器廃棄状況と考える。

(大泰司)



図III-85 P-108・113・131 (1)

P-108 (図Ⅲ-85・86 図版48)

位置 P16・17/Q16・17 立地 標高7.9m付近の緩斜面。P-113・131が切りあう。

規模 3.05×2.51/2.45×2.05/0.39m 平面形 不整の楕円形

調査 Ⅲ層調査中、遺物がまとまって出土する範囲があった。周辺を精査したところ黒褐色土の楕円形の堆積を確認した。長軸上に土層観察用ベルトを設定し、全体を掘り下げた。遺物は2cm以上のものについて位置を記録して取り上げた。40cm程掘り下げたところで、やや凹凸がある底面と斜めに立ち上がる壁を確認した。また南側には本遺構とは別の落ち込みがあることがわかった。土層観察用ベルトを延長し、土層を確認したところ南側に同規模の土坑P-113が連なるようにあり、本遺構がP-113を切って構築されていることを確認した。

またP-108とP-113の間の底面に黄褐色土の楕円形の堆積がみられ、半載したところ土坑(P-131)であることが判明した。土層観察などから先後関係はP-113→P-108→P-131となる。

覆土 6層に分層した。覆土はⅡ層起源の黒色土とⅣ層黄褐色土が混じる土層で埋め戻しの可能性が高い。

遺物 遺物は2,062点出土した。I群b-1類土器は1,292点出土し、2個体が復原された(図Ⅲ-118-79・80)。ほかに石鏃1点、両面調整石器1点、石錐4点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー19点、石核3点、フレイク683点、石斧1点、たたき石2点、すり石1点、石錘1点などがあり、遺物は土坑全体に分布する。またスクレイパーがH-20の接合資料2と接合した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-113 (図Ⅲ-85・86 図版48)

位置 Q16 立地 標高7.9m付近の緩斜面。P-108・131が切りあう。

規模 (2.56)×2.18/(1.98)×1.73/0.31m 平面形 不整の楕円形

調査 P-108調査中、隣接する南側に遺物が多くみられる暗褐色土の堆積が認められた。

P-108長軸の土層観察用ベルトを延長し、土層を確認したところ、やや凹凸がある床面と斜めに立ち上がる壁を確認した。本遺構北側はP-108およびP-131に切られている。

覆土 Ⅱ層起源の黒色土にⅣ層が均質に混じる。

遺物 遺物は1,438点出土した。内訳はI群b-1類土器976点、石鏃11点、両面調整石器1点、石錐2点、スクレイパー5点、U・Rフレイク6点、石核5点、フレイク331点、たたき石1点、すり石1点、砥石1点、台石片1点、礫97点である。遺物は土坑南側に多く分布する。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半と考える。(愛場)

P-131 (図Ⅲ-85・86 図版50)

位置 Q16 立地 標高7.9m付近の緩斜面。P-108・113を切る。

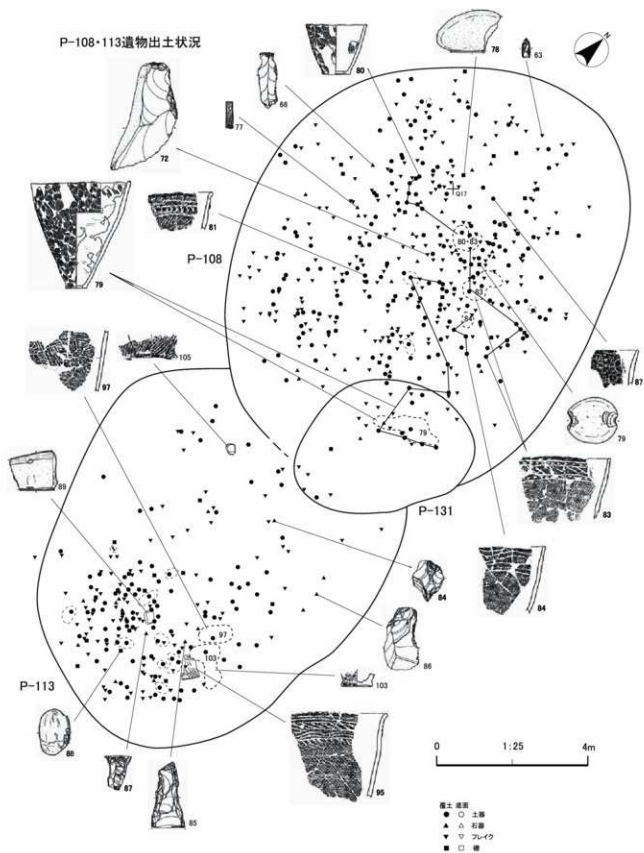
規模 1.20×0.87/0.90×0.61/0.15m 平面形 不整の楕円形

調査 P-108底面精査中、南東側壁際にぶい黄褐色土の楕円形の堆積を確認した。長軸西側を半載し、皿状の底面と壁を検出した。P-108・113を切って構築されるようである。

覆土 Ⅱ層起源の黒色土にⅣ層が均質に混じる。

遺物 I群b-1類土器1点、Uフレイク1点、石核1点、フレイク4点が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代早期後半以降と考える。(愛場)



図III-86 P-108・113・131 (2)

P-109 (図Ⅲ-84 図版49)

位置 I 50・51 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.98×(0.68) / 0.92×(0.54) / 0.24m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅢ~Ⅳ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。ややくぼみがおおよそ平坦な底面と、ほぼまっすぐに立ち上がる壁面を持つ。壁面の一部は微妙に内側にすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。覆土上半はⅡ層が主体、底面直上と壁面付近にはⅣ層が主体の覆土が分布する。埋め戻しの可能性もある。

遺物 フレイク9点が出土した。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-110 (図Ⅲ-87 図版49)

位置 I 52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.48×0.40 / 0.50×0.38 / 0.12m 平面形 不整な円形、隅丸方形に近い

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はいびつにくぼみ、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺物 遺物は出土しなかった。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-111 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位置 I 52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.36×0.36 / 0.44×0.40 / 0.22m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦であり、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺物 I群b-4類土器15点、フレイク10点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。(大泰司)

P-112 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位置 I 52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.60×0.52 / 0.52×0.50 / 0.14m 平面形 不整な円形、隅丸方形に近い

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はいびつにくぼみ、壁面は開きながら立ち上がる。北西壁のみ内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺物 I群b-4類土器4点、石核1点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。(大泰司)

P-114 (図III-87・88 図版49)

位置 J52 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面

規模 0.48×0.42/0.54×0.50/0.22m 平面形 不整な円形、隅丸方形に近い

調査 削平されたIV層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はII層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のIV層によって構成される。自然堆積の可能性がある。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-115 (図III-87・88 図版49)

位置 H52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.42×0.38/0.40×0.28/0.12m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はII層主体の土から成る。褐鉄鉱を多く含む。底部上から壁面付近にかけての覆土斑状のIV層をより多く含む。自然堆積の可能性がある。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-116 (図III-87・88 図版49)

位置 H52/I52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.60×0.54/0.52×0.42/0.12m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は開きながらたちあがる。西側は開口部がやや内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はII層主体の土である。壁面から底面にかけては、斑状のIV層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性がある。

遺物 I群b-4類土器2点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。(大泰司)

P-117 (図III-89 図版49)

位置 I53・54 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.80×0.62/0.82×0.78/0.26m 平面形 不整な円形

調査 削平されたIV層中に、褐色土の堆積を確認した。中央がくぼむ底面と、内側にすばまる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

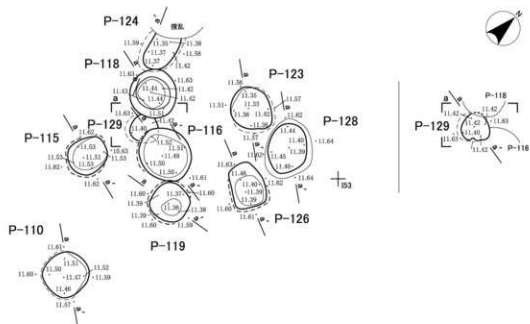
覆土 覆土はII層に微量のIV層が散点的に混じる土である。壁面から底面にかけては、斑状のIV層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性が高い。

遺物 I群b-4類土器8点、頁岩フレイク29点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。(大泰司)

P-118 (図III-87・88 図版49)

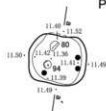
位置 H52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面



P-111

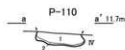


P-112



- ○ 土師
- ▲ △ 石鏡
- ▼ ▽ フレイク
- □ 礎

P-114

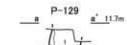
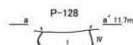
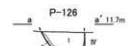
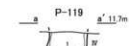
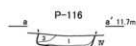
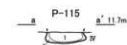
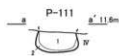


P-110土層

層数	ソノヤシキ	色	土層層・遺存層
1	10700.0	黒褐色	土層
2	10700.0	黄	内子土層中で10%黄にS



図III-87 P-110~112・114~116・118・119・123・124・126・128・129



P-111-112-114之層

層位	ワッパの構成	色名	主成分・位置層
1	10192/2	黒褐色	IV上層
2	10193/4	褐色	IV下の軟層で10%混じる

P-115之層

層位	ワッパの構成	色名	主成分・位置層
1	10192/2	黒褐色	IV上層
2	10193/4	褐色	IV下の軟層で10%混じる

P-116之層

層位	ワッパの構成	色名	主成分・位置層
1	10192/2	黒褐色	IV上層
2	10193/4	褐色	IV下の軟層で10%混じる
3	10193/3	黒褐色	IV上の土の入り込み

P-118之層

層位	ワッパの構成	色名	主成分・位置層
1	10193/3	暗褐色	暗化部を含む暗褐色土 7.0%のIV下の軟層で10%混じる
2	10194/6	褐色	暗化部を含む暗褐色土 7.0%のIV下の軟層で10%混じる 1.0%のIV上の軟層より多く混じり 受け色土
3	10193/4	褐色	IV下の軟層で10%混じる

P-119之層

層位	ワッパの構成	色名	主成分・位置層
1	10192/2	黒褐色	IV上層
2	10193/4	褐色	IV下の軟層で10%混じる

P-123之層

層位	ワッパの構成	色名	主成分・位置層
1	10194/4	褐色	中軟層のIV部1%混じる。遺物 出土。ややよまる
2	10195/4	紅褐色 炭褐色	IV上部より混ざりあり

P-124之層

層位	ワッパの構成	色名	主成分・位置層
1	10193/3	暗褐色	中軟層のIV部1%混じる。暗化部 を含む暗褐色土7.0%の IV下の軟層で10%混じる
2	10194/6	褐色	中軟層のIV部1%混じる。暗化部 を含む暗褐色土7.0%の IV下の軟層で10%混じる。IV軟 部の影響より多く混じり色土 のみ
3	10193/4	褐色	IV下の軟層で10%混じる

P-126之層

層位	ワッパの構成	色名	その他
1	10193/4	褐色	中軟層のIV部1%混じる。遺物 出土。ややよまる
2	10195/4	紅褐色 炭褐色	IV上部より混ざりあり

P-128之層

層位	ワッパの構成	色名	主成分・位置層
1	10194/4	褐色	中軟層のIV部1%混じる。遺物 出土。ややよまる
2	10195/4	紅褐色 炭褐色	IV上部より混ざりあり
3	10193/3	暗褐色	中軟層のIV部10%混じる

P-129之層

層位	ワッパの構成	色名	主成分・位置層
1	10194/4	褐色	中軟層のIV部1%混じる。遺物 出土。ややよまる
2	10195/4	紅褐色 炭褐色	IV上部より混ざりあり
3	10193/3	暗褐色	中軟層のIV部10%混じる



図III-88 P-111・112・114~116・118・119・123・124・126・128・129

規 模 0.52×0.50/0.28×0.26/0.20m 平 面 形 不整な円形
調 査 削平されたⅣ層中で暗褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体でⅣ層が微量に混じった土から成る。下半分は水的作用によるものか、褐鉄鉱を多く含む。壁面付近は斑状のⅣ層をより多く含む。自然堆積の可能性がある。
遺 物 I群b類土器が1点出土した。
時 期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。 (大泰司)

P-119 (図Ⅲ-87・88 図版49)

位 置 I 52 立 地 標高11.5~12m付近の緩斜面
規 模 0.42×0.40/0.46×0.46/0.28m 平 面 形 不整な円形、隅丸方形に近い
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の広がりとして検出した。底面はいびつにくぼみ、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。
遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-120 (図Ⅲ-89 図版49)

位 置 I 49 立 地 標高11~11.5m付近の緩斜面
規 模 0.58×0.54/0.70×0.64/0.34m 平 面 形 不整な楕円形
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はいびつにくぼみ、壁面は内側にすぼまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。
遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

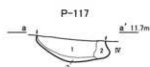
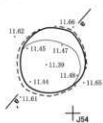
P-121 (図Ⅲ-89 図版50)

位 置 K 51 立 地 標高11~11.5m付近の緩斜面
規 模 0.40×0.34/0.38×0.36/0.22m 平 面 形 不整な円形、隅丸方形に近い。
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はいびつにくぼみ、壁面は南側が内側にすぼむ以外、ゆるく外側へ開く。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。
覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。
遺 物 遺物は出土していない。 時 期 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-122 (図Ⅲ-89 図版50)

位 置 K 51 立 地 標高11~11.5m付近の緩斜面
規 模 0.48×0.42/0.32×0.32/0.18m 平 面 形 不整な円形、隅丸方形に近い。
調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦であるが、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

P-117

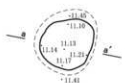


P-117土層

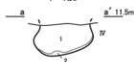
層名	ソノトキ地層	色名	主成分・遺物層
1	100W/4	褐色	土層厚が約10cmある。遺物なし。中から土色
2	100W/4	灰色	粘土質がよく固まりあう
3	100W/8	灰褐色	土層厚が約10cmある

↑J49

P-120



P-120



P-120・121土層

層名	ソノトキ地層	色名	主成分・遺物層
1	100W/2	灰褐色	粘土質で粘土粒層が1%散在
2	100W/4	灰色	塊状の粘土層よくしめる
3	100W/8	灰褐色	粘土質が約10%散在

P-122



↑K52

P-121



P-121



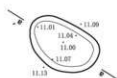
P-122



P-121・122土層

層名	ソノトキ地層	色名	主成分・遺物層
1	100W/2	灰褐色	粘土質
2	100W/4	褐色	粘土粒層が約10%ある

P-127



P-125



P-125



P-127



P-125・127土層

層名	ソノトキ地層	色名	主成分・遺物層
1	100W/2	灰褐色	粘土質
2	100W/4	褐色	粘土粒層が約10%ある

↑J48



図Ⅲ-89 P-117・120~122・125・127

覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。壁面付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺 物 遺物は出土していない。 **時 期** 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-123 (図Ⅲ-87・88 図版50)

位 置 H52 **立 地** 標高11.5~12m付近の緩斜面

規 模 0.46×0.42/0.48×0.46/0.24m **平 面 形** 不整な円形

調 査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は内側にすばまるが、南壁のみ微妙に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆 土 覆土はⅡ層主体の土である。壁面から底面にかけては、斑状のⅣ層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性はある。

遺 物 I群b類土器が2点出土した。

時 期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。 (大泰司)

P-124 (図Ⅲ-87・88 図版50)

位 置 H52 **立 地** 標高11.5~12m付近の緩斜面

規 模 0.38×0.28/0.42×0.38/0.24m **平 面 形** 不整な楕円形

調 査 削平されたⅣ層中にて暗褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面はほぼまっすぐに立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。西側は攪乱を受ける。

覆 土 覆土はⅡ層主体でⅣ層が微量に混じった土から成る。下半分は水の作用によるものか、褐鉄鉱を多く含む。底部付近は斑状のⅣ層をより多く含む。自然堆積の可能性はある。

遺 物 遺物は出土していない。 **時 期** 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-125 (図Ⅲ-89 図版50)

位 置 I47 **立 地** 標高11~11.5m付近の緩斜面

規 模 0.72×0.56/0.70×0.64/0.22m **平 面 形** 不整な楕円形

調 査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦で、壁面は東側が外側へ開くが、他は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆 土 覆土はⅡ層主体の黒褐色土である。底部上から壁面付近にかけての覆土は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺 物 遺物は出土していない。 **時 期** 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-126 (図Ⅲ-87・88 図版50)

位 置 H52/I52 **立 地** 標高11.5~12m付近の緩斜面

規 模 0.50×0.36/0.32×0.28/0.24m **平 面 形** 不整な楕円形

調 査 削平されたⅣ層中にて褐色土の堆積を確認した。底面は中央より東側がくぼむ、壁面西側は開きながら立ち上がる、東側は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆 土 覆土はⅡ層に微量のⅣ層が散点的に混じる土である。壁面から底面にかけては、斑状のⅣ層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性はある。

遺 物 遺物は出土していない。 **時 期** 確認状況から縄文時代と考える。 (大泰司)

P-127 (図III-89 図版50)

位置 I 47 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面

規模 0.76×0.51/0.66×0.37/0.09m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦であるが、壁面は外側に開きながら立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はII層主体の黒褐色土である。壁面付近は斑状のIV層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-128 (図III-87・88 図版50)

位置 H52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.52×0.40/0.64×0.50/0.26m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIV層中にて褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はII層主体の土である。壁面から底面にかけては、斑状のIV層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性はある。

遺物 I群b類土器が3点出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。(大泰司)

P-129 (図III-87・88 図版50)

位置 H52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.30×0.26/0.34×0.28/0.24m 平面形 不整な円形

調査 削平されたIV層中にて褐色土の堆積を確認した。底面はおおよそ平坦である、壁面は内側にすばまる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土はII層主体の土である。壁面から底面にかけては、斑状のIV層がより多く混じり込む。自然堆積の可能性はある。

遺物 覆土中からI群b類土器が5点出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。(大泰司)

P-130 (図III-90 図版50)

位置 G50/H50 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面

規模 (1.30)×1.00/(0.90)×0.58/0.18m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたIII層中に、暗褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、外側に開きながら立ち上がる壁面を持つ。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。開口部南側は現代の住居攪乱によって破壊されている。

覆土 覆土上半はII~IV層の混じり合った土によって構成される。下半はII層主体土である。層の境界には一部VII層が塊状に入り込む。埋め戻しの可能性がある。

遺物 II群b類土器2点、スクレイパー1点・Uフレイク5点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、前期後半以降と考える。(大泰司)

P-132 (図Ⅲ-90 図版50)

位置 H51 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.82×0.54/0.70×0.34/0.30m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。木の根と思われる攪乱が連続しており、平面形は不明瞭であった。底面中央は浅くくぼみ、壁面は内側にすぼまるが、一部についてはほぼまっすぐな立ち上がりである。攪乱中の黒褐色土を掘り下げて遺物回収していた際、明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土は黒褐色土であったが、攪乱部分といっしょに掘り抜いたので、土層観察図は無い。

遺物 I群b類土器3点、フレイク4点、安山岩礫片1点が散点的に出土した。

時期 確認状況から縄文時代で、早期後半以降と考える。(大泰司)

P-133 (図Ⅲ-90 図版50)

位置 H51・52 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.60×0.42/0.56×0.50/0.24m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅢ~Ⅳ層中に、黒褐色土の堆積を確認した。中央がくぼみ底面と、内側にすぼまりながら立ち上がる壁面を持つ。北壁のみゆるく開きながら立ち上がる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

覆土 覆土はⅡ層主体の土である。壁面から底面にかけて斑状のⅣ層が密に入り込む。自然堆積の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-134 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 H49/I49 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面

規模 0.64×0.64/0.32×0.32/0.34m 平面形 不整な円形

調査 削平されたⅢ~Ⅳ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面は東側がいびつにくぼみ、壁面北東側は内側にすぼまるように立ち上がり、南西側は外側に開くように立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 覆土上半はⅡ層主体の黒褐色土である。下半はⅡ層主体土に斑状のⅣ層が加わって構成される。壁面付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-135 (図Ⅲ-90 図版51)

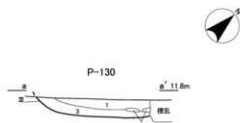
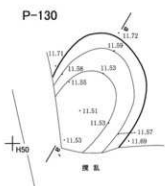
位置 H50 立地 標高11.5~12m付近の緩斜面

規模 0.72×0.54/0.78×0.52/0.32m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面と、まっすぐに立ち上がる壁面を持つ。ただし、壁面の一部は微妙に内側にすぼまる。明瞭な底面と壁面から土坑と判断した。

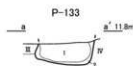
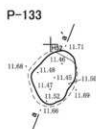
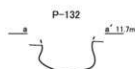
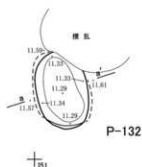
覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混じり合った土によって構成される。底面直上と壁面付近には小~中粒径のⅣ層によって構成される。埋め戻しの可能性もある。

遺物 遺物は出土していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)



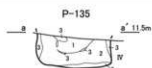
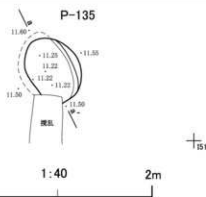
P-130土層

層名	マシンの標高	地色	主体層・遺存層
1	11193.2	黒褐色	IV層からI層にかけてのIV層
2	11192.2	黒褐色	IV層
3	11191.2	赤褐色	III層・IV層



P-133土層

層名	マシンの標高	地色	主体層・遺存層
1	11193.2	赤褐色	IV層
2	11191.2	黒褐色	IV層



P-135土層

層名	マシンの標高	地色	主体層・遺存層
1	11192.2	黒褐色	IV層
2	11192.2	黒褐色	IV層で存続の小一木柱状で11.5m深くなる
3	11191.6	褐色	IV層の小一木柱状で深さ1.5m、その間木柱が深くなる

図III-90 P-130・132・133・135

P-136 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 H49 立地 標高11~11.5m付近の緩斜面

規模 0.80×(0.64) / 0.80×0.58 / 0.38m 平面形 不整な楕円形

調査 削平されたⅣ層中にて、塊状のⅣ層が詰まった攪乱を掘り下げたところ、黒褐色土の広がりとして検出した。底面は中央がくぼみ、壁面東側は内側にすはまるように立ち上がり、西側は外側に開くように立ち上がる。明瞭な壁面と底面を検出したので、土坑とした。

覆土 残存する覆土上半はⅡ層主体の黒褐色土である。下半はⅡ層主体土に斑状のⅣ層が加わって構成される。壁面付近は斑状のⅣ層によって構成される。自然堆積の可能性がある。

遺物 フレイク1点が出土した。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

P-137 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 F53 立地 標高12m付近の緩斜面

規模 0.72×0.69 / 0.59×0.56 / 0.22m 平面形 不整の円形

調査 Ⅳ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。南西側を半載し、やや凹凸のある底面とオーバーハンクする壁を認定した。規模から土坑と判断した。

覆土 3層に分層した。

遺物 遺物は出していない。 時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-138 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 F54 / G54 立地 標高12m付近の緩斜面

規模 (0.71) × 0.59 / (0.77) × 0.71 / 0.3m 平面形 不整の楕円形

調査 Ⅳ層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。南東側を半載し、皿状の底面とオーバーハンクする壁を確認した。規模や土層から土坑と判断した。

覆土 3層に分層した。 遺物 フレイク1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

P-139 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 M40 立地 標高10m付近の緩斜面

規模 1.02×0.83 / 0.79×0.58 / 0.51m 平面形 卵形に近い不整な楕円形

調査 Ⅲ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面とゆるやかに開きながら立ち上がる壁面から、土坑と判断した。西側の壁面立ち上がり際の一部に木根が入り込んだ痕があり土坑が破壊されている。

覆土 覆土はⅡ~Ⅳ層が混ざりあったもの。Ⅱ層の割合が多い。よく混じり合っており、埋め戻しの可能性が高い。

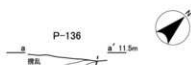
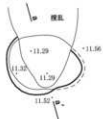
遺物 I群b類土器6点、凝灰岩礫1点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代のものと考え。出土遺物は流入と考えられる。周辺の遺物出土状況から、早期後半以降のものと考え、早期後半、前期後半、後期前葉の可能性がある。(大泰司)

P-140 (図Ⅲ-91 図版51)

位置 M40 立地 標高10m付近の緩斜面

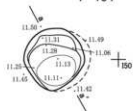
P-136



P-134



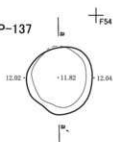
P-134



P-134土層

層名	マッシュセル	色名	土体層・遺存層
1	1032/2	黒褐色	土土層
2	1032/2	黒褐色	土土層で穴が輪小へ転落して 125%以上
3	1032/2	黒褐色	穴が小へ転落して穴に落ち、 その穴を土で充填する

P-137



P-137



P-137土層

層名	マッシュセル	土体層	貯水層	貯水層	貯水層	土体層・遺存層
1	1032/2	黒褐色	土	中	中	土層(土)
2	1032/2	黒褐色	土	中	中	土層(土)
3	1032/2	黒褐色	土	中	中	土層(土)

P-138



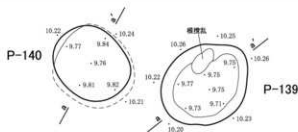
P-138



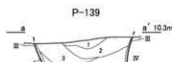
P-138土層

層名	マッシュセル	土体層	貯水層	貯水層	貯水層	土体層・遺存層
1	1032/2	黒褐色	土	中	中	土層(土)
2	1032/2	黒褐色	土	中	中	土層(土)
3	1032/2	黒褐色	土	中	中	土層(土)

P-140



P-139



P-140



P-139・140土層

層名	マッシュセル	色名	土体層・遺存層
1	1032/2	黒褐色	土
2	1032/2	黒褐色	土(土)
3	1032/2	黒褐色	土(土)
4	1032/2	黒褐色	土(土)を埋めた125%以上



1N40

図III-91 P-134・136~140

規模 0.84×0.71/0.86×0.80/0.43m **平面形** 不整な楕円形
調査 Ⅲ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。おおよそ平坦な底面を持つ。壁面はゆるく外側に広がり、南壁が開きながら立ち上がる以外にはしだいに内側にすぼまる形状である。土坑と判断した。
覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあったもの。Ⅱ層の割合が多い。よく混じり合っており、埋め戻しの可能性が高い。
遺物 I群b類土器が1点出土した。
時期 確認状況から縄文時代と考える。出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性が高い。
(大泰司)

P-141 (図Ⅲ-92 図版51)

位置 N36 **立地** 標高9.5～10m付近の緩斜面
規模 0.64×0.56/0.66×0.59/0.47m **平面形** 不整な楕円形
調査 Ⅲ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央は凹み、壁面は開きながら立ち上がってからいったん内側にすぼまり、また開く形状である。土坑と判断した。
覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあったもの。Ⅱ層の割合が多い。よく混じり合っており、埋め戻しの可能性が高い。
遺物 遺物は出土していない。
時期 確認状況から縄文時代と考える。出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性が高い。
(大泰司)

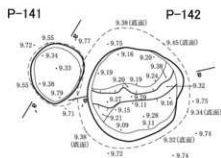
P-142 (図Ⅲ-92 図版51)

位置 N36 **立地** 標高9.5～10m付近の緩斜面
規模 1.04×0.99/1.20×1.26/0.56m **平面形** 不整な円形
調査 Ⅲ層中にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央は凹み、壁面は開きながら立ち上がってからいったん内側にすぼまり、また開く形状である。土坑と判断した。凹んだ底面の中央は南北を軸として、木根によって、中央が盛り上がるように破壊されている。
覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあったもので、Ⅱ層の割合が多いものが多い。よく混じり合っており、埋め戻しの可能性が高い。
上部の覆土1層とした部分については酸化した鉄分を含む土層である。また、中央の盛りあがり部分についてはその西側に木根が入り込んで東側に押し出したためにできたものと考えられる。この隆起部の東側については底面に炭および焼土層が分布する。土層断面には示されなかったため、その上面と下面について図示した。炭化物は上面に分布し、目立ったものについては図示した。同じ面で、白色粘土が固まりで出土したがⅣ層起源のものとする。
遺物 I群b-4類土器3点、スクレイパーが1点出土した。
時期 出土遺物は流入と考える。周辺の遺物出土状況から、縄文時代早期後半以降の可能性が高い。
(大泰司)

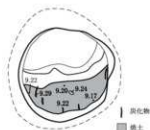
P-143 (図Ⅲ-92 図版52)

位置 P39 **立地** 標高9.7m付近の緩斜面
規模 0.42×0.36/0.37×0.29/0.19m **平面形** 不整の楕円形

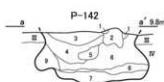
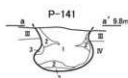
↑ N08



P-142



■ 灰化層
■ 礎土



P-141主層

層名	ワットシヨク	色名	主層層・遺存層
1	10792/2	黒褐色	層土
2	10792/2	黒褐色	層土
3	10793/4	暗褐色	層土の範囲で12%灰土

P-142主層

層名	ワットシヨク	色名	主層層・遺存層
1	10793/3	紅土	赤褐色
2	10793/6	暗赤褐色	層土30%、90%のP1ミホ小粒層で1%埋じ
3	10793/4	暗褐色	赤褐色層の2%埋じ
4	10793/4	暗褐色	赤褐色層の10%埋じ
5	10793/4	暗褐色	小粒層の厚2%、小粒層の層厚30%、40%のP1ミホ埋じ
6	10793/2	黒褐色	赤褐色層の2%埋じ
7	10793/2	黒褐色	赤褐色層の2%埋じ
8	10793/2	暗赤褐色	層土
9	10793/2	黒褐色	層土、水筒?

↑ P39

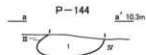
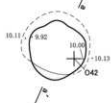
P-143



P-143主層

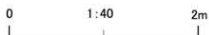
層名	ワットシヨク	土層色	野州土層	粘着性	質硬層	主層層・遺存層
1	10793/3	暗褐色	埋土	中	弱	層土
2	10792/2	暗褐色	埋土	中	弱	層土の範囲で12%灰土

P-144



P-144主層

層名	ワットシヨク	土層色	野州土層	粘着性	質硬層	主層層・遺存層
1	10792/2	暗褐色	埋土	中	弱	層土



図III-92 P-141~144

調査 IV層で楕円形の暗褐色土の堆積を確認した。長軸東側を半載し、皿状の底面とはほぼ垂直で立ち上がる壁を確認した。小型であるが、覆土がII層とIV層の混合土であることから土坑と判断した。
覆土 2層に分層した。II層起源の黒色土にIV層黄褐色土が混じるもので、覆土1には炭化材や焼土粒が混じる。

遺物 遺物は出土していない。 **時期** 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

P-144 (図Ⅲ-92 図版52)

位置 N41・42/O41・42 **立地** 標高10.1m付近の緩斜面

規模 0.62×0.59/0.65×0.72/0.24m **平面形** 不整の円形

調査 IV層で円形の黒褐色土の堆積を確認した。西側を半載し、皿状の底面とオーバーハングする壁を確認した。規模や土層から小型の土坑と判断した。

覆土 2層に分層した。II層起源の黒色土にIV層黄褐色土が混じるもので、覆土1には炭化材や焼土粒が混じる。

遺物 遺物は出土していない。 **時期** 確認状況から縄文時代と考える。 (愛場)

P-145 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 O31 **立地** 標高9m付近の緩斜面

規模 0.69×0.49/0.74×0.56/0.35m **平面形** 四角形に近い不整な楕円形

調査 III層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 頁岩フレイクが1点出土した。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。 (大泰司)

P-146 (図Ⅲ-93)

位置 N31/O31 **立地** 標高9m付近の緩斜面

規模 0.59×0.56/0.65×0.63/0.26m **平面形** 円形

調査 III層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。 (大泰司)

P-147 (図Ⅲ-93 図版52)

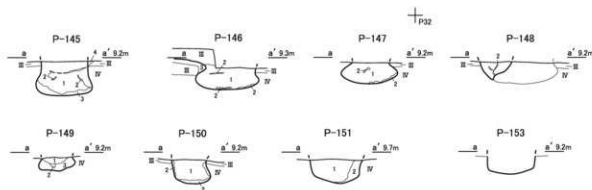
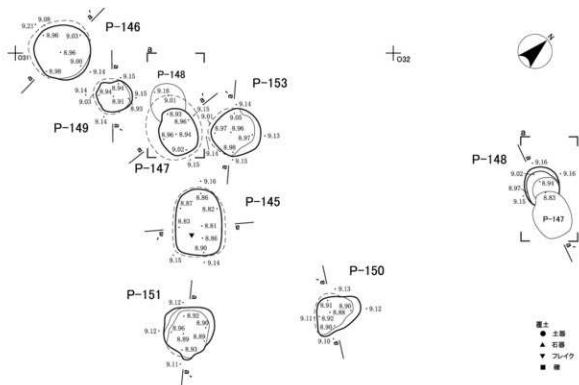
位置 O31 **立地** 標高9m付近の緩斜面

規模 0.50×0.39/0.69×0.57/0.22m **平面形** 円形

調査 III層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。



P-145・146・150・151の層

層名	マッシュルーム	色名	主成分・遺物層
1	10193/1	黒褐色	比較硬の粘土が主体となる
2	10193/2	暗茶褐色	粘土質
3	10193/3	暗茶褐色	粘土質、中間層の粘土が主体となる
4	10193/4	暗褐色	粘土質

P-147の層

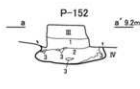
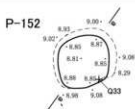
層名	マッシュルーム	色名	主成分・遺物層
1	10193/5	黒褐色	比較硬の粘土が主体となる

P-148の層

層名	マッシュルーム	色名	主成分・遺物層
1	10193/6	暗褐色	比較硬の粘土が主体となる
2			粘土質

P-149の層

層名	マッシュルーム	色名	主成分・遺物層
1	10193/7	暗褐色	粘土質、硬さ、土質が主体となる
2	10193/8	暗褐色	粘土質、硬さ、土質が主体となる
3	10193/9	暗褐色	粘土質、硬さ、土質が主体となる



層名	マッシュルーム	色名	主成分・遺物層
1	10193/10	暗褐色	粘土質、硬さ、土質が主体となる
2	10193/11	暗褐色	粘土質、硬さ、土質が主体となる
3	10193/12	暗褐色	粘土質



図III-93 P-145~153

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-148 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 O31 立地 標高9m付近の緩斜面

規模 (0.28)×0.38/(0.15)×0.27/0.23m 平面形 楕円形

調査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。残存する壁面は開きながら立ち上がる。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-149 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 O31 立地 標高9m付近の緩斜面

規模 0.37×0.36/0.42×0.39/0.15m 平面形 不整な楕円形

調査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 覆土中からⅠ群b類土器が1点出土している。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-150 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 O31 立地 標高9m付近の緩斜面

規模 0.48×0.36/0.43×0.37/0.26m 平面形 不整な楕円形で三角形に近い

調査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がる。南から西側部分について、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-151 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 O31 立地 標高9m付近の緩斜面

規模 0.56×0.52/0.50×0.35/0.26m 平面形 不整な楕円形で卵形に近い

調査 Ⅲ層にて黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がる。南側部分について、途中ですぼまる形状である。

覆土 覆土はⅡ～Ⅳ層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。

遺物 遺物は出土していない。

時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-152 (図Ⅲ-93 図版52)

位置 P32・33/Q32・33 立地 標高9m付近の緩斜面

- 規模 0.63×0.56/0.72×0.60/0.29m 平面形 不整な円形
 調査 III層にて灰黄褐色～黒褐色土の堆積を確認した。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がるが、途中ですぼまる形状である。
 覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。
 遺物 遺物は出土していない。
 時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

P-153 (図III-93 図版52)

- 位置 O31 立地 標高9m付近の緩斜面
 規模 0.52×0.50/0.49×0.44/0.19m 平面形 不整な円形
 調査 III層にて黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。半截した段階で、木根痕の可能性が高いとし、土層断面図を残さなかった。底面中央はややくぼむ。壁面は開きながら立ち上がる。南側部分について、途中ですぼまる形状である。完掘後、周囲の土坑と比較検討し、木根痕の可能性もあるが、記録すべきと判断した。
 覆土 覆土はII～IV層が混ざりあった土で、埋め戻し、あるいは木根の影響の可能性はある。
 遺物 遺物は出土していない。
 時期 出土遺物は流入で、周辺の遺物出土状況から早期後半以降の可能性はある。(大泰司)

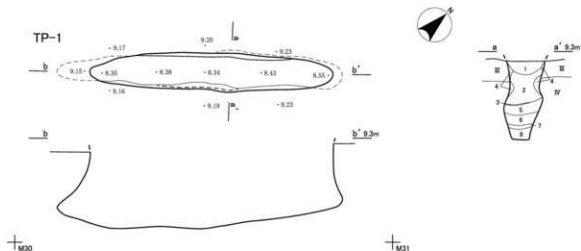
4. Tピット

T P-1 (図III-94 図版53)

- 位置 L30 立地 標高9～9.5m付近の緩斜面
 規模 2.54×0.54/3.00×0.46/0.80m 平面形 長楕円形
 調査 III層上面にて黒色土の堆積を確認した。底面はおおよそ地表の緩斜面と同じ方向により強く傾く。長軸両端の壁は内側にすぼむが、緩斜面の下側の方が深く抉られる。側壁はほぼまっすぐに立ち上がる。
 覆土 II～IV層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。ほかに壁面の崩落と推定できる、塊状のIV層が認められる。自然に埋没したものと考える。
 遺物 フレイク2点、礫2点が出土した。
 時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

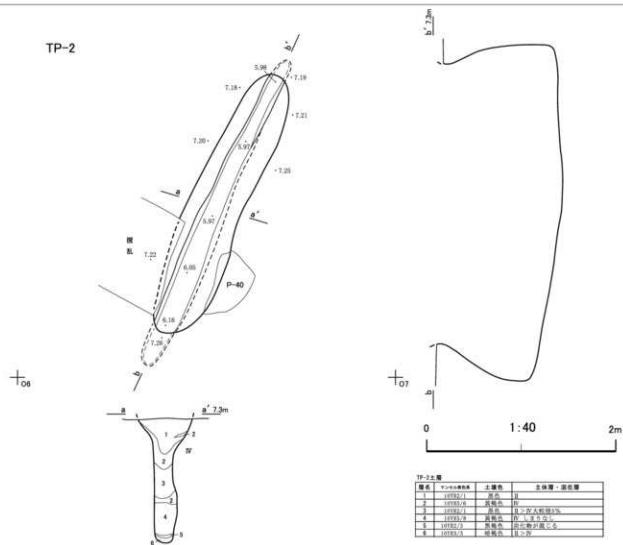
T P-2 (図III-94 図版53)

- 位置 N6 立地 標高7～7.5m付近の緩斜面
 規模 2.94×0.58/2.54×0.18/1.32m 平面形 長楕円形
 調査 削平されたIII層からIV層にかけての面で黒色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。底面は長軸の中心部分が深くなっている。長軸両端の壁は内側にすぼむが、緩斜面の下側の方が深く抉られる。側壁はほぼまっすぐに立ちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。P-40と先後関係は不明であるが、P-40覆土2層の分布を明瞭に確認できなかったのでTピットの方が新しい可能性もある。
 覆土 II～IV層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。ほかに、壁面の崩落なのか、IV層が塊状に分布する土層がある。また底面よりやや上に炭化物混じりの層が面的に広がっ



TP-1土層

層名	年代(推定)	土層色	土層層・埋藏層
1	10191/1	褐色	埋
2	10191/1	灰褐色	埋・IV
3	10191/4	灰褐色	IV
4	10191/8	褐色	埋・IV層上部
5	10191/8	灰褐色	埋・IV層
6	10191/1	褐色	埋・IV層中心部
7	10191/1	褐色	埋・IV層中心部及びIV層中心部
8	10191/8	灰褐色	埋・IV層中心部及びIV層中心部

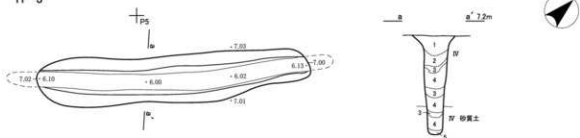


TP-2土層

層名	年代(推定)	土層色	土層層・埋藏層
1	10191/1	褐色	埋
2	10191/4	灰褐色	IV
3	10191/1	褐色	埋・IV層上部埋藏層
4	10191/8	灰褐色	埋・IV層中心部
5	10191/1	灰褐色	埋・IV層中心部
6	10191/1	灰褐色	埋・IV層

図III-94 TP-1・2

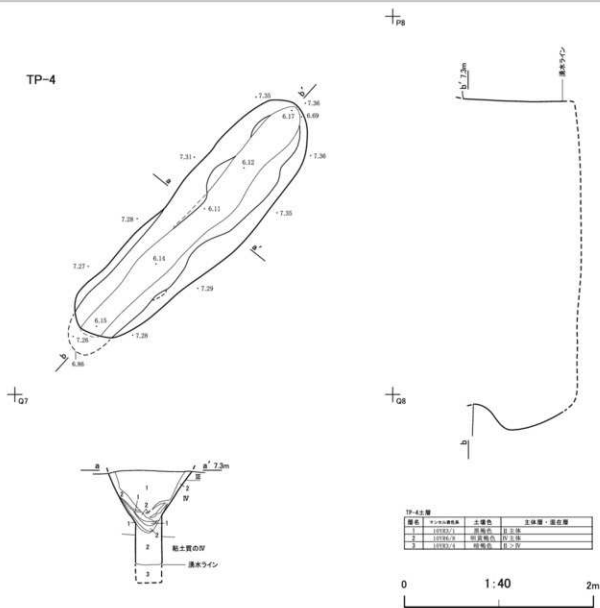
TP-3



TP-3土層

層名	コンクリート層番号	土層色	野外地層	相対性	厚さ	土層層・所在層
1	10132/2	赤褐色	層上	中	厚	柱・礎上IV
2	10132/2	赤褐色	層上	中	薄	礎上IV
3	10132/2	赤褐色	層上	中	厚	柱・礎上IV
4	10131/2	褐色	埋没層	中	1.2~3	礎上IV
5	10132/2	赤褐色	層上	中	厚	礎上IV

TP-4



TP-4土層

層名	コンクリート層番号	土層色	土層層・所在層
1	10132/2	赤褐色	柱・礎上
2	10132/2	赤褐色	IV土層
3	10132/4	埋没層	柱・礎上

図III-95 TP-3・4

ていた。自然に埋没したものとする。

遺物 II群b類土器6点、IV群a類土器34点、石鏃1点・礫、メノウや珪岩の礫が出土した。ただし、P-40の遺物が混在している可能性もある。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

TP-3 (図III-95 図版53)

位置 P4・5 **立地** 標高7m付近の緩斜面

規模 2.89×0.51/4.44×0.18/1.05m **平面形** 長楕円形

調査 削平されたIV層面で、細長い黒色土の堆積を確認した。中央部短軸に土層観察用ベルトを設定し、全体を掘り下げた。1m程掘り下げたところで底面と壁の立ち上がりを検出した。

覆土 底面に薄く黒褐色土が堆積し、その上部はIV層起源褐色土と黒褐色土の互層となる。自然に埋没したものとする。

遺物 IV群a類土器4点、フレイク10点、礫12点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

TP-4 (図III-95 図版53)

位置 P7 **立地** 標高7~7.5m付近の緩斜面

規模 3.26×0.90/3.46×0.32/1.20m **平面形** 長楕円形

調査 削平されたIII層からIV層にかけての面に黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状は視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、おおそ平坦であった。長軸南端の壁は内側にすぼむが、これは緩斜面の下側である。北端と側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 II~IV層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。自然に埋没したものとする。

遺物 I群b類土器1点、II群b類土器4点、IV群a類土器11点、頁岩フレイク65点、扁平打製石器1点、礫22点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

TP-5 (図III-96 図版53)

位置 R7・8 **立地** 標高7~7.5m付近の緩斜面

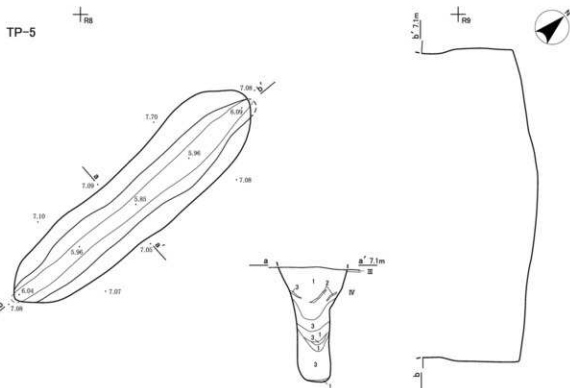
規模 3.20×0.70/3.3×0.14/1.20m **平面形** 長楕円形

調査 削平されたIII層からIV層にかけての面に黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。底面はおおよそ地表の緩斜面と同じ方向に傾く。長軸両端の壁は内側にややすぼむ。側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 流入したII~IV層によって構成される。自然に埋没したものとする。

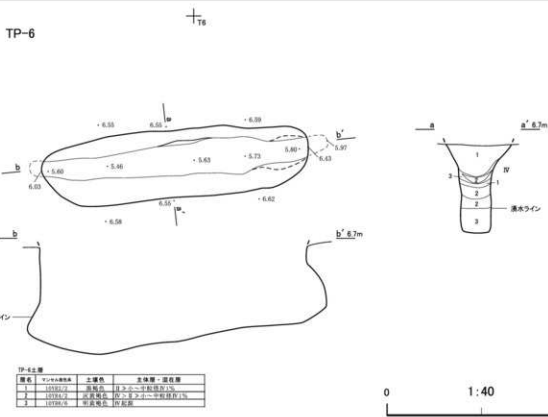
遺物 I群b類土器4点、II群b類土器10点、IV群土器64点、V群土器9点、石鏃1点、スクレイパー6点、Uフレイク2点、フレイク229点、礫26点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)



TP-5土層

層名	マテリアル番号	土層色	主体層・図名層
1	10752-2	黒褐色	2・3層
2	10760-9	緑色	地盤層
3	10751-9	灰褐色	10・11層



TP-6土層

層名	マテリアル番号	土層色	主体層・図名層
1	11332-2	黒褐色	2・3層・中層部(2/3)
2	11332-2	赤褐色	10・11層・中層部(1/3)
3	10750-9	灰褐色	10・11層

図III-96 TP-5・6

TP-6 (図Ⅲ-96 図版53)

位置 T5・6 立地 標高6.5m付近の緩斜面。

平面形 長楕円形 規模 2.82×0.70/3.14×0.34/0.92m

調査 削平されたIV層から黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状については視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、底面はおおよそ地表の緩斜面と同じ方向により強く傾く。長軸両端の壁は内側にすばむが、緩斜面の下側の方が深く抉られる。側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 II～IV層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。自然に埋没したと考える。

遺物 覆土中からII群b類土器16点、IV群a類土器19点、石鉄1点、スクレイパー2点、頁岩フレイク43点、石斧1点、礫21点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

TP-7 (図Ⅲ-97 図版53)

位置 T6・7 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面

平面形 長楕円形 規模 2.54×0.70/3.12×0.16/1.02m

調査 III層にて黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状については視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、底面は長軸に対して中心部分が深くなっている。長軸両端の壁は内側にすばむ。側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 II～IV層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。

遺物 覆土中からI群b類土器1点、II群b類土器12点、IV群a類土器8点、石核1点、フレイク71点、礫21点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

TP-8 (図Ⅲ-97 図版53)

位置 S6・7 立地 標高6.5～7m付近の緩斜面

平面形 長楕円形 規模 2.70×0.50/3.04×0.22/1.06m

調査 削平されたIV層にて黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状については視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、底面はおおよそ平坦である。長軸両端の壁は内側にすばむ。側壁はほぼまっすぐにたちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。

覆土 II～IV層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。

遺物 II群b類土器3点、IV群a類土器33点、スクレイパー1点、フレイク22点、礫29点が出土した。

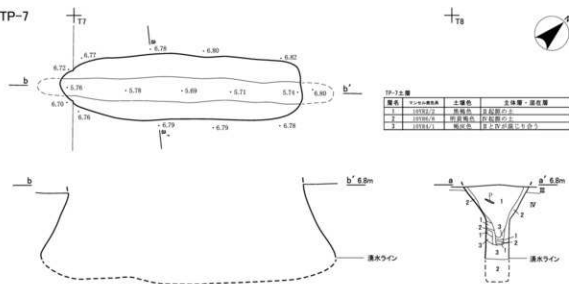
時期 確認状況から縄文時代と考える。(大泰司)

TP-9 (図Ⅲ-97 図版53)

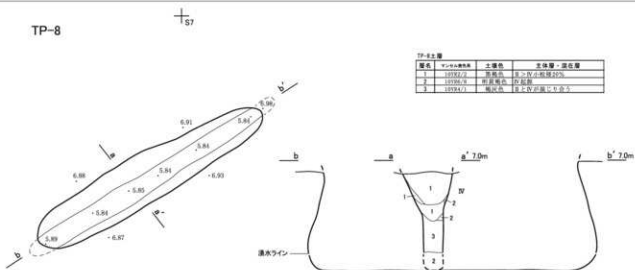
位置 U6 立地 標高6～6.5m付近の緩斜面

平面形 長楕円形 規模 2.50×0.40/2.84×0.32/0.80m

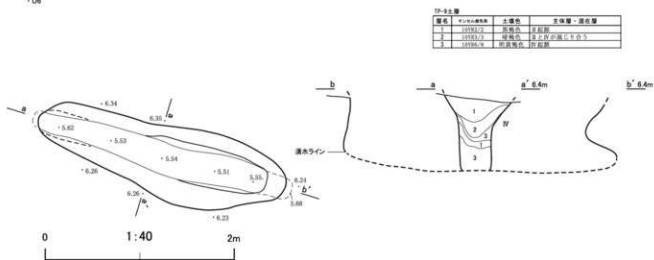
TP-7



TP-8



TP-9



図III-97 TP-7~9

調査 削平されたIV層にて黒褐色土の堆積を確認した。掘り込み面は確認面より上である。湧水が著しかったため底面全体の形状については視認できなかった。精査過程で、土の硬さによって確認したところでは、底面はおおよそ平坦である。長軸両端の壁は内側にすぼむが、緩斜面の下側の方が深く挟られる。側壁はほぼまっすぐに立ちあがる。短軸断面が漏斗状なのは開口部側が崩落したためと考える。深さについては典型的な例と比較してより浅い。途中で掘りやめるものもあるためその型の可能性もある。

覆土 II～IV層がそれぞれ流入あるいは混ざり合う土層によって構成される。

遺物 II群b類土器3点、IV群a類土器50点、フレイク13点、礫19点が出土した。

時期 確認状況から縄文時代と考える。

(大泰司)

5. 溝状遺構

溝状遺構 (図Ⅲ-98・99 図版54)

位置 U32～36/V36～38 **立地** 標高8.8～8.9mの緩斜面

規模 (27.2)×0.37/(27.2)×0.24/0.38m

調査 II層上面でB-Tm火山灰が30cm程の幅で帯状に堆積している部分を確認した。周辺を慎重に掘り下げていくと、火山灰の堆積は等高線に沿うような形で、調査区東端まで20m以上続くことがわかった。4か所に土層観察ベルトを残し、火山灰以下の覆土を全体に掘り下げていった。30cm程掘り下げたIII層～IV層上面中に底面が検出した。グリット34ラインより東側の底面では工具による掘削跡が連続して残っており、それより西側では柱穴列がみられた。覆土からは縄文土器や礫が少量出土した。

溝状遺構の西側のT31・32区は攪乱などですでにIV層まで掘り下げていた。IV層面を精査したが柱穴などの痕跡がみられないため、調査部分がほぼ西端になると考えている。東側は調査区外へさらに続いているようである。B-Tm火山灰下の覆土中出土の炭化材について放射性炭素年代測定を行った。

覆土 3～5層に分層した。覆土1は黄褐色のB-Tm火山灰で3～6cmの厚さで溝全面に堆積している。その下にはII層起源の黒色土が床面まで堆積する。柱穴MP-3周辺では黒色土の下部の底面近くにIV層主体の暗褐色土がみられ、柱穴の掘り方の土の可能性もある。

形態 溝の全長は27mを超える。溝はほぼ等高線に沿う形で2か所で緩やかに屈折し、東端では90度近く屈曲している様子が伺えた。溝の幅は25～37cm、深さは概ね30cmで、最も深いところで38cmである。底面は平らもしくは皿状に緩やかに湾曲し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

付属遺構 柱穴4か所(MP-1～4)を確認した。また底面では工具による掘削痕がみられた。

MP-1～4は溝の西端6m程の範囲で1.3m～1.7mの間隔で底面中央から検出した。底面から10～38cmほどの比較的深い柱穴である。MP-1・2・3は平面形が四角くなる。4本の柱の周辺には深さ3～5cmの浅皿状のくぼみが連続してあり、これらは深く設置された柱の間に充填するように置かれた柱跡の可能性もある。西端部分を除いては底面には鋤によると思われる掘削痕が残るのみである。掘削痕は明瞭で、刃先の角度や刃先の向きなどが捉えられた。

これらの状況や東北地方の類例から溝状遺構は柱を連続して立てるためのいわゆる「布掘り」で、西側部分では板罨が構築されたが、他の部分では板罨は設置されなかったと考える。

遺物 I群b類土器26点、II群b類土器6点、フレイク16点、礫73点が出土した。本遺構には関連しない。

時期 時期はB-Tm降下以前である。溝が埋まりきらないうちにB-Tm火山灰が堆積してい

ることから縄文文化期前半期と考える。

(愛場)

6. 焼土

焼土は5か所で確認した。F-1がH-1覆土中から検出した以外はⅡ層面での検出で、いずれも遺物は伴わない。立地・平面形・規模・時期は以下のとおりである。

F-1 (図Ⅲ-100)

位置 O18 立地 H-1覆土中央に位置する。規模 $0.97 \times 0.93 / 0.15\text{m}$
 平面形 円形 時期 確認状況から縄文時代早期後半と考える。(土肥)

F-2 (図Ⅲ-100)

位置 M6/N6 立地 標高7~7.5m付近の緩斜面 規模 $0.72 \times 0.24 / 0.10\text{m}$
 平面形 不整な楕円形がふたつ連続する。時期 確認状況から縄文時代と考える。

F-3 (図Ⅲ-100)

位置 N8 立地 標高7.5m付近の緩斜面 規模 $0.98 \times 0.65 / 0.06\text{m}$
 平面形 不整形 時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

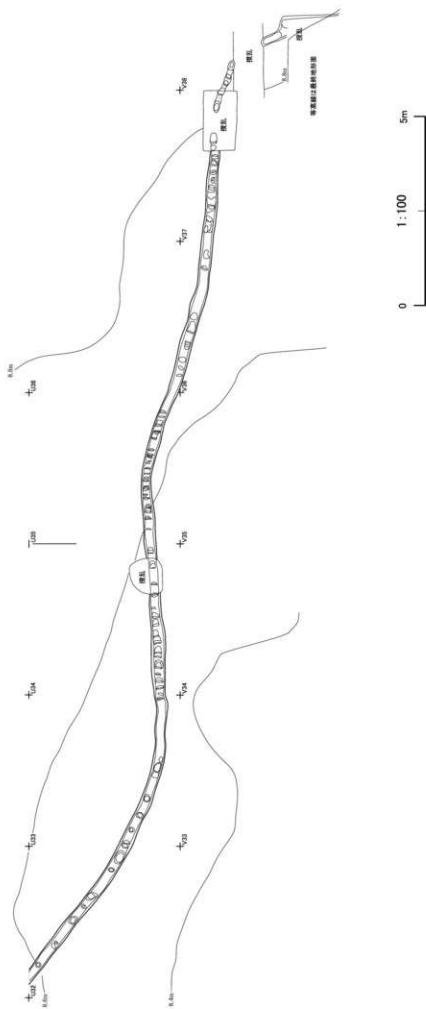
F-4 (図Ⅲ-100)

位置 J40 立地 標高約10.6mの平坦面
 規模 $0.45 \times 0.43 / 0.14\text{m}$ 平面形 円形
 時期 周辺の土坑群と同じ縄文時代早期か、あるいは周辺の住居と同じ縄文時代前期後半かどちらかの時期と考える。(新家)

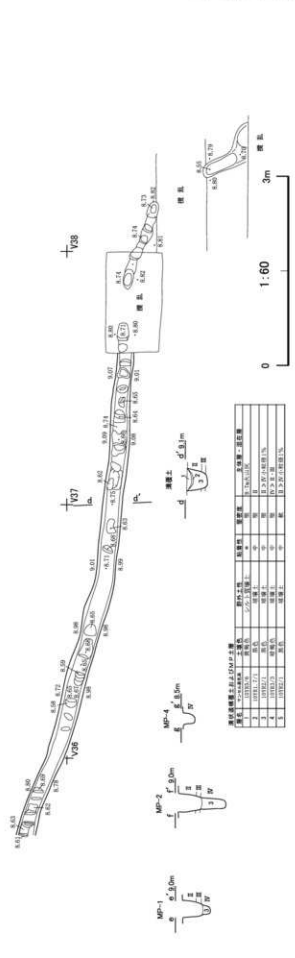
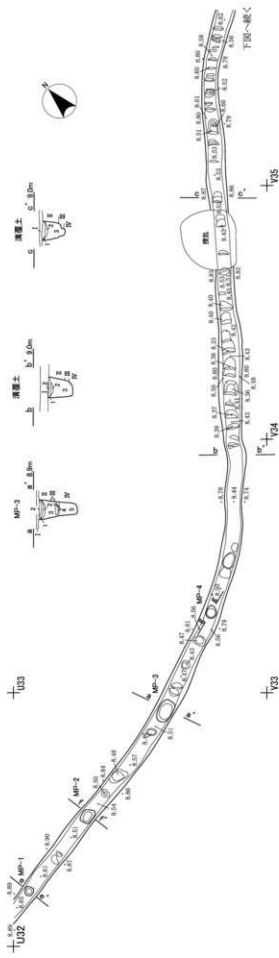
F-5 (図Ⅲ-100)

位置 Q36 立地 標高9.5m付近の緩斜面 規模 $1.46 \times (0.99) / 0.22\text{m}$
 平面形 不整形 時期 確認状況から縄文時代と考える。(愛場)

溝状遺構(全体図)



図III-98 溝状遺構(1)

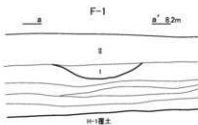
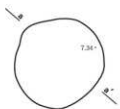


断面位置表

断面番号	断面位置	断面形式	断面形状
1	U32	U型	U型
2	MP-1	U型	U型
3	MP-2	U型	U型
4	MP-3	U型	U型
5	MP-4	U型	U型

図 III-99 溝状遺構 (2)

↑018 F-1



F-1土質

層名	マッシュルーム	土壌色	土壌層・遺存層
I	3191/4	12.5A1 赤褐色	

F-3



F-3土質

層名	マッシュルーム	土壌色	野付土質	粘着性	堅硬度	土壌層・遺存層
I	3191/0	赤褐色	礫石	中	強	段状層付土

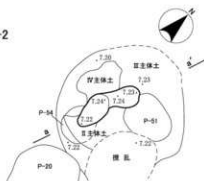
F-4



F-4土質

層名	マッシュルーム	土壌色	野付土質	粘着性	堅硬度	土壌層・遺存層
I	3191/1	暗褐色	硬質土	中	強	段・IVが透ける

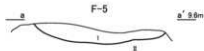
F-2



F-2土質

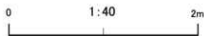
層名	マッシュルーム	土壌色	土壌層・遺存層
I	3191/2	赤褐色	
II	3191/3	赤褐色	

F-5

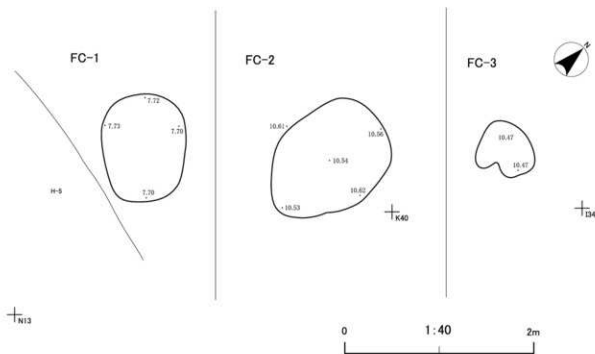


F-5土質

層名	マッシュルーム	土壌色	野付土質	粘着性	堅硬度	土壌層・遺存層
I	3191/9	暗褐色	硬質土・礫石	中	強	段状層付土



図III-100 F-1~5



図III-101 FC-1～3

7. フレイク集中

出土石器はすべて頁岩製である。時期は縄文時代で、FC-2はP-61上部出土、FC-3はH-9掘り上げ土直下の出土で、それぞれ縄文時代前期後半以前の時期である。

FC-1 (図III-101)

位置 M13 立地 標高7.7m付近の平坦面、H-5に近接する。

規模 1.14×0.89m

遺物 石槍またはナイフ片1点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー3点、石核2点、フレイク1,392点が出土した。

FC-2 (図III-101)

位置 J39・40 立地 標高10.6m付近の平坦面、P-61上位に位置する。

規模 1.43×1.07m

遺物 I群b類土器6点、II群b類土器5点、石鏃片1点、フレイク816点が出土した。

FC-3 (図III-101)

位置 H33 立地 標高10.5m付近の平坦面 規模 0.61×0.56m

遺物 両面調整石器1点、石核3点、フレイク58点、礫4点が出土した。 (新家・愛場)

8. 遺構出土の遺物

(1) 竪穴住居跡出土の土器・土製品

1～9はS H-1出土のⅣ群土器である。2は覆土出土で、その他は床面もしくはカマド焼土周辺から出土した。1・2は甕の底部から胴部の復原土器で、底部は張り出し、器面には輪積痕が残る。内外面はハケメ調整が施される。1の底部外面には、笹の葉脈痕がみられる。3～8は甕である。3・4は口縁部で、3は口唇断面が丸みを帯び、4は角型となる。5～8は胴部である。5は4と同一個体の可能性があり、調整様の浅い横位沈線文がみられる。6・7は輪積痕が残り、7の内面には炭化物が付着する。8は小型の甕の底部付近で、内面は黒色、外面はタテミガキが施される。9は坏の底部である。内黒で内外面ともミガキが施される。

10～14はS H-2出土のⅣ群土器である。10はカマド焼土近くの床面直上で出土した。小型土器で、器高6.8cm、口径10.7cm、底径4.3cmである。口縁部と胴部の間にはわずかながら段がある。口縁は図正面以外打ち欠かれているが、4波状となりそうである。外面はハケメ調整後、胴部を中心にミガキが施される。内面はハケメ、ナデ調整がなされ、上半部には口縁割れ口を含め炭化物が付着する。11は小型の甕で、器厚は2～4mmと薄い。内外面ともやや粗いミガキが施され、黒色を呈する。12・13は同一個体の坏である。器厚は4mm程で、段状の沈線文がみられるが、ミガキにより不明瞭となる。14は土製の紡錘車で、3.3cmと小型である。ヘラ痕ともとれる粗雑な沈線文が描かれる。

15～18はH-1覆土出土のI群b-1類土器である。15はやや外反する口縁部で、無文地に縄線文が施される。16は横位の絡条体瓦痕文の他、半円形の浅い刺突文がみられる部分がある。17・18はやや張り出しがみられる底部である。縄文は斜行もしくは横直気味となり、底部外面にも施される。15は東銅路Ⅱ式相当土器、16は東銅路Ⅲ式土器である。

19～23はH-3覆土出土のI群b-1類土器である。19～21は内面に凹凸が残り、器厚が一定しない。19は口唇部がやや肥厚し、内外面にL R原体による縄文が施される。内面は縦位となる。20は撚糸文が施文される。21は細い綾絡文が4条みられる。22・23は東銅路Ⅲ式土器。22は底部で、側面に縦位の縄端瓦痕文が押捺される。胴部は同一原体での羽状縄文となる。23は再生土製円盤未成品、片側からの穿孔を途中でやめている。

24～28はH-4覆土出土のIV群a類土器である。24は直径約4cmの深鉢底部で、割れ口は平坦に調整されており、この大きさに意図的に割られた可能性がある。多条のR L原体による縄文が施文され、内面には炭化物が付着する。25は2条の貼付帯上に縄線文が巡り、貼付間はナデられる。26・27は無文地に沈線文が施文される。26は縦の蛇行文、27は雷文などが描かれ、一部に細い縄文がみられる。28は底部付近で、細い無節の縄文が縦位に施される。

29はH-5覆土出土のII群a類土器で、口縁部に押し引き文が3条巡り、L R原体の縄文が縦行する。

30～32はH-6覆土出土のIV群a類土器である。30は折り返し口縁となる。31は小型の鉢形土器で、沈線文と細い縄文が施文されている。32は深鉢の底部付近で、細い綾絡文が縦に施される。

33～39はH-7覆土出土のII群b類土器である。33は円筒土器下層d1式で、器高37cm、口径21cm、底径11cmの筒型の深鉢である。口縁は緩やかな4波状で、底部は中央がやや窪み、上げ底となる。口縁部文様帯は2cm程で縄線文、羽状縄文が施される。胴部は自縄自巻の原体による施文で、下半では節がはっきりしない原体が使用される。34～39は円筒土器下層b～c式と考える。34～37は、いずれも口頸部に撚糸文が横走する。34・37は単軸絡条体6A類で、34は断面三角形の隆帯があり、胴部は反撚・正撚の合撚の原体による縄文である。35は床直上出土である。38は薄い隆帯を挟んで上に一条、下に2条の平行沈線があり、貼付上には斜めに刺突様の沈線が施される。39は直径6cm程の上げ底の

底部である。

40~43はH-8出土のII群b類土器である。40は円筒土器下層d 2式で、底部が床面出土であるが、主体は覆土中出土である。胴部上半から口頸部へかけ張り出し、口縁部は4波状で開く器形となる。波頂部は窪み双頭状となる。口唇断面は三角形で、縄による縦キザミが入れられる。口頸部には無文地にLR原体を折り返して2本1組とした縄線文、胴部にはLR原体の斜縄文が施される。41~43は床面出土で、円筒土器下層b~c式と考える。41・43は同一個体で、口径40cm以上の大型の深鉢になりそうである。口頸部には絡糸体圧痕文が横位に7条施され、その下に薄い隆帯が巡る。胴部は捻糸文で、底部付近では縦位、斜位に施され、網目文状になる。42は摩耗するが、口縁直下に縄線文が確認できる。

44~57はH-9出土のII群b類・III群a類土器である。44がHP-11坑底から出土した以外は、覆土中出土で、覆土上位からは円筒土器下層d 2式~円筒土器上層a式にかけての土器がまとめて出土した。

44~46・56は円筒土器下層d 1式と考える。44・45は胴部がやや膨らみ、口縁が開き気味となる器形で、胴部には縄文が施される。いずれも摩耗が激しく文様がはっきりしないが、44は縄線文・結束羽状文、45では3条の縄線文が確認できる。46は器高15cm、口径14cm、底径7.4cmで、斜めに開く器形となる。縄線文、結束羽状縄文、捻糸文が施文される。底部は上げ底となる。内面はヘラ状工具でミガキ調整が行われる。56はやや上げ底の底部で、胴部と底部外面に捻糸文が施される。

47~51・53・55は円筒土器下層d 2式である。多くは口縁部が強く外反し、底部から口縁部にかけてまっすぐ(48)、もしくは斜めに直線的にひろがる(50・51・52・55)筒型となる。胴部がやや張り出す(47・49)ものもある。口縁部は4波状(48~52)が多く、双頭の突起(49・52)や四角形の突起(51)があるものがある。口頸部文様帯には折り返して2条1組とした縄線文(47・49)、撚りの違う原体による矢羽状縄線文(51・52)、絡糸体圧痕文(50・53)が数条横位に施される。胴部地文は縄文、捻糸文、多軸絡糸体回転文がある。内面や底部外面はいずれもよく磨かれており、底部外面は中央がやや窪み、無文となるものが多い。

47は平縁で1か所のみ突起がある。縄線文が横位、縦位に施される。口唇はヘラ状工具によるキザミが突起部以外全周する。胴部は捻糸文か。49は推定で器高45cm、口径34cm、底径15cmである。底部付近の破片2点は、H-10覆土からの出土である。LR原体による縄文が施され、口唇には細いキザミが入れられる。50は推定で器高32cm、口径21cm、底径11cmである。薄い隆帯と口唇には縄端の圧痕文がみられる。器面は摩耗が激しく、胎土の角礫が露出する。51・53・55は多軸絡糸体の回転文がなされる。51は口唇にも回転文が施される。53は絡糸体圧痕文と刺突列、55は貼付上と口縁に縄線文、刺突列が施される。

52・54は円筒土器上層a式とした。いずれも縦位の貼付をもち、撚りの異なる原体による矢羽状縄線文、胴部には縄文が施される。52は器高43cm、口径33cm、底径15cmで、底部から口頸部まで斜めに直線的にひろがる。口縁部は開き、4波状となる。波頂部は双頭となり、その内面は、つまみだされたような形状になる。頂部からは縦位の貼付が垂下し、その貼付下位には四角形の貼付が付帯する。口頸部と胴部の間は、内面からの成形により張り出しており、外面からは隆帯にみえる。文様は縄線文、刺突文が施される。54は4波状で、ボタン状の貼付がある頂部と、器内面から2本の貼付が垂下する頂部がある。波頂部下の胴部には、縦位に縄線文が施文される。57は土器片再生円盤である。

58・59はH-10出土のII群b類、円筒土器下層d 1・d 2式である。58は縦位貼付がはがれた跡がある。口頸部には矢羽根状の縄線文が施され、上から3条目のみ矢羽根の向きが逆になる。胴部は多

軸絡糸体回転文が施文される。59は横位撚糸文、刺突文、結束羽状縄文が施される。

60～62はH-11出土で、60は円筒土器下層d1式、61は円筒土器上層a式か。61は縄線文、縄端圧痕文が施される。62は床面出土で、綾絡文が縦位に2条みられる。

63はH-12出土のⅡ群b類土器胴部、結束?の羽状縄文がみられる。

64はH-13出土で、R原体による縄線文と縄文がみられる。Ⅰ群b-1類土器か。

65～70はH-14出土のⅣ群a類土器である。65・66は床面、床直上出土で、それ以外は覆土中出土である。65は胴部に貼付帯が2条巡り、貼付後に縄文が施されている。66・68は縄線文が施されるもの。66は口唇直下の貼付帯上に縄線文が施される。68は広く剥落するが、3条の平行縄線文が確認できる。67は縄文が縦位に施文される。69・70は胴部から底部までの破片で、開きの少ない細長い器形となる。69は多条LR原体の縄文で、底部付近ではRL原体による縄文も一部みられる。70は底側面がやや張り出す部分があり、上げ底となる。

71～74はH-16出土のⅣ群a類土器で、72～74は床面出土である。71は内外面に横位のミガキ調整がみられる。72は尖り気味の口縁でRL原体の縄文が斜行、横走する。73は細い縄文が施される。74は底部付近の破片で、内外面にハケメ痕が残る。

75～77はH-17覆土出土である。75・77はⅣ群a類土器、76はⅢ群b類複林式か。75は口唇角型で、縄端の圧痕文?が2条施される。

78・79はH-18出土のⅣ群a類土器である。78は波状口縁で複節縄文が施文される。79は口縁に無文部があり、口唇は折り返し状となる。

80・81はH-19覆土出土のⅠ群b-1類土器である。80はRL原体による縄文が施され、内面は横位、斜位に調整痕がみられる。81は底部縁がリング状に高まる。

82～102はH-20出土のⅠ群b-1類土器である。83・85・93・98は床面・床直上出土で、その他は覆土出土である。東鋼路Ⅱ式土器に相当する土器群である。

82は床面から5cm程上の覆土中から横倒しの状態で潰れて出土した。器高33cm、口径30cm、底径7cm程で、口径と底径の差が大きい深鉢土器である。口縁部はやや開き、平縁だが縄端の押捺により小波状気味となる。底部は張り出し、底面は周縁が貼付のよりリング状に高まる。口縁から胴部にかけてはR原体の縄端回転文が5条横環する。同様の文様は胴部下半部にも2条施され、その条間には幅3cm程の縄線文が間隔をあけて施文される。縄文はR原体の無節斜行縄文が施されるが、一部横走気味をなす部分もある。底部外面には縄端圧痕?がみられる。器内面は条痕が一部みられるが概ねナデによる調整で、凹凸を残す。胎土には砂粒、垂角礫が多く混じる。83は床面出土で、底部から胴部の復原土器である。底部から胴部に向け斜めに広がる器形で、底面は周縁がリング状に高まる。胴部・底部外面には、LR原体による縄文が斜行、横走する。器内面は条痕が一部みられるが、概ねナデによる調整で、凹凸を残す。胎土には砂粒が多く混じる。

84～89は縄線文が施される。縄線文は平行(85・86・88・89)、斜め(84・87)、縦位(86)のものがあり、84では同一原体を用いた縄端圧痕文が条間に施される。内面は横位の調整痕(84)、縄文(86)、調整が不明瞭で凹凸が残るもの(85・87・88・89)がある。84・88は同一個体で、RL原体による縄線文、縄端圧痕文、縄文が施される。縄文は縄端を意識し横位に回転させ、やや段状となる部分があり、施文の方向を変え切り合う部分もある。88では無文地と縄文地の間に全周しない縄線文がみられる。85は綾絡文が数条みられる。縄文は口縁部では斜行、綾絡文の下は切り合っている。口唇には縄によるキザミが入れられる。90は押し引き文と刺突文がみられるものでⅡ群a類土器の可能性もある。

91～98は縄文が施される。斜行縄文(91・95・96)を基本とするが、施文の方向を変え切り合う(93・94・97)ものがある。92は口唇(93～97)、内面(94・96)にも縄文が施される。91は口径11cm程の小型土器である。92は口縁無文部に斜めに原体を置いての縄文施文を繰り返して、文様を構成する。93は綾絡文が数条みられ、口唇にはR原体による縄文が施文される。内面には横位調整痕が残る。94は胎土に5mmから2cm程の砂粒が多く混じる。97は口唇がやや肥厚する。98は底部付近で、張り出しのある底部となりそうなものである。

99～102は底部である。99～101は底部外面周縁がリング状に高まるもので、底面には縄文が施される。100は高台が高く、102は底部外面が平らで、比較的底面の厚みがある。

103・104はH-21覆土出土のI群b-1類土器で、103には綾絡文、104には斜位の縄線文がみられる。

105～108はH-22出土のII群b類土器、円筒土器下層b～c式である。105・106は隆帯があり、口縁部が大きく開く器形となる。105は口頸部に捻糸文施文後、ナデやヘラ状工具による横位調整をして、縦位の縄線文を施している。106は不整の綾絡文、107は合摺の原体による縄文が施文される。108は縄文が施される直立気味の底部である。

109～113はH-23覆土出土のII群b類、円筒土器下層c式である。109は器高31cm、口径28cm、底径16cm程、底部から口縁にかけ斜めに広がる器形で、口縁は4波状となる。隆帯には棒状工具による斜め横からの刺突文が施される。口頸部には不整の綾絡文、胴部と底部外面には捻り戻し原体による縄文が施文される。110は胴部から口頸部にかけわずかに斜めに広がり、ややくびれて口縁部が開く器形である。口縁は4波状で口縁断面は丸味をもつ。複節の斜行縄文が施文される。111は不整の綾絡文と縦位沈線文が施される。112は無文地、113は複節縄文地に縄線文がそれぞれ施される。

114～115はH-24覆土出土のII群b類土器である。114は絡条体圧痕文がみられる。115は貼付帯のある胴部で、捻糸文が施される。116はH-25覆土出土のII群b類土器である。摩耗がはげしいが縄線文、捻糸文が確認できる。

117・118はK54区II層出土のものがほとんどであるが、H-27覆土出土の土器片が2点接合したためH-27出土として扱った。II群b類、円筒土器下層b～c式と考える。117・118は同一個体で、口縁部には無文地に網目状捻糸文、胴部には多軸絡条体回転施文がみられ、底部は上げ底となる。

119・120はH-28覆土出土のII群b類土器である。口縁部は無文で、やや開き気味となる。

121～123はH-29覆土出土のII群b類土器である。121は円筒土器下層d1式とした。器形は器高35cm、口径28cm、底径13cm程で、筒形で口頸部がややくびれて開く器形である。口頸部文様帯は5cm程度で横走する捻糸文地に縄線文が上から2条・1条・3条と施される。胴部と底部外面には捻り戻しの原体による縄文が縦行する。122は覆土下部出土で、捻糸文が施される。123は底部で摩耗が激しい。

(2) 土坑・Tピット出土の土器・土製品

1・2はP-1出土のI群b-4類土器、3はP-3出土のII群b類土器胴部である。4はP-10出土で、器厚が3～4mmで、口唇に縄側面の押捺がある。I群b-4類土器か。

5はP-14出土のII群b類土器で、文様ははっきりしない。胎土には繊維が多く含まれる。

6はP-11出土のIV群a類土器である。口縁直下に薄い貼付帯が巡り、多条LRの原体を貼付上では横位、それ以外では縦位に施文する。

7はP-17出土のII群b類土器で、捻糸文が施される。胎土には繊維・砂粒が混じる。8はP-19出土のIV群a類土器で、同一の破片が27点出土している。口縁部は肥厚し、波状となり、LR原体による縄文が横走する。

9はP-20、10はP-22、11はP-23、12はP-24出土のⅡ群b類土器である。9・10には燃糸文、11は撚り戻し原体による縄文が施される。13はP-26出土のⅣ群a類土器である。14はP-28出土のⅡ群b類土器で、摩耗により文様は不明である。

15-17はP-31出土のⅣ群a類土器である。15・16は無文部、17は綾絡文と羽状縄文が施される。

18-32はⅡ群b類、円筒土器下層b-c式である。18・19はP-33出土の胴部と底部で、底部外面には縄文が施される。20・21はP-39出土で、20は隆帯、21には燃糸文がみられる。22はP-40出土で、合燃の原体による縄文が施文される。23・24はP-42出土の胴部と底部である。25はP-45出土で不整の綾絡文が施される。26はP-46出土、27はP-47出土、28はP-50出土である。28は結束羽状第1種である。29・30はP-59出土で、同一個体である。燃糸文が口頸部では横位、胴部では縦位に施文される。底部は上げ底となる。31はP-60出土で、燃糸文が施文される。32はP-61出土で断面三角形の隆帯がある。

33-39はⅠ群b-4類土器である。33はP-68、34はP-71、35はP-72、36はP-75、37はP-77、38はP-78、39はP-79出土である。33・36には絡糸体圧痕文、38・39には自縄自巻LRとLL原体による羽状縄文が施文される。

40はP-84出土のⅠ群b-1類土器で、内外面にRL原体による縄文が施される。41はP-87出土のⅠ群b-3類土器で、細い縦位の貼付や絡糸体圧痕文が確認できる。

42-46はP-89出土である。42・43・45は円筒土器下層a-b式、44・46は春日町式土器である。42は直線的に開く器形で、口縁部と胴部に横位に綾絡文が数条施される。地紋はLR原体による縄文である。43は断面三角形となる隆帯があり、撚り戻し原体による縄文が施される。45は胴部に反燃・正燃の合燃の原体による縄文が施文される。底部には細い格子状の沈線文が描かれる。44・46は押し引き文が施される。44は縄文施文後、横位、縦位に押し引きされ、一部沈線状になる部分もある。46は尖底部である。

47はP-94出土のⅠ群b-3類土器である。

48はP-96覆土出土のⅠ群b-4類土器である。器高27cm、口径30cm、底径4.5cmで、口縁は2突起となる。口縁部は縄線文で幾何学文が描かれ、胴部は撚りの違う原体による羽状縄文が施文される。底面は小型でやや窪む。49はP-98出土のⅡ群b類土器の胴部である。

50・51はP-99出土の円筒土器下層b式である。50は坑底から5cm程上位で横倒しで出土した。器高約24cm、口径18cm、底径10cm程の筒形で、断面形が三角形の隆起帯が巡る。口頸部はLR原体の縄文、胴部および底部は反燃・正燃の合燃りの原体により縄文が施文される。内面は剥落、摩耗し、胎土に繊維が多く混じる。51は緩やかな波状口縁となりそうで、隆帯上は指頭による圧痕文がみられる。

52-55はP-100出土のⅡ群a類土器である。52は縦位押し引き文がある尖底部で、上位にはRL原体による縄文が施文される。53・54は平縁で、縄文が施文される。53は口縁から胴部まで多条LR原体を横位に、それより下位は縦位に施文する。54は多条LR原体を横位、縦位に交互に施文し、羽状としている。55は横位の押し引き文がみられる。

56・57はP-101出土のⅣ群a類土器で、56は沈線文間に櫛状工具による細い沈線が充填する。

58-60はP-102出土のⅠ群b-3類土器である。58は微隆起間に調整痕が残り、一部絡糸体圧痕文が施される。60は底部で微隆起間は縄面圧痕文が施される。微隆起に沿って縄線文が施される部分もある。

61-72はP-104出土のⅠ群b-1類、東鋼路Ⅱ式相当の土器である。65-68・71は底面から出土した。61・62は無文地に縄線文が施されるもので、61はやや撚りのゆるい縄線文が施される。63-65

は綾絡文が施文されるものである。64は綾絡文のみがみられる。65は綾絡文間にRの無節縄文、それ以外はLR原体による縄文が施文される。66～69は縄文が施されるものである。斜行縄文(66～68)・縦行縄文(69)がある。68は斜行縄文が一部縦気味になる。口縁はややゆるがるが概ね平縁である。内面はヘラ状工具で調整される。70～72は底部である。いずれもLR原体による斜行縄文が施文される。70は底部側面に縄頭の縦位圧痕文が押捺される。底部外面は平らに調整され無文である。71・72は底部外面周縁が貼付により高くなる。

73～75はP-105出土のI群b-1類、東銅路Ⅱ式相当の土器である。73は波状口縁に沿って無文部に縄線文が施される。胴部縄文は縄端を意識して横位回転し、段状になる。74も縄端を意識し、横位、縦位に施文される。75は縄線文間に2又の工具による刺突文が施される。

76～78はP-107出土のⅡ群a類土器か。いずれも縄文のみが施され、76・78には内面にも縄文がみられる。76は胴部が張り出し。口縁部がややくびれる器形となる。平縁で、口唇は縄文施文後なでられ、文様が不明瞭となっている。77・78は燃りの違う原体による羽状縄文となる。78は切り合いが激しい。

79～92はP-108出土のI群b-1類、東銅路Ⅱ式相当の土器で、79・80は縄文のみが施される復原土器である。79は器高28cm、口径26cm、底径5.6cm程の深鉢形土器で、底部から胴部まで大きくひろがり、口縁部にかけてやや直立気味になる。全体にややゆがむ。LR原体による縄文が斜位、縦位に向きをかえて施され、口唇や内面口縁部付近にも縄文がみられる。内面は指頭による凹凸が残り、胴部から底部は横位に条痕がみられる。胎土には砂粒が混じる。80は器高13cm、口径約16cm、底径は約6cmの小型の鉢形土器である。多条LR原体による縄文が斜行するが、一部横走気味となる部分もある。底部外面や内面全体にも縄文が施される。

81～87は縄線文が施されるもの。81は隆帯があり、その上下に平行して縄線文が施される。隆帯上は縄頭圧痕文が施文される。口唇は棒状工具先端でのキザミが入れられ、小波状気味となる。82は燃りの緩い縄線文がみられる。83は多条の原体による平行、斜行の縄線文と縄頭圧痕文が施文される。口唇と胴部には同じ原体による縄文が施される。84はやや波状となる縄線文が施文され、胴部、口唇部、内面に縄文が施される。85・86は斜位の縄線文がみられる。87は縄線文により円弧状の文様が描かれる。縄線間は2又の工具による刺突文が充填される。

88は平組紐の端部および側面の圧痕文がみられる。89は綾絡文が施文される。

90～92は縄文が施されるもの。90・91は縄端を意識し、やや段差ができるものである。92は内面にも縄文があり、口唇には縄側面が押捺される。

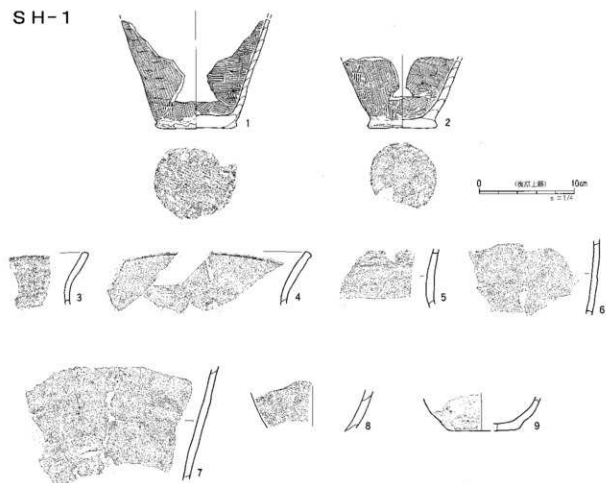
93はP-111出土のI群b-4土器、94はP-112出土のI群b-4類の土器片再生土製品である。

95～105はP-113出土のI群b-1類、東銅路Ⅱ式相当の土器である。95～97は縄線文が施される。95は平行、斜行、波状の縄線文により文様が構成され、縄線文下には斜位の縄頭圧痕文がみられる。胴部には綾絡文、太さの違う原体を合わせたRL縄文が施文される。97は平行、斜行、縦行、円弧状のLR原体による縄線文により文様が描かれる。明瞭ではないが渦巻き状となる部分もある。98・98は同一個体で綾絡文が数条みられるものである。100～102は縄文のみのもので、いずれもRL原体による縄文が施される。101は縦行縄文となり、内面にも1cm程の幅で縄文がみられる。103～105は底部で、側面がやや張り出す。103・104は底部外面周縁に高まりがあり、上げ底となる。104の内面には指頭痕が複数残る。105は底部外面が平らに調整される。

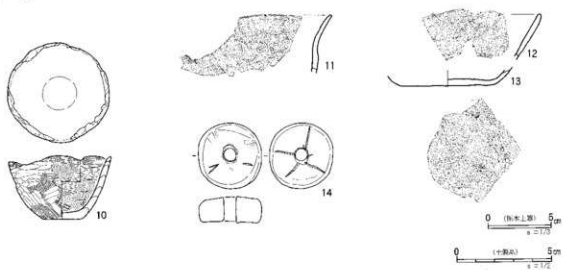
106はP-116、107・108はP-117、109はP-118、110はP-129出土のI群b-4類土器である。

111はP-131出土のI群b-1類土器で、摩耗するが、RL原体による縄文を、向きを変え施文し

SH-1

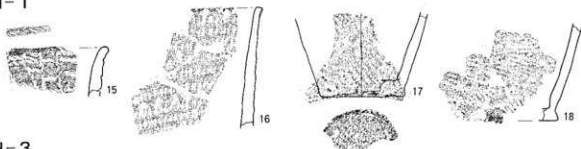


SH-2

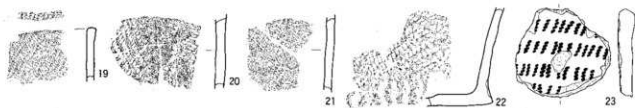


図Ⅲ-102 SH-1・2出土の土器・土製品

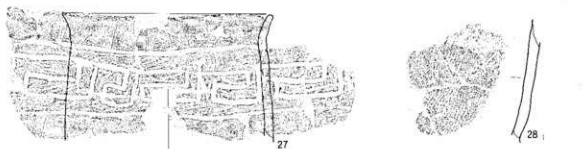
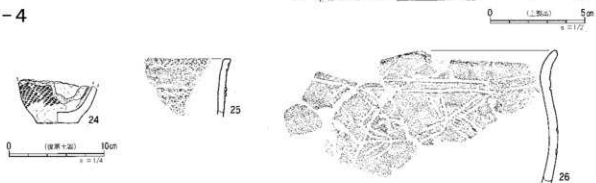
H-1



H-3



H-4



H-5



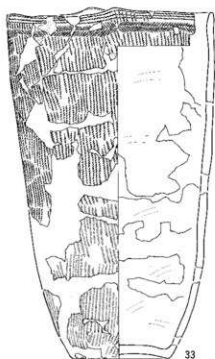
H-6



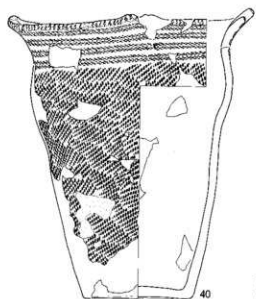
0 (5cm) 5cm
x=1/2

図III-103 H-1・3～6出土の土器・土製品

H-7



H-8



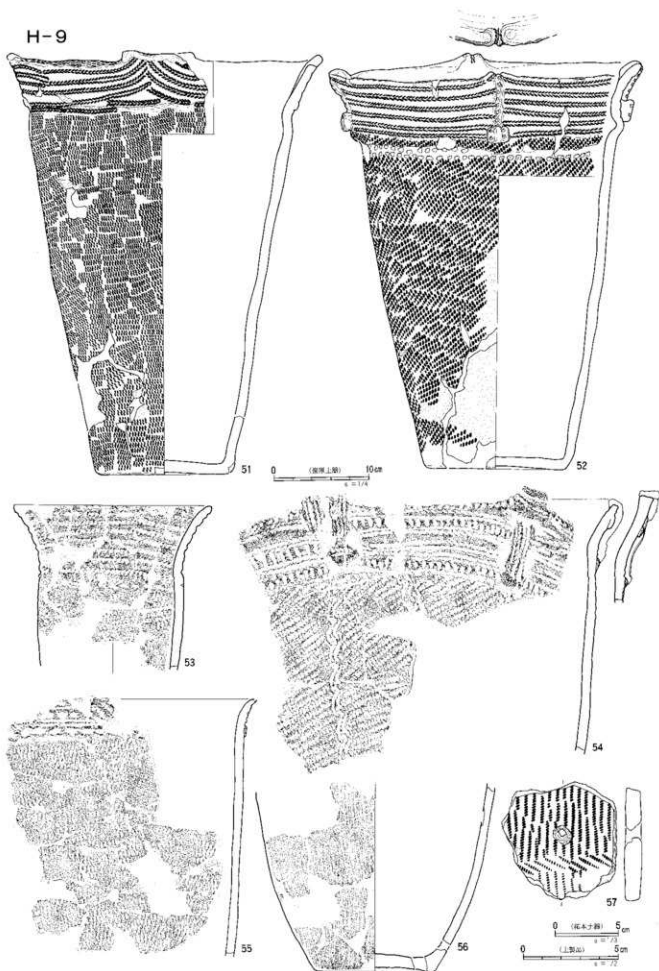
図Ⅲ-104 H-7・8出土の土器

H-9



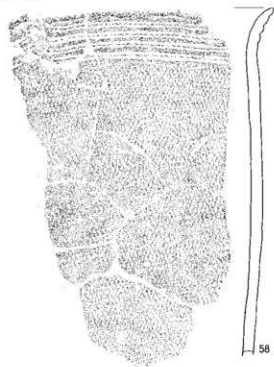
図III-105 H-9出土の土器(1)

H-9

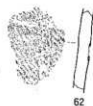


図Ⅲ-106 H-9出土の土器(2)・土製品

H-10



H-11



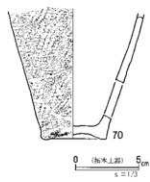
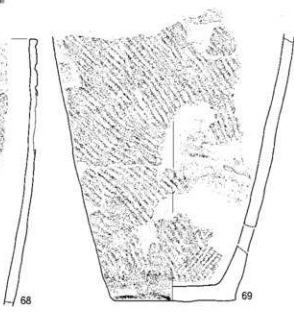
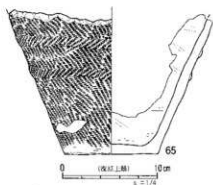
H-12



H-13

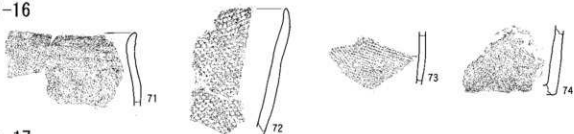


H-14



図Ⅲ-107 H-10~14出土の土器

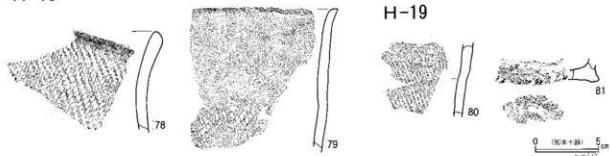
H-16



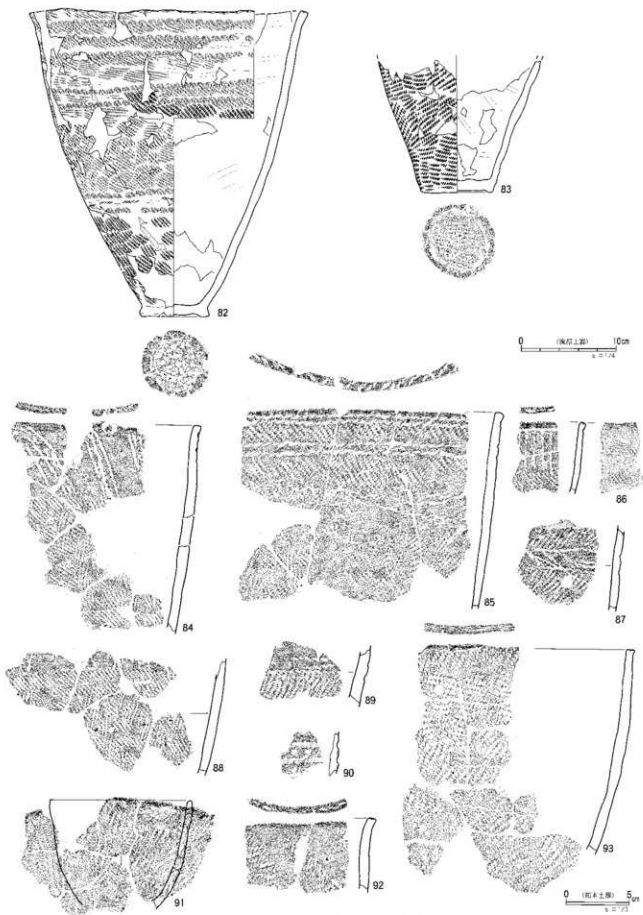
H-17



H-18

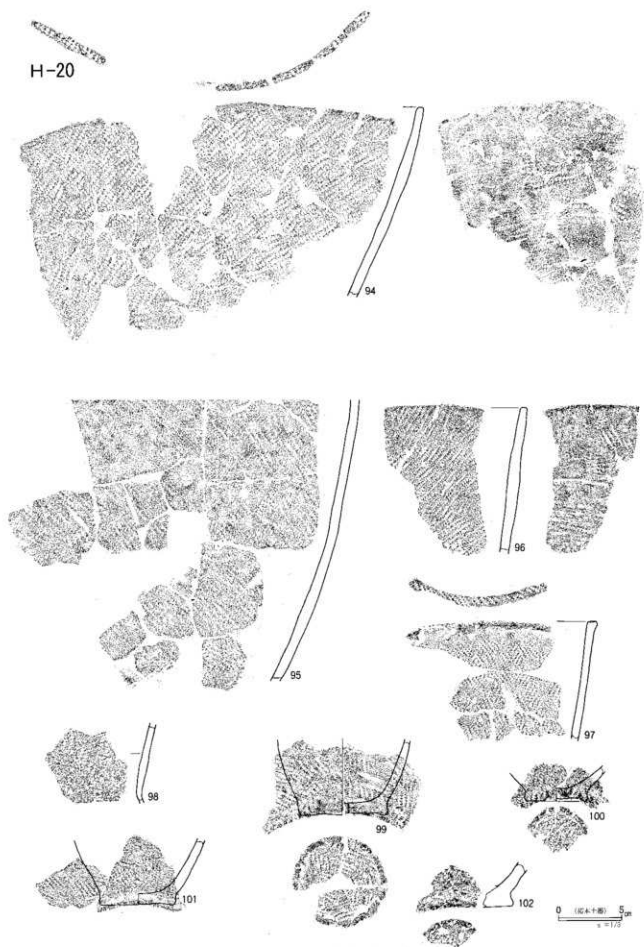


図Ⅲ-108 H-16~19出土の土器



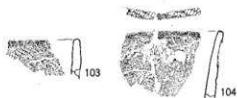
図III-109 H-20出土の土器(1)

H-20

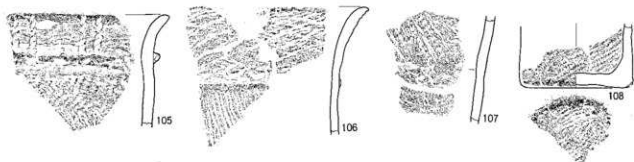


図Ⅲ-110 H-20出土の土器（2）

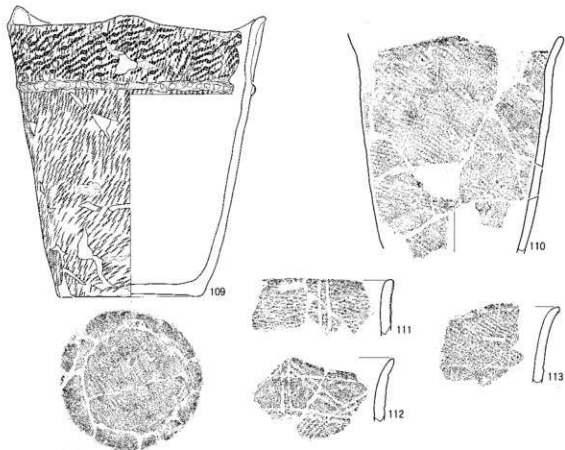
H-21



H-22



H-23



H-24

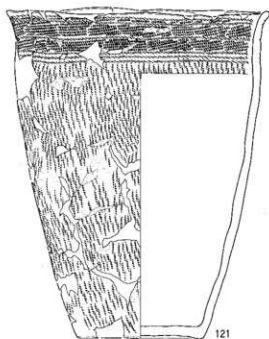


H-25

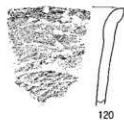
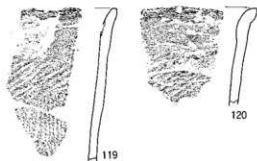


図 III-111 H-21~25出土の土器

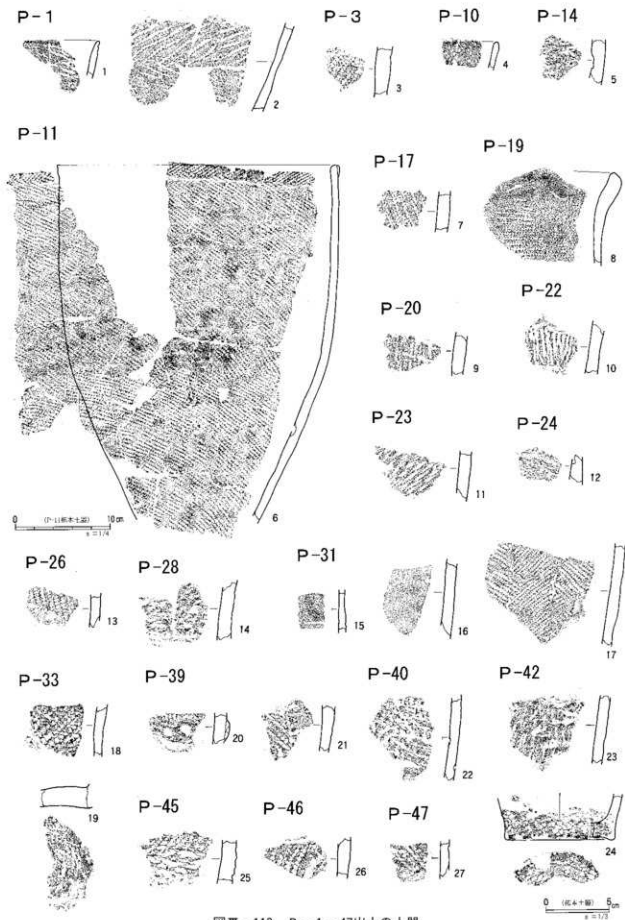
H-27



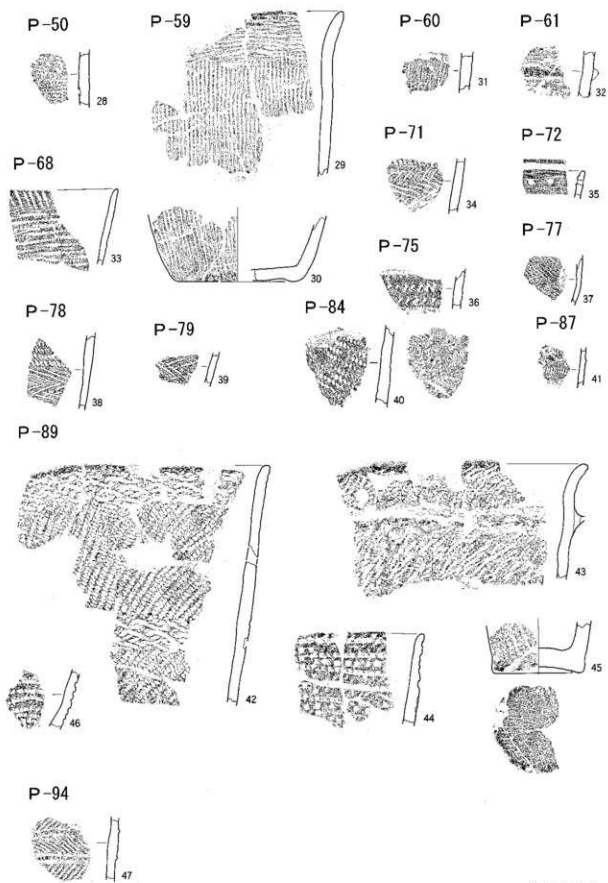
H-28



図III-112 H-27~29出土の土器

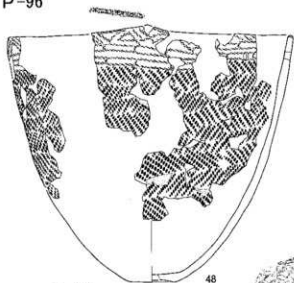


図III-113 P-1~47出土の土器

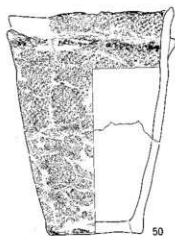


図Ⅲ-114 P-50~94出土の土器

P-96



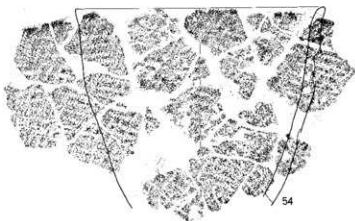
P-99



P-98



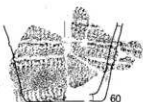
P-100



P-101



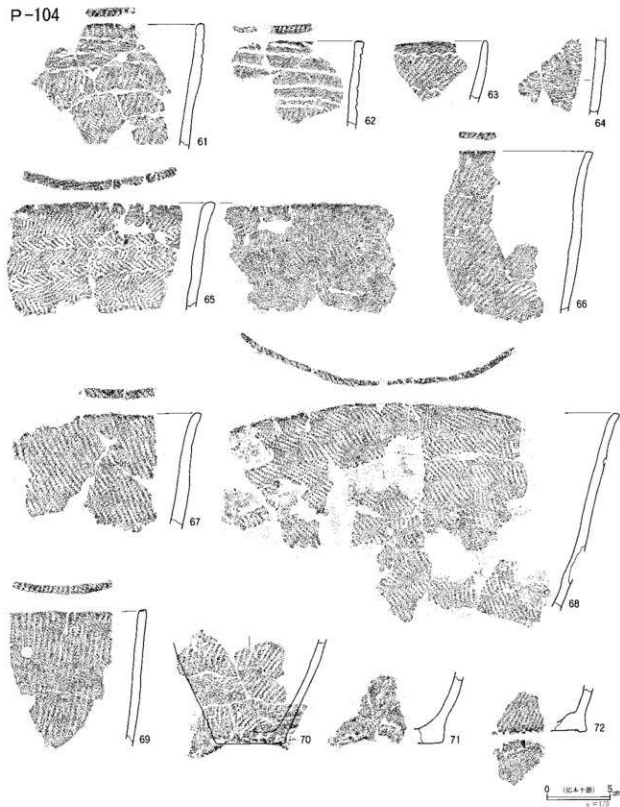
P-102



0 (縦身土層) 10cm
0 (底面土層) 5cm

図III-115 P-96~102出土の土器

P-104

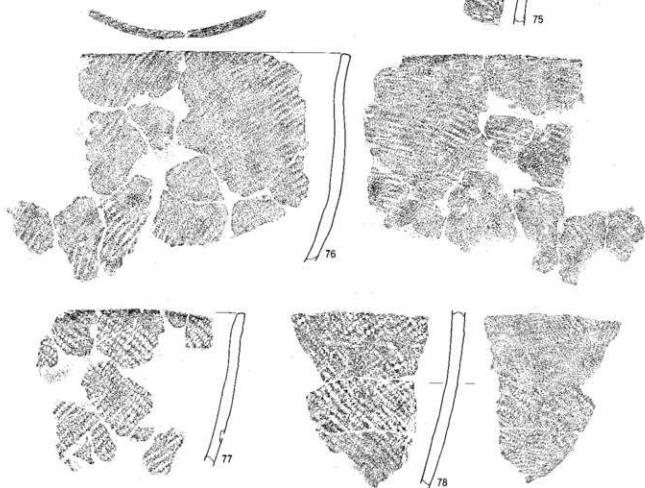


図Ⅲ-116 P-104出土の土器

P-105



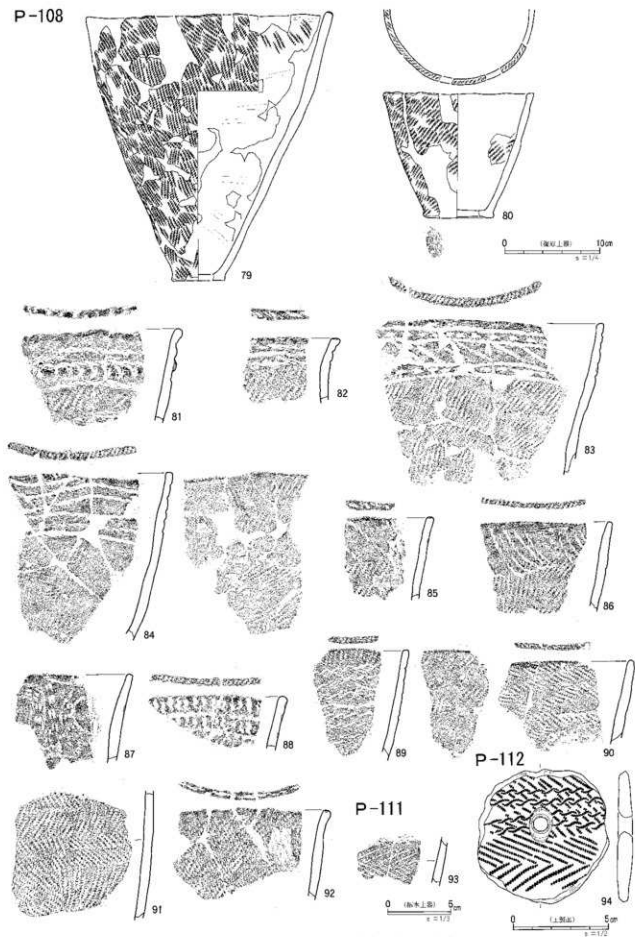
P-107



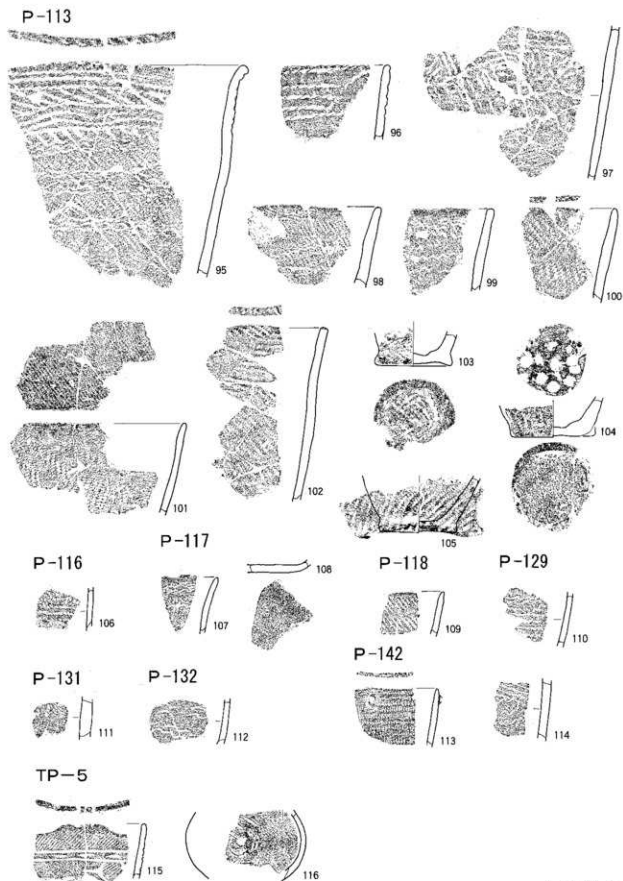
0 (縦本+面) 5cm
1/1.25

図III-117 P-105・107出土の土器

P-108



図三-118 P-108・111・112出土の土器・土製品



図III-119 P-113~142・TP-5出土の土器

ている。112はP-132出土、113・114はP-142出土のI群b-4類土器である。

115・116はTP-5出土のV群土器である。116は注口土器胴部である。

(愛場)

(3) 竪穴住居跡出土の石器等

剥片石器は、石材について特にふれないものは頁岩製である。

1はSH-1出土のたたき石、チャート製で火打ち石の可能性ある。

2・3はSH-2出土で、2は石核としたが、チャート製で、火打ち石の可能性ある。3は砂岩製すり石で、平滑な面が片面にある。煤が付着する。

4~17はH-1覆土出土である。4・5は石鏃、6は石槍またはナイフ、7~9は石錐である。7は黒曜石製で、原産地同定で「丸瀬布系？」という結果がでた。10はつまみ付きナイフ、11はスクレイパー、12はUフレイク、13は石核である。14は赤色を呈する蛇紋岩製の石斧で、擦り切り痕が残る。15は擦り切り残片で、側縁と端部にすり痕がある。16は安山岩のすり石、17は安山岩のたたき石である。18~20はH-2出土である。18は石鏃片で床面出土、19は石錐、20は石核である。

21~24はH-3覆土出土である。21は両面調整石器、22は窠状石器で、いわゆるトランシェ様石器である。23は石核、24は断面三角形のすり石である。

25~27はH-4出土である。25は石鏃、26はスクレイパーである。27は石核で、円礫を半割して打面とし、剥片をとっている。

28~30はH-5出土である。28はつまみ付きナイフ、29・30はスクレイパーである。

31~37はH-6覆土下位出土である。31は石鏃で基部にアスファルトが付着する。32はスクレイパー、33は窠状石器で、側縁と下端部に粗い二次加工がなされる。34は泥岩製のたたき石、35は溶結凝灰岩製の北海道式石冠、36は安山岩製の石皿で、HP-3上部から出土した。37は凝灰岩製の石製品で、全面が磨られる。平坦面には穿孔が途中まで施される。

38~57はH-7出土で、41・42・48・50が床面、54がHP-4覆土中から出土した。38は黒曜石製の石鏃、39は石槍またはナイフ、40は長さ13cm程の木葉形の両面調整石器である。41・42は石錐、41はつまみ付きナイフ転用品である。43はつまみ付きナイフである。44は窠状石器で、両面が二次加工され、下端部に比較的急角度の刃部がある。45~47はスクレイパー、48・49は石核である。50は石斧で、素材の稜部を調整し、下端部に刃部を設けている。51は珪岩製たたき石、52~54は安山岩製の扁平打製石器、53は刃部がV字に調整されるが、すり痕はない。55は凝灰岩製の石鏃で、使用部の断面は丸くなる。56・57は砥石である。

58~71はH-8出土で、58は覆土、59~62、66~68が床面、63~65・70がHF-3、69がHP-1、71がHF-2出土である。58は黒曜石製の石鏃、59~63はスクレイパーで、剥片の側縁に刃部を設ける。64は石核である。65は安山岩製のたたき石、1稜部にすり痕がみられる。66~70は扁平打製石器、68は扁平礫、69は扁平礫を半割した素材を利用し、それ以外は板状の素材が利用される。71は砥石で、擦り後につけられた、たたき痕が両面にみられる。全面に炭化物が付着する。

72~86はH-9出土で、75・78・79は床面、それ以外は覆土出土である。72は両面調整石器、73はつまみ付きナイフ転用の石錐である。74・75はつまみ付きナイフ、74は黒曜石製で両面調整され、75はつまみ部が不明瞭である。76~80はスクレイパーである。76は長軸両端に抉りが作出される。77はラウンド状、79は内湾する刃部がある。78・80は縦長剥片の側縁に刃部がみられ、80は下端部にも刃部がある。81は石核で、打面調整を行い、打面を変えながら剥離を行っている。

82は石斧で、1側縁に擦り切り痕が残る。83は泥岩製たたき石で、断面四角形の稜部はそれぞれ打

ち欠かれ、グリップ状の加工?がなされている。84は安山岩製の石皿である。85・86は石製品、85は条痕状の沈線が凝灰岩平坦面にみられるもので、比較的太い2条が直線的となる。86は凝灰岩製の平玉である。

87-98はH-10出土で、88・90・93・96・98は床面、95は覆土上位、それ以外は覆土下位から出土した。87は石錐で、細い茎部がある。88・89は石錐、いずれも機能部の断面は三角形である。90・91はスクレイパーで、同一母岩の黒色頁岩が使われる。92は細石刃核で、断面が楔形の舟形となる。打面から側面への調整や、側面から打面への調整剥離がみられる。美利河型細石刃核の可能性はある。93は石核、頁岩扁平礫を素材とする。94は石斧基部、95は石鋸である。96・97は板状礫素材の扁平打製石器。98は石製品で、2点が住居床面の離れた場所から出土した。全面が磨られ、形状は骨刀に似る。上部にはグリップ状の袢りが作出される。片面には2か所に直径5mm程の穿孔がみられる。

99-102はH-11出土で、99は覆土上位、それ以外は下位から出土した。99はつまみ付きナイフ、100はスクレイパー片である。101は頁岩、102は安山岩製のたたき石である。

103・104はH-12床直上出土の石鋸である。103は頁岩製の両面調整石器の両側縁が磨られている。断面はV字状となる。105はH-13覆土出土の石錐である。

106-110はH-14覆土出土である。106は石錐で、正面図左側縁先端付近には折れ面を残す。107・108は石槍またはナイフである。109は石錐で、原石を半割した素材を利用する。110は小型の石核である。

111-113はH-16出土で113は床直上出土である。111はつまみ付きナイフ片で焼けはじけにより破損する。112は石斧である。113はたたき石で、すり面もある。被熱により赤化する。

114はH-17出土の安山岩製のたたき石である。

115・116はH-18覆土出土である。115はつまみ付きナイフで、全面焼けはじけがみられる。116は片岩製石斧で煤が付着する。

117-119はH-19出土で、117・119は床直上出土である。117・118はつまみ付きナイフ、119は安山岩製のたたき石である。

H-20接合資料について

H-20からは多量の石器が出土し、その中には同一母岩と考えられる剥片などが多数含まれていたため、石器については接合作業を行った。その結果、複数の接合資料を得ており、その内良好な資料7個体について、模式図及び写真を掲載した。掲載した接合資料の長軸方向の長さは約10-20cmである。石材は全て頁岩で、珪質分に富み石材として良質なものが多く、原礫の形状は多くが直角礫と考えられ、接合資料3・9を除き、比較的原礫に近い状態で遺跡内に搬入されている。石器製作の作業工程は、まず原礫面の除去、次に素材剥片の剥離、最終的に剥片を取り尽くした残核の遺棄という流れが多くみられる。素材剥片の剥離については、最初は石核の長軸方向に作業面を設定し、剥片剥離を行うが、剥片剥離の進行により石核が小型化していくと、打面、作業面に頻りに転移する傾向がみられる。剥離される剥片は規格性に乏しく、不定形なものが多い。ただし、接合資料2・8などでは縦長の剥片が含まれる。また、接合資料は剥片と石核で構成され、定型的な石器はほとんど含まれていない。

接合資料1 (図III-132 図版72)

住居南壁際のフレイク集中域を主体とし、他に住居北側壁際、HP-4周辺の剥片が接合した。

石核2点、剥片82点で構成される。原石は直角礫で、分割後、原礫面を一部除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗灰色の頁岩で、原礫面には風化した白色部分が一部みられる。

作業内容は、最初に上面で大きな剥離により原礫面の除去が行われ、次にその剥離面を打面にして原石の長軸方向で剥片剥離が連続的に行われる。剥離される剥片は不定形で、折れているものが多い。剥離された剥片には石核(141)として利用されるものがある。その後下面及び右側面の下部の原礫面の除去が行われ、不定形剥片の剥離が行われる。最終的に石核(140)は遺棄される。

接合資料2(図Ⅲ-132 図版73)

周溝2周辺の中域を主体に、周溝1、住居南側フレイク集中など広く接合したほか、P-108のスクレイパーとも接合した。

スクレイパー1点、Rフレイク1点、石核2点、剥片56点で構成される。原石は亜角礫で、原礫面を一部除去した状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶色の頁岩で、原礫面には風化した黄褐色部分が大きくみられる。作業内容は、最初に大きな剥離で正面以外の原礫面の除去が行われる。大型の剥片が多く、石核(143)の素材になるものがある。次に上面及び下面を打面、右側面と左側面を作業面に設定して剥片剥離が行われる。剥離される剥片は縦長のものが多く、スクレイパー(P-108・72)、Rフレイク(144)の素材となるものが含まれる。剥片剥離が進行して石核が小型化していくと、頻繁に打面と作業面が転移し、剥離される剥片は不定形ものが多くなる。最終的に石核(145)は遺棄される。

接合資料3(図Ⅲ-132 図版74)

周溝1周辺(138)を主体にH P-4周辺、周溝2(139)、住居東側の剥片など広く接合した。石核2点、剥片25点で構成される。原石は亜角礫で、原礫面をほぼ除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶褐色の頁岩で、原礫面には風化した黄褐色部分がみられる。石材の特徴から、接合資料4と同一母岩と考えられる。作業内容は、最初に残っている原礫面の除去が行われ、次に下面及び上面を打面に、左側面から正面を作業面として剥片剥離が行われる。その後、正面側と裏面側に長軸方向で大きく分割され、各個体で剥片剥離が行われる。各個体では周縁部を打面、表裏面を作業面として、求心状に剥片剥離が行われ、最終的に石核(138・139)は遺棄される。剥離される剥片はほとんどが不定形である。

接合資料4(図Ⅲ-132 図版74)

周溝1の中域を主体に、住居南側、住居中央部の剥片が接合した。

石核1点、剥片32点で構成される。原石は亜角礫で、原礫面を一部除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶褐色の頁岩で、原礫面には風化した黄褐色部分がみられる。石材の特徴から、接合資料3と同一母岩と考えられる。作業内容は最初に裏面の左側縁の稜付近を打面として、平坦な剥離により主に裏面、上面、右側面の原礫面が除去される。次に正面、裏面を打面とし、右側面、左側面を作業面として連続的に剥片が剥離され、最終的に石核は遺棄される。剥離される剥片は不定形である。石核は図示していないが、長さ約4cm、幅約4.5cm、厚さ約2.5cmの小型で扁平な形状である。

接合資料5(図Ⅲ-132 図版74)

石核(142)が住居南側のフレイク集中域から出土した。

石核1点、剥片17点で構成される。頁岩製の亜角礫を原石とし、原礫面を一部除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。作業内容は、最初に上面の稜を打面、原石正面から右側面を作業面に設定して、長軸方向に連続的な剥片剥離が行われる。次に前の作業面を打面、裏面上部を作業面に設定し、左側面に向けて横方向の比較的小さい剥片剥離が行われた後、打面を左側面に移動して大型で分厚い剥片が剥離される。その後は打面及び作業面を転移しながら不定形の剥片を剥離し、最終的には

石核(142)を遺棄する。剥離された剥片の多くに原礫面がみられ、形状は不定形なものがほとんどである。

接合資料6(図III-132 図版75)

周溝1周辺の剥片が接合した。

剥片40点で構成される。原石は亜角礫で、粗削後一部石核整形が行われた状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶色の頁岩で、原礫面には風化した白色部分がみられる。石材の特徴は接合資料8と類似する。作業内容は、最初に正面上部を打面、上面を作業面として比較的幅広く平坦な剥離が施される。次に平坦な剥離が施された上面を打面、右側面を作業面に設定して横幅の1/2程度、縦長の剥片剥離が行われる。最後に下面を打面、左側面を作業面として小型の剥片が剥離される。石核は出土していない。

接合資料7(図III-132 図版75)

周溝1周辺を主体に、HP-4周辺、住居東壁際の剥片が接合した。

石核2点(1個体未掲載)、剥片35点で構成される。原石は亜角礫で、原礫面を一部除去した粗い加工状態で遺跡内に搬入されている。石材は暗茶色の頁岩で、原礫面には風化した白色部分みられる。石材の特徴は接合9と類似する。作業内容は、最初に右側面上部を打面、上面を作業面として、縦長の剥片が剥離される。その間に正面を打面、上面を作業面とする剥片剥離も少量行われており、これは作業面の調整剥離と考えられる。全体の1/2程度剥片剥離が行われた後、上面に打面作出のため大きな幅広い剥片の剥離が施される。次にその剥離面を打面とし、右側面を作業面として縦長気味の剥片が剥離される。最終的に石核は遺棄される。石核は図示していないが、長さ約4cm、幅約3.5cm、厚さ約2cmで、裏面が原礫面となる。剥離された剥片は比較的縦長であるが、多くは折れている。

120~152はH-20出土で、152を除き床面もしくは付属遺構覆土出土である。120~122は石錐である。120・121は柳葉形で、側縁に折り取るような急角度の加工がなされる。123は両面調整石器で、側縁が鋸歯状となる。石槍またはナイフの基部の可能性がある。124~126は石錐である。124・125は棒状で、126は厚みのある剥片素材の一端に機能部がある。127・128はつまみ付きナイフである。127には1側縁に鋸歯状の加工が施され、128は剥片の周縁に簡単な調整がなされる。129~137はスクレイパーで、剥片の側縁を片面から加工するだけのものが多い。129~134・137は縦長素材の側縁に刃部が作出されるもので、130は撻形となる。135は内湾する刃部、136は鋸歯状の刃部となる。137は、フレイクが数点接合し、その状況を写真図版76に掲載した。138~143・145~147は石核で、144はRフレイクである。前述の通り、138~145は接合資料と接合する。

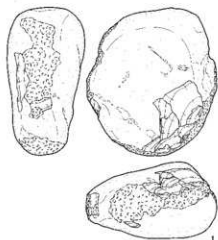
148は蛇紋岩製の石斧、厚さ4mm程と薄く、垂飾の可能性が有る。149はメノウ製のたき石、フレイクのまとまりの側から出土している。150は断面三角形のすり石である。151は凝灰岩製の砥石。152は覆土上位出土の石製品、凝灰岩製で端部に孔がけられる。

153~156はH-21床面出土である。153は黒曜石製の石錐で柳葉形となる。原産地同定で「赤井川産」という結果がでた。154・155は石核で、いずれも原礫面を残す。156は断面三角形のすり石である。

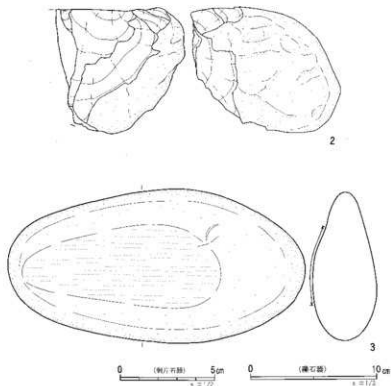
157・158はH-22出土、157はスクレイパーで、急角度刃部となる。158は扁平打製石器である。

159~169はH-23出土で、159はHP-13、166はHP-11、164・165・167~169は床面出土である。159は石錐で、周縁に簡易な調整が入る。図正面右側縁に折れ面を残す。160・161は両面調整石器で、鋸歯状となる部分がある。162はつまみ付きナイフ、163はスクレイパーである。164~166は石核、165は図正面側で剥離が行われ、166は周縁から剥離が行われる。167は珪岩製のたき石、168・169は扁平

SH-1



SH-2



図III-120 SH-1・2出土の石器

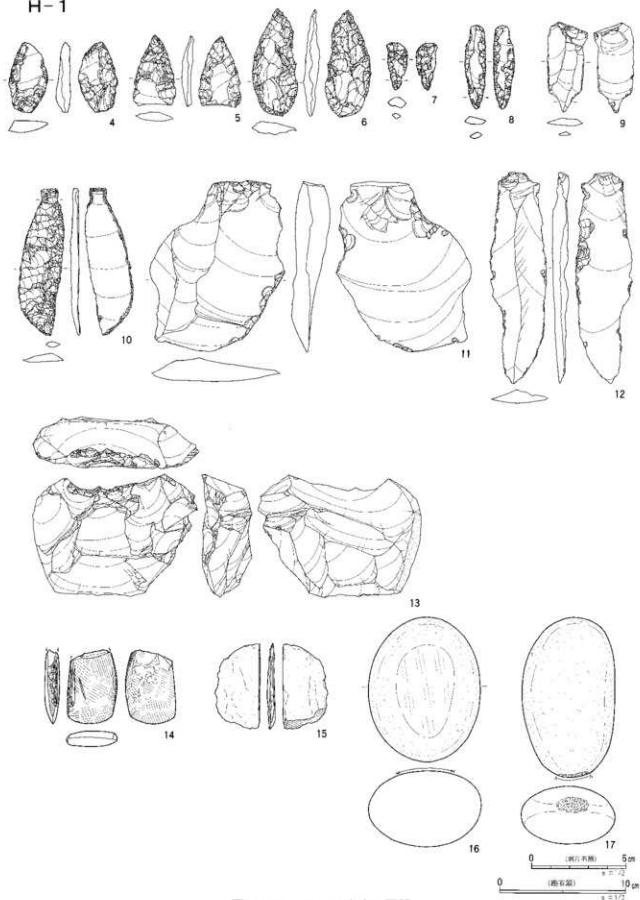
打製石器である。

170～172はH-24出土で170・172は床面出土である。170はスクレイパー、171は石核である。172は安山岩製の台石である。

173・174はH-25覆土出土で、173はスクレイパー、174は扁平打製石器である。175はH-27覆土出土の扁平打製石器で、片側の平坦面に敲打痕がある。176はH-28覆土下位出土の砂岩製の北海道式石冠である。

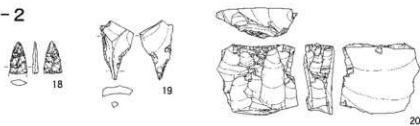
177～186はH-29出土で、182はHP-5、177・179・180・183・186は床直上出土である。177は石錐で両面調整により断面菱形に加工される。使用痕はみられない。188はつまみ付きナイフである。179～182はスクレイパーで、179・180は縦長剥片の側縁に刃部がある。183は小型の石核である。184は緑色泥岩製で、石斧基部をたたき石に転用したものである。185は扁平打製石器である。186は北海道式石冠の未成品である。大型の扁平礫を半円形に割り、割れ口を軽く揃っている。その後割れ口からの厚みをとる調整を行い、中央よりやや上のラインに敲打を巡らしている。

H-1

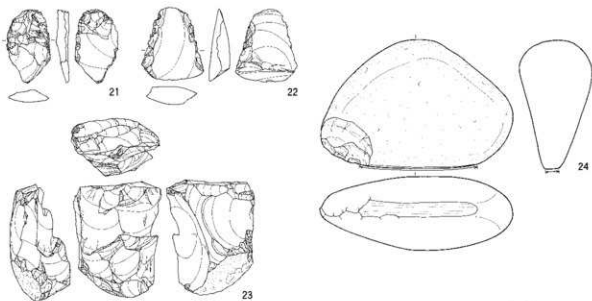


図III-121 H-1出土の石器

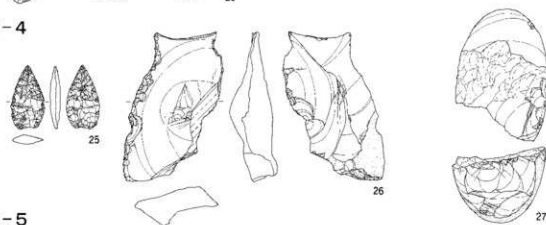
H-2



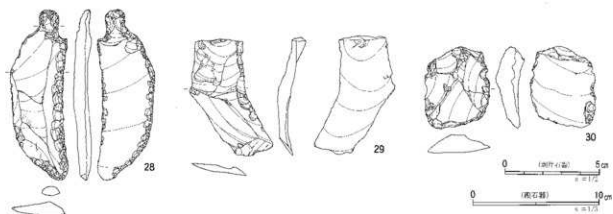
H-3



H-4

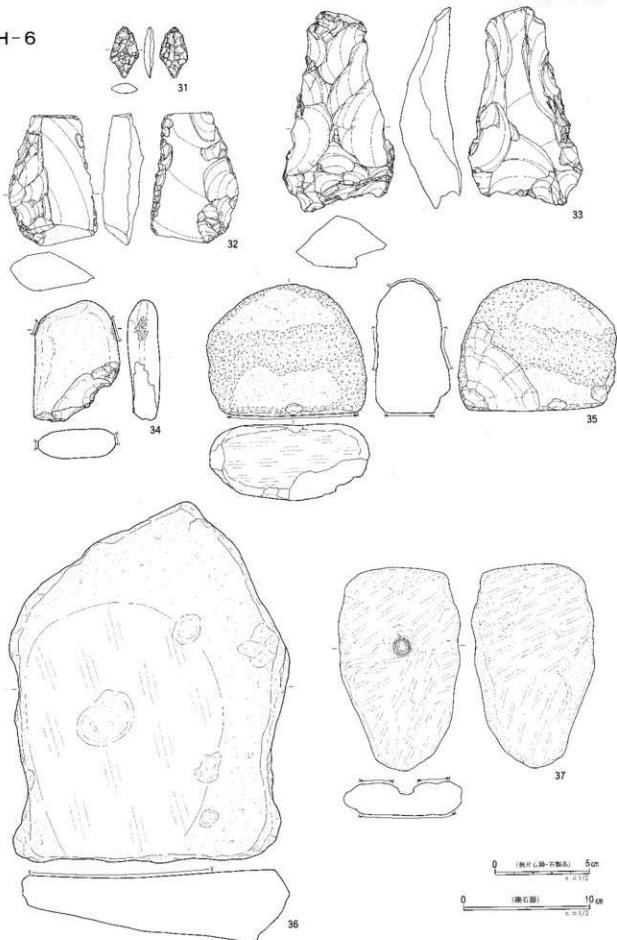


H-5



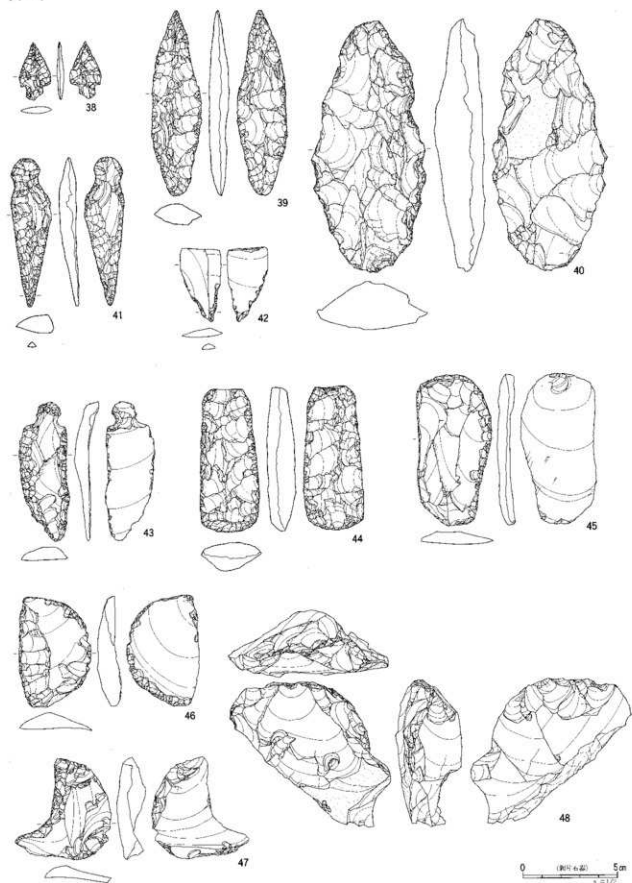
図Ⅲ-122 H-2～5出土の石器

H-6



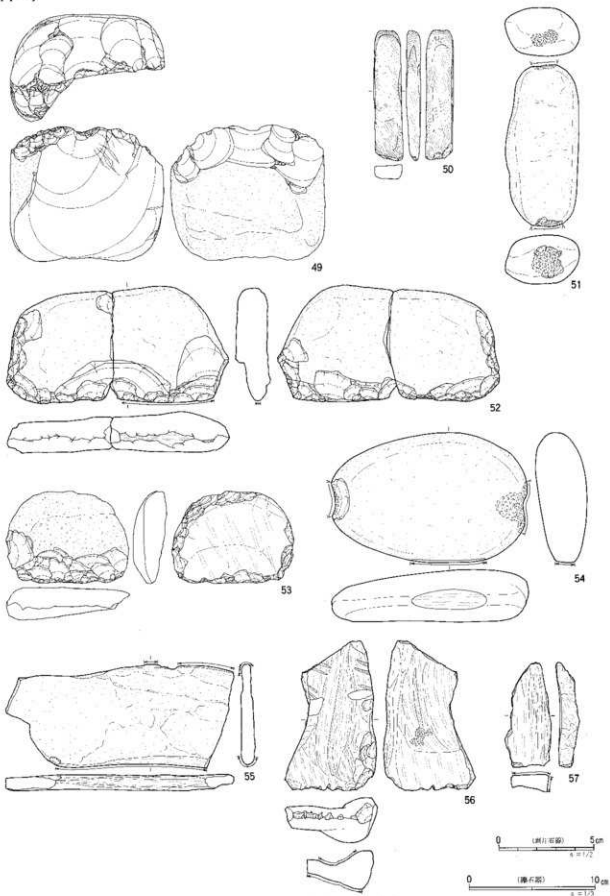
図III-123 H-6出土の石器等

H-7



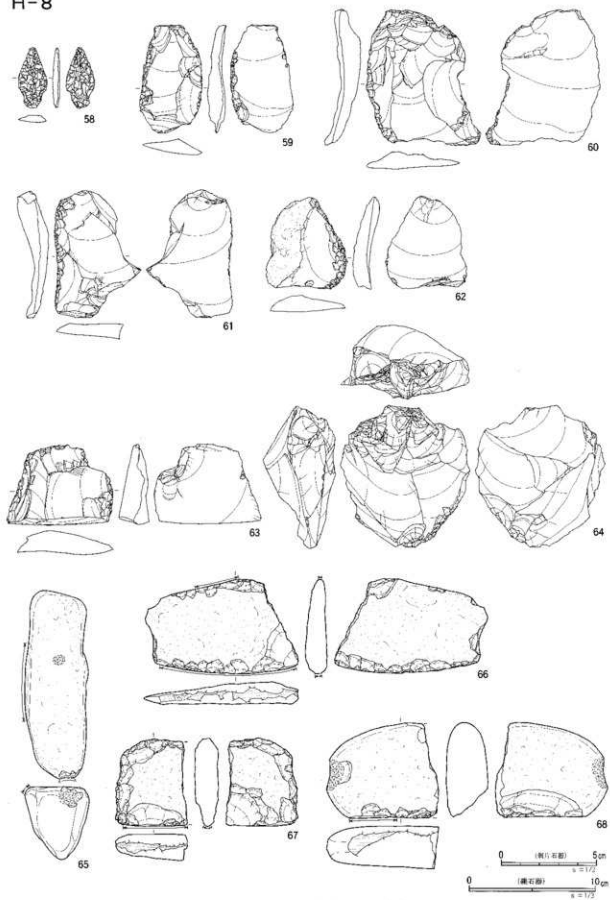
図Ⅲ-124 H-7出土の石器(1)

H-7



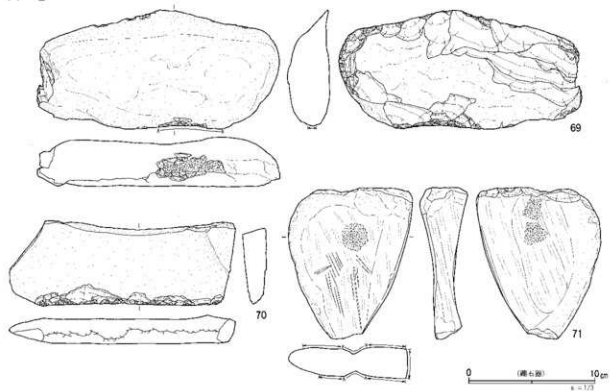
図III-125 H-7出土の石器(2)

H-8

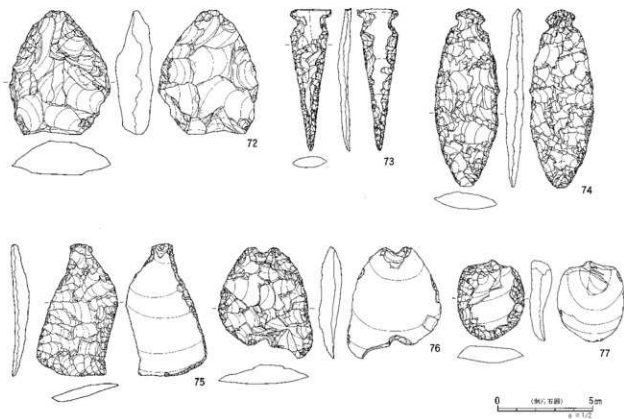


図Ⅲ-126 H-8出土の石器(1)

H-8

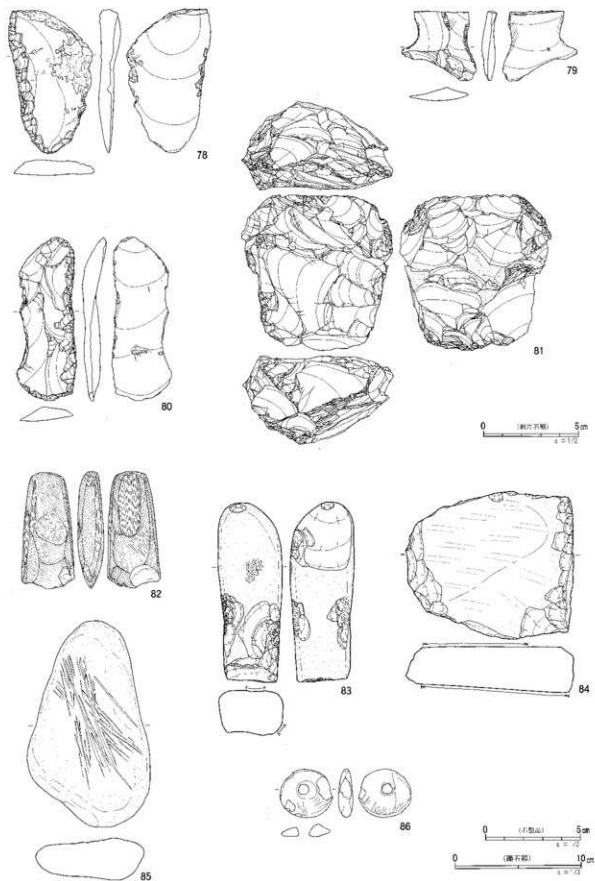


H-9



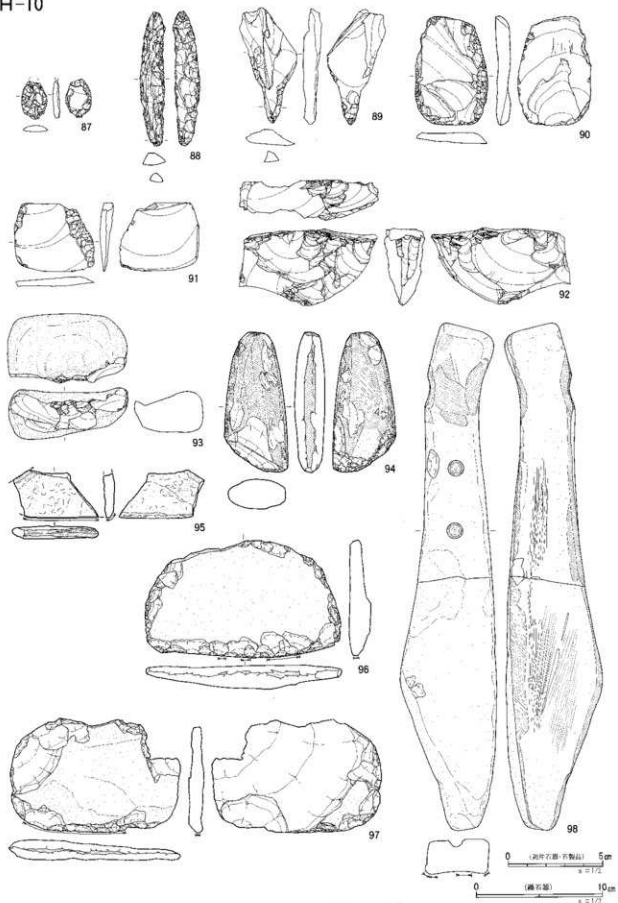
図III-127 H-8 (2)・H-9出土の石器

H-9



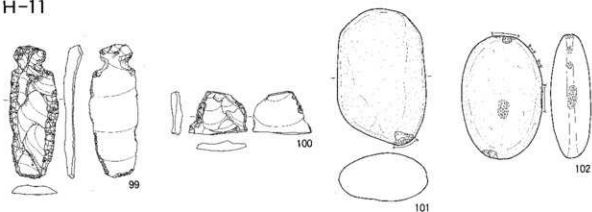
図Ⅲ-128 H-9 出土の石器等 (2)

H-10

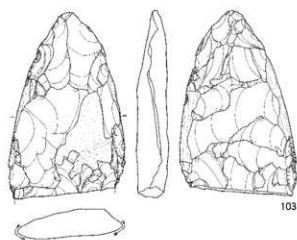


図III-129 H-10出土の石器等

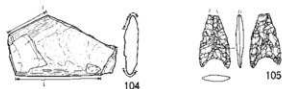
H-11



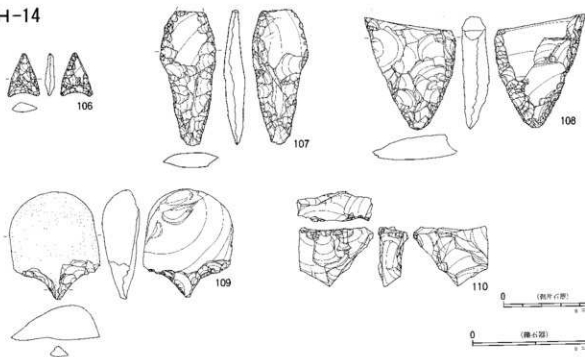
H-12



H-13



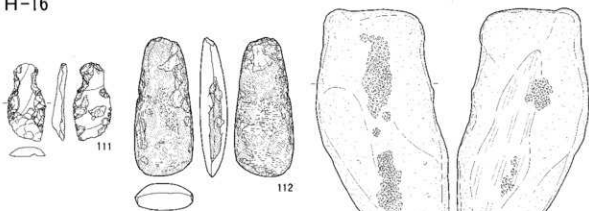
H-14



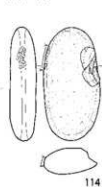
0 (縦寸法) 5cm
0 (横寸法) 10cm

図Ⅲ-130 H-11~14出土の石器

H-16



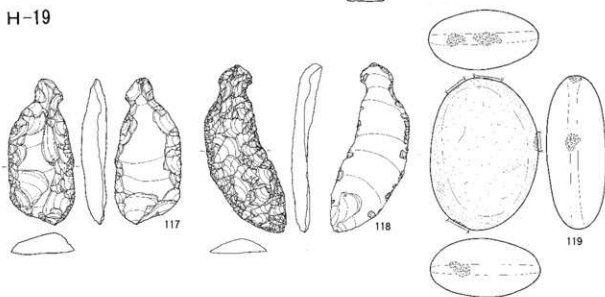
H-17



H-18

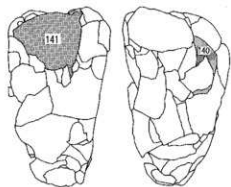


H-19

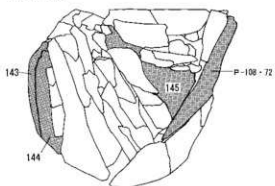


図III-131 H-16~19出土の石器

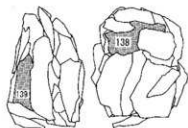
接合資料 1



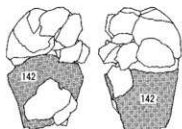
接合資料 2



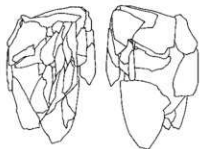
接合資料 3



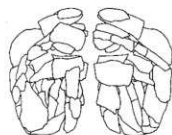
接合資料 5



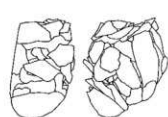
接合資料 4



接合資料 6



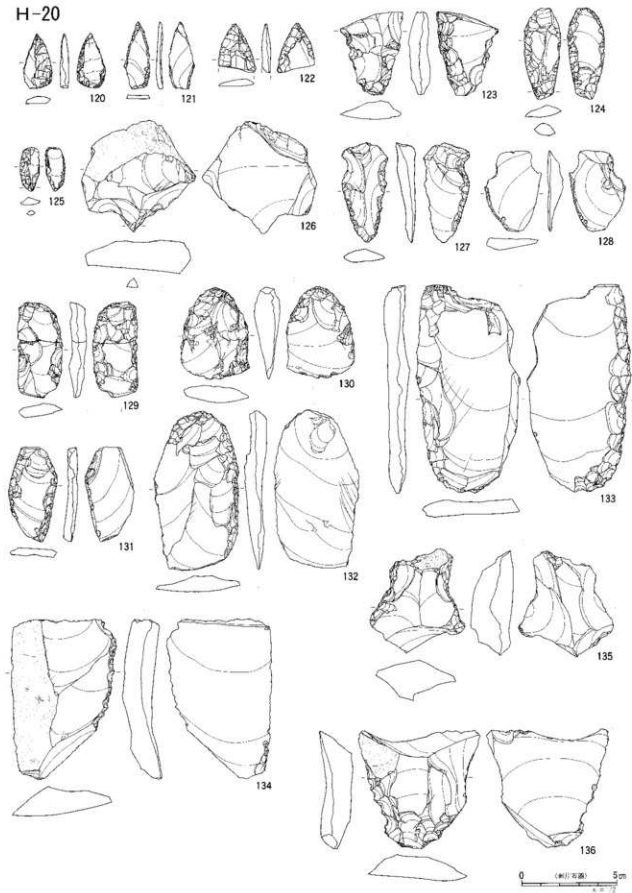
接合資料 7



写真をトレース
接合資料は約 1/4

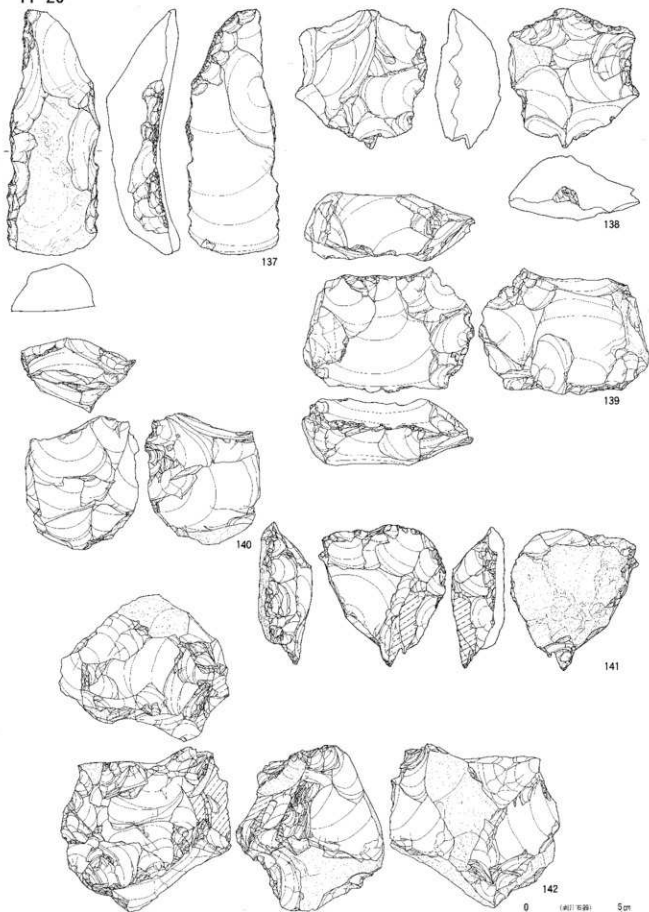
図Ⅲ-132 H-20出土の接合資料模式図

H-20



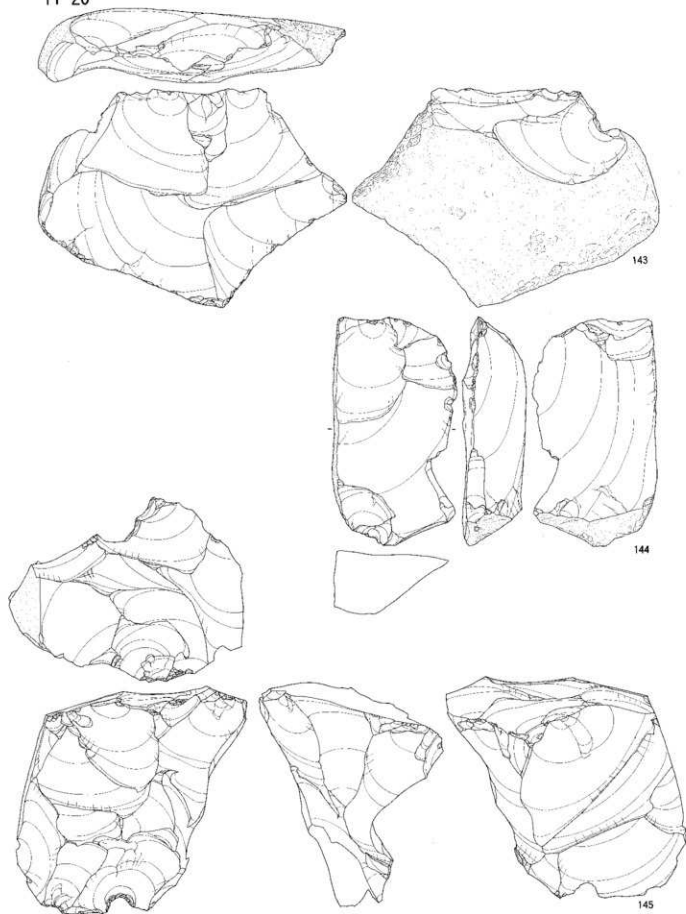
図III-133 H-20出土の石器(1)

H-20



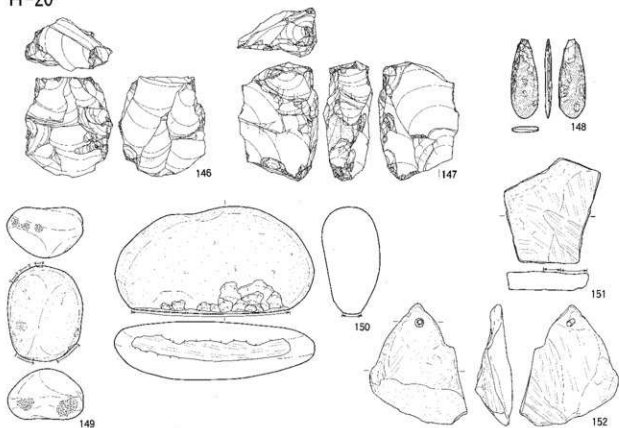
図III-134 H-20出土の石器(2)

H-20

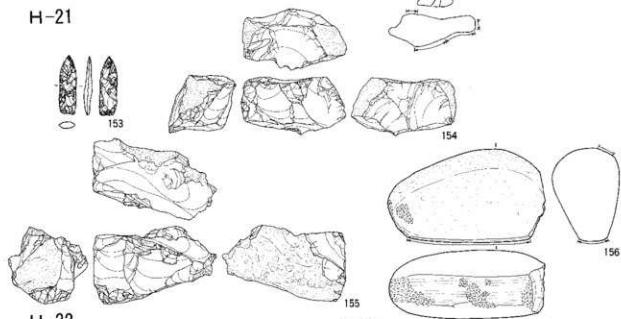


図III-135 H-20出土の石器(3)

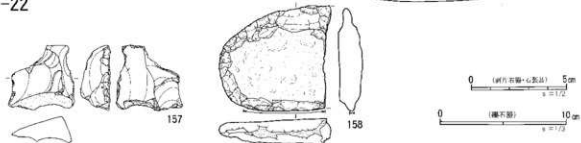
H-20



H-21

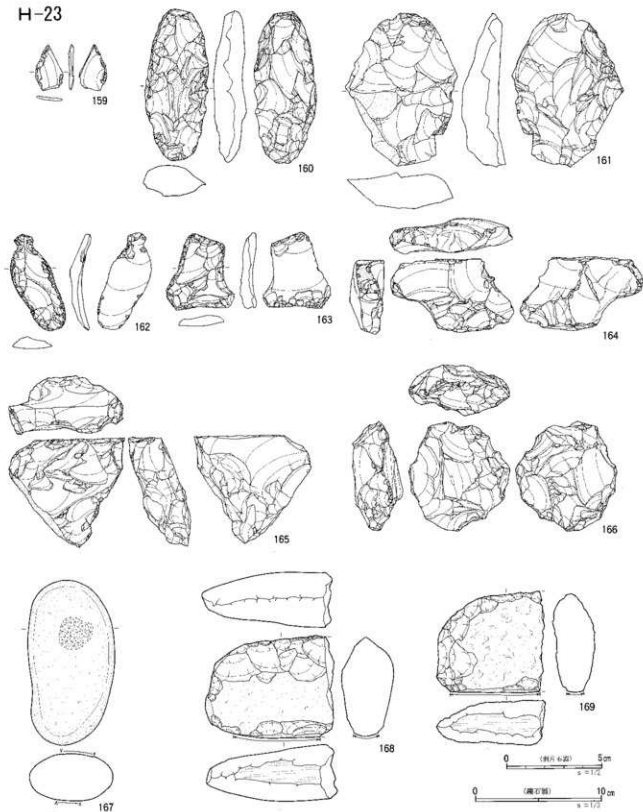


H-22

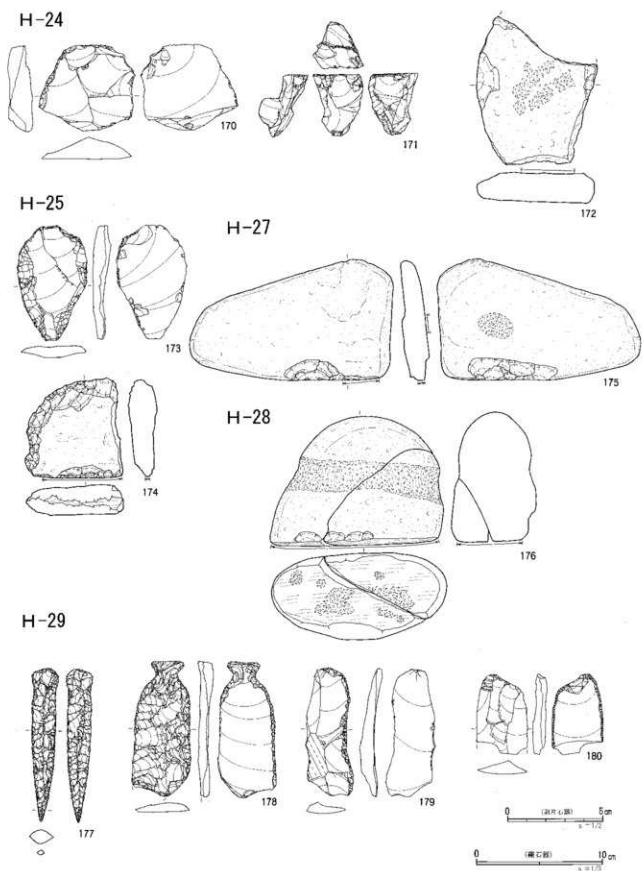


図Ⅲ-136 H-20(4)・H-21・22出土の石器等

H-23

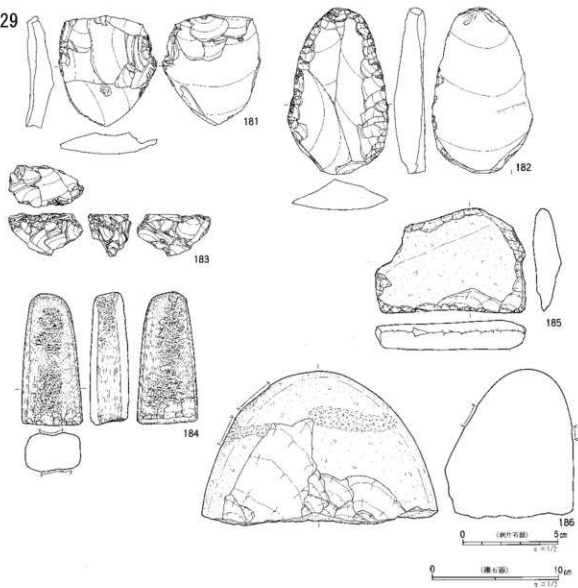


図III-137 H-23出土の石器



図Ⅲ-138 H-24・25・27~29 (1) 出土の石器

H-29



図III-139 H-29出土の石器(2)

(4) 土坑・フレイク集中出土の石器等

1はP-1出土のスクレイパー片、つまみ付きナイフの可能性ある。2はP-2出土の砂岩製砥石で、片面にすり痕があり、その裏側は平坦面にたたき痕がみられる。3はP-3出土のつまみ付きナイフで、やや被熱する。

4・5はP-4出土、4は石鏃片、5は安山岩製すり石である。6はP-5出土の大型フレイクである。

7~10はP-10出土である。7はスクレイパーである。8・9は石核で、8は礫を半割し、半断面を打面として周囲を打ち欠いている。9は角柱状となるもので両端から比較的長い剥片がとられている。10はめのう製のたたき石である。

11はP-14、12はP-16、13はP-17出土のスクレイパーである。14はP-18出土の三角形石鏃である。15はP-20出土の安山岩製扁平打製石器、16はP-24出土の安山岩製台石片である。17はP-25出土のRフレイクである。

18~23はP-31出土である。18は両面調整石器、19・22はスクレイパーである。19は鋸歯状刃部をもつ、22は約17cmと大型で、石核としてもよいかもしれない。20・21は石核で、20は打面を変えながら剥片をとっている。21は扁平の頁岩製の平坦面から剥離を行っている。23は凝灰岩製の砥石で、両面に平滑なすり面がある。

24はP-39出土の砂岩製扁平打製石器、25はP-40出土の石核である。26はP-45出土のスクレイパーで、下端部を中心に炭化物が付着する。

27・28はP-51出土で、27はスクレイパーである。28は石核で、打面から連続して縦長剥片がとられる。全面に煤が付着する。29はP-56壁面直上出土のつまみ付きナイフである。

30・31はP-59出土で、30はスクレイパー、31は安山岩製の石皿である。

32はP-61出土の扁平な頁岩原石の石核、33はP-73出土のスクレイパーである。

34~39はP-89出土である。34は石鏃である。35・36はつまみ付きナイフで、押圧剥離が背面片側から入れられる。37は筧状石器、38・39はスクレイパーである。

40はP-96出土の石核、三角柱状で、一面は原礫面である。41はP-97出土の断面三角形すり石、42はP-99出土の扁平打製石器で、いずれも安山岩製である。

43・44はP-100出土のつまみ付きナイフ、43は底面出土である。

45~47はP-101出土である。45は石鏃で被熱する。46はスクレイパー、47は安山岩製の扁平打製石器である。

48~52はP-102出土である。48は石鏃で機能部がやや磨滅する。49~51はつまみ付きナイフ、背面に押圧剥離が施される。52は安山岩製の断面三角形すり石である。

53~60はP-104出土、53・54は両面調整石器で53は正面左側縁に折れ面や原石面が残る。55は底面出土の石鏃である。56は筧状石器、57スクレイパーである。58は凝灰岩製の小型の石斧で、側面は折れ面となる。刃部幅は1.2cmである。59は安山岩製のたたき石、側縁にたたき痕がある。60は断面三角形のすり石片である。

61・62はP-105出土、61は石核で、原礫から剥離した素材の周囲から剥片をとっている。62は安山岩製の台石片である。

63~79はP-108出土である。63は柳葉形の石鏃で、基部は調整されていない。64・65は石鏃、棒状で断面形が三角形となる。66はつまみ付きナイフである。67~73はスクレイパーで、いずれも剥片の側縁に簡単な刃部を持つ。69は鋸歯状の刃部となる。72はH-20の接合資料2と接合した。74は石核、75・76はたたき石である。77は凝灰岩製の小型の石斧、全面すられるが、側面は折れ面となる。

幅は1.2cmである。78は断面三角形のすり石、79は凝灰岩製の石錘である。

80はP-112出土の石核で、剥片素材の周縁から剥離を行っている。

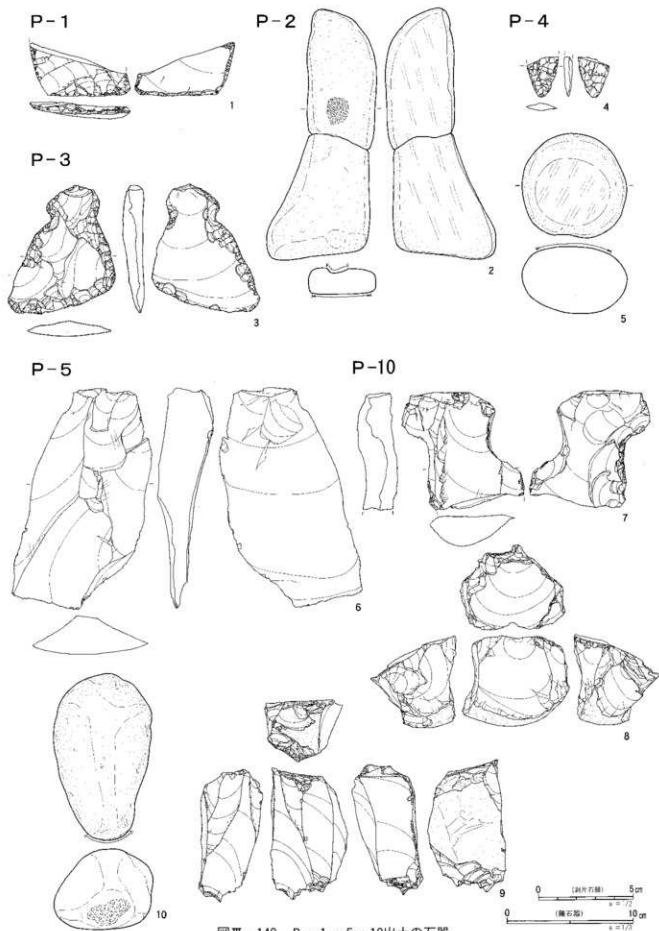
81~89はP-113出土である。81~83は石鏃、81は周縁部のみを加工する。82・83は柳葉形で、基部が平らとなる。83は厚みを残す。84は石錐で、厚みのある剥片の一端に機能部がある。85・86はスクレイパー、85は急角度の刃部が両側縁にあり、86は鋸歯状で内湾する刃部がみられる。87は石核で、両端にある打面から縦長の剥片が剥離される。上部の打面は側面周囲から調整される。88は珪岩製のたたき石、89は安山岩製の断面三角形のすり石で、2つの稜にすり痕が残る。

90はP-130出土のスクレイパー、91はP-131出土の石核で横長の剥片がとられている。

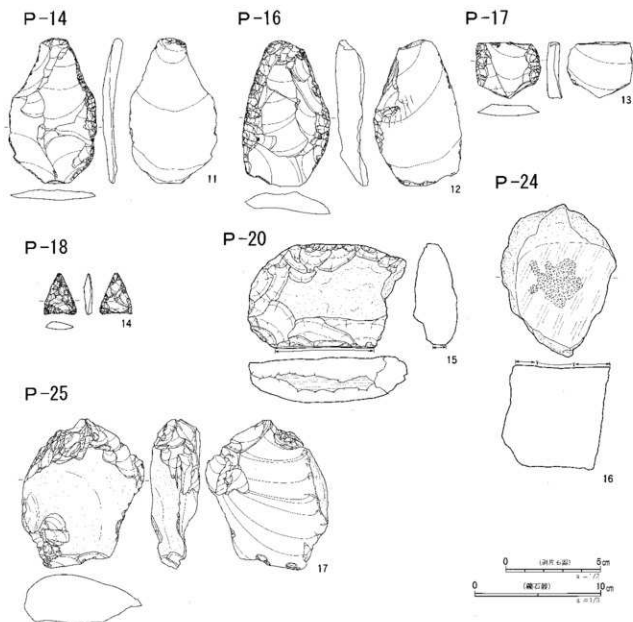
92はP-142出土のスクレイパーである。

93~96はFC-1出土である。93は両面調整石器、94はつまみ付きナイフ、95・96はスクレイパーである。

97・98はFC-3出土、H-9掘り上げ土直下から出土した。97は厚みがある素材で、両面調整石器としたが石核の可能性もある。98は石核で、打面調整を繰り返し、図正面側の剥離が行われる。97・98は同一の母岩である。 (愛場)

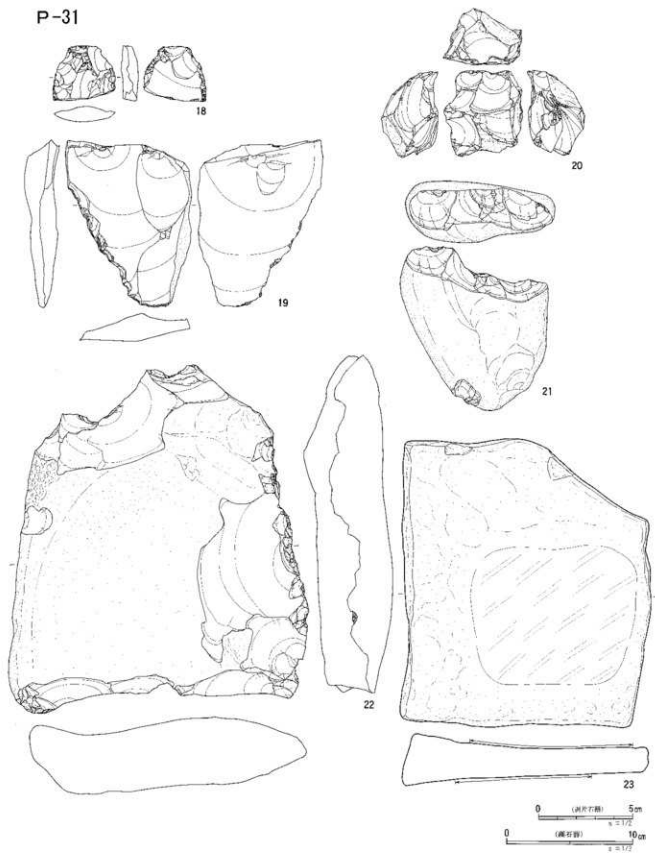


図Ⅲ-140 P-1～5・10出土の石器



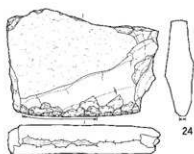
図III-141 P-14~25出土の石器

P-31



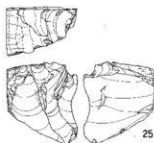
図Ⅲ-142 P-31出土の石器

P-39



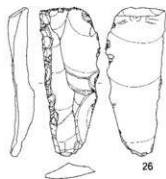
24

P-40



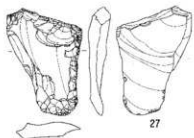
25

P-45

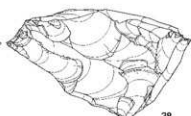
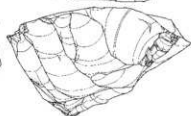
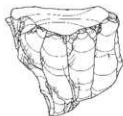
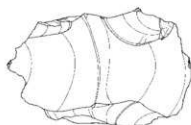


26

P-51

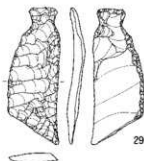


27

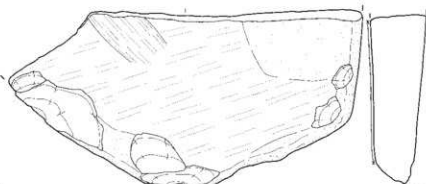


28

P-56

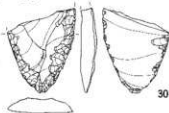


29

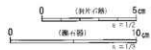


31

P-59

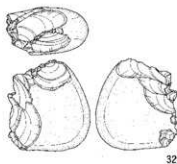


30



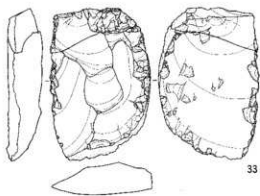
図III-143 P-39~59出土の石器

P-61



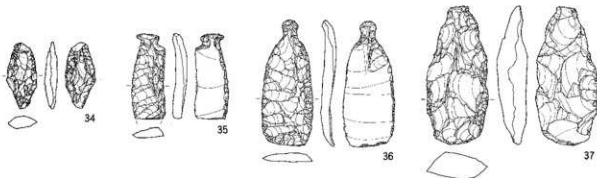
32

P-73



33

P-89

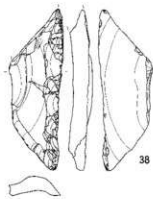


34

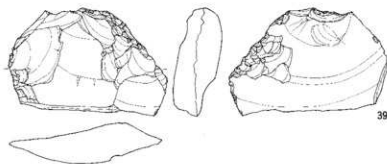
35

36

37

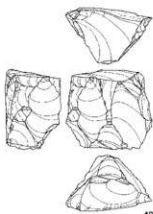


38



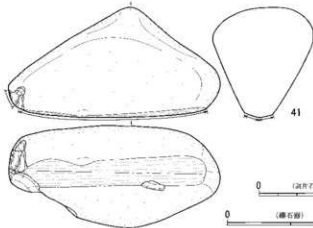
39

P-96

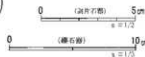


40

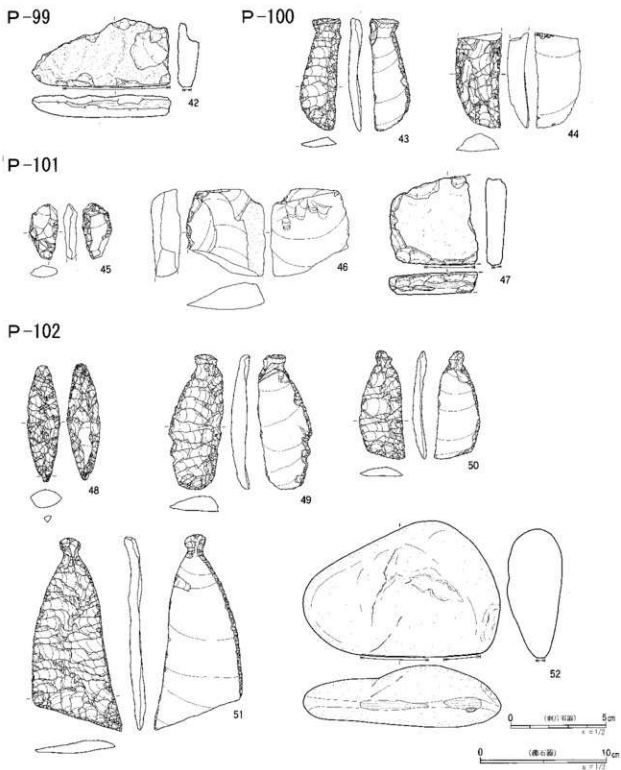
P-97



41

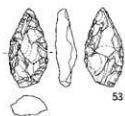


図Ⅲ-144 P-61~97出土の石器

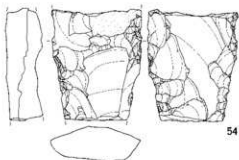


図III-145 P-99～102出土の石器

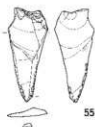
P-104



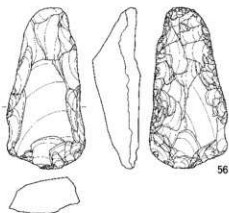
53



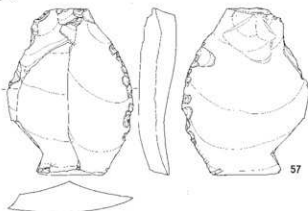
54



55



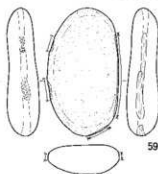
56



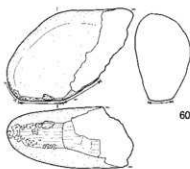
57



58

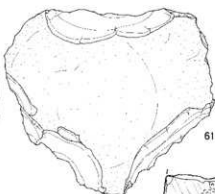
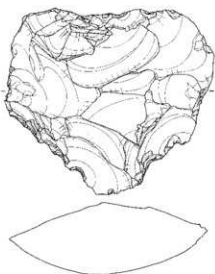


59

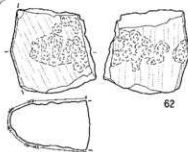


60

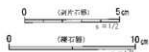
P-105



61

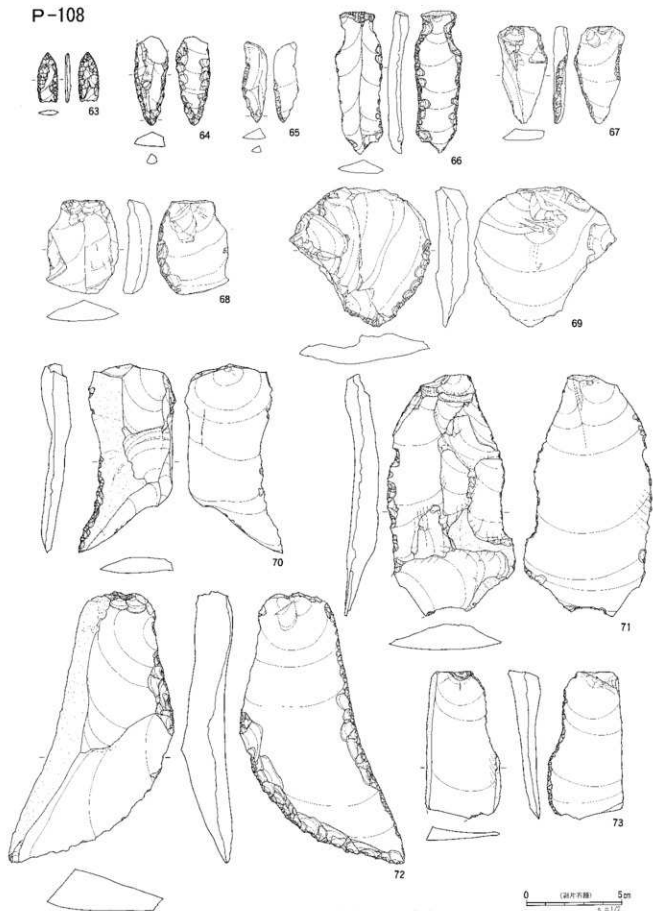


62



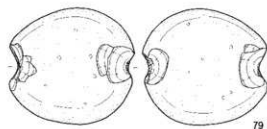
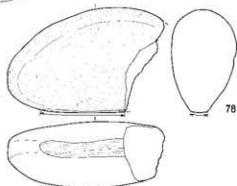
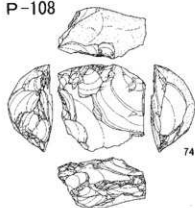
図Ⅲ-146 P-104・105出土の石器

P-108

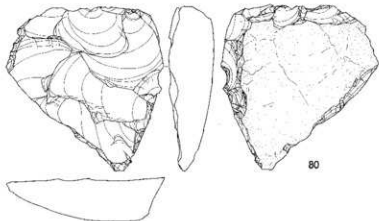


図III-147 P-108出土の石器(1)

P-108



P-112



0 (単位: 公厘) 5cm

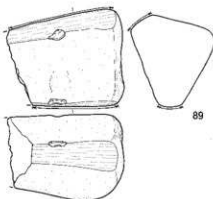
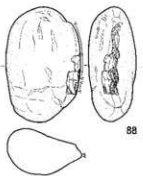
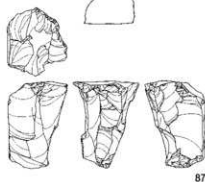
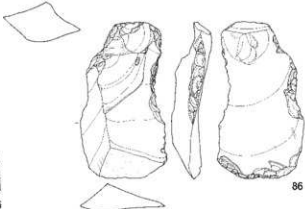
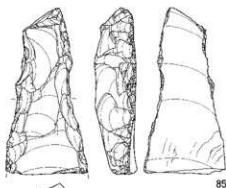
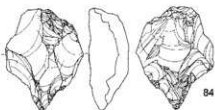
n = 1/2

0 (単位: 公厘) 10cm

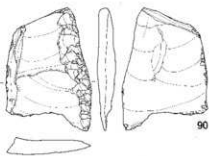
n = 1/2

図III-148 P-108 (2)・P-112出土の石器

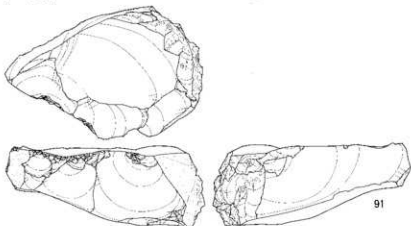
P-113



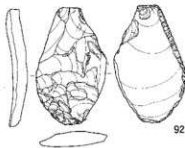
P-130



P-131



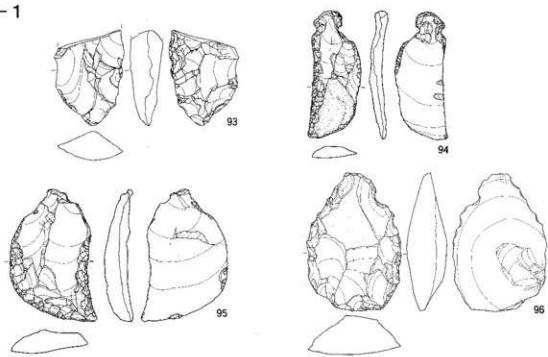
P-142



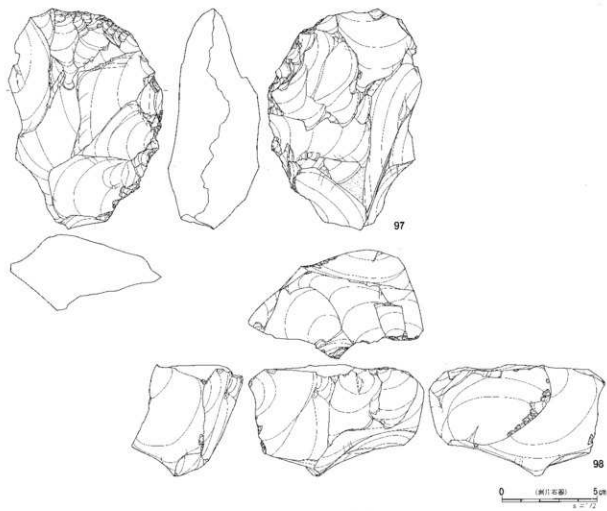
図III-149 P-113~142出土の石器



FC-1



FC-3



図Ⅲ-150 FC-1・3出土の石器

表Ⅲ-1 竇穴住居跡規模一覧

遺構名	調査区	規模 (m)				平面形状	住居遺構	時期	備考	
		縦径		横径						最大径
		長径	短径	長径	短径					
H1-1	M 8・9・10/Ⅷ 8・9・10/O 9・10	4.71	4.44	4.51	3.1	0.31	楕圓方形	キマツ・溝遺、ⅡP-1・2	竇穴住居跡前半	
H1-2	M12・13/Ⅷ 12・13	4.96	3.6	3.82	3.39	0.36	楕圓長方形	キマツ・溝遺、ⅡP-1・4	竇穴住居跡前半	
H1-7	N17・18/O17・18/P 17・18	6.96	6.68	5.96	5.64	0.96	円形	ⅡP-1・17	竇穴住居跡後半	
H1-8	N22・23/O22・23	3.86	3.39	3.65	3.17	0.26	円形	ⅡP-1・2	竇穴住居跡後半	
H1-9	N15・16/O15・16/P15・16	6.75	4.89	7.60	3.80	0.75	キマツ・溝遺	ⅡP-1・1	竇穴住居跡前半	
H1-6	J 9・9/O 8・9	3.94	3.62	3.8	2.64	0.3	半円形	ⅡP-1・ⅡP-1・6	竇穴住居跡前半	
H1-5	M12・13/Ⅷ 12・13	15.26	3.62	15.31	3.38	0.52	長方形	ⅡP-1・14	竇穴住居跡前半	
H1-6	M15/O 15	15.41	12.80	13.10	-	0.37	円形・楕圓形	ⅡP-1・2・ⅡP-1・3	竇穴住居跡前半	
H1-7	H1・12/O11・12・13/J 12・13	8.17	2.65	7.99	2.71	0.59	円形	ⅡP-1・12	竇穴住居跡前半	
H1-8	H15・19/O 15・19・20・21	16.80	11.50	16.20	13.92	0.76	楕圓方形	ⅡP-1・3・ⅡP-1・7・10遺	竇穴住居跡前半	
H1-9	H24・25/O 24・25・26	110.71	14.87	110.57	14.70	1.21	楕圓長方形	ⅡP-1・ⅡP-1・13	竇穴住居跡前半	
H1-10	J 19・27・28/O 19・27・28/K 30・27・28	6.53	5.72	6.22	5.52	0.82	楕圓形	ⅡP-1・12	竇穴住居跡前半	
H1-11	J 29・30/O 29・30	4.98	3.48	3.96	3.31	0.7	楕圓形	ⅡP-1・ⅡP-1・7	竇穴住居跡前半	
H1-12	H1・12/O 12	15.20	11.20	14.82	11.40	0.26	円形	ⅡP-1・2	竇穴住居跡前半	
H1-13	O25・26/O 25・26	5.5	4.7	5.2	4.26	0.48	半円六角形	ⅡP-1・2	竇穴住居跡前半	
H1-14	Q 4・5/O 4・5	3.52	3.35	3.38	3.22	0.42	半円形	ⅡP-1・2・ⅡP-1・7・10遺	竇穴住居跡前半	
H1-15	Q 5・6/O 5・6	12.11	11.20	12.11	11.20	0.65	円形	ⅡP-1・2	竇穴住居跡前半	
H1-16	R 4・5/O 4	13.71	11.41	13.51	11.71	0.82	楕圓方形	ⅡP-1・1	竇穴住居跡前半	
H1-17	S 5	3.19	2.96	2.98	2.75	0.45	円形	ⅡP-1・2・ⅡP-1・9・10遺1	竇穴住居跡前半	
H1-18	S 5・6/O 5・6・5	1.63	2.66	2.69	2.54	0.3	六角形	ⅡP-1・ⅡP-1・2 10遺	竇穴住居跡前半	
H1-19	Q12・13	3.4	3.21	2.96	2.81	0.25	半円形	ⅡP-1	竇穴住居跡前半	
H1-20	Q13・14/O 13・14・S 13・14	6.1	5.8	5.96	5.36	0.78	円形	ⅡP-1・16・10遺1・2	竇穴住居跡前半	
H1-21	Q17/O 16・17・S 17	5.45	4.52	5.08	4.50	0.44	半円形	ⅡP-1	竇穴住居跡前半	
H1-22	P 8・9・10/O 8・10・11	7.86	3.52	7.28	3.21	0.81	半円六角形	ⅡP-1・10	竇穴住居跡前半	
H1-23	P 20・21/O 20・21・ⅡP-1・21	1.63	0.75	1.43	0.7	0.48	半円六角形	ⅡP-1・21	竇穴住居跡前半	
H1-24	K25・25/O 25・26・G 25・25	15.80	4.67	15.20	4.52	0.32	半円六角形	ⅡP-1・1	竇穴住居跡前半	
H1-25	F 24・25/O 24・25	13.30	11.20	13.00	11.80	0.43	半円	ⅡP-1	竇穴住居跡前半	
H1-26	H 24	12.51	11.69	12.51	11.69	0.32	半円	ⅡP-1・3	竇穴住居跡前半	
H1-27	K 24・25/O 24・25	3.38	3.14	3.15	2.83	0.23	円形	ⅡP-1	竇穴住居跡前半	
H1-28	M 27/O 24・25	3.77	2.87	3.11	2.70	0.1	楕圓形	ⅡP-1	竇穴住居跡前半	
H1-29	M 13・14/O 13・14	5.52	4.67	5.34	4.71	0.5	楕圓形	ⅡP-1・11	竇穴住居跡前半	

表Ⅲ-2 土坑等の規模一覧(1)

遺構名	調査区	規模 (m)				備考	
		縦径		横径			最大径
		長径	短径	長径	短径		
P-1	L 31	1.01	0.92	0.8	0.71	0.21	
P-2	M 30・31	0.35	0.28	0.22	0.2	0.11	
P-3	O 1・5	0.9	0.85	1	0.92	0.26	
P-4	O 22	1.63	0.75	0.81	0.78	0.23	
P-5	K 26/P 26	0.94	0.83	0.93	0.92	0.31	
P-6	K 25	0.61	0.39	0.43	0.39	0.2	
P-7	J 16	0.72	0.67	0.51	0.53	0.17	
P-8	K 16	0.71	0.63	0.67	0.62	0.31	
P-9	J 15・16	0.48	0.41	0.31	0.31	0.11	
P-10	M 19	1.2	1.3	1.34	1.04	0.49	
P-11	K 13・14	1.1	0.84	0.82	0.72	0.4	
P-12	L 12・13/O 12・13	1.54	0.96	1.23	0.71	0.45	
P-13	N 5	0.74	0.66	0.62	0.61	0.1	
P-14	N 6	0.6	0.49	0.7	0.6	0.29	
P-15	O 5	0.6	0.58	0.62	0.56	0.31	
P-16	N 6	0.72	0.68	0.78	0.68	0.46	
P-17	N 5	0.8	0.75	1	0.9	0.6	
P-18	N 5	0.58	0.6	0.61	0.62	0.3	
P-19	M 6	0.7	0.56	0.78	0.72	0.36	
P-20	N 6	0.74	0.7	0.81	0.78	0.39	
P-21	M 5・6/O 5・6	0.66	0.58	0.92	0.86	0.46	
P-22	M 5	0.68	0.8	1.08	1.01	0.48	
P-23	M 5	0.64	0.78	0.71	0.66	0.5	
P-24	M 5・6	0.81	0.7	1	0.9	0.48	
P-25	L 6	0.52	0.41	0.42	0.41	0.1	
P-26	L 8	1.47	1.29	1.41	1.29	0.77	
P-27	M 5	0.68	0.7	0.82	0.91	0.52	0.2
P-28	M 6・7	0.8	0.64	0.88	0.8	0.51	
P-29	M 7・8/O 7・8	0.68	0.64	0.64	0.56	0.1	
P-30	L 6	0.58	0.52	0.41	0.42	0.36	
P-31	M 5・9	1.47	1.29	1.41	1.29	0.77	
P-32	M 5	0.68	0.6	0.91	0.61	0.36	
P-33	L 5	0.52	0.42	0.56	0.32	0.2	
P-34	R 22・23	0.91	0.47	0.6	0.33	0.11	
P-35	L 5	0.70	0.20	0.46	0.21	0.26	
P-36	L 5	0.52	0.47	0.64	0.6	0.42	
P-37	L 5	0.42	0.48	0.5	0.52	0.2	
P-38	L 4	0.68	0.8	0.86	0.7	0.48	
P-39	K 6	2.1	2.08	1.9	1.84	1.11	
P-40	N 6	0.71	0.34	0.62	0.36	0.27	
P-41	N 1	0.62	0.5	0.61	0.61	0.36	
P-42	M 5	0.68	0.68	0.8	0.78	0.36	

遺構名	調査区	規模 (m)				備考	
		縦径		横径			最大径
		長径	短径	長径	短径		
P-43	L 6/O 6	0.7	0.68	0.68	0.76	0.6	
P-44	N 5	0.66	0.56	0.66	0.76	0.36	
P-45	L 7・8/O 7	0.82	0.78	0.81	0.78	0.36	
P-46	L 7・8/O 7	1.02	0.82	1.08	0.92	0.56	
P-47	M 7	0.74	0.66	0.66	0.66	0.31	
P-48	M 6	0.56	0.41	0.61	0.51	0.48	
P-49	M 6	0.72	0.7	0.52	0.48	0.22	
P-50	M 6・7	0.6	0.56	0.72	0.78	0.42	
P-51	M 5・26	0.52	0.41	0.61	0.78	0.4	
P-52	K 13	0.62	0.52	0.6	0.66	0.36	
P-53	J 11/O 11	0.92	0.61	1.08	0.9	0.56	
P-54	M 6・26	0.38	0.36	0.36	0.34	0.4	
P-55	N 4	0.64	0.18	0.36	0.12	0.21	
P-56	T 22	1.71	1.5	1.46	1.96	0.21	
P-57	N 7/O 7	0.45	0.39	0.32	0.27	0.11	
P-58	H 2	1.63	1.33	1.42	1.69	0.13	
P-59	H 2	1.06	1.57	1.42	1.18	0.52	
P-60	J 20	1.34	1.62	1.11	0.90	0.22	
P-61	J 20・21	2.39	2	1.80	1.49	0.22	
P-62	K 3	0.78	0.68	0.52	0.42	0.11	
P-63	K 3	0.76	0.72	0.7	0.64	0.11	
P-64	K 3	0.5	0.41	0.41	0.36	0.08	
P-65	J 41	0.96	0.41	0.28	0.4	0.21	
P-66	J 41	0.66	0.62	0.5	0.4	0.21	
P-67	L 2	0.42	0.58	0.67	0.67	0.22	
P-68	L 1	0.56	0.54	0.5	0.48	0.22	
P-69	H 11	0.66	0.52	0.59	0.59	0.33	
P-70	L 2	0.6	0.56	0.5	0.48	0.2	
P-71	K 30	0.75	0.41	0.24	0.22	0.15	
P-72	J 40	0.39	0.35	0.32	0.3	0.12	
P-73	H 11/O 11・K 43	0.61	0.41	0.38	0.3	0.12	
P-74	M 40	0.66	0.51	0.53	0.43	0.27	
P-75	L 40	0.59	0.44	0.55	0.38	0.22	
P-76	L 40	0.53	0.37	0.43	0.3	0.35	
P-77	L 40	0.58	0.75	0.54	0.48	0.33	
P-78	L 40	0.52	0.43	0.43	0.41	0.22	
P-79	M 40	0.56	0.58	0.31	0.36	0.31	
P-80	J 40/O 43	0.51	0.55	0.42	0.4	0.2	
P-81	J 43	0.55	0.20	0.37	0.33	0.08	
P-82	L 42/O 42	0.41	0.54	0.61	0.52	0.15	
P-83	L 42	0.71	0.53	0.59	0.59	0.19	
P-84	T 13	0.56	0.58	0.58	0.44	0.12	

表Ⅲ-2 土坑等の規模一覧(2)

構種	調査区	規模(m)					備考
		幅員		高さ		最大深	
		真直	短直	真直	短直		
F-06	R10	0.47	0.50	0.49	0.36	0.1	
F-06	K41	0.16	0.32	0.11	0.3	0.17	
F-07	S11	0.56	0.52	0.48	0.41	0.32	
F-08	S10	0.68	0.62	0.58	0.58	0.1	
F-09	F9/Q9	2.20	1.98	2.12	1.77	0.21	S9-F1 1枚目
F-09	Q10/R10	0.5	0.40	0.36	0.34	0.18	
F-09	Q10	0.4	0.4	0.3	0.3	0.11	
F-09	S3	0.53	0.48	0.52	0.29	0.16	
F-09	S5	0.56	0.48	0.38	0.32	0.13	
F-09	R7	0.41	0.58	0.68	0.43	0.26	
F-09	Q9	0.57	0.49	0.34	0.28	0.18	
F-09	Q9	0.57	0.39	0.49	0.28	0.18	
F-09	R8	0.26	0.28	0.23	0.22	0.23	
F-09	F11/Q11	2.58	1.80	2.23	1.63	0.2	
F-09	T9	2.43	1.48	1.62	1.4	0.23	
F-10	U9	1.9	1.5	1.46	1.48	0.11	
F-10	V3-6	2.26	1.40	1.60	1.26	0.23	
F-10	T12/U12/V12/S12	1.14	1.84	1.65	1.2	0.23	
F-10	U7-8	1.61	1.42	1.32	1.12	0.12	
F-10	F14/U14/S14/Q14	3.24	2.72	3.1	2.84	0.46	
F-10	S15	1.3	1.08	1.06	0.84	0.33	
F-10	T14/U14	0.77	0.62	0.69	0.45	0.23	
F-10	M9/N9	1.08	0.76	0.92	0.42	0.26	
F-10	F16/F17/Q16/F17	3.05	2.51	2.45	2.05	0.39	
F-10	L20/S2	0.98	0.60	0.92	0.51	0.23	
F-10	L52	0.48	0.4	0.5	0.36	0.12	
F-11	L32	0.38	0.38	0.41	0.1	0.22	
F-12	L32	0.6	0.52	0.52	0.5	0.11	
F-13	Q16	12.96	2.18	11.98	1.73	0.33	
F-14	L32	0.48	0.42	0.58	0.5	0.23	
F-15	H32	0.12	0.38	0.4	0.28	0.12	
F-16	H32/L32	0.6	0.54	0.52	0.42	0.12	
F-17	L32-S4	0.48	0.62	0.62	0.78	0.36	
F-18	H32	0.52	0.5	0.28	0.28	0.2	
F-19	L32	0.42	0.4	0.46	0.48	0.26	
F-20	L32	0.48	0.58	0.54	0.58	0.58	
F-21	K51	0.4	0.34	0.38	0.36	0.22	
F-22	K51	0.48	0.62	0.52	0.32	0.18	
F-23	H32	0.46	0.62	0.48	0.46	0.21	
F-24	H32	0.38	0.28	0.42	0.38	0.21	
F-25	L32	0.52	0.58	0.7	0.64	0.32	
F-26	H32/L32	0.5	0.38	0.32	0.28	0.21	
F-27	L32	0.76	0.54	0.66	0.37	0.09	
F-28	H32	0.32	0.4	0.44	0.5	0.26	

構種	調査区	規模(m)					備考	
		幅員		高さ		最大深		
		真直	短直	真直	短直			
F-10	H32	0.3	0.26	0.34	0.28	0.21		
F-10	G50/H50	11.300	1	0.90	0.58	0.18		
F-11	Q11/S11	1.2	0.42	0.3	0.44	0.13		
F-12	H31	0.82	0.54	0.7	0.54	0.1		
F-13	H51-S2	0.6	0.42	0.36	0.5	0.31		
F-13	H49/L49	0.64	0.64	0.52	0.52	0.31		
F-13	H30	0.72	0.54	0.78	0.52	0.32		
F-13	H49	0.48	0.44	0.3	0.58	0.26		
F-13	F23	0.72	0.68	0.39	0.56	0.22		
F-13	M49/G49	0.71	0.59	0.77	0.71	0.3		
F-13	M40	1.02	0.83	0.79	0.58	0.13		
F-14	M40	0.84	0.71	0.86	0.84	0.43		
F-14	N36	0.61	0.56	0.66	0.59	0.47		
F-14	N36	1.04	0.99	1.2	1.28	0.56		
F-14	P33	0.42	0.38	0.32	0.29	0.19		
F-14	N41-N42/O41-O42	0.62	0.59	0.65	0.72	0.21		
F-14	O31	0.49	0.49	0.74	0.56	0.33		
F-14	N31/O31	0.39	0.56	0.45	0.63	0.26		
F-14	O31	0.5	0.39	0.48	0.57	0.22		
F-14	O31	0.29	0.38	0.51	0.27	0.23		
F-14	O31	0.37	0.36	0.42	0.39	0.15		
F-15	O31	0.48	0.38	0.43	0.37	0.26		
F-15	O31	0.36	0.52	0.5	0.35	0.26		
F-15	F22-F23/O32-S3	0.43	0.36	0.72	0.4	0.29		
F-15	O31	0.52	0.5	0.49	0.44	0.19		
F-16	L30	2.34	0.54	3	0.46	0.9		
F-16	N6	2.91	0.58	2.91	0.18	1.32		
F-16	P3-S3	2.89	0.53	4.44	0.18	1.05		
F-16	P7	3.38	0.59	3.48	0.32	1.2		
F-16	R6-8	2.2	0.7	3.3	0.14	1.2		
F-16	T5-6	2.82	0.7	3.14	0.31	0.82		
F-16	T6-7	2.94	0.7	3.12	0.31	1.02		
F-16	R6-7	2.7	0.5	0.94	0.22	1.08		
F-16	U6	2.5	0.4	2.81	0.32	0.6		
渡越溝橋		L32-S3/S4-S3/S4-S3	(07.21)	(0.37)	(07.21)	0.21	3.38	柱穴4個
F-1	O18	0.87	0.93	—	—	—	0.15	
F-2	M6/N6	0.72	0.29	—	—	—	0.16	
F-3	N8	0.38	0.63	—	—	—	0.06	
F-4	J40	0.45	0.43	—	—	—	0.11	
F-5	Q26	1.49	0.90	—	—	—	0.23	
F-C-1	M3	1.11	0.89	—	—	—	—	
F-C-2	J39/S9	1.43	1.07	—	—	—	—	
F-C-3	H32	0.41	0.56	—	—	—	—	

表Ⅲ-3 付属遺構規模一覧(1)

S3-1	幅員(m)		高さ(m)		深さ・厚さ(m)	備考
	真直	短直	真直	短直		
H1-F-1	63	25	17	18	10	
H1-F-1	20	25	17	18	9	内側・前面奥部
H1-F-2	28	25	11	11	10	内側・前面奥部
S3-2						
H1-F-1	33	38	7	7	7	
H1-F-1	33	38	29	23	18	23
H1-F-2	29	29	22	19	22	
H-1						
H1-F-1	24	93	10	13	13	養生土
H1-F-1	24	30	4	4	4	柱穴
H1-F-2	17	8	7	19	19	柱穴
H1-F-3	14	7	21	21	21	柱穴
H1-F-4	12	7	20	20	20	柱穴
H1-F-5	16	9	31	31	31	柱穴
H1-F-6	13	7	19	19	19	柱穴
H1-F-7	13	6	21	21	21	柱穴
H1-F-8	18	8	13	13	13	柱穴
H1-F-9	20	8	21	21	21	柱穴
H1-F-10	16	5	19	19	19	柱穴
H1-F-11	11	5	25	25	25	柱穴
H1-F-12	16	5	51	51	51	柱穴
H1-F-13	16	6	19	19	19	柱穴
H1-F-14	10	4	20	20	20	柱穴
H1-F-15	11	10	23	23	23	柱穴
H1-F-16	13	4	20	20	20	柱穴
H1-F-17	16	5	21	21	21	柱穴
渡越溝橋						
H1-F-1	51	23	42	31	6	
H-2						
H1-F-1	39	30	36	25	7	柱穴内
H1-F-2	23	18	10	10	6	不要部・前面奥部
H1-F-3	28	24	14	10	6	不要部・前面奥部

H-3	幅員(m)		高さ(m)		深さ・厚さ(m)	備考
	真直	短直	真直	短直		
H1-F-1	63	44	6	5	5	養生土
H1-F-1	14	6	6	20	—	
H-4						
H1-F-1	76	50	—	—	6	
H1-F-1	43	40	30	33	33	
H1-F-2	44	33	30	30	30	
H1-F-3	47	20	30	9	9	
H1-F-4	38	26	31	17	5	
H1-F-5	21	27	25	21	16	
H-5						
H1-F-1	14	10	10	31	31	柱穴・内側
H1-F-2	13	10	10	30	30	柱穴・内側
H1-F-3	13	10	10	26	26	柱穴
H1-F-4	18	15	15	21	21	柱穴
H1-F-6	13	5	21	21	21	柱穴
H1-F-6	14	7	20	20	20	柱穴
H1-F-7	16	7	22	22	22	柱穴
H1-F-8	18	9	31	31	31	柱穴
H1-F-9	13	6	26	26	26	柱穴
H1-F-10	16	4	42	42	42	柱穴
H1-F-11	16	7	30	30	30	柱穴
H1-F-12	16	4	31	31	31	柱穴
H1-F-14	13	10	26	26	26	柱穴
H1-F-14	13	5	26	26	26	柱穴

表Ⅲ-3 付属遺構規模一覧(2)

H-6	積出範囲 (m)		高さ (m)		深さ・厚さ (m)	備考
	長径	短径	長径	短径		
H-P-1	37	20	3		3	
H-P-1掘り込み	32	40	18	3	7	右側部
H-P-2	21	20	3		3	
H-P-1	11	36	22	27	3	左側部
H-P-2	30	10	12	7	10	掘り込み
H-P-3	32	20	30	10	12	掘り込み
H-7	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1	38	21			75	状況
H-P-2	53	38	12		67	状況
H-P-3	29	30	20		55	状況
H-P-4	37	21	26		36	状況
H-P-4掘り込み	9				26	状況
H-P-5	41	21	18		72	状況
H-P-6	48	11	23		81	状況
H-P-7	41	19	70		39	状況
H-P-8	34	13	56		36	状況
H-P-9	60	47	33		78	状況
H-P-10	36	22	72		32	状況
H-P-11	21	11	51		32	状況
H-P-12	25	23	36		60	状況
H-P-13	38	30	38		60	状況
H-P-14	11	17	42		32	状況
H-P-15	25	20	47		32	状況
H-P-16	32	23	63		32	状況
H-P-17	32	23	61		32	状況
H-8	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1	76	70				
H-P-2	116	100	92	71	22	
H-P-3	104	103	84	123	20	
H-P-1	47	41	20	38	75	状況
H-P-2	54	35	21	25	20	状況
H-P-3	57	48	32	27	67	状況
H-P-4	29	24	16	14	26	状況
H-P-5	43	42	22	19	86	状況
H-P-6	37	37	16	16	58	状況
H-P-7	24	22	12	12	19	状況
掘溝	200	27	190	20	5	
H-9	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1	17	52			7	掘上
H-P-1	155	106	111	92	6	掘り込み
H-P-1	29	16			73	状況
H-P-2	29	19			79	状況
H-P-3	29	8			93	状況
H-P-4	47	30	16		82	状況
H-P-5	25	12			68	状況
H-P-6	27	9			18	状況
H-P-7	42	37	14		80	状況
H-P-8	38	12			39	状況
H-P-9	24	7			37	状況
H-P-10	22	18			26	状況
H-P-11	71	50	38	47	7	状況
H-P-12	29	19			27	状況
H-P-13	9	5			13	状況
H-10	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1	26	24	23	23	88	状況
H-P-2	34	32	22	23	68	状況
H-P-3	42	39	32	23	69	状況
H-P-4	25	21	13	12	43	状況
H-P-5	26	24	17	17	69	状況
H-P-6	24	22	13	12	49	状況
H-P-7	15	11	12	12	39	状況
H-P-8	13	13	11	10	20	状況
H-P-9	25	21	16	15	50	状況
H-P-10	25	21	19	18	52	状況
H-P-11	28	23	24	23	49	状況
H-P-12	18	18	7	6	61	状況

H-11	積出範囲 (m)		高さ (m)		深さ・厚さ (m)	備考
	長径	短径	長径	短径		
H-P-1	26	17			4	
H-P-1	20	19	12	12	30	状況
H-P-2	18	16	14	12	41	状況
H-P-3	16	15	12	11	43	状況
H-P-4	12	11	10	10	43	状況
H-P-5	15	12	20	26	15	状況
H-P-6	26	32	18	18	9	状況
H-P-7	25	19	17	12	5	状況
H-12	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1	23	15			66	状況・内堀
H-P-2	27	15			65	状況・内堀
H-14	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1	10	30			7	
H-P-2	19	11			5	
H-P-1	10	36	24	18	11	
H-P-2	6				13	状況
H-P-3	9				6	状況
H-P-4	6				18	状況
H-P-5	10				3	状況
H-P-6	5				15	状況
H-P-7	6				9	状況
H-15	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1	34	28			4	
H-P-1掘り込み	28	28	20	20	2	
H-P-2	34	28			1	
H-17	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1A	29	21			3	
H-P-1B	23	12			2	
H-P-2	28	27			2	
H-P-1	57	38	33	22	6	
H-P-2	12				30	状況
H-P-3	9				6	状況
H-P-4	10				4	状況
H-P-5	11				2	状況
H-P-6	10				3	状況
H-P-7	12				6	状況
H-P-8	11				4	状況
H-P-9	10				3	状況
掘溝1	60	20	50	13	9	
H-18	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1	21	32			0	
H-P-1掘り込み	71	66	64	55	0	
H-P-1	38	25	20	12	6	
H-P-2	27	15	12	4	15	
掘溝1	42	10	39	6	5	
掘溝2	27	13	21	8	0	
H-20	積出範囲 (m)	高さ (m)	深さ・厚さ (m)		備考	
長径	短径	長径	短径			
H-P-1	10				21	状況
H-P-2	9				21	状況
H-P-3	21				41	状況
H-P-4	68	27	31	24	13	状況
H-P-5	21	19	10	9	9	状況
H-P-6	17				11	状況
H-P-7	17				20	状況
H-P-8	18				29	状況
H-P-9	13				51	状況
H-P-10	10				4	状況
H-P-11	13				6	状況
H-P-12	9				1	状況
H-P-13	9				3	状況
H-P-14	8				2	状況
H-P-15	21				21	状況
H-P-16	8				4	状況
掘溝1	149	21	136	22	11	
掘溝2	68	19	78	12	9	

表Ⅲ-3 付属遺構規模一覧(3)

H-21	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
H-21	30	20	47	30	5	
H-22	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
H-P-1	36	46	29	32	20	
H-P-2	27	23	16	38	11	柱状
H-P-3	29	29	24	30	19	柱状
H-P-4	46	37	19	30	41	柱状
H-P-5A	54	38	21	30	23	
H-P-5B	20	19	19	19	45	柱状
H-P-6	25	25	24	24	49	柱状
H-P-7	30	25	30	25	26	
H-P-8	31	20	12	9	6	柱状
H-P-9	20	20	19	19	19	柱状
H-P-10	407	47	402	30	6	
H-23	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
H-P-1	42	21	21	87	87	柱状
H-P-2	29	21	21	53	53	柱状
H-P-3A	22	22	22	39	39	柱状
H-P-3B	181	19	19	31	31	柱状
H-P-4	30	18	18	72	72	柱状
H-P-5	28	28	28	46	46	柱状
H-P-6	21	13	13	4	4	柱状
H-P-7	29	12	12	48	48	柱状
H-P-8	39	20	20	71	71	柱状
H-P-9A	24	15	15	57	57	柱状
H-P-9B	22	10	10	42	42	柱状
H-P-10	15	12	12	29	29	柱状
H-P-11	10	15	15	36	36	柱状
H-P-12	20	17	17	30	30	柱状
H-P-13	10	18	18	45	45	柱状
H-P-14	22	20	20	31	31	柱状
H-P-15	304	20	19	31	6	溝状
H-P-16	28	12	12	33	33	柱状
H-24	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
H-P-1	24	13	13	30	30	柱状
H-P-2	20	8	8	41	41	柱状
H-P-3	20	12	12	53	53	柱状

H-25	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
H-P-1	22	22	10	10	44	柱状
H-P-2	29	29	14	11	51	柱状
H-P-3	21	20	12	9	20	柱状
H-27	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
H-P-1	50	52	30	29	11	
H-29	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
H-P-1	14	45	10	24	12	
H-P-2	31	25	18	18	52	柱状
H-P-3	27	33	23	18	57	柱状
H-P-4	30	27	12	11	46	柱状
H-P-5	43	25	24	23	47	柱状
H-P-6	24	21	15	12	40	柱状
H-P-7	23	23	13	12	41	柱状
H-P-8	41	29	23	16	12	
H-P-9	43	49	32	31	6	溝状
H-P-10	20	19	15	12	27	柱状
H-P-11	7	1	1	1	26	柱状
P-31	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
P-31	24	24	19	17	12	
P-39	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
P-39	24	24	19	17	12	
溝状遺構	H-11				長さ (m)	高さ・厚さ (m)
	幅	高さ	短軸径	長軸径		
MP-1	14	12	8	7	11	柱状
MP-2	22	18	14	11	30	柱状
MP-3	26	25	25	17	26	柱状
MP-4	20	17	13	13	10	柱状

表Ⅲ-4 遺構出土遺物一覧(1)

遺構	層位	土器				陶片・石片類				礎石類				土製品	合計		
		数量	数量	種類	形状	石輪	つまみ付	スライ	U・Rフレイク	石核	フレイク	石片	たが石			ナリ石	礎石
SH-1	層土	12	2								22					36	
	層土1		1		1						7				3	12	
	層土2	4	26	15	1		1				81	1		1	37	167	
	床面上		2	1							2					13	18
	床面		6	23				1	1		14	1	1		32	79	
	カマド		7													7	7
計		16	37	46	2		2	1		126	2	1		1	85	319	
SH-2	B-Tm						1				1					1	
	層土	2	16		2	1		1	2	144					9	177	
	層土2		3							36					3	42	
	床面上		3							6					362	392	
	床面			1		1		1	7		1		1		124	136	
	カマド層土			1												1	
SH-1層土										1					1		
計		2	22	1	2	2		2	3	196			1		514	751	

表Ⅲ-1-4 遺構出土遺物一覧(4)

遺構	層位	土器				遺物の分類				遺物の数量				遺物の種類				合計
		1層	2層	3層	4層	土器	瓦	石	その他	土器	瓦	石	その他	土器	瓦	石	その他	
H-20	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-21	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-22	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-23	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-24	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-25	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-26	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-27	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-28	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-29	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
H-30	1層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	3層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	4層	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

表Ⅲ-1-4 遺構出土遺物一覧 (6)

遺構	土器		瓦葺		石		鉄器				銅器				合計		
	1層 a層	2層 b層	1層 a層	2層 b層	1層 a層	2層 b層	土器	石	銅器	鉄器	石	銅器	鉄器	石		銅器	鉄器
P-31	銅土器 10	37															
P-32	銅土器 10	37															
P-33	銅土器 3																
P-34	銅土器 1																
P-35	銅土器 1																
P-36	銅土器 1																
P-37	銅土器 1																
P-38	銅土器 2																
P-39	銅土器 3																
P-40	銅土器 3																
P-41	銅土器 4																
P-42	銅土器 4																
P-43	銅土器 1																
P-44	銅土器 1																
P-45	銅土器 1																
P-46	銅土器 1																
P-47	銅土器 3																
P-48	銅土器 3																
P-50	銅土器 3																
P-51	銅土器 1																
P-53	銅土器 1																
P-54	銅土器 1																
P-56	銅土器 1																
P-58	銅土器 1																
P-59	銅土器 1																

表Ⅲ一4 遺構出土遺物一覧(9)

遺構	土器					銅・石遺物					鐵器遺物					合計		
	1部 b部	2部 a部	3部 b部	4部 a部	不明	石鏃	石鏃 ナイフ	石鏃 ナイフ	石鏃 ナイフ	石鏃 ナイフ	スクレイ パー	U・R フレイク	石核 フレイク	石片 打製石片	打製石片		打製石片	石鏃 石鏃 石鏃
P-131	磨石 1											1	1					
P-132	磨石 3										1	1	4					
P-133	磨石 1																	
P-134	磨石 1											1						
P-135	磨石 1												1					
P-136	磨石 6																	
P-137	磨石 1																	
P-140	磨石 1																	
P-141	磨石 3									1								
P-142	磨石 3									1								
P-143	磨石 1																	
P-144	磨石 1																	

表Ⅲ-4 遺構出土遺物一覧(10)

遺構	層位	土器				割石器類							磨石器類			合計
		1群 b類	2群 b類	3群 a類	4群 c類	V群	石輪 または ナイフ	高麗 磨石	つまみ付き ナイフ	スクレ ナイバー	U・Rフ レイク	石砵	フレ ン	石 臼	磨石 打製石	
TP-1	層土 計			6	34		1					2	2		2	4
TP-2	層土 計			6	34		1					1	65		14	121
TP-3	層土 計			4								10	10		12	26
TP-4	層土 計	1	4	11								65		1	22	154
TP-5	層土 計	4	10	64		9	1		6	2		229			26	301
TP-6	層土 計	4	10	64		9	1		6	2		229			26	301
TP-6	層土 計	16	19						2			43	1		33	115
TP-7	層土 計	1	12	8							1	71			21	114
TP-8	層土 計			3	33				1			22			29	88
TP-9	層土 計			3	50							13			19	85
溝-1	層土上		24	6								16			73	119
	層土下		2												2	2
F-1	雑土 計			1								1			1	1
F-2	雑土 計			1								1			1	1
F-5	雑土 計											2			2	2
F-C-1	瓦 計							2	1	3		2	1392			1400
F-C-2	瓦 計		6	5			1								816	823
F-C-3	H-9 盛り上げ土 計							1						3	58	4
								1						3	58	4

表Ⅲ-5 遺構掲載土器一覧(1)

図	番号	図説	出土地点	層位	分類	器種	色調	胎土	口縁・形製等/文様等/施文	内面	点数	備考 (遺文×印×破損)
遺-102	1	15	S日-1	床面	遺	磁器	浅黄褐色YR6/3	粉粒	ノ/横ハタメ	横ハタメナデ	2	HLS100×8.7
											1	
遺-102	2	20	S日-1	床面	遺	磁器	灰白10YR8/2	煉石	ノ/浅い横ハタメ・高麗磨表面	浅いハタメ	1	HLS100×8.7,4
											1	
遺-102	3	20	S日-1	床面	遺	磁器	黄褐色10YR3/2	長石	平縁/ノ縁・斜めハタメ	横ハタメ	2	
											1	
遺-102	4	15	S日-1	床面	遺	磁器	浅黄褐色YR6/3	粉粒・煉石	平縁/ノ縁ハタメ		1	
											2	
遺-102	5	20	S日-1	床面	遺	磁器	灰白10YR8/2	煉石	平縁/浅い横ハタメ/ノ縁	横ハタメ	1	割られる
											1	
遺-102	6	20	S日-1	床面	遺	磁器	灰白10YR8/2	粉粒	ノ/横ハタメ	横ハタメ	1	輪郭不明
											1	
遺-102	7	20	S日-1	床面	遺	磁器	灰白10YR8/2	煉石	ノ/横ハタメ・ハタメ	横ハタメ・高麗石	1	輪郭不明
											1	
遺-102	8	20	S日-1	床面	遺	磁器	灰白10YR8/2	粉粒	ノ/横ハタメ・高麗石	高麗石	2	
											1	
遺-102	9	20	S日-1	床面	遺	磁器	灰白10YR7/4	石炭	ノ/ヒギキ	高麗石	1	
											1	
遺-102	10	20	S日-2	床面	遺	磁器	灰白10YR8/2	煉石	4面縁/段/横ハタメ・ヒギキ	横ハタメナデ・高麗石	1	6.8×10.7×1.3
											1	
遺-102	11	20	S日-2	層土	遺	磁器	黄褐色10YR4/1	煉石	平縁/ノ縁・ヒギキ	高麗石	11	
											1	
遺-102	12	20	S日-2	層土	遺	磁器	黄褐色10YR5/2	煉石	平縁/段状横縁/ヒギキ	高麗石	1	
											1	
遺-102	13	20	S日-2	床面	遺	磁器	黄褐色10YR4/1	煉石	ノ/ヒギキ		1	
											1	
遺-102	14	20	S日-2	床面	遺	磁器	灰白10YR7/3	煉石	段縁		1	
											1	
遺-102	15	30	日-1	層土	遺	磁器	灰白10YR7/3	石炭	平縁/高麗石・浅い横ハタメ・ヒギキ	高麗石ナデ	1	1面磨損有り
											1	
遺-102	16	30	日-1	層土	遺	磁器	灰白10YR7/3	石炭	丸縁縁部有文・高麗石	高麗石ナデ	1	縁部欠
											1	
遺-102	17	30	日-1	層土	遺	磁器	灰白10YR6/4	石炭	ノ/丸縁縁部	高麗石	2	
											1	
遺-102	18	30	日-1	層土	遺	磁器	灰白10YR6/4	粉粒	ノ/丸縁縁部	高麗石	2	
											1	
遺-102	19	30	日-3	層土	遺	磁器	灰白10YR8/2	粉粒	ノ/LR	横文	7	
											1	
遺-102	20	30	日-3	層土	遺	磁器	黄褐色10YR4/1	煉石	ノ/丸縁縁部	高麗石	2	
											1	
遺-102	21	30	日-3	層土	遺	磁器	黄褐色10YR6/4	石炭	ノ/縁縁/LR	高麗石ナデ	2	
											1	
遺-102	22	30	日-3	層土	遺	磁器	黄褐色10YR6/4	石炭	LR 3面・縁部の高麗磨表面		3	
											1	
遺-102	23	30	日-3	層土	遺	磁器	黄褐色10YR6/2	石炭	高麗磨表面		1	
											1	
遺-102	24	30	日-4	層土	遺	磁器	灰白10YR7/4	煉石	丸縁縁部有文・高麗石	高麗石ナデ	1	丸縁縁部有文
											1	
遺-102	25	30	日-4	層土	遺	磁器	黄褐色10YR6/4	石炭	ノ/丸縁縁部	高麗石	1	丸縁縁部有文
											1	
遺-102	26	30	日-4	層土	遺	磁器	黄褐色10YR6/4	石炭	平縁/横文/LR		1	
											1	
遺-102	27	30	日-4	層土	遺	磁器	灰白10YR7/4	煉石	山形高麗石・高麗磨表面/LR		2	
											1	
遺-102	28	30	日-4	層土	遺	磁器	灰白10YR6/4	石炭	ノ/丸縁縁部		1	
											1	
遺-102	29	30	日-5	層土	遺	磁器	灰白10YR7/4	石炭	平縁/横文/LR		2	
											1	
遺-102	30	30	日-6	層土	遺	磁器	黄褐色10YR7/4	煉石	高麗石ナデ	高麗石ナデ	1	
											1	
遺-102	31	30	日-6	層土	遺	磁器	灰白10YR6/4	石炭	平縁/浅褐色/LR		1	
											1	

表Ⅲ-6 遺構出土掲載石器等一覧(1)

図番号	番号	図名	器種名	遺構・発掘区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅲ-130	1	55	たなこ石	S1層-1	床面	チャート	11.7	10.0	6.1	965	大行り石磨丸
Ⅲ-130	2	55	石核	S1層-2	床面	チャート	6.7	7.9	6.8	630	大行り石
Ⅲ-130	3	55	すり石	S1層-2	床面	砂岩	23.7	12.1	5.2	1960	磨付石
Ⅲ-121	4	68	石核	H-1	覆土3	頁岩	3.7	2.1	0.8	3.3	
Ⅲ-121	5	68	石核	H-1	覆土2	頁岩	3.8	2.3	0.9	3.88	
Ⅲ-121	6	68	石核またはナイフ	H-1	覆土1	頁岩	5.7	2.5	0.8	8.78	
Ⅲ-121	7	68	石核	H-1	覆土1	黒曜石	2.5	1.2	0.6	1.34	丸磨石否?
Ⅲ-121	8	68	石核	H-1	覆土2	頁岩	4.5	1.2	0.4	2.35	
Ⅲ-121	9	68	石核	H-1	覆土2	頁岩	4.8	2.1	0.4	4.27	
Ⅲ-121	10	68	つまみ付きナイフ	H-1	覆土1	頁岩	7.7	2.5	0.5	7.57	
Ⅲ-121	11	68	ステレィパー	H-1	覆土2	頁岩	9.0	7.1	2.0	85.62	
Ⅲ-121	12	68	ウフレイク	H-1	覆土2	頁岩	11.2	3.0	0.9	22.01	
Ⅲ-121	13	68	石核	H-1	覆土2	頁岩	6.5	8.7	2.7	145.7	
Ⅲ-121	14	68	石核	H-1	覆土1	砂岩	15.80	4.0	1.2	46.9	
Ⅲ-121	15	68	磨り付いた	H-1	覆土2	砂岩	4.5	2.4	0.4	5.48	
Ⅲ-121	16	68	すり石	H-1	覆土2	安山岩	11.4	8.6	6.0	800	
Ⅲ-121	17	68	たなこ石	H-1	覆土2	安山岩	12.5	7.3	4.5	610	
Ⅲ-121	18	68	石核	H-2	床面	頁岩	1.7	1.0	0.3	0.38	
Ⅲ-122	19	68	石核	H-2	覆土2	頁岩	3.1	1.8	0.5	2.55	
Ⅲ-122	20	68	石核	H-2	覆土2	頁岩	3.8	4.3	1.6	39.24	
Ⅲ-122	21	68	両面磨削石核	H-3	覆土2	頁岩	3.9	2.3	0.7	5.34	
Ⅲ-122	22	68	脆状石核	H-3	覆土3	頁岩	3.8	3.3	1.1	12.57	トランシェ型
Ⅲ-122	23	68	石核	H-3	覆土2	頁岩	6.1	4.7	3.1	78.58	
Ⅲ-122	24	68	すり石	H-3	覆土2	砂岩	10.1	15.1	5.8	1080	
Ⅲ-122	25	68	石核	H-4	覆土2	頁岩	3.4	1.8	0.5	2.85	
Ⅲ-122	26	68	ステレィパー	H-4	覆土1	頁岩	7.9	5.4	2.4	36.97	
Ⅲ-122	27	68	石核	H-4	ベタ	頁岩	4.1	5.0	6.9	118.86	
Ⅲ-122	28	68	つまみ付きナイフ	H-5	覆土2	頁岩	9.0	3.1	1.0	19.29	
Ⅲ-122	29	68	ステレィパー	H-5	覆土2	頁岩	6.2	4.4	1.6	19.01	
Ⅲ-122	30	68	ステレィパー	H-5	覆土2	頁岩	4.3	3.5	1.6	16.31	
Ⅲ-122	31	68	石核	H-6	覆土1	頁岩	2.7	1.5	0.1	1.41	
Ⅲ-123	32	68	ステレィパー	H-6	覆土2	頁岩	6.9	4.7	2.2	62.2	
Ⅲ-123	33	68	脆状石核	H-6	覆土2	頁岩	10.6	6.0	3.2	128.41	
Ⅲ-123	34	68	たなこ石	H-6	覆土2	砂岩	9.5	6.8	2.5	205.9	
Ⅲ-123	35	68	両面磨削石核	H-6	覆土2	滑石燧石	20.3	12.6	5.8	450	
Ⅲ-123	36	68	石核	H-6	覆土3	安山岩	28.6	22.1	5.9	6750	
Ⅲ-123	37	68	石磨品	H-6	覆土2	燧石	10.7	6.4	1.8	106.5	
Ⅲ-124	38	69	石核	H-7	覆土2	黒曜石	3.0	1.7	0.4	1.2	
Ⅲ-124	39	69	石核またはナイフ	H-7	覆土2	頁岩	9.8	2.7	1.1	22.60	
Ⅲ-124	40	69	両面磨削石核	H-7	覆土2	頁岩	13.2	6.0	2.7	122.3	
Ⅲ-124	41	69	石核	H-7	覆土2	頁岩	7.9	2.9	2.0	112.40	
Ⅲ-124	42	69	石核	H-7	床面	頁岩	3.9	2.2	0.5	3.54	
Ⅲ-124	43	69	つまみ付きナイフ	H-7	覆土2	頁岩	7.3	2.7	1.3	12.85	
Ⅲ-124	44	69	脆状石核	H-7	覆土2	頁岩	7.6	3.2	1.5	40.07	
Ⅲ-124	45	69	ステレィパー	H-7	覆土2	頁岩	8.0	4.0	1.0	28.31	
Ⅲ-124	46	69	ステレィパー	H-7	覆土2	頁岩	5.8	3.3	1.3	19.54	
Ⅲ-124	47	69	ステレィパー	H-7	覆土2	頁岩	5.4	5.1	1.6	19.46	
Ⅲ-124	48	69	石核	H-7	床面上	頁岩	7.8	8.5	3.5	132.74	
Ⅲ-125	49	69	石核	H-7	覆土2	頁岩	7.2	8.2	5.6	245.66	
Ⅲ-125	50	69	石磨	H-7	床面上	砂岩	10.2	2.2	1.2	40.92	
Ⅲ-125	51	69	たなこ石	H-7	覆土2	頁岩	12.8	5.8	3.8	450	
Ⅲ-125	52	69	扁平打製石核	H-7	覆土2	安山岩	9.1	17.3	3.2	695	
Ⅲ-125	53	69	扁平打製石核	H-7	覆土2	安山岩	7.3	9.7	2.7	193.96	
Ⅲ-125	54	69	扁平打製石核	H-7	目P-4覆土	安山岩	10.2	15.3	4.1	990	
Ⅲ-125	55	69	石核	H-7	覆土2	燧石	8.2	18.1	1.3	384	
Ⅲ-125	56	69	石核	H-7	覆土2	燧石	11.8	17.2	3.5	223.4	
Ⅲ-125	57	69	石核	H-7	覆土2	燧石	8.2	3.6	1.3	41.3	磨付石
Ⅲ-126	58	69	石核	H-8	覆土2	黒曜石	3.2	1.5	0.4	1.4	
Ⅲ-126	59	69	ステレィパー	H-8	床面	頁岩	5.7	3.3	1.0	13.46	
Ⅲ-126	60	69	ステレィパー	H-8	床面	頁岩	7.2	6.1	2.0	38.59	
Ⅲ-126	61	69	ステレィパー	H-8	床面	頁岩	6.7	4.6	1.7	25.53	
Ⅲ-126	62	69	ステレィパー	H-8	床面	頁岩	6.8	4.3	1.4	36.8	
Ⅲ-126	63	70	ステレィパー	H-8	目P-3	頁岩	4.2	5.6	1.6	29.38	
Ⅲ-126	64	70	石核	H-8	目P-3	頁岩	7.5	6.9	3.9	111.14	
Ⅲ-126	65	70	たなこ石	H-8	目P-3	安山岩	14.8	5.0	5.7	545	
Ⅲ-126	66	70	扁平打製石核	H-8	床面	安山岩	7.5	13.2	1.9	181.8	
Ⅲ-126	67	70	扁平打製石核	H-8	床面	安山岩	6.9	9.7	2.1	112.2	
Ⅲ-126	68	70	扁平打製石核	H-8	床面	安山岩	7.5	8.9	3.4	340	磨付石
Ⅲ-127	69	70	扁平打製石核	H-8	目P-1	頁岩	19.1	9.4	3.9	800	
Ⅲ-127	70	70	扁平打製石核	H-8	目P-3	安山岩	6.8	17.9	2.2	393	
Ⅲ-127	71	70	石核	H-8	目P-2	燧石	11.9	9.8	3.8	390	磨付石
Ⅲ-127	72	70	両面磨削石核	H-9	覆土2	頁岩	6.5	5.4	2.0	60.59	
Ⅲ-127	73	70	石核	H-9	覆土2	頁岩	7.5	2.2	0.7	6.27	
Ⅲ-127	74	70	つまみ付きナイフ	H-9	覆土2	黒曜石	9.4	3.4	0.9	29.77	
Ⅲ-127	75	70	つまみ付きナイフ	H-9	床面	頁岩	7.0	4.4	1.0	14.57	
Ⅲ-127	76	70	ステレィパー	H-9	覆土2	頁岩	5.9	5.0	1.3	28.25	
Ⅲ-127	77	70	ステレィパー	H-9	覆土2	頁岩	4.2	3.2	1.2	15.52	
Ⅲ-128	78	70	ステレィパー	H-9	床面	頁岩	5.6	4.5	1.2	23.14	
Ⅲ-128	79	70	ステレィパー	H-9	床面	頁岩	3.7	4.0	0.8	6.62	
Ⅲ-128	80	70	ステレィパー	H-9	覆土2	頁岩	8.6	3.1	1.3	23	
Ⅲ-128	81	70	石核	H-9	覆土2	頁岩	8.2	8.1	4.7	399.08	
Ⅲ-128	82	70	石磨	H-9	覆土2	砂岩	9.2	4.2	2.1	137.22	
Ⅲ-128	83	70	たなこ石	H-9	覆土2	砂岩	14.1	5.1	3.6	330	

表Ⅲ-6 遺構出土掲載石器等一覧(2)

図番号	番号	図名	器種名	遺構/発露区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	質量 (g)	備考
Ⅲ-128	84	70	石核	H-9	層12	安山岩	11.6	13.3	3.6	300	
Ⅲ-128	85	70	石製品	H-9	層11	凝灰岩	10.9	6.5	2.6	112.8	縁部
Ⅲ-128	86	70	石製品	H-9	層12	凝灰岩	2.6	2.8	0.8	2.9	平玉
Ⅲ-129	87	70	石核	H-10	層14	頁岩	2.0	1.4	0.4	0.96	
Ⅲ-129	88	70	石核	H-10	層14	頁岩	2.1	1.4	0.4	2.94	
Ⅲ-129	89	70	石核	H-10	層14	頁岩	6.1	3.1	1.0	11.47	
Ⅲ-129	90	70	ステインバー	H-10	床面	頁岩	3.8	3.9	0.8	16.39	
Ⅲ-129	91	70	スクリュー	H-10	層14	頁岩	3.6	4.2	0.7	8.64	
Ⅲ-129	92	70	磨石片状	H-10	層14	頁岩	4.1	7.4	2.2	52.57	旧石器・美利河原
Ⅲ-129	93	70	石核	H-10	床面	頁岩	2.7	4.4	3.7	49.57	
Ⅲ-129	94	70	石核	H-10	層14	頁岩	11.0	4.9	2.4	190.3	
Ⅲ-129	95	70	石核	H-10	層11	安山岩	13.8	16.8	1.0	30.3	
Ⅲ-129	96	71	扁平打製石核	H-10	床面	安山岩	9.2	15.5	1.9	278.7	
Ⅲ-129	97	71	扁平打製石核	H-10	層14	安山岩	5.9	13.5	1.6	172.6	
Ⅲ-129	98	71	石製品	H-10	床面	砂岩	28.8	5.1	2.4	207	
Ⅲ-130	99	71	つまみ付きナイフ	H-11	層11	頁岩	2.0	2.6	1.0	10.73	骨刀に似る
Ⅲ-130	100	71	ステインバー	H-11	層15	頁岩	2.3	3.1	0.6	3.57	
Ⅲ-130	101	71	たたと石	H-11	層15	頁岩	10.7	7.0	3.7	410	
Ⅲ-130	102	71	たたと石	H-11	層15	安山岩	9.7	6.4	3.2	282.3	
Ⅲ-130	103	71	石核	H-12	床面	頁岩	9.8	6.2	1.7	105.9	
Ⅲ-130	104	71	石核	H-12	床面	安山岩	9.7	8.5	1.1	55.7	
Ⅲ-130	105	71	石核	H-13	層1	頁岩	2.8	1.6	0.4	1.4	
Ⅲ-130	106	71	石核	H-14	層11	頁岩	1.7	2.3	0.5	1.46	
Ⅲ-130	107	71	石核またはナイフ	H-14	層12	頁岩	7.1	3.0	1.2	16.3	
Ⅲ-130	108	71	石核またはナイフ	H-14	層11	頁岩	4.9	4.8	2.4	32.28	
Ⅲ-130	109	71	石核	H-14	層11	頁岩	3.7	4.8	2.0	49.93	
Ⅲ-130	110	71	石核	H-14	層12	頁岩	3.1	4.0	1.6	15.84	
Ⅲ-131	111	71	つまみ付きナイフ	H-16	層11	頁岩	4.1	2.0	8.0	4.59	
Ⅲ-131	112	71	石斧	H-16	層12	片岩	10.1	4.6	2.1	154.7	
Ⅲ-131	113	71	たたと石	H-16	床面	安山岩	20.3	10.0	3.4	200	骨刀あり
Ⅲ-131	114	71	たたと石	H-17	層13	安山岩	8.9	4.5	2.1	121.3	
Ⅲ-131	115	71	つまみ付きナイフ	H-18	層1	頁岩	3.3	2.4	0.6	3.22	
Ⅲ-131	116	71	石斧	H-18	層1	片岩	3.9	3.0	0.8	25.4	
Ⅲ-131	117	71	つまみ付きナイフ	H-19	床面	頁岩	2.7	3.5	1.4	30.3	
Ⅲ-131	118	71	つまみ付きナイフ	H-19	層1	頁岩	8.9	4.2	1.7	26.7	
Ⅲ-131	119	71	たたと石	H-20	床面	安山岩	12.0	8.6	4.0	62.0	
Ⅲ-132	120	71	石核	H-20	床面	頁岩	3.9	1.6	0.5	2.04	
Ⅲ-132	121	71	石核	H-20	目P-4	頁岩	3.6	1.4	0.4	1.45	
Ⅲ-132	122	71	石核	H-20	床面	頁岩	2.6	2.0	0.5	2.07	
Ⅲ-132	123	71	両面打製石核	H-20	層1	頁岩	4.4	3.2	1.2	12.71	
Ⅲ-132	124	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	2.3	1.8	0.6	0.91	
Ⅲ-132	125	71	石核	H-20	目P-4	頁岩	4.8	2.0	0.7	6.40	
Ⅲ-132	126	71	石核	H-20	床面	頁岩	3.9	6.1	1.8	56.49	
Ⅲ-132	127	71	つまみ付きナイフ	H-20	床面	頁岩	3.3	2.5	1.1	9.93	
Ⅲ-132	128	71	つまみ付きナイフ	H-20	床面	頁岩	4.2	3.0	0.9	5.97	
Ⅲ-132	129	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	3.0	2.4	0.5	9.7	
Ⅲ-132	130	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	4.9	3.4	1.4	15.46	
Ⅲ-132	131	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	5.0	2.6	0.8	7.21	
Ⅲ-132	132	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	8.4	4.5	1.2	31.81	
Ⅲ-132	133	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	11.0	5.6	1.4	89.66	
Ⅲ-132	134	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	8.5	5.6	2.1	74.64	
Ⅲ-132	135	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	5.5	4.5	2.2	40.79	
Ⅲ-132	136	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	6.2	6.4	1.8	52.4	
Ⅲ-132	137	71	ステインバー	H-20	床面	頁岩	13.0	5.0	3.7	208	接合
Ⅲ-134	138	71	石核	H-20	床面	頁岩	7.4	7.0	3.5	135.78	接合3
Ⅲ-134	139	71	石核	H-20	副溝1	頁岩	6.7	9.1	3.6	219.56	接合3
Ⅲ-134	140	71	石核	H-20	床面	頁岩	7.1	6.1	4.1	114.61	接合1
Ⅲ-134	141	71	石核	H-20	床面	頁岩	7.5	6.8	2.9	131.74	接合1
Ⅲ-134	142	71	石核	H-20	床面	頁岩	8.7	9.0	7.9	500	接合5
Ⅲ-134	143	71	石核	H-20	床面	頁岩	8.8	9.0	7.8	630	接合2
Ⅲ-135	144	71	石製品	H-20	床面	頁岩	12.1	6.6	3.4	292.74	接合2
Ⅲ-135	145	71	石製品	H-20	床面	頁岩	11.9	12.4	4.2	191.01	接合2
Ⅲ-136	146	71	石核	H-20	床面	頁岩	5.3	4.6	2.8	94.75	
Ⅲ-136	147	71	石核	H-20	床面	頁岩	6.3	4.3	2.6	90.02	
Ⅲ-136	148	71	石斧	H-20	床面	片岩	6.2	2.0	0.4	7.8	
Ⅲ-136	149	71	たたと石	H-20	床面	頁岩	7.5	5.9	4.0	255.9	
Ⅲ-136	150	71	石核	H-20	床面	安山岩	8.4	15.7	4.6	400	
Ⅲ-136	151	71	砥石	H-20	床面	凝灰岩	8.2	7.6	1.5	89.8	
Ⅲ-136	152	71	石製品	H-20	層11	凝灰岩	6.4	5.2	2.0	36.7	
Ⅲ-136	153	71	石核	H-21	床面	黒曜石	3.1	0.9	0.4	1.06	赤井川
Ⅲ-136	154	71	石核	H-21	床面	頁岩	3.1	5.5	3.5	51.02	
Ⅲ-136	155	71	石核	H-21	床面	頁岩	4.1	6.5	4.2	86.61	
Ⅲ-136	156	71	すり石	H-21	床面	安山岩	7.3	12.3	5.4	730	
Ⅲ-136	157	71	ステインバー	H-22	層13	頁岩	3.4	3.6	1.6	14.33	
Ⅲ-136	158	71	扁平打製石核	H-22	目P-5層1	安山岩	8.2	8.8	2.0	184	
Ⅲ-137	159	71	石核	H-23	目P-13層1	頁岩	2.4	1.5	0.3	0.6	
Ⅲ-137	160	71	両面打製石核	H-23	層13	頁岩	4.1	3.9	2.3	42.2	
Ⅲ-137	161	71	両面打製石核	H-23	層13	頁岩	8.0	3.3	1.8	43.5	
Ⅲ-137	162	71	つまみ付きナイフ	H-23	層13	頁岩	5.1	2.9	1.2	6.16	
Ⅲ-137	163	71	ステインバー	H-23	層13	頁岩	4.6	3.6	0.9	8.9	
Ⅲ-137	164	71	石核	H-23	床面	頁岩	3.9	6.5	1.8	42.8	
Ⅲ-137	165	71	石核	H-23	床面	頁岩	3.8	6.1	3.2	80.6	
Ⅲ-137	166	71	石核	H-23	目P-11層1	頁岩	3.4	5.8	2.7	78.5	

表Ⅲ-6 遺構出土土曜石器等一覧(3)

図番号	番号	図名	器種名	遺構/発掘区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅲ-137	167	76	たなき石	H-25	床面	砂岩	12.9	6.8	2.7	400	
Ⅲ-137	168	76	扁平打製石	H-25	床面	安山岩	8.0	8.6	3.5	275	
Ⅲ-137	169	76	扁平打製石	H-25	床面	安山岩	5.0	10.3	4.3	430	
Ⅲ-138	170	76	ステレオパー	H-24	床面	頁岩	4.6	5.0	1.3	25.3	
Ⅲ-138	171	76	石核	H-24	床面	頁岩	2.3	2.7	2.6	11.9	
Ⅲ-138	172	76	石核	H-24	床面	安山岩	11.6	19.0	2.5	400	
Ⅲ-138	173	76	ステレオパー	H-25	覆土	頁岩	6.1	3.7	1.0	17.1	
Ⅲ-138	174	76	扁平打製石	H-25	覆土	安山岩	7.8	7.7	2.3	129	
Ⅲ-138	175	76	扁平打製石	H-27	覆土	安山岩	9.5	16.1	2.8	430	
Ⅲ-138	176	76	北海道石	H-26	覆土	砂岩	20.1	13.8	6.7	1250	
Ⅲ-138	177	76	石核	H-29	床面上	頁岩	8.2	1.5	0.8	8.7	
Ⅲ-138	178	76	つまみ付きナイフ	H-29	覆土2	頁岩	7.2	3.1	0.8	14.4	
Ⅲ-138	179	76	ステレオパー	H-29	床面上	頁岩	8.8	5.3	1.7	65.21	
Ⅲ-139	180	76	ステレオパー	H-29	床面上	頁岩	4.3	2.7	0.8	7.35	
Ⅲ-139	181	76	ステレオパー	H-29	覆土	頁岩	6.8	2.6	1.2	9.63	
Ⅲ-139	182	76	ステレオパー	H-29	層P-5覆土	頁岩	5.9	5.2	1.5	36.25	
Ⅲ-139	183	76	石核	H-29	床面上	頁岩	2.2	3.9	2.3	15.6	
Ⅲ-139	184	76	たなき石	H-29	覆土2	緑色砂岩	10.3	4.8	3.1	273	
Ⅲ-139	185	76	扁平打製石	H-29	覆土2	安山岩	8.2	11.9	2.3	257	
Ⅲ-139	186	76	北海道石	H-29	床面上	砂岩	12.0	18.7	10.2	2900	
Ⅲ-140	1	79	ステレオパー	F-1	覆土	頁岩	2.8	5.3	1.9	7.85	
Ⅲ-140	2	79	石核	F-2	覆土	砂岩	19.7	8.8	2.1	290	
Ⅲ-140	3	79	つまみ付きナイフ	F-3	覆土1	頁岩	6.8	5.7	1.2	29.05	
Ⅲ-140	4	79	石核	F-4	覆土	頁岩	2.1	1.7	0.4	1.19	
Ⅲ-140	5	79	すり石	F-4	覆土	安山岩	8.1	9.2	5.2	320	
Ⅲ-140	6	79	フレイト	F-5	覆土	頁岩	11.6	7.5	3.1	120.44	
Ⅲ-140	7	79	ステレオパー	F-10	覆土	頁岩	6.2	6.4	2.1	61.61	
Ⅲ-140	8	79	石核	F-10	覆土	頁岩	4.8	5.7	4.4	112.4	
Ⅲ-140	9	79	石核	F-10	覆土3	頁岩	7.0	4.1	3.6	95.69	
Ⅲ-140	10	79	たなき石	F-10	覆土	砂岩	13.0	7.8	6.3	290	
Ⅲ-141	11	79	ステレオパー	F-14	覆土	頁岩	7.7	4.7	1.7	19.05	
Ⅲ-141	12	79	ステレオパー	F-16	覆土	頁岩	7.7	4.7	1.7	36.89	
Ⅲ-141	13	79	ステレオパー	F-17	覆土	頁岩	3.5	3.0	0.8	8.45	
Ⅲ-141	14	79	石核	F-18	覆土	頁岩	2.2	1.7	0.5	1.24	
Ⅲ-141	15	79	扁平打製石	F-20	覆土	安山岩	8.1	12.5	3.5	430	
Ⅲ-141	16	79	石核	F-24	覆土	安山岩	12.0	9.0	8.2	1160	
Ⅲ-141	17	79	石フレイト	F-25	覆土	頁岩	7.9	6.5	2.6	107.20	
Ⅲ-142	18	79	両面調整石	F-31	覆土	頁岩	2.9	3.3	0.9	8.94	
Ⅲ-142	19	79	ステレオパー	F-31	覆土	頁岩	8.8	6.7	1.9	74.31	
Ⅲ-142	20	79	石核	F-31	覆土	頁岩	4.5	4.2	3.0	49.55	
Ⅲ-142	21	79	石核	F-31	覆土	頁岩	8.4	8.0	3.3	170.12	
Ⅲ-142	22	79	ステレオパー	F-31	覆土上面	頁岩	17.8	16.1	4.3	1330	
Ⅲ-142	23	79	石核	F-31	覆土上面	砂岩	22.7	19.8	4.3	1330	
Ⅲ-143	24	79	扁平打製石	F-39	覆土1	砂岩	8.5	11.9	2.4	340	
Ⅲ-143	25	79	石核	F-40	覆土	頁岩	3.7	4.3	2.6	30.33	
Ⅲ-143	26	79	ステレオパー	F-45	覆土	頁岩	7.9	3.2	1.4	21.4	
Ⅲ-143	27	80	ステレオパー	F-51	覆土	頁岩	5.7	4.6	1.2	17.24	
Ⅲ-143	28	80	石核	F-51	覆土	頁岩	5.8	9.7	6.2	267.25	
Ⅲ-143	29	80	つまみ付きナイフ	F-56	壁面面上	頁岩	7.2	2.8	0.9	10.71	
Ⅲ-143	30	80	ステレオパー	F-59	覆土	頁岩	4.5	3.6	0.9	11.32	
Ⅲ-143	31	80	石核	F-59	覆土	安山岩	28.0	13.9	4.5	2300	
Ⅲ-144	32	80	石核	F-61	覆土	頁岩	4.8	4.3	2.5	39.63	
Ⅲ-144	33	80	ステレオパー	F-73	覆土1	頁岩	6.5	5.7	1.8	85.9	
Ⅲ-144	34	80	石核	F-80	覆土	頁岩	3.5	1.6	0.7	3.3	
Ⅲ-144	35	80	つまみ付きナイフ	F-89	覆土	頁岩	4.5	1.8	0.8	5.25	
Ⅲ-144	36	80	つまみ付きナイフ	F-89	覆土	頁岩	6.7	2.7	0.8	10.3	
Ⅲ-144	37	80	石核	F-89	覆土	頁岩	7.3	3.3	1.7	34	
Ⅲ-144	38	80	ステレオパー	F-89	覆土	頁岩	8.5	2.9	1.0	21.1	
Ⅲ-144	39	80	ステレオパー	F-89	覆土	頁岩	5.7	8.4	2.7	88.9	
Ⅲ-144	40	80	石核	F-96	覆土	頁岩	4.2	4.5	3.0	59.6	
Ⅲ-144	41	80	石核	F-97	覆土	安山岩	8.7	16.7	8.0	85.3	
Ⅲ-145	42	80	扁平打製石	F-99	覆土	安山岩	5.4	10.8	4.9	3.3	
Ⅲ-145	43	80	つまみ付きナイフ	F-100	底面	頁岩	5.9	2.2	0.7	6.38	
Ⅲ-145	44	80	つまみ付きナイフ	F-100	覆土	頁岩	5.0	2.5	1.2	14.24	
Ⅲ-145	45	80	石核	F-101	覆土	頁岩	2.9	1.5	0.7	2.85	
Ⅲ-145	46	80	ステレオパー	F-101	覆土	頁岩	4.6	4.2	1.4	28.94	
Ⅲ-145	47	80	扁平打製石	F-101	覆土	頁岩	17.7	14.0	4.9	328	
Ⅲ-145	48	80	石核	F-102	覆土	頁岩	6.2	1.7	1.0	9.3	
Ⅲ-145	49	80	つまみ付きナイフ	F-102	覆土	頁岩	7.1	2.9	1.0	15.06	
Ⅲ-145	50	80	つまみ付きナイフ	F-102	覆土	頁岩	5.7	2.4	0.8	6.59	
Ⅲ-145	51	80	つまみ付きナイフ	F-103	底面	頁岩	10.3	4.7	0.9	25.42	
Ⅲ-145	52	80	すり石	F-103	底面	安山岩	20.7	14.6	4.9	1000	
Ⅲ-145	53	81	両面調整石	F-104	覆土1	頁岩	4.2	2.1	1.2	7.67	
Ⅲ-145	54	81	両面調整石	F-104	覆土1	頁岩	5.9	4.8	2.1	64.13	
Ⅲ-145	55	81	石核	F-104	底面	頁岩	5.0	2.2	0.5	3.62	
Ⅲ-145	56	81	両面調整石	F-104	底面	頁岩	8.5	4.2	2.6	77.34	
Ⅲ-145	57	81	ステレオパー	F-104	覆土	頁岩	8.8	6.7	2.1	90.26	
Ⅲ-145	58	81	石核	F-104	覆土3	緑色砂岩	3.5	1.3	0.5	3.29	
Ⅲ-145	59	81	たなき石	F-104	覆土1	安山岩	10.0	5.6	2.5	302	
Ⅲ-145	60	81	すり石	F-104	覆土1	安山岩	7.3	10.9	4.9	360	
Ⅲ-145	61	81	石核	F-105	覆土	頁岩	9.9	11.1	3.8	360	
Ⅲ-145	62	81	石核	F-105	覆土	安山岩	16.7	16.8	3.9	210	
Ⅲ-147	63	81	石核	F-108	覆土	頁岩	2.6	1.1	0.3	0.88	

表Ⅲ-6 遺構出土掲載石器等一覧(4)

図番号	番号	図名	器種名	遺構/発掘区	層位	石材等	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅲ-147	84	81	石楯	P-108	覆土	菅苧	4.7	1.8	0.8	7.06	
Ⅲ-147	85	81	石楯	P-108	覆土	菅苧	4.3	1.3	0.6	3.22	
Ⅲ-147	86	81	つまみ付きナイフ	P-108	覆土	菅苧	7.5	2.5	1.2	13.25	
Ⅲ-147	87	81	ステンレイベー	P-108	覆土	菅苧	3.7	4.2	0.8	36.15	
Ⅲ-147	88	81	ステンレイベー	P-108	覆土	菅苧	3.9	3.8	1.5	23.01	
Ⅲ-147	89	81	ステンレイベー	P-108	覆土	菅苧	7.4	7.5	1.8	71.81	
Ⅲ-147	90	81	ステンレイベー	P-108	覆土	菅苧	10.0	5.1	1.5	56.1	
Ⅲ-147	91	81	ステンレイベー	P-108	覆土	菅苧	12.7	6.8	1.4	100.6	
Ⅲ-147	92	81	ステンレイベー	P-108	覆土	菅苧	11.3	8.7	2.4	186	総合資料2
Ⅲ-147	93	81	ステンレイベー	P-108	覆土	菅苧	7.8	4.0	1.6	28.1	
Ⅲ-148	74	81	石楯	P-108	覆土	菅苧	4.6	4.6	2.7	53.7	
Ⅲ-148	75	81	たたき石	P-108	覆土	菅苧	9.9	4.8	2.9	184	
Ⅲ-148	76	81	たたき石	P-108	覆土	菅苧	14.3	9.3	4.5	600	
Ⅲ-148	77	81	石楯	P-108	覆土	燧石	3.5	1.3	0.6	4.98	
Ⅲ-148	78	81	すり石	P-108	覆土	燧石	8.3	12.9	5.2	350	
Ⅲ-148	79	81	石楯	P-108	覆土	燧石	9.2	9.9	2.9	350	
Ⅲ-148	80	82	石楯	P-112	覆土	菅苧	8.7	8.4	2.4	160.3	
Ⅲ-149	81	82	石楯	P-113	覆土	菅苧	2.4	1.2	0.3	0.74	
Ⅲ-149	82	82	石楯	P-113	覆土	菅苧	3.5	1.2	0.4	1.14	
Ⅲ-149	83	82	石楯	P-113	覆土	菅苧	4.0	1.2	0.6	2.38	
Ⅲ-149	84	82	石楯	P-113	覆土	菅苧	5.4	4.1	2.1	35.77	
Ⅲ-149	85	82	ステンレイベー	P-113	覆土	菅苧	8.8	4.4	2.2	73.51	
Ⅲ-149	86	82	ステンレイベー	P-113	覆土	菅苧	8.3	4.6	2.2	49.92	
Ⅲ-149	87	82	石楯	P-113	覆土	菅苧	4.6	3.2	3.5	40.34	
Ⅲ-149	88	82	たたき石	P-113	覆土	菅苧	9.0	3.9	3.8	257	
Ⅲ-149	89	82	すり石	P-113	覆土	燧石	7.6	19.3	6.8	660	
Ⅲ-149	90	82	ステンレイベー	P-120	覆土	菅苧	6.5	4.6	1.0	25.41	
Ⅲ-149	91	82	石楯	P-131	覆土	菅苧	4.3	10.9	7.0	300	
Ⅲ-149	92	82	ステンレイベー	P-142	覆土	菅苧	6.2	3.8	1.1	17.82	
Ⅲ-150	83	82	石楯またはナイフ	F C-1	Ⅱ	菅苧	3.0	3.7	1.7	25.13	
Ⅲ-150	84	82	つまみ付きナイフ	F C-1	Ⅱ	菅苧	6.8	2.8	1.0	12.17	
Ⅲ-150	95	82	ステンレイベー	F C-1	Ⅱ	菅苧	7.0	4.6	1.6	25.85	
Ⅲ-150	96	82	ステンレイベー	F C-1	Ⅱ	菅苧	7.3	3.0	2.1	79.36	
Ⅲ-150	97	82	両面調整石楯	F C-3	Ⅱ-9層上・F T	菅苧	11.6	8.2	4.8	355	集と同一母岩
Ⅲ-150	98	82	石楯	F C-3	Ⅱ-9層上・F T	菅苧	3.9	9.3	5.7	200.21	集と同一母岩

IV章 包含層の遺物

1. 土器・土製品

包含層からは土器27,453点、土製品6点、焼成粘土塊79点が出土した。

土器はI群b類土器が16,428点、II群b類土器が7,869点、IV群a類土器が2,675点で、その他I群a類土器、III群a類土器、III群b類土器、IV群c類土器、V群土器、VI群土器が少量出土する。

I群a類土器（1）

I群a類土器は、K45区から2点出土した。1は具段条痕文が内外面に施される。

I群b類土器

I群b類土器は16,428点出土した。I群b-1類土器、b-3類土器、b-4類土器に細分される。I群b-1類土器は約6,000点出土した。東鋼路II式相当の土器が主体で、縄線文・刺突文・綾絡文・縄文などが施されるものである。東鋼路III式土器も少量みられる。I群b-4類土器は約8,300点出土した。調査区北側広く分布する。破片が細かく、復原できたものはない。I群b-3類土器はごく少量の出土である。

I群b-1類土器（2～16）

H-1・20・21、P-108・113などの縄文時代早期後半の遺構周辺、13～24ラインに多く分布する。2～15は東鋼路II式相当の土器、16は東鋼路III式土器である。

2・3は隆帯があるもので、いずれも多条の原体による縄文が斜位、横位に施文される。2は隆帯上に中空の工具による横からの刺突文が施される。3は薄い貼付上と、その上下に縄線文が施され、口唇部は棒状工具で刺突される。

4は中空工具による刺突文がみられるもの。無文地に平行、斜めの刺突列が見てとれる。内面は横位の条痕が残る。

5～7は無文地に縄線文が施されるものである。5は縄線文のほか、縄端圧痕文がみられる。6は口唇および口唇直下内外面に縄文が施され、縦、斜位の縄線文が施文される。7は縄線文により三角形が構成される。

8は条痕文がみられるものである。横位に条痕が施された後、間隔をおいて斜位に条痕が連続してひかれる。

9・10は同一個体で、捺糸文が施される。口唇には棒状工具による刺突文がみられる。

11～14は縄文が施されるものである。11は器厚が薄く、口縁から丸みをもってすばまっっていく器形である。縄文施文後の横位条痕文が口唇直下など数条観察される。内面には全面に条痕がみられる。12は燃りの違う原体を交互に施文し、羽状となる。東鋼路III式土器の可能性がある。13・14はLR原体により、口唇や内面にも縄文が施文される。

15は底部である。底部はやや上げ底で縄文が施される。内面には指頭による調整痕が残る。

16は絡条体圧痕文が横位、縦位に施され、口縁部は肥厚する。

I 群 b - 3 類土器 (17)

17は細い貼付帯があり、縦位の短縄文がみられる。

I 群 b - 4 類土器 (18~28)

調査区北側29~55ラインを中心に出土する。北側の小型土坑群と分布域が重なる。

18は絡条体圧痕文が施される。器面の横位調整により微隆起伏の段がみられる。19は縄端圧痕文、絡条体圧痕文が施される。20は縄線文、燃糸文により鋸歯状、波状の文様が描かれている。21は横位に魚骨回転文が施される。22は絡条体圧痕文、押し文、綾絡文が施される。

23~25・28には自縄自巻の原体による羽状縄文が施され、23・25は綾絡文がみられる。28は底部で、条がややみだれる。26は絡条体、27は連続刺突列とその下位には絡条体圧痕文が施される。

II 群 a 類土器 (29~31)

P12区、P39区から10点出土した。

29は押し文が施される。30・31は尖底である。30は絡条体圧痕文が施され、31は摩耗により文様不明で、胎土には繊維が含まれる。

II 群 b 類土器 (32~40)

調査区全体から7,869点出土した。調査区南西の舌状台地先端やH-7~12、22~29周辺にまとまる傾向がある。円筒土器下層 b~d 式がある。

32・33は復原土器である。32は器高22cm、口径16cm、底径9cm程の筒型で、口頸部は屈曲し、口縁部はやや開く器形となる。口縁は緩やかな波状で、口頸部には横位の条痕文がみられる。胴部は燃糸文が縦、斜行する。円筒土器下層 d 式である。33はH-9掘り上げ土下から出土した。底部から胴部の復原で、燃糸文が胴部と底部外面に施される。胎土に繊維はあまり含まない。

34・35はいずれも断面形が三角形となる隆帯があり、指頭による圧痕文が施される。口頸部には不整の綾絡文が施され、胎土には繊維を多く含む。円筒土器下層 b 式である。34は隆帯上下で不整の綾絡文が施され、胴部は燃糸文が縦位に施される。35は地文に縄文が施される。

36は波状口縁で、口頸部には燃糸文・綾絡文が横位に施される。内面は磨かれる。

37は波頂部で、縄線文が菱形に施されている。円筒土器下層 c 式である。

38・39は円筒土器下層 d 2 式で縦位の貼付があるもの。いずれも縄線文や縄によるキザミがみられ、内面は磨かれる。38は胴部に多輪絡条体の回転文が施される。39は縦位貼付の痕跡が残る。胴部には燃糸文が施される。

40は底部で上げ底となる。細い原体の燃糸文が胴部に施される。

III 群 a 類土器 (41)

III 群 a 類土器は21点出土した。

41は波頂部で、横位とボタン状の貼付があり、刺突文が施される。波頂部には棒状工具による刺突がなされる。胴部は複線の縄文が施される。

IV 群 a 類土器 (42~67)

IV 群 a 類土器は調査区南西側を中心に2,675点出土した。H-14~18など縄文時代後期前葉の遺構

と分布が重なる。涌元式～大津式土器である。

42・43は復元土器である。42は器高7cm、口径8cm、底径4.4cmの小型鉢形土器で、口縁部には縄線文、胴部にLR原体による縄文が施される。43は底部から胴部まで復元された深鉢形土器で、底径は6.6cmである。全体にゆがみ、底部はやや上げ底となる。胴部はヘラ状工具による縦位の調整痕がみられる。

44・45は貼付帯があるものである。44は2条の薄い貼付があり、貼付上と体部では原体の方向を変えて、縄文を施文している。45は壺形に近い土器で、貼付上下や口頸部に縄線文が施される。

46～60は沈線文が施されるものである。沈線により渦巻き状(49)、弧線文(50)、カニバサミ状(51)、蛇行文(52)、雷文(53・57)、乙字状(54)、波状(59)などの文様が描かれる。49～51・53・54・58～60には磨り消し文がみられる。

46は縄文地に細い沈線文、47は無文地に浅い沈線文が描かれる。48は壺形土器の口縁部である。49の地紋は無節縄文である。50・52は鉢形土器で、内面にも沈線文が施される。54・55は同一個体、無文地に沈線文が描かれる。56は波状口縁で、太い沈線で方形に区画され、沈線間には溝状の工具で条痕状の沈線も施される。57・58は同一個体で、底径4cm程の小型土器である。59・60も同一個体で、胎土は緻密で焼成が良い。

61・62は縄文が施されるものである。61は波状口縁で、多条のLR原体による縄文が横走る。62は複節の縄文が施される。

63～65は無文のものである。63は口唇断面が角型で、縦位の調整痕が内外面に残る。64は小突起がある口縁部、65は折り返し状の口縁で、縄文施文後、磨り消された可能性がある。

66・67は底部である。底部外面は無文、平らで、体部には縄文が施される。66は底部側面に縄線文が1条施文される。

V 群土器 (68～76)

V 群土器は255点出土した。68は縄文地に爪形文がみられる小破片である。69は沈線文、三叉文がみられる。

70～74は鉢形もしくは浅鉢形土器である。口頸部は74以外屈曲し、無文もしくは平行沈線文が施文される。胴部は細い原体による縄文が縦位、斜位に施される。70～73には瘤状の貼付が施される。72の口唇角には細い棒状工具によるキザミが入られる。73は細い先端の工具により、刺突文、沈線文が施される。74は幅広の沈線文が巡る。

75はキザミにより小波状となる深鉢形土器である。76は壺形土器の頸部である。

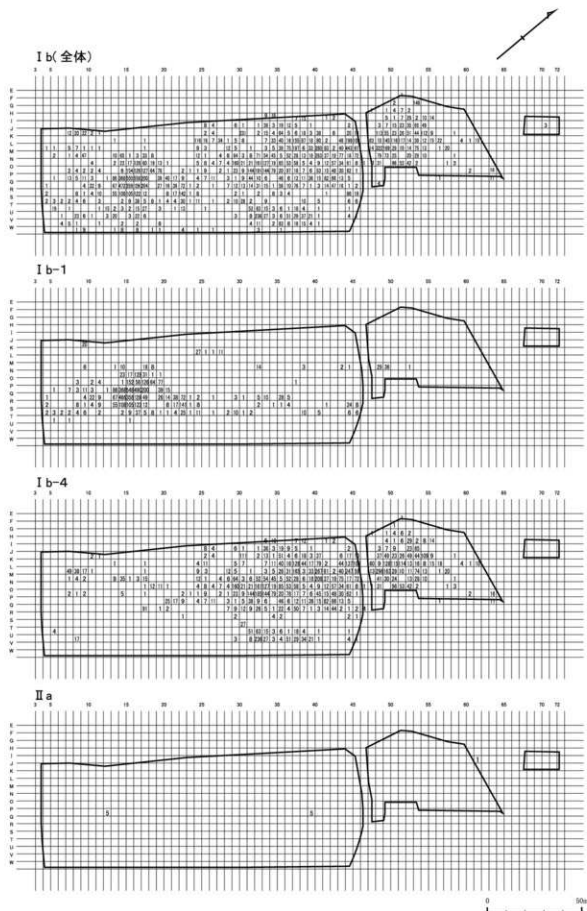
VI 群土器 (77・78)

VI 群土器は49点出土した。77・78は壺の口縁部で、ハケメ調整痕が残る。

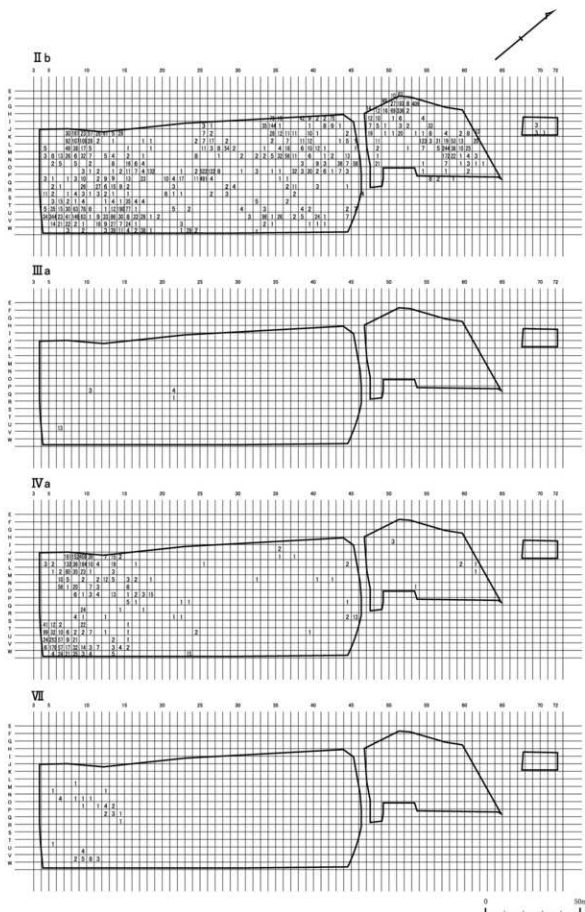
土製品

79～83は土器片再生の土製品である。いずれも割れ口は軽く研磨されている。79・82はI群b-4類土器、80はI群b-1類土器、81・83はIII群土器が利用される。

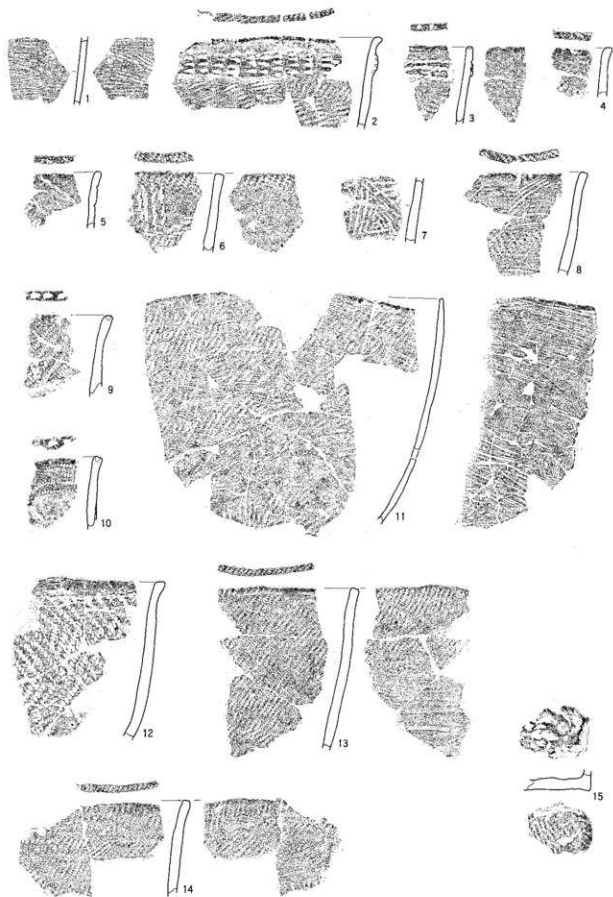
79は4つの孔がかけられる土製品である。80～82は再生土製円盤で、82は未成品である。83は両端に挟りが作出される。土器片鏝と考えられる。(要場)



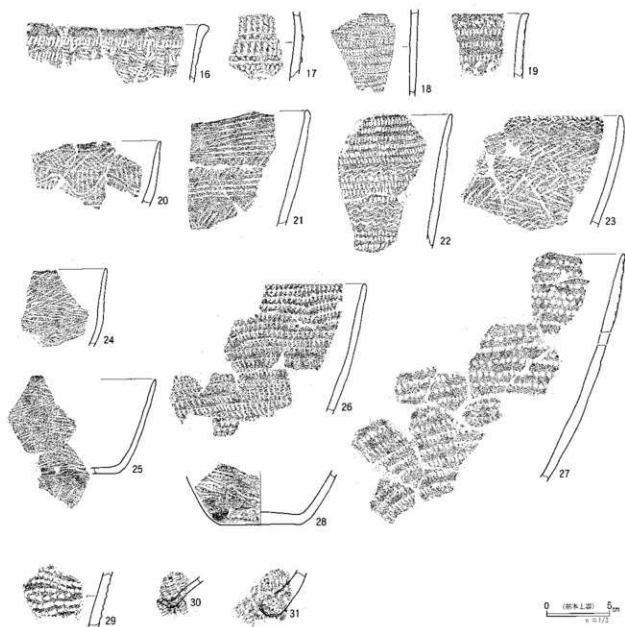
図IV-1 包含層出土土器分布図(1)



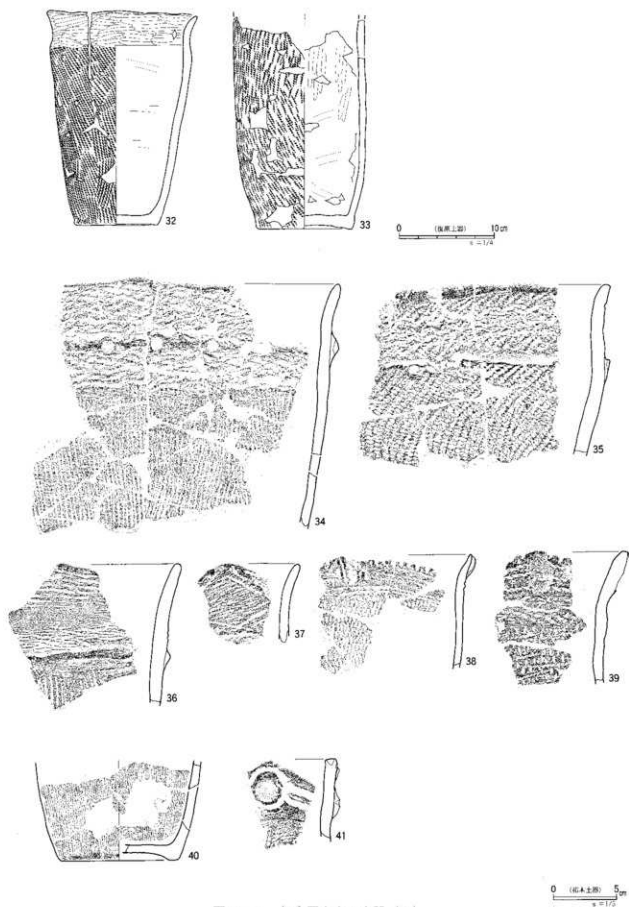
図IV-2 包含層出土土器分布図(2)



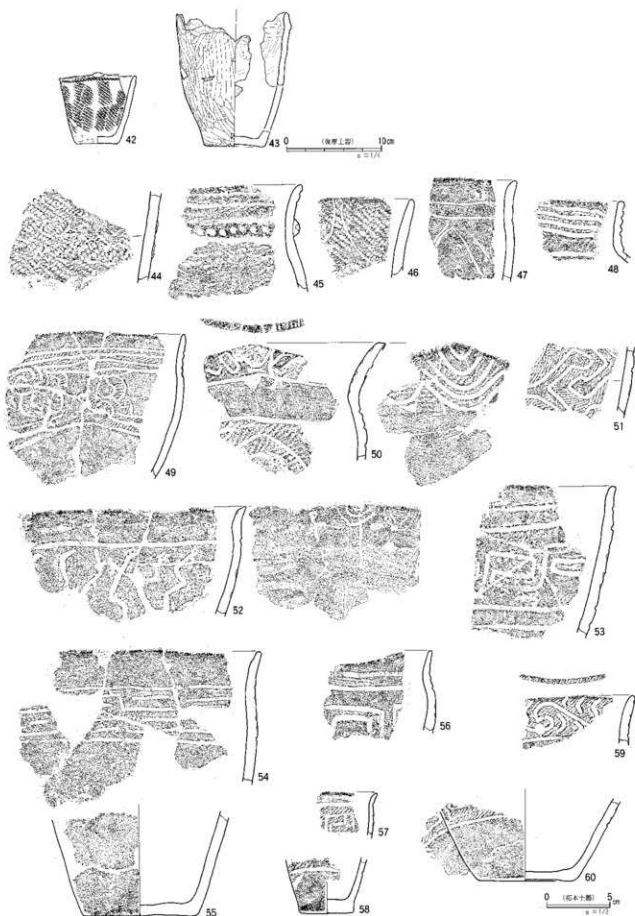
図IV-3 包含層出土の土器 (1)



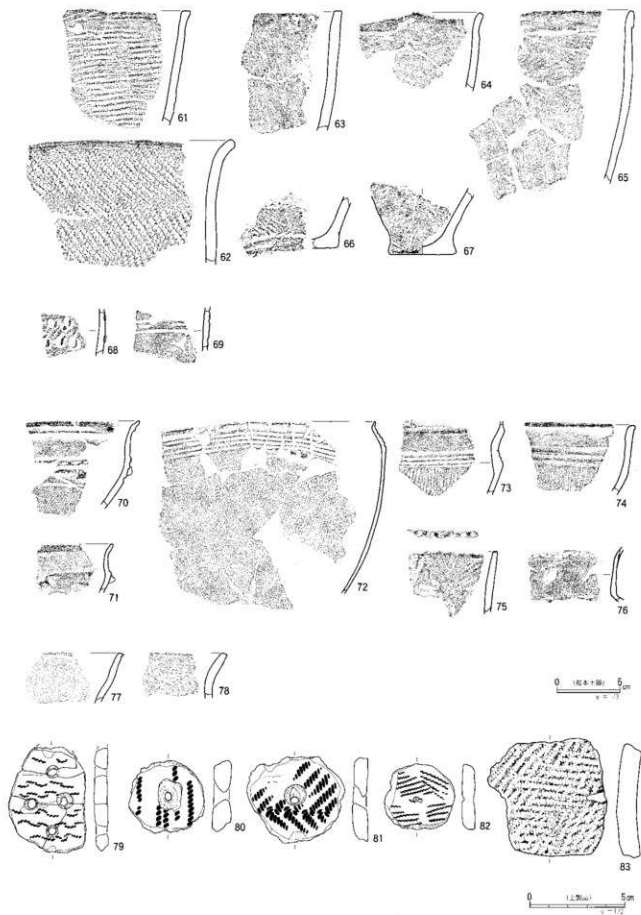
図IV-4 包含層出土の土器(2)



図IV-5 包含層出土の土器(3)



図IV-6 包含層出土の土器(4)



図四-7 包含層出土の土器(5)・土製品

2. 石器等

包含層出土の石器は、剥片石器2,440点、フレイク46,408点、礫石器553点、礫・原石11,107点、石製品24点である。剥片石器では、スクレイパー857点、Uフレイク544点、石核270点などが多く、ついでつまみ付きナイフ207点、石鏃174点がある。石材は、ほとんどが頁岩である。

礫石器では、たたき石、扁平打製石器が多くみられ、石斧や砥石などは少ない。

器種別の分布は、概ね遺構の分布域と重なり、あまり偏りはないが、スクレイパー、石核、フレイクは、縄文時代早期の住居跡周辺に多い傾向がある。また旧河道付近のU・V・W4～15区では、石核、たたき石、扁平打製石器が多く出土した。

石刃鏃（1）

1は石刃鏃とした。頁岩製で、わずかに湾曲した石刃素材を利用する。側縁は基部近くでやや丸味を帯び、周縁の加工は背面、腹面の順で行われている。Q17区出土で、周辺には東鋼路Ⅱ式相当期の遺構があるため、これに伴う可能性がある。

石鏃（2～20）

石鏃は174点出土した。調査区全域でみられるが、5～23ラインにややまとまる傾向がある。三角形鏃、有茎鏃が比較的多い。4～6・10・20は黒曜石製で2・5は赤井川産という同定結果がでた。それ以外は頁岩製である。

2～4は柳葉形で、2は基部が内湾し、3は側縁がやや鋸歯状となる。5・6は菱形に近いもの、7～15は三角形である。7～10は基部が内湾し、11～15は基部が直線的となる。10・14・15は側縁が曲線的となる。16～20は有茎のもので、18は基部にアスファルトが付着する。

石槍またはナイフ（21～27）

石槍またはナイフは75点出土した。平面形は、柳葉形21・23・24、木葉形22・26、五角形25・27があり、破損品が多い。

両面調整石器（28～32）

両面調整石器は130点出土した。破損して全体形状が不明のものが多い。木葉形に調整されるが、明瞭な尖頭部がみられないもの（28・29）、円形に加工されるもの（30）、石核の可能性のあるもの（31・32）などがある。

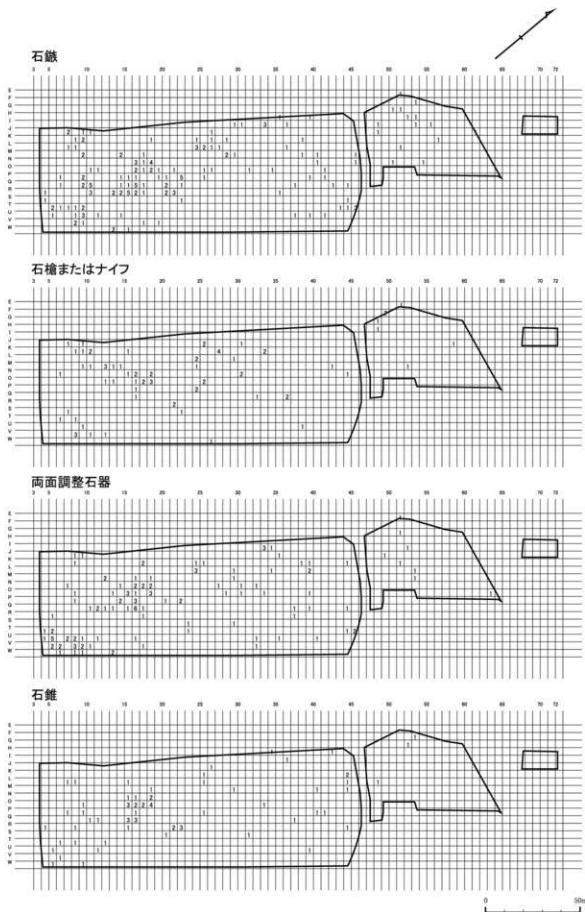
石錐（33～38）

石錐は71点出土した。両面加工で棒状のもの（33～36）、剥片の一端に機能部を設けるもの（37・38）がある。34は上部が薄く加工される。35は剥片の折れ面を利用する。38は原石面のある、比較的大きな剥片が利用される。先端部の断面は三角形となる。

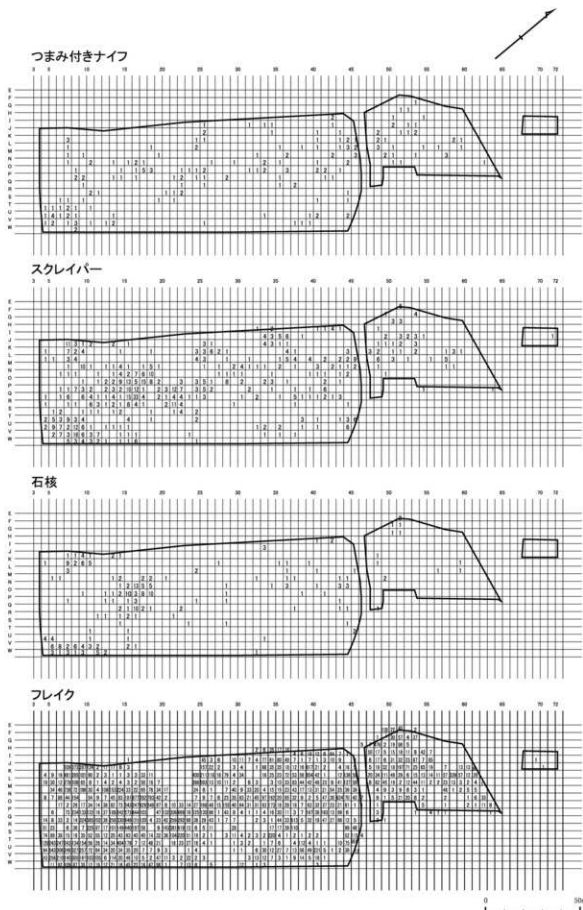
つまみ付きナイフ（39～45）

つまみ付きナイフは206点出土した。39～42は、背面側縁に腹面加工のための打面を作出するもので、縄文時代早期後半の特徴がある。39は下端部に急角度の刃部がある。

43・44は両面加工のものである。44は下端部が磨滅して光沢があり、石錐として利用されている。

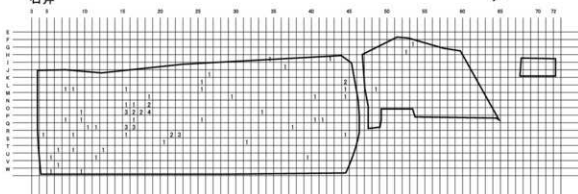


図IV-8 包含層出土石器分布図(1)

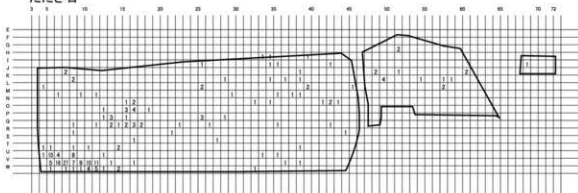


図IV-9 包含層出土石器分布図(2)

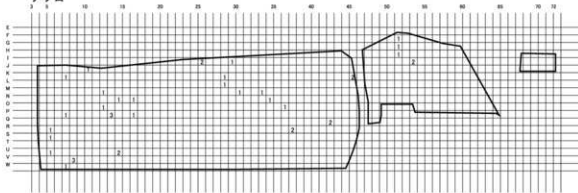
石斧



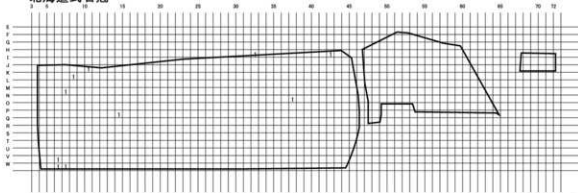
たたき石



すり石

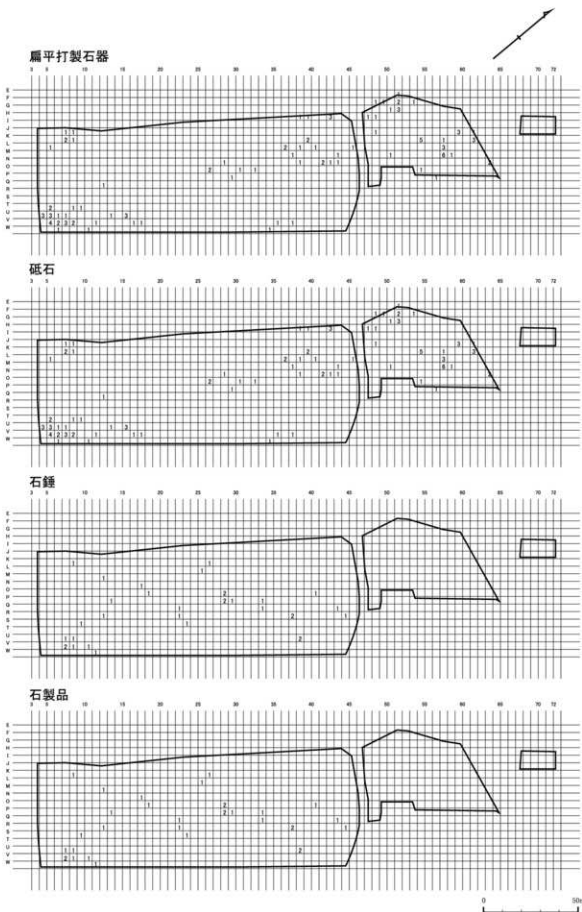


北海道式石冠

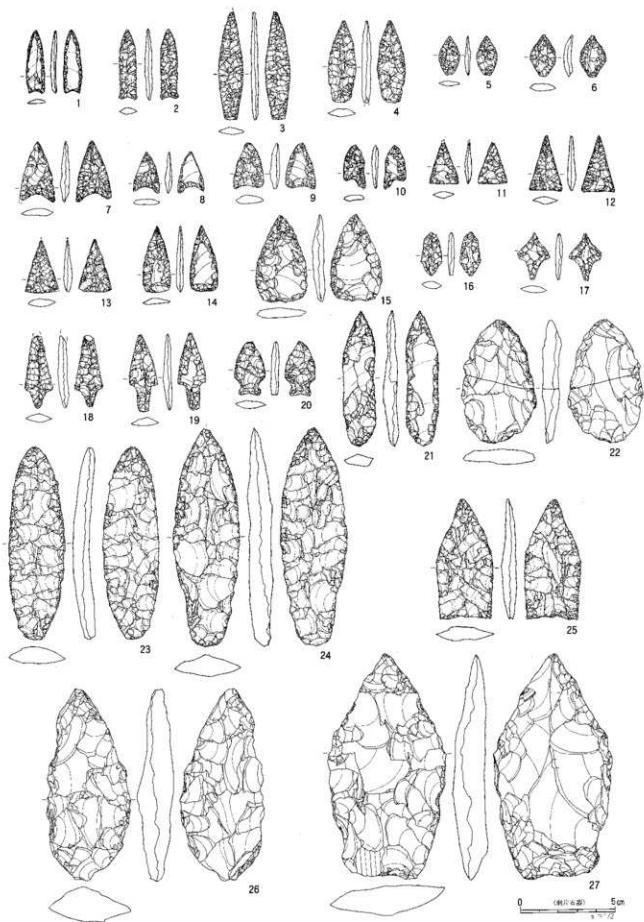


0 50m

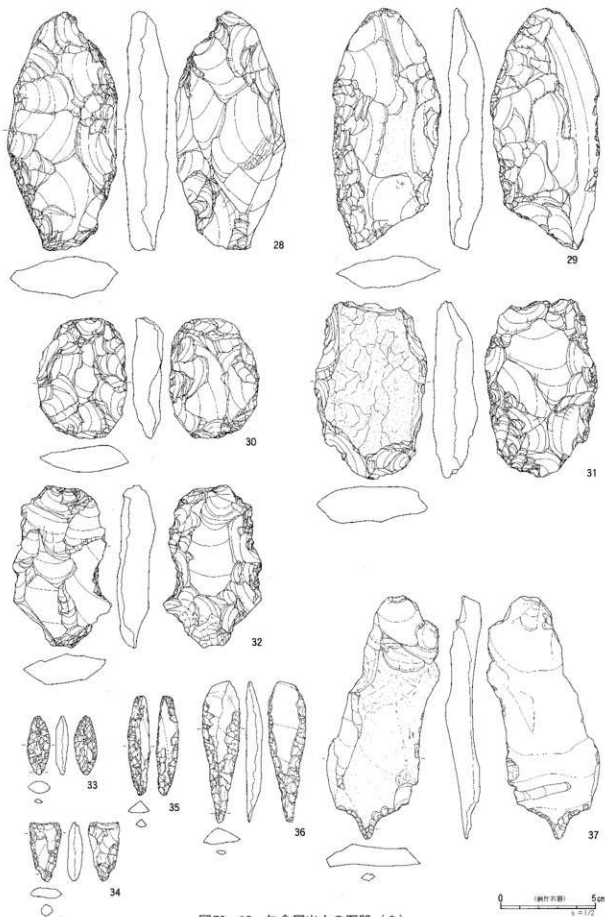
図IV-10 包含層出土石器分布図(3)



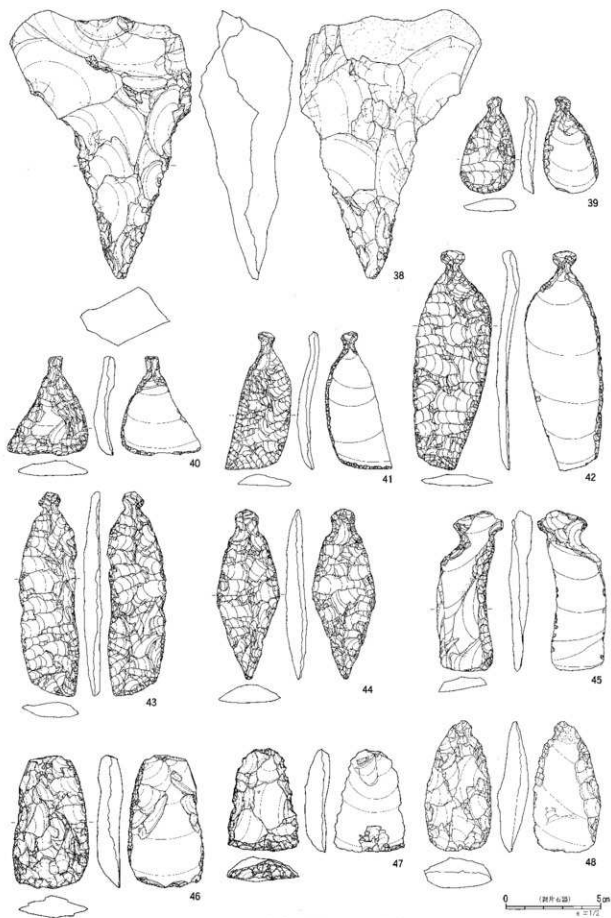
図IV-11 包含層出土石器分布図(4)



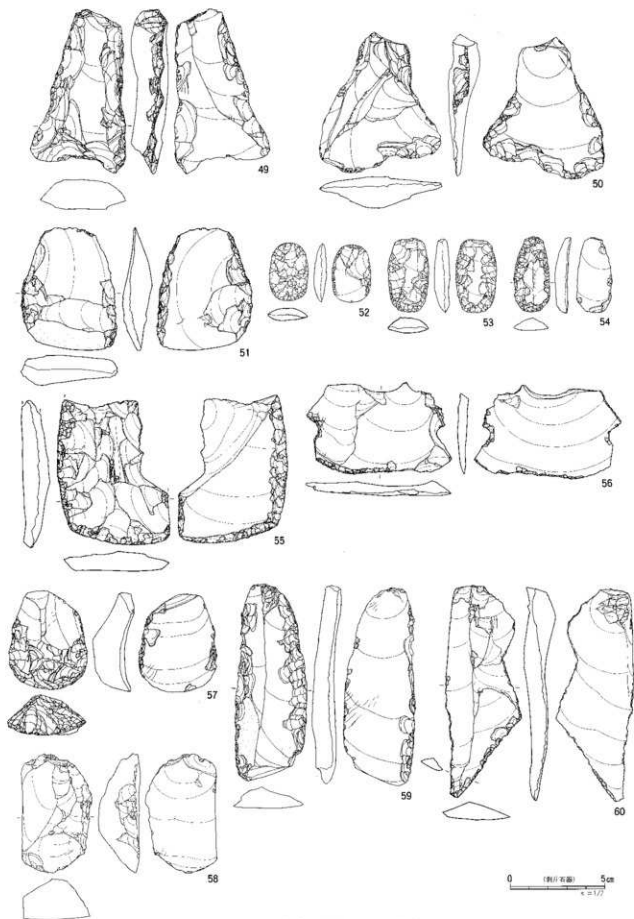
図IV-12 包含層出土の石器 (1)



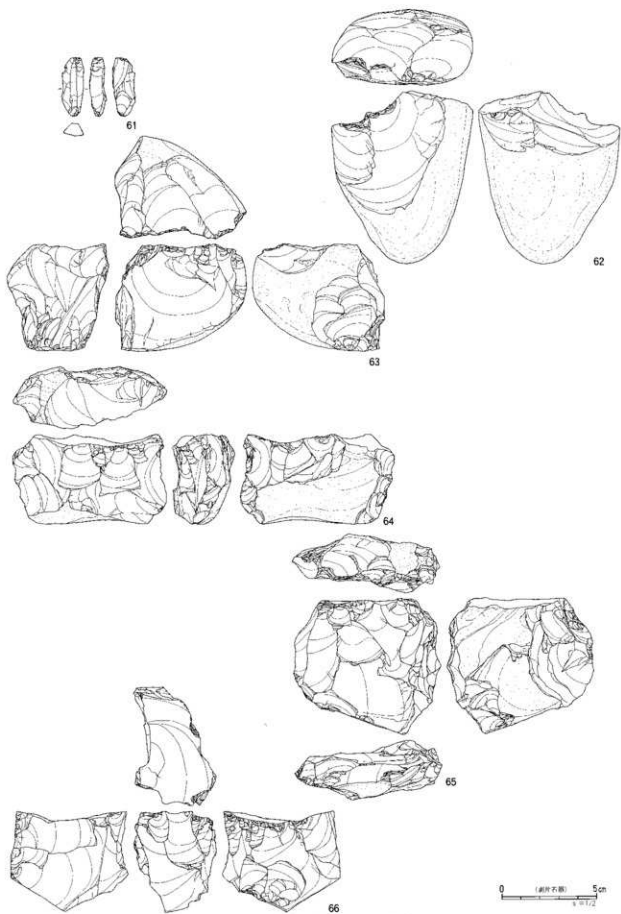
図IV-13 包含層出土の石器(2)



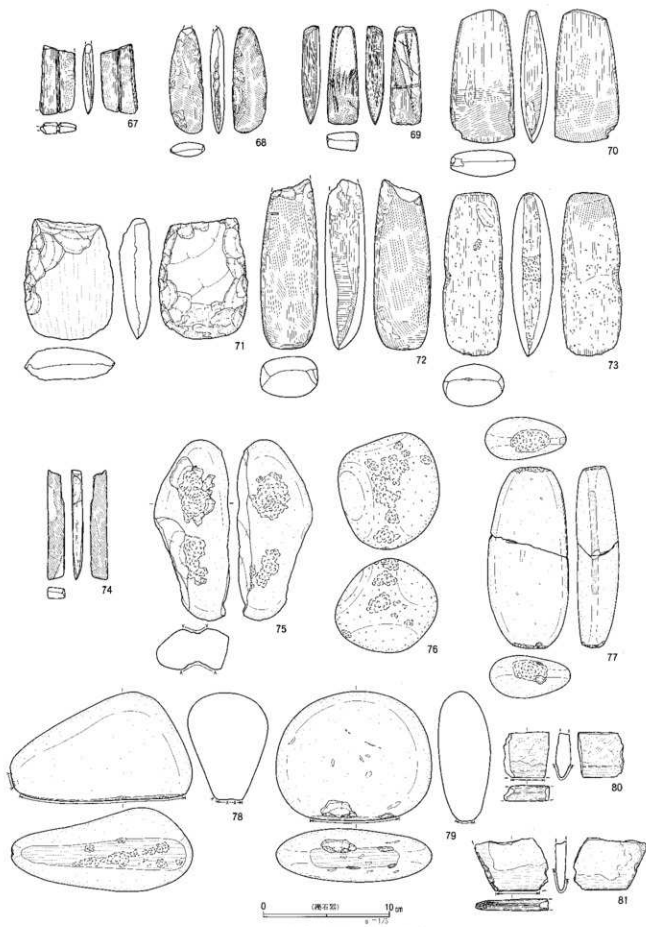
図IV-14 包含層出土の石器(3)



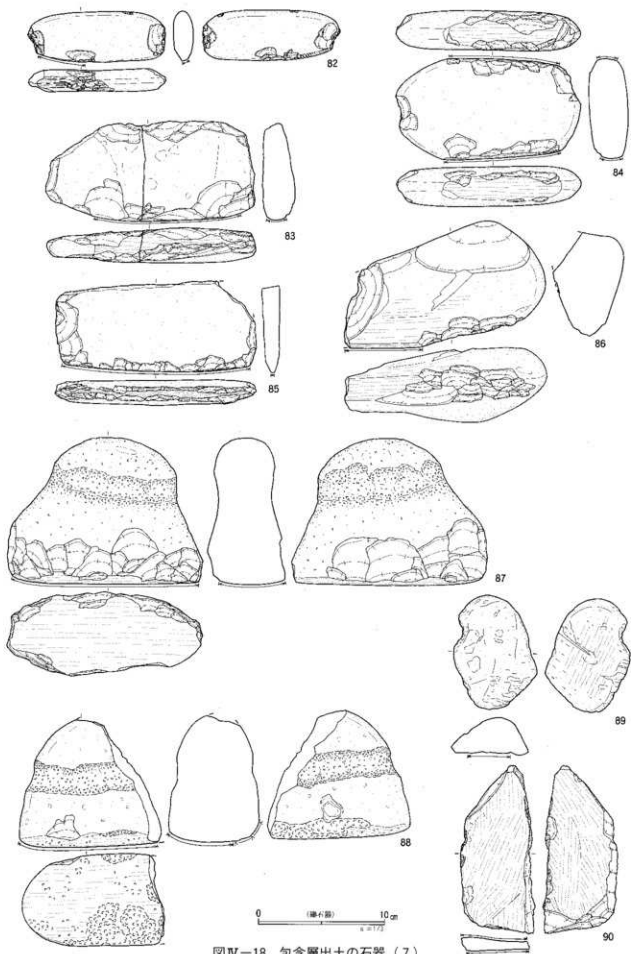
図IV-15 包含層出土の石器(4)



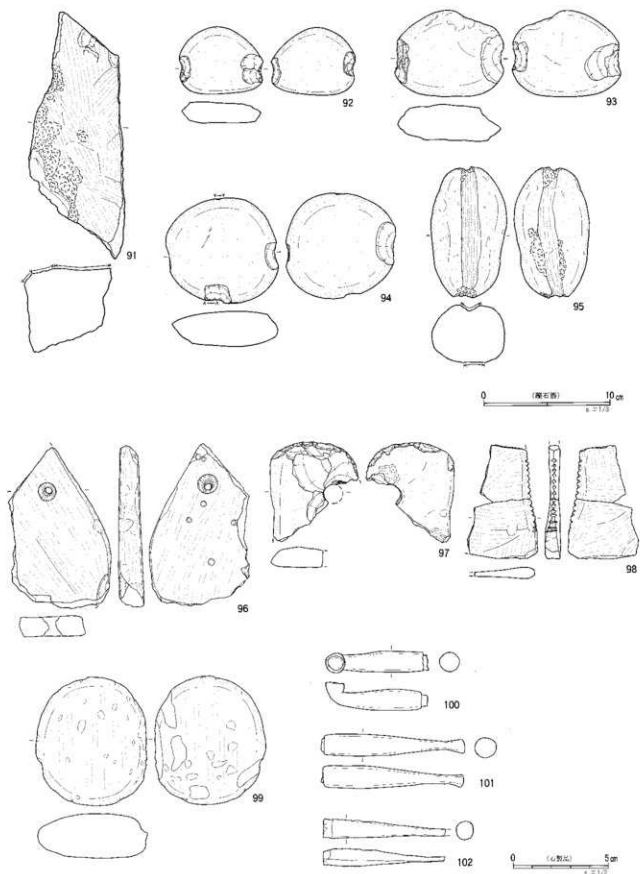
図IV-16 包含層出土の石器 (5)



図IV-17 包含層出土の石器 (6)



図IV-18 包含層出土の石器 (7)



図IV-19 包含層出土の石器(8)・石製品・金属製品

45は縦長剥片の打痕部につまみ部分が設けられる。

筥状石器 (46~53)

筥状石器は17点出土した。46は長方形に近く、47~51は撥形となる。49は上端部、側縁、下端部とも急角度の加工がなされる。51はいわゆるトランシェ様石器で、刃部には原石面が残る。

52・53は小型の楕円形で、両面全面に二次加工が施される。

スクレイパー (54~60)

スクレイパーは857点出土した。調査区全域に分布するが、縄文時代早期の住居跡周辺やU・V・W-4~15の旧河道部近くにやや多く分布する傾向がある。スクレイパーは剥片の形状を変えず、側縁の一部に刃部がみられるものが多い。

54・57は下端部にラウンド状の急角度刃部がみられる。55は破損するが長方形に近い形状のもので、急角度の刃部が形成される。56は剥片長軸両端に抉りが入られ、下端部に刃部がある。59は縦長剥片素材を利用する。右側縁は背面、腹面交互の調整により、鋸歯状となる。

楔形石器 (61)

楔形石器は2点出土した。61は両端に刃潰れがみられ、断面は台形状となる。

石核 (62~66)

石核は270点出土した。

62~64は円礫を素材とする。64は円礫を半割した面を打面とし、周囲を打ち欠いている。65は厚みがある剥片の周縁を剥離する。66は打面を変えながら、比較的縦長の剥片をとっている。

石斧 (67~74)

石斧は45点出土した。

67・68・70は蛇紋岩製である。67は擦り切りにより、3つ以上の石のみを製作しようとしたもので、左側縁は折りとられている。68は右側縁が直線的で擦り切りの痕跡が残る。69は泥岩で、沈線状の条痕が全面にみられる。71は安山岩製である。原石面を残す破片を利用する。72は緑色泥岩製でいわゆる丸のみに近い形状となる。73は安山岩製で両側面中央には敲打により抉りが入られる。74は小型で、両側縁には折れ面が残る。P-108などの土坑から同様のものが出土しているため、縄文時代早期後半期の遺物である可能性が高い。

たたき石 (75~77)

たたき石は233点出土した。破損するものが多い。

75は両面に深いたたき痕が、2か所みられる。楕円素材を棒状に加工している。76は稜部に浅いたたき痕がある。77は長軸両端にたたき痕があるが、扁平打製石器の可能性もある。

すり石 (78・79)

すり石は40点出土した。78・79は1稜部にすり痕が残る。78は断面三角形で、すり面には敲打痕が残る。

石鋸 (80・81)

2点出土した。80・81は小破片で、断面がV字状となる。

扁平打製石器 (82~86)

扁平打製石器は108点出土した。板状礫や扁平礫が利用される。

長軸両端に抉りがいれられるもの (82・84) がある。82は下端部がV字状に加工され、一部条痕状のすり痕が残る。85は上端が折れ面となる。86は断面三角形で稜部のすり面をV字状に再加工する。図正面や上部には条痕がみられる。

北海道式石冠 (87・88)

北海道式石冠は10点出土した。破損品が多く、87は唯一の完形品である。

砥石 (89~91)

砥石は48点出土した。板状礫の平面を利用するものが多い。

89は軽石製で1面が平坦なすり面となっている。90は板状礫の両面が擦られており、やや湾曲する部分もある。91はやや厚い素材で敲打後、1面が平滑に擦られている。

石錘 (92~95)

石錘は33点出土した。

92は出土中、最も小型のものである。94は3块で、被熱し赤みを帯びる。95は安山岩製で、礫長軸に溝が巡るものである。

石製品 (96~99)

石製品は24点出土した。

96は板状の砥石に貫通孔があり、他にも浅い穿孔が6か所程穿たれている。右側面にはすり痕がある。平坦面両面には錆色の物質が付着する。97は破損するが、凝灰岩礫に穿孔の跡がみられるものである。98は凝灰岩製で、側縁にキザミが入れられ、鋸歯状となる。99は軽石を研磨し、円形に加工したものである。

3. 金属製品

金属製品は4点出土した。キセル3点、舟釘1点である。キセルについて図示した。

100~102は銅製のキセルである。100は雁首、101は吸い口で、W34区から出土した。いずれも内部には木質部が残る。102は吸い口部分で、先端が破損する。 (愛場)

表IV-1 掘載土器一覽(1)

図	番号	図説	掘土機名	構造	年数	部品	名称	掘土	口部・形骸部/ノズル等/機文	内容	点数	備考 (遺品/口部/機文)	
M-1	1	03	K15	並	1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化	硝化/硝化ノズル	機文 2		
M-1	2	03	P16	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/4	硝化/硝化ノズル/硝化ノズル	機文 硝化機部 13		
M-1	3	03	Q16	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/4	硝化/硝化ノズル/硝化ノズル	機文 2		
M-1	4	03	Q16	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	機文 2	口部硝化機	
M-1	5	03	Q16	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/3	硝化ノズル/硝化ノズル	2		
M-1	6	03	Q16	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/3	硝化ノズル/硝化ノズル	機文 硝化機部 1		
M-1	7	03	Q22	並	1	0-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/3	硝化ノズル/硝化ノズル	2		
M-1	8	03	Q15	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/3	硝化ノズル/硝化ノズル	硝化 3		
M-1	9	03	M22	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/2	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	10	03	M31	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/2	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	11	03	J19	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	機文 26		
M-1	12	03	O18	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/3	硝化ノズル/硝化ノズル	12	硝化ノズル	
M-1	13	03	Q11	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/4	硝化ノズル/硝化ノズル	機文-硝化機部 1		
M-1	14	04	N14	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/3	硝化ノズル/硝化ノズル	1	硝化ノズル	
M-1	15	04	P16	並	1	0-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/3	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	16	04	P22	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/4	硝化ノズル/硝化ノズル	3	口部硝化機ノズル	
M-1	17	04	Q22	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	18	04	Q22	並	1	0-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	1	硝化ノズル	
M-1	19	04	Q22	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/3	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	20	04	Q12	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/2	硝化ノズル	3		
M-1	21	04	K17	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/6	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	22	04	O18	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	2		
M-1	23	04	J18	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/6	硝化ノズル/硝化ノズル	10		
M-1	24	04	P16	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/2	硝化ノズル/硝化ノズル	2	硝化ノズル	
M-1	25	04	P16	並	1	0-1	10-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	2	
M-1	26	04	J18	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/3	硝化ノズル/硝化ノズル	10		
M-1	27	04	L17	並	1	0-1	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/6	硝化ノズル/硝化ノズル	10		
M-1	28	04	P14	並	1	0-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	2		
M-1	29	04	L18	掘削機	並	0	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR3/2	硝化ノズル/硝化ノズル	1	硝化ノズル	
M-1	30	04	T10	並	0	0	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/3	硝化ノズル/硝化ノズル	2	硝化ノズル	
M-1	31	04	S17	並	0	0	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/4	硝化ノズル/硝化ノズル	1	硝化ノズル	
M-1	32	03	N15	掘削機	並	11-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	16	硝化ノズル/硝化ノズル/硝化ノズル	
M-1	33	03	J18	掘削機	並	11-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/4	硝化ノズル/硝化ノズル	11	硝化ノズル/硝化ノズル/硝化ノズル	
M-1	34	04	O15	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/3	硝化ノズル/硝化ノズル	16		
M-1	35	05	P25	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	6		
M-1	36	05	E11	掘削機	並	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	37	05	G11	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/4	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	38	05	H14	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/2	硝化ノズル/硝化ノズル	6		
M-1	39	05	N17	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/2	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	40	05	J14	掘削機	並	11-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/6	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	41	05	U7	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/4	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	42	05	U7	並	0	0	11-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/3	硝化ノズル/硝化ノズル	7	硝化ノズル/硝化ノズル/硝化ノズル
M-1	43	03	J18	並	0	0	0-1	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/2	硝化ノズル/硝化ノズル	25	硝化ノズル/硝化ノズル/硝化ノズル
M-1	44	05	O19	並	0	0	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/4	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	45	05	V7	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	2		
M-1	46	05	V10	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/3	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	47	05	L18	掘削機	並	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/3	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	48	05	V10	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR5/2	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	49	05	J18	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/3	硝化ノズル/硝化ノズル	8		
M-1	50	05	L19	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/4	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	51	05	K19	並	0	0	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR2/2	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	52	05	J19	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR1/6	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	53	05	J17	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/4	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	54	05	J19	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR1/6	硝化ノズル/硝化ノズル	2		
M-1	55	05	J10	並	0	0	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR1/6	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	56	05	V15	並	0	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/3	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	57	06	V7	掘削機	並	0	10002	掘削機	IC-61-型掘削VR6/2	硝化ノズル/硝化ノズル	1		
M-1	58	06	V10	掘削機	並	0	0002	掘削機	IC-61-型掘削VR7/2	硝化ノズル/硝化ノズル	1		

表IV-1 掲載土器一覧(2)

図	番号	図録	出土 地点	層位	分類	部位	器種	色澤	胎土	口縁・形制等/文様等/脚支	内面	点数	備考 (添付×口縁×図録)
M-6	59	Ⅸ	J 8	Ⅱ	B a	1周部	深鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.6/1)		平縁/浅継文(流文)・磨り消し/し夏		1	
M-6	60	Ⅸ	J 9	Ⅱ	B a	底面	深鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.6/1)		口縁同一の流筋		4	
M-7	61	Ⅸ	J 4	Ⅱ	B a	1周部	深鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.7/1)		平縁/なし兼継文		2	短冊瓦
		Ⅱ	2										
M-7	62	Ⅸ	V 8	Ⅱ	B a	1周部	深鉢形	黒褐色(Y 5.3/2)		平縁//短冊		2	
M-7	63	Ⅸ	T 5	Ⅱ	B a	1周部	深鉢形	灰黄褐色(Y 5.6/2)		平縁//短文	短冊型	2	
M-7	64	Ⅸ	J 9	Ⅱ	B a	1周部	深鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.7/1)		小突起//短文	磨色	3	
M-7	65	Ⅸ	J 9	Ⅱ	B a	1周部	深鉢形	磨り消し夏色/し夏		折り返し1周//短文(磨り消し字)		3	
M-7	66	Ⅸ	L 9	Ⅱ	B a	底面	深鉢形	黒褐色(Y 5.3/2)	粉粒・灰点	//継文/下夏		1	
M-7	67	Ⅸ	V 6	Ⅱ	B a	底面	深鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.6/1)	石灰・灰点	//なし夏	磨色	1	
M-7	68	Ⅸ	T 11	Ⅱ	V	底面	深鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.7/3)		//瓦継文/し夏		1	
M-7	69	Ⅸ	K 8	Ⅱ	V	底面	深鉢形	灰黄褐色(Y 5.6/2)		//流継文・三次文//	磨色	2	短冊瓦
M-7	70	Ⅸ	K 27	Ⅱ	V	1周部	浅鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.7/1)		平縁/流継文・磨り消し/し夏磨色		1	
M-7	71	Ⅸ	P 29	Ⅱ	V	1周部	浅鉢形	灰黄褐色(Y 5.6/2)		平縁/流継文・磨り消し/し夏磨色		1	摩滅
M-7	72	Ⅸ	K 27	Ⅱ	V	1周部	浅鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.7/2)		平縁/流継文/し夏磨色	灰代物	5	
		K 27	Ⅱ	15									
M-7	73	Ⅸ	V 13	Ⅱ	V	1周部	浅鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.7/1)		//継文・流継文/し夏磨色		1	
M-7	74	Ⅸ	V 32	Ⅱ	V	1周部	浅鉢形	灰(Y) Y 5.8/2)		平縁/流継文/し夏磨色		1	
M-7	75	Ⅸ	T 14	Ⅱ	V	1周部	深鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.7/3)	粉粒	小突起//し夏		2	
M-7	76	Ⅸ	Q 21	Ⅱ	V	底面	浅鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.7/3)		//短文		2	
M-7	77	Ⅸ	Q 12	Ⅱ	V	1周部	深鉢形	流筋磨り消し夏色/し夏	粉粒	//ハタメ		1	
M-7	78	Ⅸ	V 9	Ⅱ	V	1周部	深鉢形	にんい-黄褐色(Y 5.6/1)	粉粒	//ハタメ		1	
M-7	79	Ⅸ	L 10	Ⅱ	I b-1	底面	土瓶口	磨り消し夏色/し夏		再生土製付録・継文		1	
M-7	80	Ⅸ	Q 21	Ⅱ	I b-1	底面	土瓶口	流筋磨り消し夏色/し夏		再生土製付録・継文		1	
M-7	81	Ⅸ	P 21	Ⅱ	Ⅲ	1周部	土瓶口	磨り消し夏色/し夏		再生土製付録・継文		1	
M-7	82	Ⅸ	J 10	Ⅱ	I b-1	底面	土瓶口	にんい-黄褐色(Y 5.7/2)		再生土製付録・継文		1	
M-7	83	Ⅸ	K 9	Ⅱ	Ⅲ	1周部	土瓶口	にんい-黄褐色(Y 5.7/1)		土製付録		1	

表Ⅳ-2 包含層出土掲載石器一覧(1)

図号	番号	図例	器種名	遺構・発露区	層位	石材種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
N-12	1	87	石刀	P15	Ⅱ	頁岩	3.4	1.0	0.3	0.95	
N-12	2	87	石鏃	P15	Ⅱ	黒曜石	3.7	1.0	0.4	1.15	赤井田
N-12	3	87	石鏃	P10	I	頁岩	15.7	1.3	0.4	2.26	
N-12	4	87	石鏃	Q11	Ⅱ	頁岩	4.1	1.5	0.6	2.78	
N-12	5	87	石鏃	F53	Ⅱ	黒曜石	5.1	1.1	0.3	0.41	赤井田
N-12	6	87	石鏃	Q9	Ⅱ	黒曜石	3.2	1.4	0.4	1.01	
N-12	7	87	石鏃	P19	Ⅱ	頁岩	3.2	1.9	0.5	1.89	
N-12	8	87	石鏃	W17	Ⅱ	頁岩	2.2	1.4	0.4	0.8	
N-12	9	87	石鏃	P6	Ⅱ	頁岩	2.5	1.6	0.5	1.67	
N-12	10	87	石鏃	V17	Ⅱ	黒曜石	2.3	1.2	0.3	0.69	
N-12	11	87	石鏃	K24	Ⅱ	頁岩	12.2	1.5	0.4	5.83	
N-12	12	87	石鏃	U39	Ⅱ	頁岩	2.9	1.7	0.4	1.14	
N-12	13	87	石鏃	K25	Ⅱ	頁岩	2.8	1.8	0.3	1.28	
N-12	14	87	石鏃	O29	Ⅱ	頁岩	3.5	1.5	0.4	1.58	
N-12	15	87	石鏃	T45	Ⅱ	頁岩	4.6	2.8	0.6	6.91	
N-12	16	87	石鏃	H39	Ⅱ	頁岩	3.3	1.1	0.4	0.84	
N-12	17	87	石鏃	U9	Ⅱ	頁岩	2.5	1.7	0.4	0.96	
N-12	18	87	石鏃	M40	Ⅱ	頁岩	2.3	1.5	0.6	2.03	
N-12	19	87	石鏃	M29	Ⅱ	頁岩	4.1	1.5	0.5	1.81	アスファルト付着
N-12	20	87	石鏃	J48	Ⅱ	黒曜石	2.8	1.7	0.4	1.25	
N-12	21	87	石鏃またはナイフ	M24	Ⅱ	頁岩	7.2	1.5	0.8	8.96	
N-12	22	87	石鏃またはナイフ	K33	Ⅱ	頁岩	6.5	4.0	1.1	23.6	
N-12	23	87	石鏃またはナイフ	V8	Ⅱ	頁岩	10.1	3.0	0.9	29.6	
N-12	24	87	石鏃またはナイフ	N44	Ⅱ	頁岩	11.4	3.5	1.3	44.7	
N-12	25	87	石鏃またはナイフ	R21	Ⅱ	頁岩	6.3	3.0	0.8	12.6	
N-12	26	87	石鏃またはナイフ	J7	Ⅱ	頁岩	10.1	4.5	2.0	69.3	
N-12	27	87	石鏃またはナイフ	K15	I	頁岩	11.9	6.4	1.9	123.6	
N-13	28	87	両面調整石鏃	K8	Ⅱ	頁岩	12.8	8.4	1.9	138.0	
N-13	29	87	両面調整石鏃	S32	Ⅱ	頁岩	13.6	5.9	2.4	171.4	
N-13	30	87	両面調整石鏃	V9	Ⅱ	頁岩	6.4	4.8	1.7	54.5	
N-13	31	87	両面調整石鏃	O8	Ⅱ	頁岩	9.4	6.0	2.0	133.53	
N-13	32	87	両面調整石鏃	U8	Ⅱ	頁岩	8.6	5.2	2.1	76.29	
N-13	33	88	石鏃	P40	Ⅱ	頁岩	3.1	1.2	0.7	2.38	
N-13	34	88	石鏃	O33	Ⅱ	頁岩	3.1	1.7	0.7	3.28	
N-13	35	88	石鏃	S20	Ⅱ	頁岩	5.2	1.2	0.8	4.24	
N-13	36	88	石鏃	O18	Ⅱ	頁岩	7.5	2.0	0.9	9.82	
N-13	37	88	石鏃	V6	Ⅱ	頁岩	12.9	6.0	1.9	85.1	
N-14	38	88	石鏃	V5	Ⅱ	頁岩	10.2	9.6	4.9	39.0	
N-14	39	88	つまみ付きナイフ	J40	Ⅱ	頁岩	5.1	2.9	0.9	10.68	
N-14	40	88	つまみ付きナイフ	M30	Ⅱ	頁岩	5.2	4.2	1.1	11.98	
N-14	41	88	つまみ付きナイフ	P8	Ⅱ	頁岩	7.3	3.5	1.2	13.39	
N-14	42	88	つまみ付きナイフ	K49	Ⅱ	頁岩	13.6	4.2	1.3	29.32	
N-14	43	88	つまみ付きナイフ	J34	Ⅱ	頁岩	10.8	3.2	1.0	30.03	
N-14	44	88	つまみ付きナイフ	G32	Ⅱ	頁岩	9.0	3.4	1.2	24.49	
N-14	45	88	つまみ付きナイフ	P25	Ⅱ	頁岩	8.5	3.6	1.2	21.61	
N-14	46	88	魚状石鏃	R8	Ⅱ	頁岩	7.0	4.1	1.4	30.3	
N-14	47	88	魚状石鏃	V8	Ⅱ	頁岩	5.4	3.8	1.3	26.9	
N-14	48	88	魚状石鏃	W12	I	頁岩	6.9	3.5	1.6	32.6	
N-15	49	88	魚状石鏃	P16	Ⅱ	頁岩	8.6	5.1	1.6	74.8	
N-15	50	88	魚状石鏃	P15	Ⅱ	頁岩	7.5	6.5	1.7	46.9	
N-15	51	88	魚状石鏃	M44	Ⅱ	頁岩	6.5	5.1	1.6	47.86	
N-15	52	88	魚状石鏃	L37	Ⅱ	頁岩	2.1	3.0	0.7	4.39	
N-15	53	88	魚状石鏃	M43	Ⅱ	頁岩	3.9	2.2	0.8	7.83	
N-15	54	88	ステレイバー	K58	Ⅱ	頁岩	4.0	0.9	5.5	5.5	
N-15	55	88	ステレイバー	R44	Ⅱ	頁岩	7.8	5.9	1.5	38	
N-15	56	88	ステレイバー	M2	Ⅱ	頁岩	4.8	1.2	0.8	22.4	
N-15	57	88	ステレイバー	W9	Ⅱ	頁岩	5.2	4.2	2.2	32.1	
N-15	58	88	ステレイバー	V9	Ⅱ	頁岩	10.4	3.8	1.4	49.41	
N-15	59	88	ステレイバー	R15	Ⅱ	頁岩	11.2	4.1	1.7	42.91	
N-15	60	88	ステレイバー	N17	Ⅱ	頁岩	3.7	6.3	2.3	55.93	
N-16	61	89	楕円石鏃	O17	Ⅱ	頁岩	12.1	1.2	0.9	2.69	
N-16	62	89	石鏃	V5	Ⅱ	頁岩	9.1	7.5	4.0	300	
N-16	63	89	石鏃	V16	Ⅱ	頁岩	5.7	7.0	5.4	224.57	
N-16	64	89	石鏃	Q44	Ⅱ	頁岩	4.7	8.2	3.3	145.13	
N-16	65	89	石鏃	P13	Ⅱ	頁岩	7.2	7.8	3.2	182.77	
N-16	66	89	石鏃	J8	Ⅱ	頁岩	5.3	4.4	6.2	122.32	
N-17	67	89	石鏃	U13	I	紀成岩	15.0	2.9	0.8	21.8	磨り取り
N-17	68	89	石鏃	N16	Ⅱ	紀成岩	8.4	2.8	1.1	35.6	
N-17	69	89	石鏃	O40	Ⅱ	頁岩	7.8	2.5	1.5	37.2	鏡面
N-17	70	89	石鏃	J36	Ⅱ	紀成岩	10.5	3.1	2.1	132.3	
N-17	71	89	石鏃	J25	Ⅱ	安山岩	15.0	2.9	10.8	231.8	
N-17	72	89	石鏃	U4	Ⅱ	安山岩	13.4	4.5	3.2	355	
N-17	73	89	石鏃	U28	Ⅱ	安山岩	12.9	4.8	3.3	340	
N-17	74	89	石鏃	O17	Ⅱ	頁岩	8.6	1.4	0.9	12.9	
N-17	75	89	たなき石	N43	Ⅱ	頁岩	15.7	6.0	3.1	300	
N-17	76	89	たなき石	J60	Ⅱ	輝岩	14.3	6.4	3.4	460	
N-17	77	89	たなき石	U8	Ⅱ	安山岩	9.2	8.0	7.4	790	
N-17	78	89	すり石	P7	Ⅱ	安山岩	8.6	14.3	6.6	860	
N-17	79	89	すり石	O36	Ⅱ	安山岩	10.2	12.2	4.2	800	
N-17	80	89	石鏃	L36	Ⅱ	安山岩	3.6	3.4	1.3	27.4	
N-17	81	89	石鏃	N41	Ⅱ	安山岩	14.1	15.8	1.0	310.9	
N-18	82	90	扁平打製石鏃	H38	Ⅱ	頁岩	4.0	10.9	1.8	101.2	
N-18	83	90	扁平打製石鏃	G51	Ⅱ	安山岩	7.9	16.5	2.8	300	
N-18	84	90	扁平打製石鏃	H47	I	安山岩	8.0	14.6	3.2	600	
N-18	85	90	扁平打製石鏃	V5	Ⅱ	安山岩	7.2	16.9	2.1	310	

表IV-2 包含層出土掲載石器一覧(2)

図番号	番号	図面	器種名	遺構/発掘区	層位	石材層	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
N-18	86	90	扁平打製石器	V 7	II	燧石	9.9	16.0	5.9	800	
N-18	87	90	北進筋式石冠	H32	II	安山岩	11.6	15.5	7.6	1400	
N-18	88	90	北進筋式石冠	M 7	II	安山岩	10.0	11.3	7.3	1100	
N-18	89	90	砥石	V 5	III	輝石	9.0	6.7	3.0	15.9	
N-18	90	90	砥石	K 7	II	燧石	13.2	5.9	1.1	100.4	
N-19	91	90	砥石	K24	III	燧石	19.2	7.8	7.4	965	
N-19	92	90	石鏃	R22	II	輝石	5.3	6.7	1.7	90.9	
N-19	93	90	石鏃	O28	II	輝石	6.8	8.6	2.9	231.2	
N-19	94	90	石鏃	W11	II	安山岩	8.3	8.8	2.9	310	
N-19	95	90	石鏃	S17	II	安山岩	10.3	6.0	4.6	400	
N-19	96	90	石鏃品	N17	II	輝石	8.5	5.4	1.3	61.6	有孔
N-19	97	90	石鏃品	O19	III	輝石	5.3	4.7	1.1	19.9	有孔
N-19	98	90	石鏃品	N16・P15	II・III	燧石	6.0	3.8	0.8	14.9	
N-19	99	90	石鏃品	H42	II	輝石	6.8	3.9	2.4	29.5	
N-19	100	90	キセル	W34	I	銅製品	5.6	1.1	1.5	12.45	鎌首
N-19	101	90	キセル	W34	I	銅製品	7.6	1.3	1.5	15.85	喉口
N-19	102	90	キセル	M18	I	銅製品	6.5	1.1	0.9	8.51	喉口

V章 まとめ

1. 遺構について

縄文時代早期後半（I群b-1類）の竪穴住居跡は、6軒（H-1・3・13・19~21）検出した。

平面形は、H-3が不整の楕円形、H-13が不整形である以外、円形となる。大きさは、H-3が長径9m程で、円形のもの直径3~7m程とばらつきがみられる。いずれも炉跡はないが、H-20では、床面ほぼ中央に窪んでやや硬くなる面がある。柱穴は、H-1・20で住居中央付近を巡る太いものと、北側壁際の細いものがみられた。また壁際に周溝を持つもの（H-1・20・21）がある。

H-1・20・21では、剥片石器が多量に出土し、特にH-20では石核や不定形剥片の接合資料が得られた。頁岩原石を持ち込み、石器の製作をおこなっていた跡と考えられる。P-108出土のスクレイパーと接合する例があるため、同時期の土坑であると考えられる。

縄文時代前期後半の竪穴住居跡は、13軒（H-7~12・22~26・28・29）検出した。

平面形は円形・楕円形で、大きさは4m未満~10m以上である。楕円形のもの大きい傾向がある。柱穴は主柱穴4本（H-7・10・11・23・29）と、6本以上（H-8・9・22）のものがあり、柱の位置から、建て替えが想定されるもの（H-7・23）もある。炉跡は、掘り込みを伴うもの（H-8・9・11?・22・23?）が多く、中央もしくは長軸上に設置される。付属遺構は、ベンチ構造（H-11・25）、周溝（H-8・22・23）、砂ビット（H-29）などがみられる。時期は円筒土器下層b~d1式で、放射性年代測定や床面出土土器から、H-8・22が古く、H-7・23・24・29があり、H-25・9・11が新しいと考えられる。

縄文時代後期前葉の竪穴住居跡は、6軒（H-4・6・14・15・17・18）検出した。

平面形は円形が多く、H-18のみ六角形に近い形状となる。大きさはすべて4m未満で、3mをきるものもある。炉跡はすべてで確認され、H-4・15以外は、中心より南東壁側の床面に、石組炉がある。H-14では、壁際にほぼ全周する周溝と出入口構造がみられた。

土坑は153基検出した。平面形が円形・不整形で、長径が30cm~1m未満となるものが122基あり、このうち半数近くは、断面形がフラスコ状になる。これらの土坑は調査区4~10ライン、30~32ライン、37~55ラインなどに集中する傾向がある。時期は出土遺物から4~10ラインは縄文時代前期後半・後期前葉、30~55ラインは縄文時代早期後半（東銅路IV式土器期）の可能性がある。

直径1m以上の土坑は31基で、平面形は楕円形・不整形となる。遺物を伴うものが多く、特に縄文時代早期後半（I群b-1類P-104・105・108・113）の土坑からは、土器やフレイクを中心に遺物が多く出土した。このほかに縄文時代早期後半（中茶路式P-102）、縄文時代前期前半（P-100・107）、縄文時代前期後半（P-58~61・89・99）、縄文時代後期前葉（P-11・19）の土坑がある。

また近世期以降の土坑墓（P-12）が1基あり、人骨が検出している。

溝状遺構は、溝底面に柱穴があることから、木柵設置のための布掘り跡と考える。時期はB-Tm降下（10世紀）以前で、溝覆土の炭化材の放射性炭素年代測定では、8世紀中~9世紀初頭という結果がでた。柱穴がみられる範囲は27m中、西側の6m程で、それ以外は底面に鋤と思われる工具痕が残るのみである。柵は溝すべてに設置されてはいない可能性がある。

柱穴を有する溝状遺構は、道内では類例がないが、北東北地方では多く、集落を区画する柵跡と考えられている。年代は9~11世紀である。青森県向田（35）遺跡報告書でまとめられた県内例では、青森市細越遺跡、野木遺跡、朝日山（2）遺跡、鯉ヶ沢町空沢遺跡、深浦町荻野遺跡、浪岡町羽黒平

(1) 遺跡、野辺地町向田(35)遺跡がある。

本遺跡では、採文文化期の竪穴住居跡2軒(8世紀末・放射性年代測定では7世紀中～8世紀)を検出したが、溝状遺構とは80m程西へ離れて所在する。放射性年代測定での年代のずれもあり、溝状遺構と竪穴住居跡の間違は不明である。

2. 遺物について

縄文時代早期後半のI群b-1類土器が、H-20・21、P-104・105・108・113などから、まとまって出土した。遺構出土の土器について、文様ごとの集成図を作成した(図V-1)。

以下特徴を述べる。

器形：口径と底部の差が大きい深鉢を基本とし、鉢形土器、小型鉢形土器(H-20・91)がある。口縁は平縁であるが、P-105・74のように波状になるものもある。口唇断面形状は角型が多く、ほかに外側にやや肥厚するもの、丸型などがある。器壁は凹凸があり、P-108・79など全体にゆがむものがある。底部は小型で、外側にやや張り出す。底部外面の周縁には貼付帯を巡らし、やや上げ底としている。底部外面には縄文が施され、内面には指頭圧痕がみられる例がある。

内面：内面はササラ状工具による横位調整、指頭によるナデ調整がみられる。また口縁付近に縄文を施す例も多い。明瞭な貝殻条痕があるものはない。

胎土：比較的緻密で、砂粒が混じるものが多い。色調は、にぶい黄褐色、にぶい橙色などがある

文様：貼付文、縄線文、縄端圧痕文、縄端回転文、刺突文、綾絡文、縄文がみられる。

貼付帯があるものは、P-108・81のみである。貼付上には縄の側面圧痕が縦位に施されている。

縄線文は横位、斜位、波形に施文され、これに縄端圧痕文を加えて、文様帯を構成する。このほか円弧を組み合わせた文様(P-108・87、P-113・97)、平組紐の圧痕文(P-108・88)などがみられる。文様は無文地に施文されるものが多い。

縄端回転文はH-20・82の復原土器にみられたもので、無節原体の縄端側面を横位回転させ、円弧状の文様を連続させるものである。

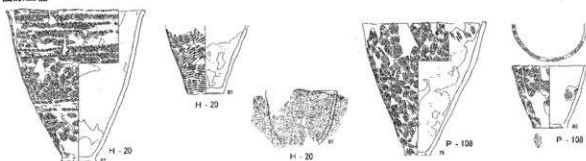
綾絡文は縄文地に横位に施されるもので、数条を1セットにして帯状になるものや、綾絡文のみみられる破片もある。

縄文は狭い幅での斜行縄文が主体的である。施文の向きを変え、切り合う例も多い。また縄端を意識して施文し、端部に段差ができるものがある(P-105・74)。原体はLR・RLで、0段多条となるものが多い。また無節の原体も使用される。

上記の土器群は、道内では函館市中野B遺跡(I群F類土器)、松前町高野遺跡(IV群土器)、長万部町オバルベツ2遺跡出土土器などに類似し、道外では青森県表館VI群土器と類する。中野B遺跡I群F類は赤御堂式に後続し、東銅路II式に相当するものと考えられている(熊谷 北理97・冨永2004)。

道南地方では、この時期、折り返し口縁や貼付、内面条痕を特徴とする仮称「西柁梗式」土器があり、長万部町富野3遺跡などで、赤御堂式土器との共伴が知られる。本土器群は、それに後続するもので、東銅路II式相当の土器の一例と考えられる。

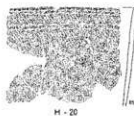
復原土器



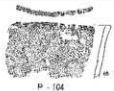
貼付文



縄線文



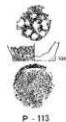
綾格文



縄文



底部



図V-1 遺構出土のI群b-1類土器集成

3. 自然科学的分析結果の評価について

(1) 黒曜石原産地同定(付篇1)

10点の試料中、6点が赤井川産と同定された(表V-1)。他に赤石山Ⅲ、置戸が1点である。残りうち2点は、試料Ki-1(H-1出土 石錐)は、第2・4図は産地群の外にみられ、6・8図では丸瀬布群の範囲内にあり、丸瀬布群で被熱を受けたと推定された。また、Ki-3(H-20原石)は、すべての図のいずれの原産地群の範囲内にみられず、産地は特定できなかった。

前者のように黒曜石が被熱を受けた際に生じる化学組成の変化を知るため、また、後者のように不明となる結果のものを同定できうる分析元素の設定、これらの化学的変化、対照標準資料の体系化がさらに必要である。

(2) 放射性炭素年代(AMS測定)(付篇2)

平成22年度に20点(Ki-1~20)、平成23年度に3点(ki-21~23)を測定した。これらの結果のうち、暦較正年代に注目し、1・2標準偏差が50%以上の試料21点について、年代の新しい順に並べた表V-2を作成した。

溝状遺構、SH-1・2は擦文文化期である。SH-1・2は、7世紀中頃~8世紀と想定より古い数値で、溝状遺構はこれら住居跡よりも若干新しい年代である。関連する遺構と考えていたが、再検討が必要となった。また、H-23 床面出土の試料:Ki-23(JAA-103332)も7世紀代の値であるが、H-23は発掘調査で縄文時代前期の住居跡である。遺構図を再検討した結果、試料である炭化材の出土位置と床面には10cm程度高さが異なるので、この炭化材が本住居跡に伴わないと判断する。

縄文時代後期の住居跡は、H-17・14・6で、縄文時代前期の住居跡は、新しい年代が示された順に、H-11・9・7・29・8・22である。縄文時代早期の住居跡はH-13・20があり、前者は早期後半、後者はこれよりも約1700年古い。

H-18は縄文時代後期の住居跡であるが、標準偏差が50%未満の測定値は、縄文時代中期を示している。

(3) 炭化材の樹種同定(付篇3)

同定結果から、時代により使用する木を使い分けていることがわかる。すなわち、擦文文化期(SH-2)では、トネリコ属で、縄文時代はクリである。いずれも遺跡周辺の植生にみられるもので、そこから入手したと推測される。

(4) 出土の種実(付篇4)

種実には、炭化したものと未炭化のものがみられた。後者は、低湿地性遺跡等の還元層に残存するもので、本遺跡の立地環境に該当せず、発掘調査や水洗・整理作業中に混入した可能性が高いとの結論であった。このことは時代が新しい擦文文化期の遺構にもみられ、フローテーション法を用いる場合、注意しなければならない事項である。

炭化種子と未炭化種子を表V-3にまとめた。遺構に伴うと考えられる炭化種子については、多くが偶発的に遺構内に持ち込まれたと推測されるが、擦文文化期のSH-1の「オニグルミ」と、縄文時代前期の住居跡、H-22内のHP-1覆土中の「ユリ科炭化鱗茎」は食用の可能性が高い。なおH-22HP-1ではオニグルミが大量に出土している。

(5) P-12出土人骨について

人類学的鑑定では以下の所見が得られた。

- ・人骨の残りは悪く、歯冠の情報から、年齢・性別を推測した。
 - ・歯の咬耗から壮年と判断され、切歯には和人特有の形状が認められた。
 - ・残存する歯の歯冠計測値の組み合わせによる線形判別法により、母集団を江戸時代の関東地方の和入、アイヌ民族として分析し、いずれも男性と判断された。
 - ・同じく歯冠計測値から、江戸時代和入か北海道アイヌかを判別し、和人と判断された。
- また、遺構の状況は、屈葬であること、副葬品がないことから、和入であると推測された。
- 以上、人類学的鑑定や遺構の状況から、被葬者は和入の壮年男性であると判断される。

(6) P-12出土人骨の放射性年代測定

P-12出土の人骨のうち、依存状態が良好だった部位は頭部と左右の脛骨であった。この脛骨(左右は不明)から抽出したコラーゲンから年代測定を行った。

暦年較正年代で高い確率の値は、西暦1833-1880年(1標準偏差 36.4%)、1805-1892年(2標準偏差 54.8%)で19世紀である。

しかし、コラーゲン試料の性質の分析から、C/N(炭素/窒素)比では、本試料は外部汚染を受けていること、さらに摂取タンパク源は、草食性の陸上動物と海産魚貝類の両者が認められたことが判明した。

本遺跡は、調査前は住宅地で上位の層が削平されており、人骨コラーゲンが外部汚染を受けている。加えて、海産魚貝類を少なからず摂取してことから、海洋リザーバー効果の影響を受けていることを考慮すると、17世紀後葉以降と推測される。(愛場)

表V-1 黒曜石原産地同定結果一覧(産地別)

試料名	器種	出土地点	時期	原産地	SiO ₂	Al ₂ O ₃	Fe ₂ O ₃	TiO ₂	K ₂ O	CaO	Pb(μ)	Sr(μ)
K1-4	石鏃	H-21	縄文時代早期	赤井川	77.1739	11.9037	1.1456	0.1163	4.6696	0.8051	949	571
K1-5	フレイク	H-26	縄文時代前期	赤井川	76.8476	11.7849	1.2166	0.1085	4.8761	0.8570	924	405
K1-6	フレイク	H-29	縄文時代前期	赤井川	76.9592	11.7337	1.0950	0.1015	4.5842	0.7838	1101	640
K1-7	フレイク	P-56	縄文時代	赤井川	77.2322	11.7424	1.1030	0.0968	4.5738	0.7565	1063	485
K1-9	石鏃	包含層	縄文時代	赤井川	76.9828	11.9006	1.1496	0.0966	4.6589	0.8131	1054	772
K1-10	石鏃	包含層	縄文時代	赤井川	76.9067	12.0147	1.1872	0.1121	5.0424	0.8398	1180	443
K1-2	フレイク	H-20	縄文時代早期	赤石山Ⅱ	76.6998	12.1438	1.0957	0.0895	4.6251	0.5308	1378	107
K1-8	フレイク	P-89	縄文時代前期	藤戸	77.9567	11.4803	1.1894	0.1667	3.5204	1.1326	653	1124
K1-3	原石	H-20	縄文時代早期	不明	74.1335	9.6811	2.1017	0.3099	3.8809	2.7269	622	948
K1-1	石鏃	H-1	縄文時代早期	丸瀬布系?	76.7358	11.4696	1.5466	0.2156	3.8001	1.2551	968	991

表V-2 放射性炭素年代測定結果一覧(時代順)

測定番号	調査年度	試料名	採取場所	1σ		2σ		時代等
				暦年(範囲)		暦年(範囲)		
IAAA-112215	平成23年度	K1-23	濃床遺構 覆土	777caBP ± 831caBP 43.2	719caBP ± 743caBP 6.8			縄文文化期 8世紀中頃～9世紀初頃
				837caBP ± 863caBP 25.0	768caBP ± 889caBP (88.6%)			
IAAA-103315	平成22年度	K1-3	SH-2 床面	683caBP ± 722caBP 38.5	669caBP ± 777caBP (95.4%)			縄文文化期 7世紀中頃～8世紀後半
				741caBP ± 779caBP 29.7	650caBP ± 715caBP (81.1%)			
IAAA-103373	平成22年度	K1-1	SH-1 木片	655caBP ± 689caBP (64.8%)	745caBP ± 768caBP 14.3			縄文文化期 7世紀中頃～8世紀初頃
				754caBP ± 758caBP 3.4	658caBP ± 724caBP (86.9%)			
IAAA-103314	平成22年度	K1-2	SH-1 伊藤(HF-1)	664caBP ± 694caBP 43.4	702caBP ± 707caBP 4.3			縄文文化期 7世紀中頃～8世紀中頃
				702caBP ± 707caBP 4.3	739caBP ± 777caBP 28.5			
IAAA-103332	平成22年度	K1-20	H-23 床面	645caBP ± 670caBP (88.2%)	439caBP ± 469caBP 26.5			縄文文化期 7世紀
				439caBP ± 469caBP 26.5	481caBP ± 535caBP 47.7			
IAAA-103316	平成22年度	K1-4	SH-2 伊藤(HF-1)	420caBP ± 545caBP (95.4%)	213caBP ± 210caBP 1.8			縄文時代中 5世紀前半～6世紀中頃
				481caBP ± 535caBP 47.7	2036caBP ± 1894caBP (93.6%)			
IAAA-103325	平成22年度	K1-13	H-17 伊藤(HF-1)	2024caBP ± 1941caBP (88.2%)	256caBP ± 252caBP 10.8			縄文時代中・前期 約B.C. 2600
				2486caBP ± 2438caBP 41.1	2497caBP ± 2341caBP (84.6%)			
IAAA-103324	平成22年度	K1-12	H-14 伊藤(HF-1)	2471caBP ± 2404caBP 10.5	2378caBP ± 2350caBP 16.7			縄文時代前期 約B.C. 2600年
				2471caBP ± 2404caBP 10.5	2562caBP ± 2535caBP 35.4			
IAAA-103317	平成22年度	K1-5	H-6 床面	2493caBP ± 2470caBP 32.8	3491caBP ± 3470caBP 18.7			縄文時代前期 約B.C. 2620
				2493caBP ± 2470caBP 32.8	3374caBP ± 3341caBP 49.5			
IAAA-103322	平成22年度	K1-10	H-11 床面(HC-1)	3374caBP ± 3341caBP 49.5	3215caBP ± 3181caBP 9.5			縄文時代前期 約B.C. 2630
				3374caBP ± 3341caBP 49.5	3158caBP ± 3124caBP 7.9			
IAAA-103321	平成22年度	K1-9	H-9 伊藤(HF-1)	3518caBP ± 3496caBP 15.4	3460caBP ± 3376caBP (52.8%)			縄文時代前期 約B.C. 2630
				3460caBP ± 3376caBP (52.8%)	3476caBP ± 3370caBP (84.9%)			
IAAA-103318	平成22年度	K1-6	H-7 床面	3639caBP ± 3630caBP 10.9	3673caBP ± 3621caBP 18.3			縄文時代前期 約B.C. 2630
				3639caBP ± 3630caBP 10.9	3635caBP ± 3551caBP 55.4			
IAAA-112214	平成23年度	K1-22	H-29 床面	3581caBP ± 3533caBP (57.3%)	3542caBP ± 3501caBP 19.7			縄文時代前期 約B.C. 2630
				3581caBP ± 3533caBP (57.3%)	3429caBP ± 3380caBP 20.2			
IAAA-103320	平成22年度	K1-8	H-8 伊藤(HF-2)	3632caBP ± 3561caBP 49.5	3636caBP ± 3501caBP (77.1%)			縄文時代前期 約B.C. 2640
				3632caBP ± 3561caBP 49.5	3428caBP ± 3381caBP 18.4			
IAAA-112213	平成23年度	K1-23	H-29 床面	3595caBP ± 3588caBP 3.1	3641caBP ± 3520caBP (95.4%)			縄文時代前期 約B.C. 2650
				3595caBP ± 3588caBP 3.1	3585caBP ± 3531caBP (60.9%)			
IAAA-103331	平成22年度	K1-19	H-22 床面	3636caBP ± 3629caBP 7.3	3634caBP ± 3626caBP 6.9			縄文時代前期 約B.C. 2650
				3636caBP ± 3629caBP 7.3	3599caBP ± 3551caBP 45.8			
IAAA-103330	平成22年度	K1-18	H-22 床面	3542caBP ± 3526caBP 15.5	3499caBP ± 3384caBP 2.6			縄文時代前期 約B.C. 2650
				3542caBP ± 3526caBP 15.5	3645caBP ± 3520caBP (95.4%)			
IAAA-103319	平成22年度	K1-7	H-8 床面	3638caBP ± 3629caBP 8.9	3645caBP ± 3520caBP (95.4%)			縄文時代前期 約B.C. 2660
				3638caBP ± 3629caBP 8.9	3694caBP ± 3682caBP 11.5			
IAAA-103323	平成22年度	K1-11	H-13 床面	3584caBP ± 3531caBP (59.3%)	3706caBP ± 3631caBP (86.1%)			縄文時代前期 約B.C. 2650
				3584caBP ± 3531caBP (59.3%)	3561caBP ± 3517caBP 9.3			
IAAA-103328	平成22年度	K1-16	H-20 床面	3694caBP ± 3686caBP 11.5	4436caBP ± 4427caBP 1.0			縄文時代前期 約B.C. 4300
				3694caBP ± 3686caBP 11.5	4284caBP ± 4271caBP 13.8			
IAAA-103326	平成22年度	K1-14	H-18 床面	4355caBP ± 4327caBP (54.4%)	6019caBP ± 5981caBP (51.0%)			縄文時代前期 約B.C. 4600
				4355caBP ± 4327caBP (54.4%)	5943caBP ± 5926caBP 17.2			
IAAA-103329	平成22年度	K1-17	H-20 床面	6076caBP ± 6018caBP (68.2%)	6205caBP ± 6191caBP 2.3			縄文時代前期 約B.C. 4600
				6076caBP ± 6018caBP (68.2%)	6184caBP ± 6170caBP 1.9			
IAAA-103327	平成22年度	K1-15	H-18 床面	6162caBP ± 6141caBP 3.3	2572caBP ± 2512caBP 49.6			縄文時代前期 約B.C. 2650
				6162caBP ± 6141caBP 3.3	2493caBP ± 2465caBP 39.4			
IAAA-103324	平成22年度	K1-14	H-18 床面	6111caBP ± 5999caBP (87.9%)	2421caBP ± 2404caBP 2.8			縄文時代前期 約B.C. 2650
				6111caBP ± 5999caBP (87.9%)	2379caBP ± 2349caBP 4.3			
IAAA-103327	平成22年度	K1-15	H-18 床面	2562caBP ± 2535caBP 28.8	2573caBP ± 2512caBP 41.9			縄文時代前期 約B.C. 2650
				2493caBP ± 2466caBP 38.9	2400caBP ± 2404caBP 2.5			
IAAA-103327	平成22年度	K1-15	H-18 床面	2493caBP ± 2466caBP 38.9	2445caBP ± 2439caBP 0.6			縄文時代前期 約B.C. 2650
				2493caBP ± 2466caBP 38.9	2378caBP ± 2350caBP 3.9			

表V-3 遺構出土炭化種実同定結果一覧

試料番号	遺構	層位	試料点数	時代・時期	炭化種子	未炭化種子	備考		
K1-1	SH-1	床面	2	縄文文化期	オニグルミ核：1 ウルシ属-スルナ属 炭化内果実：1	タニソバ実 イヌタケ実 アカザ属種子 エノキダマ種子 等			
K1-2			3						
K1-3			1						
K1-4			2						
K1-5			2						
K1-6			1						
K1-7			1						
K1-8			3						
K1-9			1						
K1-10			1						
K1-11			2						
K1-12			3						
K1-13			2						
K1-14			1						
K1-15			1						
K1-16			2						
K1-17			2						
K1-18			2						
K1-19			1						
K1-20			1						
K1-21			4						
K1-22			1						
K1-23			1						
K1-24			1						
K1-25			1						
K1-26			1						
K1-27			1						
K1-28			2						
K1-29			4						
K1-30			2						
K1-31			2						
K1-32			1						
K1-33			1						
K1-34			2						
K1-35			2						
K1-36			2						
K1-37			2						
K1-38			1						
K1-39			1						
K1-40			2						
K1-41			2						
K1-42			2						
K1-43			1						
K1-44			1						
K1-45	5	—	タニソバ種子						
K1-46	カマド跡	5	イネ科種子：2	エノキダマ種子					
K1-47	SH-2	床面	1	縄文文化期	ウルシ属-スルナ属 炭化内果実：1 タケ科実実：1	タニソバ実 アカザ属種子 エノキダマ種子 等			
K1-48			13						
K1-49			1						
K1-50			3						
K1-51			2						
K1-52			2						
K1-53			1						
K1-54			3						
K1-55			1						
K1-56			1						
K1-57			1						
K1-58			2						
K1-59			6						
K1-60			2						
K1-61			2						
K1-62			1						
K1-63			2						
K1-64			6						
K1-65			1					イネ科種子：1	タニソバ種子 アザミ属種子等
K1-66			H-1					床面	3
K1-67	F-1	焼土	3	縄文時代	—	タニソバ種子 アカザ属種子			
K1-68	F-2	焼土	1	縄文時代	—	タニソバ種子			
K1-69			4						
K1-70	H-8	H F-2	5	縄文時代前期	イヌビエ属種子：1 イネ科種子：1	—			
K1-71		H F-3	28		イヌビエ属種子：1 タケ科実実：1	タニソバ種子 アカザ属種子			
K1-72	H-9	H F-1	2	縄文時代前期	—	タニソバ種子 アカザ属種子			
K1-73	H-14	H F-1	2	縄文時代 中期末-後期初期	ササエタケ-オオイヌタケ実 ：1	タニソバ種子			
K1-74	H-15	H F-1	1	縄文時代 中期末-後期初期	エノコログサ属種子：1	—			
K1-75	H-17	H F-1	3	縄文時代 中期末-後期初期	—	タニソバ種子 エノキダマ種子			
K1-76	H-18	H F-1	1	縄文時代 中期末-後期初期	ウルシ属-スルナ属 炭化内果実：1	—			
K1-77	H-22	H F-1 覆土	5	縄文時代前期	タケ科 炭化実実：1	—			

付 篇

1. 黒曜石原産地同定

第四紀地質研究所 井上 巖

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製 JX-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C～92 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30 k V、4 m A）の採用で微量試料～最大290mm φ×80mm Hまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。

分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクF P法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝R h、加速電圧＝30 k V、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素は Si Ti Al Fe Mn Mg Ca Na K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝0と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素の Rb, Sr, Y, Zrは重量％では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）で SiO₂ Al₂O₃、FeO TiO₂、K₂O CaOの各相関図、Rb Srは積分量と微量元素の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

2 分析結果

第1表 化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

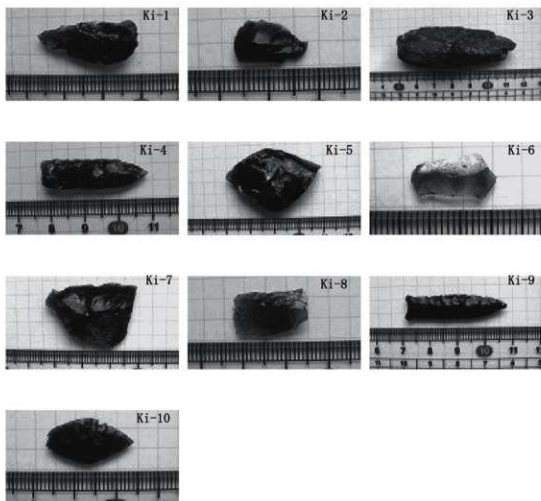
最も多く検出されたのは赤井川産で10個中6個が該当する。K-1は弱被災した丸瀬布系？、K-3は原石で表面が風化し、新鮮な面での分析ができず、原産地不明とした。K-8の置戸産は弱被災したもので図中の領域にばらつきがある。

第1表 化学分析表

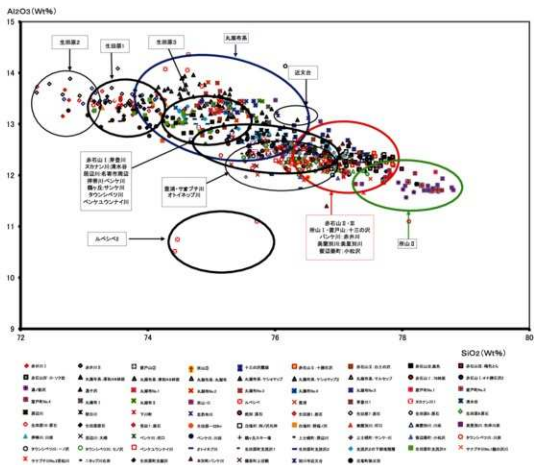
試料名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	FeO	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	Rb ₂ O	SiO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	Total	Rb10	Sr10	原産地	説明	時期
K-1-1	4.2032	0.2600	11.4096	76.7399	3.8001	1.2051	0.2156	0.0733	1.5466	0.0748	0.0151	0.0000	0.0190	0.0190	99.9998	968	981	丸瀬布系 T	石蔵	H-1 縄文時代早期
K-1-2	4.0024	0.2000	12.1438	76.8888	3.6806	0.8257	0.5128	0.0801	0.5879	0.0907	0.0177	0.0214	0.0212	0.0111	100.0003	1378	107	赤石山蔵	フレイク	H-1 縄文時代早期
K-1-3	4.1894	0.3000	9.8811	74.1325	2.6930	3.8809	2.7269	0.3099	2.1017	0.0168	0.0262	0.0037	0.0081	100.0000	622	948	不明	原石	H-1 縄文時代早期	
K-1-4	3.4428	0.3000	11.9037	77.1739	0.9385	4.6006	0.8051	0.1163	0.9855	1.1406	0.0140	0.0006	0.0036	0.0143	99.9998	949	571	赤井川	石蔵	H-1 縄文時代早期
K-1-5	3.9667	0.3000	11.7949	76.8474	0.4322	4.8761	0.1020	0.0790	1.2166	0.0130	0.0008	0.0020	0.0110	99.9999	924	405	赤井川	フレイク	H-1 縄文時代早期	
K-1-6	3.9494	0.3000	11.7537	76.8932	0.9807	4.5842	0.7938	0.1015	0.7693	1.0900	0.0139	0.0004	0.0023	0.0112	100.0001	1103	649	赤井川	フレイク	H-1 縄文時代早期
K-1-7	3.7226	0.3000	11.7424	77.2322	0.6884	4.5758	0.7260	0.0664	0.5739	1.1000	0.0140	0.0006	0.0020	0.0138	100.0003	1063	481	赤井川	フレイク	F-1 縄文時代
K-1-8	3.7016	0.3000	11.4893	77.3967	0.7276	3.5204	1.1306	0.1667	0.0734	1.1884	0.0083	0.0151	0.0026	0.0163	100.0000	633	1124	置戸	石蔵	F-1 縄文時代早期
K-1-9	5.5386	0.2000	11.8008	76.9828	0.6889	4.6889	0.8131	0.0566	0.0714	1.4406	0.0101	0.0113	0.0040	0.0127	100.0003	1004	172	赤井川	石蔵	縄文時代
K-1-10	3.1967	0.3000	12.0147	76.9047	0.4784	5.0424	0.8398	0.1121	0.0767	1.1872	0.0162	0.0062	0.0008	0.0121	100.0001	1180	443	赤井川	石蔵	縄文時代

引用文献

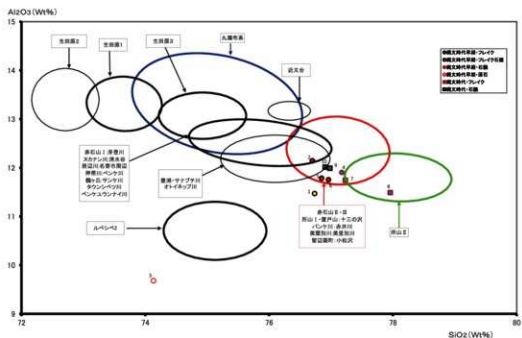
- 井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析 (XRF)
北越考古学 第11号 23-38
- 井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言 軽石学雑誌 第7号 23-51.
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 東北・北陸編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 北海道編
- 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石写真集



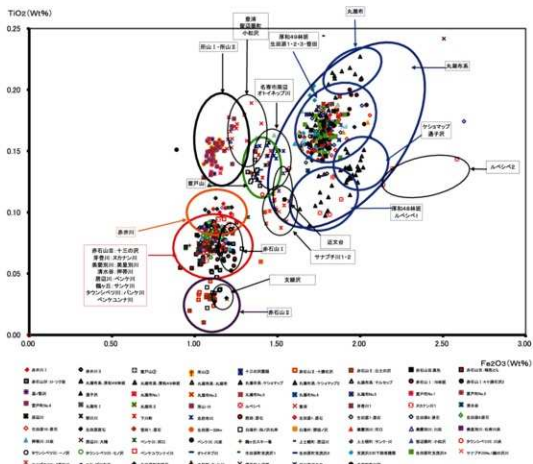
(平成23年2月29日 受領)
(平成23・24年度 愛場 点検・一部編集)



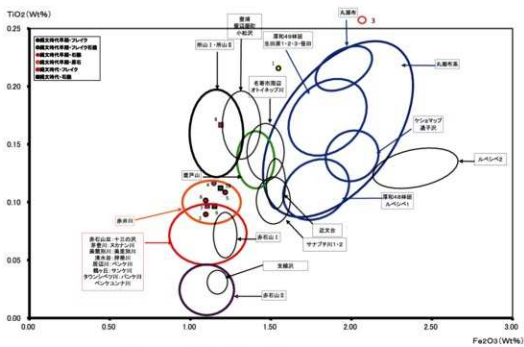
第1図 北海道の黒曜石 SiO₂-Al₂O₃図 (標準図)



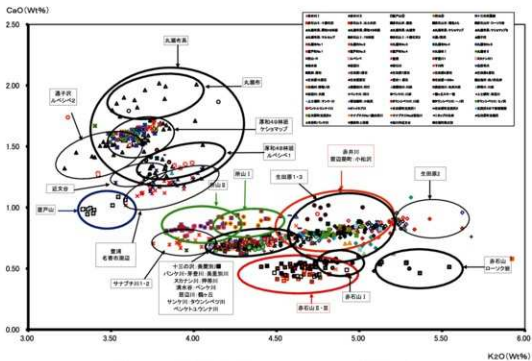
第2図 木古内遺跡の黒曜石 SiO₂-Al₂O₃図



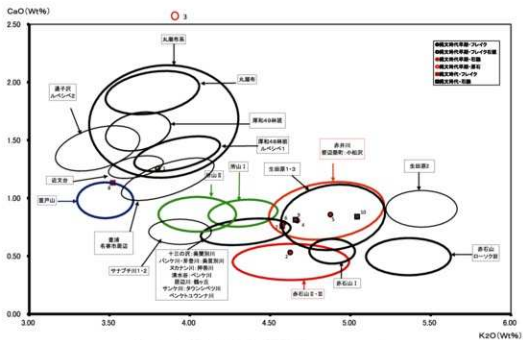
第3図 北海道の黒曜石 Fe₂O₃-TiO₂図 (標準図)



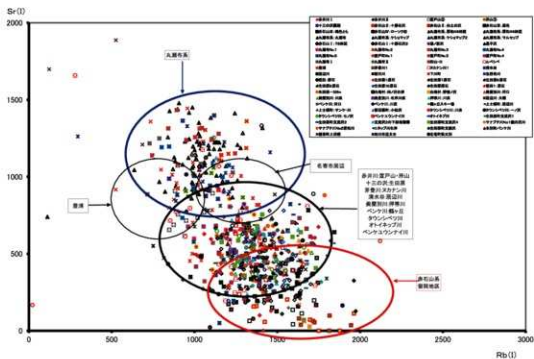
第4図 木古内遺跡の黒曜石 Fe₂O₃-TiO₂図



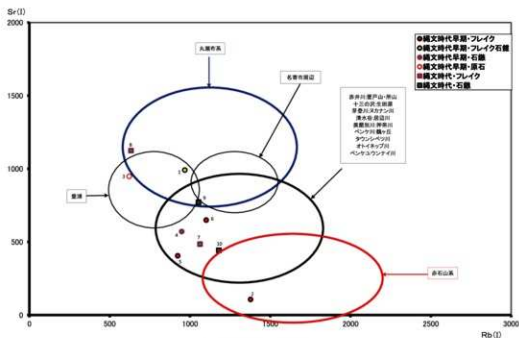
第 5 図 北海道の黒曜石 K2O—CaO 図 (標準図)



第 6 図 木古内遺跡の黒曜石 K2O—CaO 図



第7図 北海道の黒曜石 Rb-Sr 図 (標準図)



第8図 木古内遺跡の黒曜石 Rb-Sr 図

2. 放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

木古内遺跡は、北海道木古内町字木古内55-1ほか(北緯41°40'57"、東経140°26'41")に所在する。測定対象試料は、住居跡出土木炭23点(Ki-1: AAA-103313~Ki-20: AAA-103332)で(表1)、Ki-1、3、5~7、10、11、14~20、21、23は調査現場にて直接採取、Ki-2、4、8、9、12、13、22はフローテーション法で回収され、Ki-23を包含する覆土は、白頭山-苫小牧火山灰(B-Tm)より下位である。なお、Ki-1~20は平成22年度、ki-21~23は平成23年度の採取である。

2 測定の意義

住居跡や溝状遺構の年代を知り、遺跡の性格を理解する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ酸(AAA Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

3MVタンデム加速器(NEC Pelletron 9 SDH-2)をベースとした¹⁴C AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOxII)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。

る。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下一桁を丸め10年単位で表示され、¹⁴C年代の誤差(±1σ)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) **pMC (percent Modern Carbon)** は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合 Modernとする。この値も8‰Cによって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1σ=68.2%)あるいは2標準偏差(2σ=95.4%)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、8‰C補正を行い、下一桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、**IntCal9**データベース(Reimer et al. 2009)を用い、**OxCal v4.1** 較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「calBC/AD」(または「calBP」)という単位で表される。

6 測定結果

住居跡のうち、覆土中にB-Tm火山灰が認められる住居跡出土試料の¹⁴C年代は、SH-1カマド出土のKi-1が1330±30 yrBP、同炉跡(HF-1)出土のKi-2が1310±30 yrBP、SH-2床面出土のKi-3が1280±30 yrBP、同炉跡(HF-1)出土のKi-4が1580±30 yrBPである。SH-1出土の2点の値は誤差(±1σ)の範囲で重なり、近い年代を示す。他方、SH-2出土の2点の間には年代差が認められる。暦年較正年代(1σ)は、Ki-1が655~758 cal AD、Ki-2が664~765 cal AD、Ki-3が683~770 cal AD、Ki-4が434~535 cal ADの間に各々複数の範囲で示される。いずれもB-Tm火山灰の降灰年代より古く、調査所見に整合する。

その他の住居跡出土試料の¹⁴C年代は、H-6床面出土のKi-5が3980±30 yrBP、H-7床面出土のKi-6が4800±30 yrBP、H-8床面出土のKi-7が4860±30 yrBP、同炉跡(HF-2)出土のKi-8が4740±30 yrBP、H-9炉跡(HF-1)出土のKi-9が4690±30 yrBP、H-11床面HC-1(炭化材集中)出土のKi-10が4590±30 yrBP、H-13床面出土のKi-11が5480±30 yrBP、H-14炉跡(HF-1)出土のKi-12が3940±30 yrBP、H-17炉跡(HF-1)出土のKi-13が3620±30 yrBP、H-18床面出土のKi-14が3970±30 yrBP、同Ki-15が3970±30 yrBP、H-20床面出土のKi-16が7110±40 yrBP、同Ki-17が7200±40 yrBP、H-22床面出土のKi-18が4790±30 yrBP、同Ki-19が4770±30 yrBP、H-23床面出土のKi-20が1370±30 yrBP、H-29床面出土のKi-21が4780±30 yrBP、Ki-22が4740±30 yrBPである。同じ住居跡で2点測定された例を見ると、H-18・22・29の試料各3点の値は、各々誤差(±1σ)の範囲で重なり、近い年代を示す。H-8とH-20の試料各2点の間には、各々若干年代差が認められるものの、おおよそ近接した年代値と言える。暦年較正年代(1σ)は、Ki-5が2562~2470 cal BCの間に2つの範囲、

K i - 6 が3639~3533 cal BCの間に2つの範囲、K i - 7 が3694~3636 cal BCの間に2つの範囲、K i - 8 が3632~3388 cal BCの間に3つの範囲、K i - 9 が3518~3376 cal BCの間に2つの範囲、K i - 10 が3491~3341 cal BCの間に2つの範囲、K i - 11 が4355~4271 cal BCの間に2つの範囲、K i - 12 が2488~2350 cal BCの間に3つの範囲、K i - 13 が2024~1941 cal BCの範囲、K i - 14 が2562~2465 cal BCの間に2つの範囲、K i - 15 が2562~2466 cal BCの間に2つの範囲、K i - 16 が6018~5926 cal BCの間に2つの範囲、K i - 17 が6076~6018 cal BCの範囲、K i - 18 が3638~3531 cal BCの間に2つの範囲、K i - 19 が3634~3526 cal BCの間に3つの範囲、K i - 20 が645~670 cal ADの範囲、k i - 21 が3636~3531 cal BC、k i - 22 が3632~3386 cal BC、K i - 23 が777~869 cal ADの間に複数の範囲で示される。K i - 16、17は縄文時代早期後葉頃、K i - 11は縄文時代前期前半頃、K i - 6 ~ 8、18、19、21、22は縄文時代前期後葉頃、K i - 9、10は縄文時代前期末葉から中期初頭頃、K i - 5、12、14、15は縄文時代中期末葉から後期初頭頃、K i - 13は縄文時代後期前葉頃、K i - 20は縄文文化期に相当する年代値である。また、白頭山-苦小牧火山灰(B-Tm)の下位に位置する、溝状遺構の覆土の木炭、k i - 23の¹⁴C年代は1210±20 yrBPで矛盾しない。

試料の炭素含有率を見ると、K i - 1 ~ 19、21~23はすべて50%を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。K i - 20は約41%と若干低く、微細な炭化物と観察されているが、木炭ではない可能性も指摘される。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Llby Age (yrBP)	gMC (‰)
AAA-10313	K i - 1	S H - 1 カマド	木炭	AAA	-26.77 ± 0.55	1,330 ± 30	84.74 ± 0.27
AAA-10314	K i - 2	S H - 1 弁跡(HF-1)	木炭	AAA	-24.19 ± 0.40	1,310 ± 30	84.97 ± 0.27
AAA-10315	K i - 3	S H - 2 床面	木炭	AAA	-27.94 ± 0.60	1,280 ± 30	85.28 ± 0.28
AAA-10316	K i - 4	S H - 2 弁跡(HF-1)	木炭	AAA	-26.28 ± 0.67	1,580 ± 30	82.17 ± 0.28
AAA-10317	K i - 5	H - 6 床面	木炭	AAA	-24.90 ± 0.53	3,980 ± 30	60.93 ± 0.21
AAA-10318	K i - 6	H - 7 床面	木炭	AAA	-27.50 ± 0.60	4,800 ± 30	55.04 ± 0.21
AAA-10319	K i - 7	H - 8 床面	木炭	AA	-24.95 ± 0.54	4,860 ± 30	54.63 ± 0.21
AAA-10320	K i - 8	H - 8 弁跡(HF-2)	木炭	AAA	-24.29 ± 0.55	4,740 ± 30	55.41 ± 0.21
AAA-10321	K i - 9	H - 9 弁跡(HF-1)	木炭	AAA	-27.35 ± 0.68	4,690 ± 30	55.79 ± 0.21
AAA-10322	K i - 10	H - 11 床面HC-1	木炭	AAA	-26.80 ± 0.43	4,590 ± 30	56.49 ± 0.20
AAA-10323	K i - 11	H - 13 床面	木炭	AAA	-24.41 ± 0.57	5,480 ± 30	50.55 ± 0.19
AAA-10324	K i - 12	H - 14 弁跡(HF-1)	木炭	AAA	-28.00 ± 0.51	3,940 ± 30	61.22 ± 0.22
AAA-10325	K i - 13	H - 17 弁跡(HF-1)	木炭	AAA	-26.77 ± 0.55	3,620 ± 30	63.74 ± 0.22
AAA-10326	K i - 14	H - 18 床面	木炭	AA	-25.67 ± 0.59	3,970 ± 30	61.04 ± 0.22
AAA-10327	K i - 15	H - 18 床面	木炭	AAA	-24.43 ± 0.42	3,970 ± 30	61.03 ± 0.22
AAA-10328	K i - 16	H - 20 床面	木炭	AAA	-25.45 ± 0.52	7,110 ± 40	41.29 ± 0.18
AAA-10329	K i - 17	H - 20 床面	木炭	AAA	-26.15 ± 0.67	7,200 ± 40	40.82 ± 0.18
AAA-10330	K i - 18	H - 22 床面	木炭	AAA	-29.09 ± 0.73	4,790 ± 30	55.09 ± 0.22
AAA-10331	K i - 19	H - 22 床面	木炭	AAA	-26.34 ± 0.36	4,770 ± 30	55.23 ± 0.21
AAA-10332	K i - 20	H - 23 床面	木炭	AA	-27.42 ± 0.53	1,370 ± 30	84.32 ± 0.30
AAA-112213	k i - 21	H - 29床面	木炭	AAA	-25.40 ± 0.46	4,780 ± 30	55.14 ± 0.20
AAA-112214	k i - 22	H - 29床面	木炭	AAA	-21.79 ± 0.42	4,740 ± 30	55.43 ± 0.20
AAA-112215	k i - 23	溝状遺構覆土	木炭	AAA	-21.21 ± 0.46	1,210 ± 20	86.01 ± 0.26

表 2

測定番号	δ ¹³ C補正なし		樹年較正用 (yrBP)	1σ 樹年代範囲	2σ 樹年代範囲
	Age yrBP	pMC (%)			
IAA-103313	1,360 ± 20	84.43 ± 0.25	1,330 ± 25	655 calAD - 689 calAD (64.8%) 754 calAD - 758 calAD (3.4%)	650 calAD - 715 calAD (81.1%) 745 calAD - 768 calAD (14.3%)
IAA-103314	1,300 ± 30	85.11 ± 0.26	1,308 ± 25	664 calAD - 694 calAD (43.4%) 702 calAD - 707 calAD (4.3%) 748 calAD - 765 calAD (20.5%)	658 calAD - 724 calAD (66.9%) 739 calAD - 771 calAD (28.5%)
IAA-103315	1,330 ± 30	84.77 ± 0.26	1,278 ± 36	683 calAD - 722 calAD (38.5%) 741 calAD - 770 calAD (29.7%)	669 calAD - 777 calAD (95.4%)
IAA-103316	1,600 ± 30	81.95 ± 0.25	1,577 ± 27	434 calAD - 469 calAD (26.5%) 481 calAD - 535 calAD (41.7%)	430 calAD - 545 calAD (95.4%)
IAA-103317	3,980 ± 30	60.95 ± 0.20	3,979 ± 27	2562 calBC - 2535 calBC (35.4%) 2493 calBC - 2470 calBC (32.8%)	2574 calBC - 2462 calBC (95.4%)
IAA-103318	4,840 ± 30	54.76 ± 0.20	4,796 ± 30	3639 calBC - 3630 calBC (10.9%) 3581 calBC - 3533 calBC (57.3%)	3647 calBC - 3621 calBC (18.3%) 3606 calBC - 3522 calBC (77.1%)
IAA-103319	4,860 ± 30	54.63 ± 0.20	4,857 ± 31	3694 calBC - 3682 calBC (11.5%) 3664 calBC - 3636 calBC (56.7%)	3705 calBC - 3631 calBC (86.1%) 3561 calBC - 3537 calBC (9.3%)
IAA-103320	4,730 ± 30	55.49 ± 0.20	4,743 ± 30	3632 calBC - 3560 calBC (51.6%) 3537 calBC - 3518 calBC (13.5%) 3394 calBC - 3388 calBC (3.1%)	3636 calBC - 3501 calBC (77.4%) 3428 calBC - 3381 calBC (18.0%)
IAA-103321	4,730 ± 30	55.52 ± 0.20	4,687 ± 30	3518 calBC - 3496 calBC (15.4%) 3460 calBC - 3376 calBC (52.8%)	3627 calBC - 3597 calBC (8.8%) 3526 calBC - 3483 calBC (22.3%) 3476 calBC - 3370 calBC (64.3%)
IAA-103322	4,620 ± 30	56.28 ± 0.20	4,587 ± 29	3491 calBC - 3470 calBC (18.7%) 3374 calBC - 3341 calBC (49.5%)	3499 calBC - 3450 calBC (24.4%) 3444 calBC - 3439 calBC (0.4%) 3379 calBC - 3330 calBC (53.3%) 3215 calBC - 3181 calBC (9.5%) 3158 calBC - 3124 calBC (7.9%)
IAA-103323	5,470 ± 30	50.61 ± 0.18	5,479 ± 30	4355 calBC - 4327 calBC (54.4%) 4284 calBC - 4271 calBC (13.8%)	4436 calBC - 4427 calBC (1.0%) 4369 calBC - 4259 calBC (94.4%)
IAA-103324	3,990 ± 30	60.84 ± 0.21	3,942 ± 28	2488 calBC - 2438 calBC (41.1%) 2421 calBC - 2404 calBC (10.5%) 2378 calBC - 2350 calBC (16.7%)	2566 calBC - 2525 calBC (10.8%) 2497 calBC - 2341 calBC (84.6%)
IAA-103325	3,650 ± 30	63.51 ± 0.21	3,617 ± 28	2024 calBC - 1941 calBC (68.2%)	2113 calBC - 2101 calBC (1.8%) 2106 calBC - 1894 calBC (93.6%)

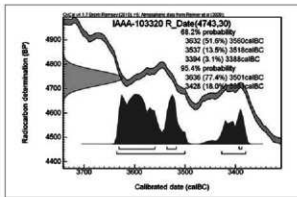
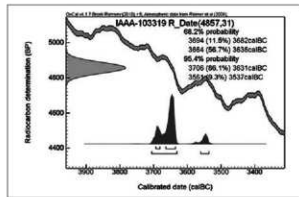
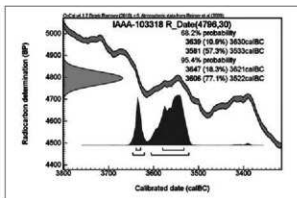
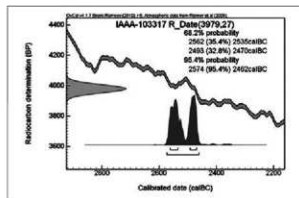
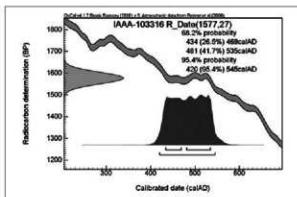
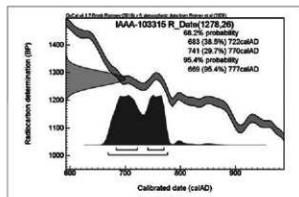
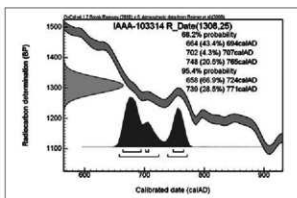
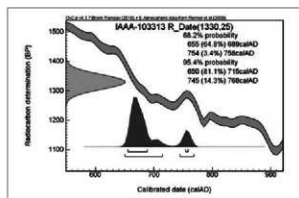
表 2

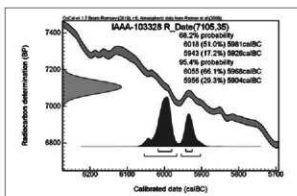
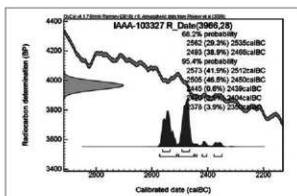
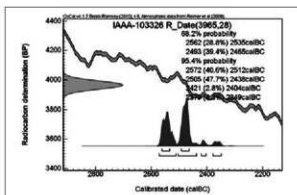
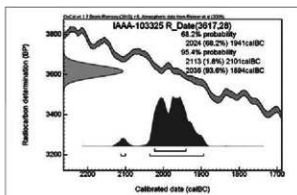
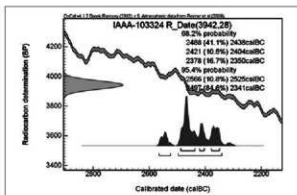
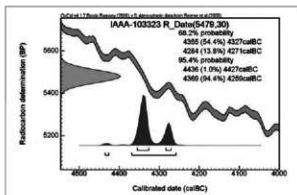
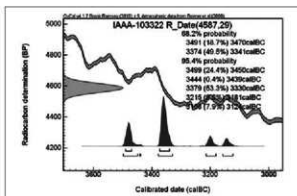
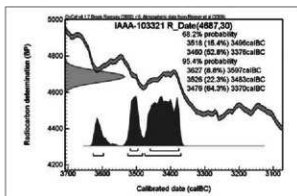
測定番号	δ ¹³ C補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age yrBP	pMC (%)			
IAA-103326	3,980 ± 30	60.95 ± 0.20	3,965 ± 28	2562 caBC - 2535 caBC (28.8%) 2493 caBC - 2465 caBC (39.4%) 2379 caBC - 2349 caBC (4.3%)	2572 caBC - 2512 caBC (40.6%) 2505 caBC - 2438 caBC (47.7%) 2421 caBC - 2404 caBC (2.8%) 2379 caBC - 2349 caBC (4.3%)
IAA-103327	3,960 ± 30	61.11 ± 0.21	3,966 ± 28	2562 caBC - 2535 caBC (29.3%) 2493 caBC - 2466 caBC (38.9%)	2573 caBC - 2512 caBC (41.9%) 2505 caBC - 2450 caBC (46.5%) 2445 caBC - 2439 caBC (0.6%) 2420 caBC - 2404 caBC (2.5%) 2378 caBC - 2350 caBC (3.9%)
IAA-103328	7,110 ± 30	41.25 ± 0.18	7,105 ± 35	6018 caBC - 5981 caBC (51.0%) 5943 caBC - 5926 caBC (17.2%)	6055 caBC - 5968 caBC (66.1%) 5866 caBC - 5804 caBC (29.3%)
IAA-103329	7,220 ± 30	40.72 ± 0.17	7,198 ± 35	6076 caBC - 6018 caBC (68.2%)	6205 caBC - 6191 caBC (2.2%) 6184 caBC - 6170 caBC (1.9%) 6162 caBC - 6141 caBC (3.3%) 6111 caBC - 5999 caBC (87.9%)
IAA-103330	4,860 ± 30	54.63 ± 0.20	4,788 ± 31	3638 caBC - 3629 caBC (8.9%) 3584 caBC - 3531 caBC (59.3%)	3645 caBC - 3520 caBC(95.4%)
IAA-103331	4,790 ± 30	55.08 ± 0.21	4,769 ± 30	3634 caBC - 3626 caBC (6.9%) 3599 caBC - 3551 caBC (45.8%) 3542 caBC - 3526 caBC (15.5%)	3641 caBC - 3516 caBC (92.4%) 3409 caBC - 3406 caBC (0.4%) 3399 caBC - 3384 caBC (2.6%)
IAA-103332	1,410 ± 30	83.90 ± 0.28	1,369 ± 28	645 caAD - 670 caAD (68.2%)	613 caAD - 686 caAD (95.4%)
IAA-112213	4,790 ± 30	55.09 ± 0.20	4,782 ± 29	3636 caBC - 3629 caBC (7.3%) 3585 caBC - 3531 caBC (60.9%)	3641 caBC - 3520 caBC (95.4%)
IAA-112214	4,690 ± 30	55.79 ± 0.20	4,740 ± 28	3632 caBC - 3561 caBC (49.5%) 3536 caBC - 3518 caBC (13.5%) 3395 caBC - 3386 caBC (5.2%)	3635 caBC - 3551 caBC (55.4%) 3542 caBC - 3501 caBC (20.3%) 3429 caBC - 3380 caBC (19.7%)
IAA-112215	1,150 ± 20	86.68 ± 0.25	1,210 ± 24	777 caAD - 831 caAD (43.2%) 837 caAD - 869 caAD (25.0%)	718 caAD - 743 caAD (6.8%) 768 caAD - 889 caAD (88.6%)

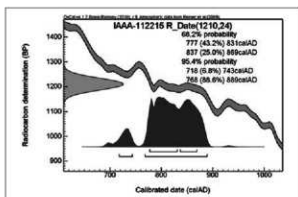
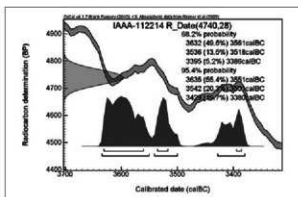
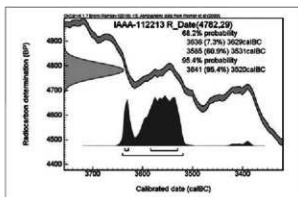
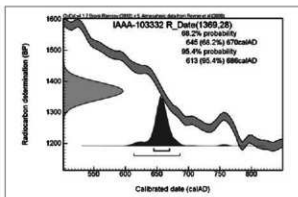
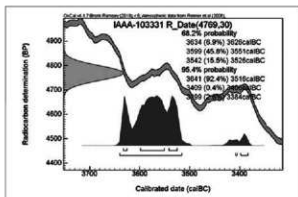
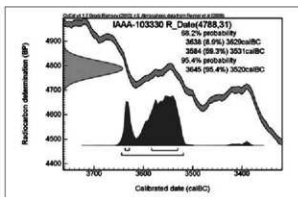
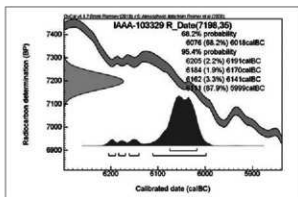
[参考文献]

文献

- Stuiver M and Polach H A 1977 Discussion Reporting of ¹⁴C data *Radiocarbon* 19(3) 355-363
- Bronk Ramsey C 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates *Radiocarbon* 51(1) 337-360
- Reimer P J et al 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves 0 - 50,000 years caBP *Radiocarbon* 51(4) 1111-1150







(平成23年3月23日・平成24年2月27日 受領)
(平成23・24年度 愛場 点検・編集)

3. 炭化材樹種同定

黒沼保子（バレオ・ラボ）

1. はじめに

本古内遺跡は上磯郡本古内町に所在する、縄文時代から縄文文化期の遺跡である。ここから出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料はいずれも住居構築材と考えられる炭化材である。縄文文化期の竪穴住居跡SH-2から5点（Ki-01-05）、縄文時代後期の竪穴住居跡H-14から1点（Ki-06）とH-18から5点（Ki-07-10）、縄文時代前期の竪穴住居跡H-22から2点（Ki-11-12）とH-29から8点（Ki-13-20）、計20点である。

方法は、試料の三断面（横断面・接線断面・放射断面）を、手あるいはカッターナイフを用いて割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定、銀ペーストを塗布した。乾燥後、金蒸着して走査型電子顕微鏡（日本電子製 JSM-5900 LV型）を用いて樹種の同定を行った。

3. 結果

針葉樹が一分類群と、広葉樹がクリ、コナラ属コナラ節、トネリコ属の三分類群、計四分類群が確認された。樹種同定結果を表1に示す。以下に同定根拠となった木材組織の特徴を記載する。

(1) 針葉樹 *Coniferous wood*

仮道管、放射組織からなる針葉樹である。

(2) クリ *Castanea crenata Siebold et Zucc* ブナ科

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。道管放射組織間壁孔は櫛状となる。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木で、材は耐朽性・耐湿性に優れ、保存性が高い。

(3) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で加工困難である。

(4) トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科

晩材部では、非常に厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に2～3個複合して、散在する環孔材である。道管の穿孔は単一、放射組織は同性で1～3列幅である。

トネリコ属は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモを含むシオジ節とトネリコ、アオダモなどを含むトネリコ節に分かれる。材は、トネリコ節は中庸～やや重硬、切削加工は容易で保存性も中庸、シオジ節はトネリコ節より重硬で強く粘りがあり、加工・保存性は中庸である。

表1 樹種同定結果

試料番号	遺構	現場取り上げ番号	重量(g)	時期	種別	樹種	形状(残存径,残存年輪数)
K i -01	S H -2	サンプル①	0.22	弥文文化期	住居構築材	トネリコ属	破片(1.0×1.3cm,24年輪)
K i -02	S H -2	サンプル③	2.27	弥文文化期	住居構築材	トネリコ属	破片(2.0×1.5cm,28年輪)
K i -03	S H -2	サンプル1	0.16	弥文文化期	住居構築材	針葉樹	破片(1.3×0.3cm,5年輪)
K i -04	S H -2	サンプル4	2.53	弥文文化期	住居構築材	トネリコ属	破片(3.5×1.8cm,34年輪)
K i -05	S H -2	サンプル5	0.36	弥文文化期	住居構築材	トネリコ属	破片(0.7×1.0cm,4年輪)
K i -06	H -14	遺物番号10	0.46	縄文時代後期	住居構築材	クリ	破片(1.0×1.0cm,11年輪)
K i -07	H -18	サンプル③	0.8	縄文時代後期	住居構築材	クリ	破片(1.2×1.0cm,8年輪)
K i -08	H -18	サンプル⑥	5.22	縄文時代後期	住居構築材	コナラ属コナラ節	破片(不明)
K i -09	H -18	サンプル⑩	0.83	縄文時代後期	住居構築材	クリ	破片(1.8×1.0cm,4年輪)
K i -10	H -18	サンプル⑬	0.29	縄文時代後期	住居構築材	クリ	破片(1.2×0.6cm,3年輪)
K i -11	H -22	炭2	0.24	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(1.2×0.3cm,3年輪)
K i -12	H -22	炭7	0.12	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(0.6×0.8cm,1年輪)
K i -13	H -29	サンプル①	0.26	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(0.7×0.3cm,2年輪)
K i -14	H -29	サンプル②	2.11	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(3.2×2.0cm,30年輪)
K i -15	H -29	サンプル④	0.77	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(1.3×1.3cm,5年輪)
K i -16	H -29	サンプル⑤	3.28	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(1.9×1.8cm,6年輪)
K i -17	H -29	サンプル⑦	1.8	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(2.3×1.1cm,4年輪)
K i -18	H -29	サンプル⑧	0.7	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(2.4×1.8cm,25年輪)
K i -19	H -29	サンプル⑪	5.5	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(不明)
K i -20	H -29	サンプル⑫	0.43	縄文時代前期	住居構築材	クリ	破片(1.6×0.7cm,5年輪)

(平成24年2月29日 受領)

(平成24年度 愛場 点検・編集)

4. 種実の同定

中村賢太郎・バンダリ スダルシヤン (パレオ・ラボ)

1. はじめに

木古内遺跡は、上磯郡木古内町字木古内に所在し、標高6~11mほどの海岸段丘上に立地する。ここでは、縄文時代(時期不明)の焼土、縄文時代早期後半の堅穴住居跡、縄文時代前期後半の堅穴住居跡、縄文時代後期前葉の堅穴住居跡、擦文文化期の堅穴住居跡から出土した種実の同定結果を報告する。

2. 試料と方法

同定対象試料は、K i - 1 ~ 77の77試料である。試料は、縄文時代(時期不明)の焼土F - 1 (K i - 68)、F - 2 (K i - 69)、縄文時代早期後半の堅穴住居跡H - 1 (K i - 66, 67)、縄文時代前期後半の堅穴住居跡H - 8 (K i - 70, 71)、H - 9 (K i - 72)、H - 22 (K i - 77)、縄文時代後期前葉の堅穴住居跡H - 14 (K i - 73)、H - 15 (K i - 74)、H - 17 (K i - 75)、H - 18 (K i - 76)、擦文文化期の堅穴住居跡S H - 1 (K i - 1 ~ 45)、S H - 2 (K i - 46 ~ 65)の各遺構から採取された。(公財)北海道埋蔵文化財センターにより各遺構から採取された土壌についてフローテーションが行われ、最小0.425mmの篩目で回収された試料から、種実の抽出が行われ、カプセル状容器に乾燥保存されていた。同定は、パレオ・ラボにおいて行い、実体顕微鏡下で検鏡し同定と計数を行った。

3. 結果

同定した結果、木本植物ではオニグルミ炭化核とウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮の二分群、草本植物ではユリ科炭化鱗茎、イヌビエ属炭化種子、エノコログサ属炭化種子、イネ科炭化種子、タニソバ未炭化果実、イヌタデ未炭化果実、サナエタデーオオイヌタデ炭化果実、タデ科炭化果実、アカザ属未炭化種子、エノキグサ未炭化種子の十分群の、計十二分類群であった。この他に、科以下の同定ができなかったものを不明炭化種実、残存が悪く同定不能な種実を同定不能炭化種実とした。表1・2に採取位置別の同定結果を示し、遺構別の産出傾向を記載する(不明と同定不能炭化種実を除く)。

[F - 1 : 縄文時代(時期不明)]

アカザ属未炭化種子1点が出土した。

[F - 2 : 縄文時代(時期不明)]

タニソバ未炭化果実4点が出土した。

[H - 1 : 縄文時代早期後半]

床面直上と焼土H F - 1 からタニソバ未炭化果実が出土した。

[H - 8 : 縄文時代前期後半]

焼土H F - 2 からイヌビエ属炭化種子、イネ科炭化種子、H F - 3 からイヌビエ属炭化種子、タニソバ未炭化果実、イヌタデ未炭化果実、タデ科炭化果実が出土した。

[H - 9 : 縄文時代前期後半]

タニソバ未炭化果実、アカザ属未炭化種子が出土した。

[H-22: 縄文時代前期後半]

ユリ科炭化鱗茎1点が出土した。

[H-14: 縄文時代後期前葉]

タニソバ未炭化果実とサナエタデーオオイヌタデ炭化果実が出土した。

[H-15: 縄文時代後期前葉]

エノコログサ属炭化種子1点が出土した。

[H-17: 縄文時代後期前葉]

タニソバ未炭化果実とエノキグサ未炭化種子が出土した。

[H-18: 縄文時代後期前葉]

ウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮1点が出土した。

表1 縄文時代の遺構から出土した種実 (括弧は破片を示す)

種別	種名 (遺構名称)		年層区分										遺構区分			
	F-1	F-2	G-1	G-1 (G1F-1)	G-2 (G2F-1)	G-2 (G2F-2)	G-2 (G2F-3)	G-2 (G2F-4)	G-2 (G2F-5)	G-2 (G2F-6)	G-2 (G2F-7)	G-2 (G2F-8)	G-2 (G2F-9)	G-2 (G2F-10)	G-2 (G2F-11)	G-2 (G2F-12)
種子	焼土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土	埋土
本調査 (M)	1,000	22,300	1,300	13,300	6,000	3,000	4,900	22,200	1,900	2,900	1,900	2,900	1,300			
埋土/コップ/ブタ倉	東1-100	東1-100	東1-100	東1-102	東1-105	東1-111	東1-112	東1-112	東1-112	東1-112	東1-112	東1-112	東1-112			
タニソバ属-オオイヌタデ	炭化果実															1
ユリ科	炭化鱗茎															
オオイヌタデ	炭化種子				2		1									
タニソバ属	炭化種子															1
エノコログサ	炭化種子					1										
オオイヌタデ	炭化果実	1		1	2		2	1		1						1
サナエタデー-オオイヌタデ	炭化果実							1								
アカザ	炭化果実															
エノコログサ	炭化種子	1														
ウルシ	炭化内果皮					1										
コップ	炭化果実														1	
灰化土	焼土						1	1								
灰化土	炭化															
灰	—															1

[SH-1: 擦文文化期]

床面直上では、タニソバ未炭化果実とエノキグサ未炭化種子が多く、その他にオニグルミ炭化核、ウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮、イヌタデ未炭化果実、アカザ属未炭化種子が出土した。焼土HF-1では、タニソバ未炭化果実が出土した。また、カマド周辺では、イネ科炭化種子とエノキグサ未炭化種子が出土した。

[SH-2: 擦文文化期]

床面直上では、タニソバ未炭化果実が多く、その他にウルシ属-ヌルデ属炭化内果皮、タデ科炭化果実、アカザ属未炭化種子、エノキグサ未炭化種子が出土した。焼土HF-1では、タニソバ未炭化果実がやや多く、その他にイネ科炭化種子とアカザ属未炭化種子が出土した。

表2 縄文文化期の遺構から出土した種実

分類群	遺構 層位	水洗量 (ml)	遺構				
			SH-1 K1-1-43	SH-1 HF-1 K1-44	SH-1 K1-45	SH-2 K1-46-63	SH-2 HF-1 K1-64, 65
オニグルミ	炭化核		(1)				
ウルシ属-ヌルデ属	炭化内果皮		1			1	
イネ科	炭化種子				2		1
タニソバ	未炭化果実	14		1		23	4
イヌタデ	未炭化果実	1					
タデ科	炭化果実					1	
アサギ属	未炭化種子	3 (1)				1	1
エノコログサ	未炭化種子	17			1	4	
不明	炭化種実	1				2	
同定不能	炭化種実	(2)					
炭化材	破片					1	1
植物?	炭化	1				1	
虫えい	炭化	9				2	
子囊菌	炭化子囊	25			2	7	
昆虫卵	炭化	1					
	未炭化	1					
植物以外	不明	1					

次に、種実の形態的特徴を記載し、図版に写真を示して同定根拠とする。

(1) オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 炭化核

小破片である。核壁は緻密で堅く、表面には緩やかな起伏があり、浅い溝状の影紋が見られる。

(2) ウルシ属-ヌルデ属 *Toxicodendron* - *Rhus* 炭化内果皮 ウルシ科

上面観は中央がやや膨らむ扁平、側面観は中央がややくびれた広楕円形で、片方が膨れる三角形になる。やや光沢があり、ざらついた質感がある。長さ2.9mm、幅2.1mm。

(3) ユリ科 *Liliaceae* 炭化鱗茎

形状は球形に近い。鱗片葉が密に層状に重なる点などからユリ科の鱗茎に類似する。長さ2.3mm、幅2.5mm。

(4) イヌビエ属 *Echinochloa* sp. 炭化種子 イネ科

側面観が卵形ないし楕円形、断面は片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広くうちわ型で、長さは全長の2/3程度と長い。長さ1.2mm、幅1.1mm。

(5) エノコログサ属 *Setaria* sp. 炭化種子 イネ科

上面観は楕円形、側面観は楕円形。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚があり、長さは全長の2/3程度。長さ1.3mm、幅1.2mm。

(6) イネ科 *Gramineae* 炭化種子

種子の上面観は楕円形、側面観は先端がやや尖る長楕円形。長さ1.2mm、幅0.5mm。

(7) タニソバ *Persicaria nepalensis* (Meisn.) H. Gross 未炭化果実 タデ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は円形。先端部が突出する。表面には微細な網目模様がある。長さ1.9mm、幅1.6mm。炭化、未炭化の判断に迷うものも含む。

(8) イヌタデ *Persicaria longiseta* (De Bruyn) Kitagawa 未炭化果実 タデ科

上面観は三角形、側面観は広卵形。先端部が突出する。表面は平滑で光沢がある。また、稜となる部分が幅広である。長さ1.9mm、幅1.2mm程度。

(9) サナエタデーオオイヌタデ *Persicaria scabra* (Moench) Mold. - *P. lapathifolia* (L.) S.F. Gray
炭化果実 タデ科

破片である。上面観は扁平で両凸レンズ形。先端がやや尖る。表面は平滑で光沢はない。残存長1.5mm、幅1.2mm。

(10) タデ科 *Polygonaceae* 炭化果実

上面観は三角形、側面観は卵形。先端がやや尖る。表面には微細な網目模様がある。長さ2.0mm、幅1.4mm。

(11) アカザ属 *Chenopodium* spp. 未炭化種子 アカザ科

上面観はやや扁平、側面観は円形。表面には強い光沢があり、硬い。着点の一端がやや突起し、中心部方向にむかって浅い溝がある。長さ1.2mm、幅1.1mm。

(12) エノキグサ *Acalypha australis* L. 未炭化種子 トウダイグサ科

側面観は倒卵形。表面には細かい網目模様がある。長さ1.7mm、幅1.2mm。炭化、未炭化の判断に迷うものも含む。

(13) 虫い Gall

上面観は円形で、側面観は楕円形。表面は粗い。長さ3.0mm、残存幅2.1mm。

(14) 子囊菌 *Ascomycotina* 炭化子囊

球形あるいはゆがんだ球形で、表面には微細な網目模様がある。径1mm程度。

4. 考察

時期の異なる複数の遺構からタニソバ未炭化果実、イヌタデ未炭化果実、アカザ属未炭化種子、エノキグサ未炭化種子が多く出土したが、未炭化種実は水分に富む還元的な環境でなければ残存しないと考えられる。木古内遺跡は立地から判断して非還元的な環境であり、遺構の使用・廃棄当時の種実は遺存しないと考えられる。したがって未炭化種実は、生物の活動によって後世に地表から二次的に移動したか、あるいは土壌の採取やフローテーションの際に風などにより運ばれ混入した現生の種実と考えられる。

以下、炭化種実に絞って考察する。

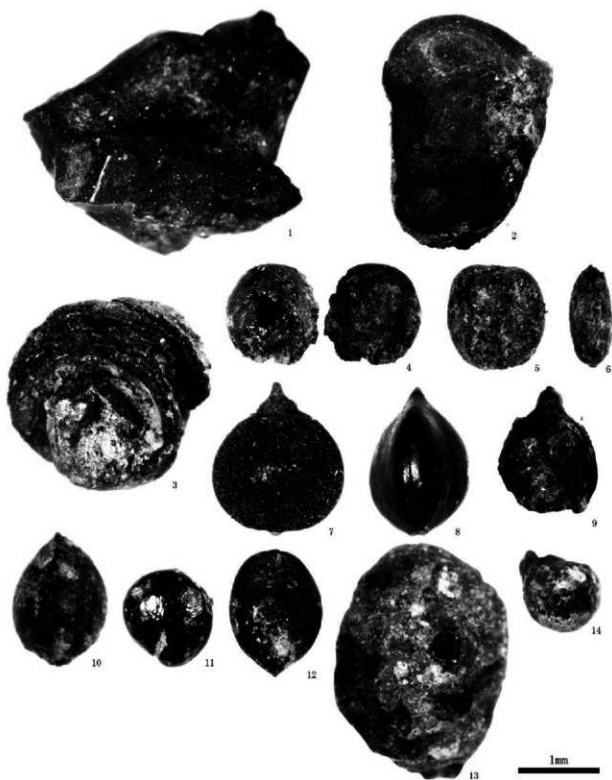
縄文時代前期後半の堅穴住居跡からは、ユリ科炭化鱗茎、イヌビエ属炭化種子、イネ科炭化種子、タデ科炭化果実が出土した。イヌビエ属、イネ科、タデ科は周囲に生えていたものが偶発的に炭化し混入した可能性の他、野生種が食用にされた可能性も考えられる。ユリ科炭化鱗茎は覆土からの出土であるが、食用にされた可能性が考えられる。

縄文時代後期前葉の堅穴住居跡からは、ウルシ属—ヌルデ属炭化内果皮、エノコログサ属炭化種子、サナエタデーオオイヌタデ炭化果実が出土した。ウルシ属—ヌルデ属炭化内果皮は、おそらく意図的に堅穴住居跡に持ち込まれたと考えられるが、利用法は不明である。エノコログサ属は、周囲に生えていたものが偶発的に炭化し混入した可能性の他、野生種が食用された可能性も考えられる。

縄文文化期の堅穴住居跡からは、オニグルミ炭化核、ウルシ属—ヌルデ属炭化内果皮、イネ科炭化種子、タデ科炭化果実が出土した。オニグルミ炭化核はおそらく利用後の残滓と考えられる。ウルシ属—ヌルデ属炭化内果皮は、縄文時代後期前葉と同様におそらく意図的に堅穴住居跡に持ち込まれたと考えられるが、利用法は不明である。イネ科やタデ科は周囲に生えていたものが偶発的に炭化し混入した可能性の他、野生種が食用された可能性も考えられる。

(平成24年2月29日 受領)

(平成24年度 愛場 点検・編集)



図版1 木古内遺跡出土種実の実体顕微鏡写真

1. オニグルミ炭化核 (K i-4)
2. ウルシ属-スルデ属炭化内果皮 (K i-46)
3. ユリ科炭化鱗茎 (K i-77)
4. イヌビエ属炭化種子 (K i-70)
5. エノコログサ属炭化種子 (K i-74)
6. イネ科炭化種子 (K i-64)
7. タニソバ未炭化果実 (K i-64)
8. イヌタデ未炭化果実 (K i-71)
9. サナエタデ-オオイヌタデ炭化果実 (K i-73)
10. タデ科炭化果実 (K i-50)
11. アカザ属未炭化種子 (K i-33)
12. エノキグサ未炭化種子 (K i-21)
13. 虫えい (K i-35)
14. 子囊菌 (K i-40)

5. P-12出土人骨について

松村博文（札幌医科大学）

北海道渡島半島に位置する木古内遺跡のP-12土坑墓より、近世（江戸時代相当期）の時期のものとみられる人骨が1体検出された。保存状態ならびに部位同定の結果と、性別、年齢、帰属集団の推定結果などの人類学的所見を記す。保存状態の比較的良好な歯については、取り上げ時に遺物番号が与えられている。それらの歯種の同定結果は、冠計測値とともに表1に示した。また図1にこれらの歯とともに残存する比較的大きな骨片の写真を付した。

所見

人骨の遺存状態は不良であり、頭部については、土坑墓内では輪郭は明瞭ではあったが、形を保って取り上げられたのは右頭頂骨と歯および右上顎骨と右下顎骨の一部のみである。これらの骨片はいずれも表面は保たれているが、内部は溶融が進んでおり、骨厚が極めて薄くなっている。歯は17点の歯冠が良好に残存し、うち16点については歯種の同定が可能であった。咬耗は、第1大臼歯以外は歯髓までいたらない軽度のレベル（第1大臼歯 Broca1度、その他の歯 Broca2度）である。従って年齢は、壮年（20-40歳）と推定される。切歯には和人特有の強いシャベル形を呈しているのが認められる。四肢と体幹については、土坑墓内で輪郭を確認されていたが、比較的大きな部位として取り上げることができたのは左右の脛骨の一部のみであった。頭部と同様に、かなり溶融が進んでおり、緻密質が失われ薄くなっているため、かなり変形している

性別

性別については、歯の大きさから推定するほかはない状態にある。一般にヒトには歯冠の大きさに有意な性差が存在することが知られていることから、残存する歯の歯冠計測値の組み合わせを用いた線形判別分析により、性別の判定をおこなった。判別関数を導くにあたっては、どのグループを母集団として用いるかが問題になる。被葬者は屈葬の様式で埋葬されており、アイヌ文化に特有の副葬品も検出されていないこと、和人が入植していた松前という地理的位置からも、和人の可能性が高いとみられるので、江戸時代の関東地方の和人を母集団として用いた。とはいえ、被葬者の帰属集団は明確とはいえないので、アイヌをもとにした性別判別分析も試みた。結果は表2に示されるとおりである。係数の算出にはステップワイズ法を用いている。これらの係数を用いて算出された判別得点が正なら男性、負なら女性である。江戸時代の和人もとにした分析では、高い正答率の判別式が導かれており、この式を適用し計算された本被葬者の判別得点は正の値となり男性と判別された。その確率は99.2%と極めて高い。アイヌを用いた性別判別分析の結果でも99.3%の確率で男性と判別された。従って、帰属集団がどちらであっても、本被葬者は男性とみなしてよい。

帰属

埋葬様式が屈葬であることから本被葬者が和人ではないかとみられているが、より客観的な推定をおこなうため、歯冠計測値から帰属集団の判別をおこなった。結果は表3に示されるとおりである。母集団である江戸時代和人と北海道アイヌから、ステップワイズ法により算出された、これら2グループを判別するための係数が示されている。これらの係数で98%の精度で判別が可能である。これらの

係数を用いて算出された判別得点が正なら和人、負ならアイヌである。結果として本被葬者は、99.9%の確率をともなって和人と判別された。

まとめ

本古内遺跡P-12土坑墓出土の人骨は保存状態が極めてよくない状態であったが、残存する歯の計測データから、かなり高い確率をともなって和人の壮年男性と推定された。

(平成23年3月25日 受領)

(平成24年度 愛場 点検)

表1. 本古内遺跡P-12出土人骨の検出された歯種と歯冠計測値(単位:mm)

		左			右			
		記号	近遠心径	頬舌径	記号	近遠心径	頬舌径	
上顎	中切歯							
	側切歯				K	7.27	5.81	
	犬歯				L	8.21	9.10	
	第1小臼歯	B	7.67	9.27	E	7.30	9.52	
	第2小臼歯							
	第1大臼歯	A	10.34	11.78				
	第2大臼歯	C	9.75	舌側破損				
	第3大臼歯	F	8.17	10.40				
	下顎	中切歯	P	5.10	6.23			
		側切歯	Q	6.30	6.70			
犬歯					H	6.99	7.76	
第1小臼歯					M	7.81	8.21	
第2小臼歯					N	7.22	8.18	
第1大臼歯					I	11.70	10.56	
第2大臼歯					J	11.21	9.91	
第3大臼歯		D	11.01	9.87	G	10.72	9.54	

記号：検出取り上げの際に附された整理記号、Oは歯種不明
イタリック数値：性別分析に用いた計測値

表2 木古内遺跡P-12出土人骨の歯冠計測値にもとづく性別分析の結果

		江戸時代和人による判別係数	アイヌによる判別係数
歯冠近遠心径			
上顎	犬歯		1.922
上顎	第1小白歯		2.097
上顎	第1大白歯		-3.156
上顎	第2大白歯	-1.580	
下顎	犬歯		-5.841
歯冠頰舌径			
上顎	犬歯	-1.790	-1.264
上顎	第1小白歯	1.597	-2.917
上顎	第1大白歯	0.612	
下顎	犬歯		-2.689
下顎	第1小白歯	-1.369	5.483
下顎	第1大白歯		2.910
定数		18,592	24,382
判別分析に用いた個体数		38	51
元の関数の判別正答率		86.8%	97.6%
木古内P-12の性別判別得点		2.338	0.876
木古内P-12の性別判別結果		男性	男性
木古内P-12の性別判別確率		99.2%	99.3%

表3 木古内遺跡P-12出土人骨の歯冠計測値にもとづく帰属集団の判別分析の結果

江戸時代の人とアイヌをもとにした判別係数		
歯冠近遠心径		
上顎	第1小白歯	-1.351
上顎	第1大白歯	0.821
上顎	第2大白歯	-0.790
下顎	第1小白歯	2.192
歯冠頰舌径		
上顎	犬歯	-1.142
下顎	第1小白歯	-2.678
下顎	第2小白歯	-0.622
下顎	第1大白歯	1.792
定数		8,786
判別分析に用いた個体数		46
元の関数の判別正答率		97.8%
木古内P-12の帰属集団判別得点		2.206
木古内P-12の帰属集団判別結果		和人
木古内P-12の帰属集団判別確率		99.9%

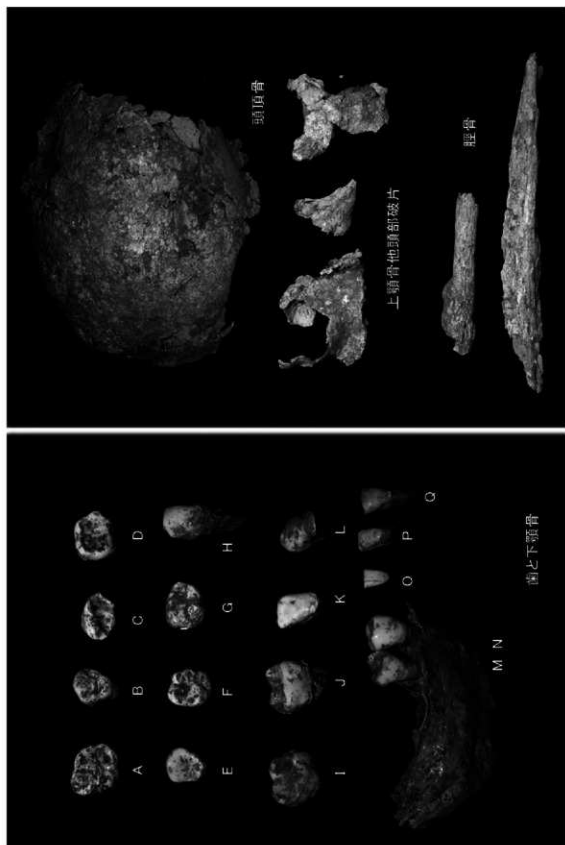


圖1 木古内遺跡P-12出土人骨

6. P-12出土人骨の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS年代測定グループ
中村賢太郎・山形秀樹・伊藤 茂・尾畠大真・丹生越子・廣田正史
小林紘一・Zaur Lon tatize・Ineza Jorpliani

1 はじめに

北海道木古内町に位置する木古内遺跡より検出された、近世以降と推測される人骨について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。また、人骨コラーゲンが土壌中の有機物などにより骨の外部から汚染されていないかを評価するために炭素窒素比（C/N比）も測定した。さらに、海産物の摂取による ^{14}C 年代への海洋リザーバー効果の影響を検討するため、炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}$ ）に基づいて、摂取された食物の種類について検討した。

2 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。

P-12は方形の土坑墓であり、その中から埋葬された人骨が検出された。残存部位は頭部と左右の脛部であった。測定対象は一方の腓骨である。人骨には時期を推定できる遺物が伴っていなかった。

腓骨は状態が非常に悪く、発掘調査現場での取上げのためにコーティング剤（バラロイドB72）が塗布されていた。超音波洗浄及びアセトン洗浄を施し、表面の汚れとバラロイドB72を除去した後、試料からコラーゲンを抽出し、それを用いて ^{14}C 年代、C/N比、 $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ の測定を行った。

^{14}C 年代の測定では、試料調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正（AMSで測定した $\delta^{13}\text{C}$ による）を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

炭素含有量および窒素含有量の測定には、EA（ガス化前処理装置）であるFlash EA1112（ThermoFisherScientific社製）を用いた。得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいてC/N比（原子数比）を算出した。

炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}_{\text{org}}$ ）および窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}_{\text{org}}$ ）の測定には、質量分析計DELTA V（ThermoFisherScientific社製）を用いた。

表1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-16493	遺構：P-12 その他：方形の墓	試料の種類：ヒト腓骨 状態：dry その他：一部バラロイドB72処理	アセトン処理 超音波洗浄 コラーゲン抽出

3 結果

(1) 放射性炭素年代測定

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載

した。

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年校正の詳細は以下のとおりである。

暦年校正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期5730 \pm 40年) を校正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年校正には OxCal.1 (校正曲線データ: Intcal9) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。

表2 放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
P.L.D-16493	-17.24 \pm 0.12	123 \pm 16	125 \pm 15	1685 AD(9.9%)1699 AD	1682 AD(27.2%)1736 AD
				1721 AD(7.0%)1732 AD	
				1808 AD(6.5%)1818 AD	
				1833 AD(36.4%)1880 AD	
				1916 AD(8.5%)1928 AD	

(2) 炭素窒素比

表3にC/N比を示す。C/N比は抽出したコラーゲンの質を確認する方法として用いられる。現生動物骨から抽出したコラーゲンのC/N比は2.9~3.6を示すとされる。今回の結果は3.85であり、大きく外れてはいないものの、人骨コラーゲンは土壌中の有機物などにより骨の外部から汚染されている可能性がある。

(4) 炭素・窒素安定同位体比

表3に抽出したコラーゲンの $\delta^{13}\text{C}$ と $\delta^{15}\text{N}$ を示す。図2では、生前に摂取していたタンパク源を推定するために食物の範囲と共にプロットした。また、比較のために伊達元成の報告(伊達 2010)から引用した北海道伊達市有珠4遺跡の近世アイヌ(1640年以降)の値($n=7$)を示した。有珠4遺跡は海岸近くに立地する遺跡であり、アイヌ墓から検出された人骨が分析されている。その他、南川雅男の論文(南川 2001)から引用した樺太と北海道の近世アイヌ($n=5$)および愛媛県の近世和人($n=4$)の値も示した。人が食物中のタンパク質を利用して体組織を構成する際に同位体分別が起き、 $\delta^{13}\text{C}$ は4.5%、 $\delta^{15}\text{N}$ は3.5%、重い同位体が濃縮する。図2では人骨コラーゲンの値から濃縮分を差し引いてある。

表3 炭素・窒素安定同位体比測定結果

遺構	試料種	C/N比	安定同位体比	
			$\delta^{13}\text{C}_{\text{org}}$	$\delta^{15}\text{N}_{\text{air}}$
遺構: P-12 その他: 方形の墓	ヒト腓骨	3.85	-17.3	10.6

4 考察

炭素・窒素安定同位体比を示した図2において、木古内遺跡P-12出土人骨は、C植物や草食動物といった陸産物と海棲哺乳類や海産魚類などの海産物との中間にプロットされた。陸産物側に偏っているが、海産物もある程度摂取していた可能性も考えられる。したがって、P-12出土人骨の¹⁴C年代は海洋リザーバー効果の影響を受け古く出ている可能性がある。

¹⁴C年代の暦年校正を行った結果、2σ暦年代範囲は1682-1736 calAD(27.2%)、1805-1892 calAD(54.8%)、1907-1935 cal AD(13.4%)を示した。校正曲線が比較的平坦な時期に該当するため、暦年代範囲が複数にわたり、年代を絞り込むことが難しい。上に述べたとおり、海洋リザーバー効果の影響で年代値が古くなっている可能性があるため、人骨の年代は17世紀後葉よりも新しい「ある時期」と考えることが妥当である。

また、図2における他遺跡との比較では、木古内遺跡P-12出土人骨は陸産物側に偏る傾向が見られ、海産物に大きく依存する伊達市有珠4遺跡のアイヌとはタンパク源の摂取割合が異なっていたと言える。食物摂取の仕方に関して、木古内遺跡P-12出土人骨が、どういった集団と近いのかは、比較対象を増やして改めて検討する必要がある。

なお、C/N比は人骨コラーゲンが土壌中の有機物などにより骨の外部から汚染されている可能性を示唆しており、¹⁴C年代、 $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ が本来の値とは異なっている可能性を考慮する必要がある。

引用参考文献

- 赤澤威・南川雅男(1989) 炭素・窒素同位体比に基づく古代人の食生活の復元。
田中琢・佐原真編「新しい研究法は考古学になにをもたらしたか」：132-143、クバプロ。
- Bronk Ramsey C 2009 Bayesian Analysis of Radiocarbon dates Radiocarbon 51(1) 337-360
- 伊達元成・青野友哉・大島直行・松田宏介(2008) 陸産・海産の食料資源摂取率を人骨の炭素14年代から求める試み、総研大文化科学研究、5、73-80。
- 伊達元成(2010) 有珠4遺跡における人骨と動物骨および漆製品の放射性炭素(¹⁴C)年代測定。
青野友哉・三谷智広編「有珠4遺跡発掘調査報告書」：121-124、伊達市噴火湾文化研究所。
- DeNiro M J 1985 Postmortem preservation and alteration of in vivo bone collagen isotope ratios in relation to paleodietary reconstruction Nature 317 806-809
- 南川雅男(2001) 炭素・窒素同位体分析により復元した先史日本人の食生活。
国立歴史民俗博物館研究報告、86、333-357。
- 中村俊夫(2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代」：3-20、日本第四紀学会。
- Reiner P J Baillie M G L Bard E Bayliss A Beck J W Blackwell P G Bronk Ramsey C Buck C E Burr G S Edwards R L Friedrich M Grootes P M Guilderson T P Hajdas I Heaton T J Hogg A G Hughen K A Kaiser K F Kromer B McCormac F G Manning S W Reiner R W Richards D A Southon J Talamo S Turney C S M van der Plicht J and Weyhermeyer C E 2009
IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years calBP
Radiocarbon 51 1111-1150
- Yoneda M M Hirota M Uchida A Tanaka Y Shibata M Morita and T Akazawa 2002
Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rock shelter Na

gano Japan Radiocarbon 44 (2) 549-557

吉田邦夫・西田泰民 (2009) 考古科学が探る火炎土器。

新潟県立歴史博物館「火焔土器の国 新潟」: 87-99、新潟日報事業社。

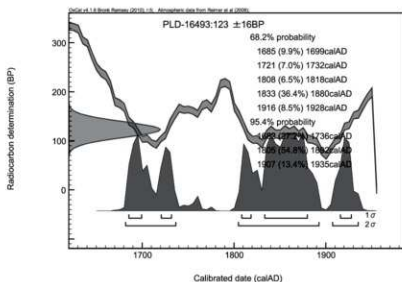


図1 暦年較正結果

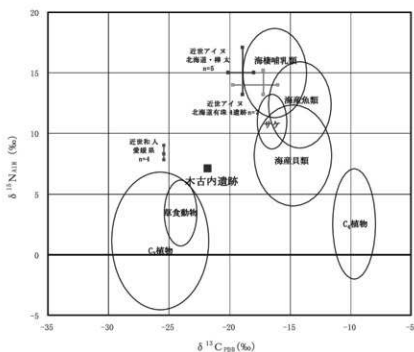


図2 安定同位体比

(平成22年11月19日 受領)
(平成23・24年度 愛場 点検)

写 真 图 版



遺跡遠景（鉄塔奥）



表土除去後地形

図版 2



基本土層 (P 56 付近)



調査区南西側調査終了状況 (北から)



SH-1 土層断面



SH-1 遺物出土状況



HF-1 および煙道土層断面



HF-1 周辺遺物出土状況

図版 4



SH-2土層断面



煙道土層断面



HF-1土層断面



SH-2完掘状況



H-1 土層断面



HP-5 土層断面



HP-7・8 土層断面



HP-9 土層断面



H-1 遺物出土状況



H-2 土层断面



HP-1 土层断面



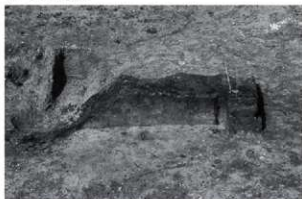
HP-2·3 完掘状况



H-2 完掘状况



H-3 土層断面



HF-1 土層断面



HP-1 土層断面



H-3 完掘状況



H-4 上面遺物出土状況



H-4 土層断面



H-4 遺物出土状況



H-4 付属遺構土層断面



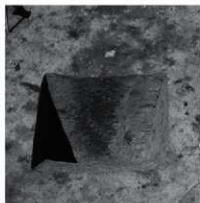
H-4 完掘状況



H-5 土層断面



HP-4 土層断面



HP-9 土層断面



HP-11 土層断面



H-5 完掘状況



H - 6 土层断面



H - 6 遺物出土狀況



H F - 1 土层断面



H - 6 完掘狀況



H-7～12 調査状況



調査状況 (H-9 掘り上げ土検出)



H-7 土層断面



HP-16 土層断面



覆土中土器出土状況



HP-4 遺物出土状況



HP-13 土層断面



H-7 完掘状況



H-8 土層断面



HP-1 遺物出土状況



HF-3 遺物出土状況



H-8 完掘状況



周溝検出状況



HP-6 土層断面



H-9 土層断面



H F-1 検出状況



H P-11 遺物出土状況



H-9 覆土中遺物出土状況



H-9 完掘状況



H-10 土層断面



石製品出土状況



HP-4・5・6 土層断面



HP-10 土層断面



H-10 完掘状況



H-11 土層断面



H-11 遺物出土状況



HP-2 土層断面



HP-3 土層断面



HP-5 土層断面



H-12 土層断面



HP-1 土層断面



HP-2 土層断面



H-12 完掘状況



H-13 土層断面



H-13 完掘状況



H-17・18・14 調査状況



H-14 土层断面



覆土中小穴出土状况



曝出土状况



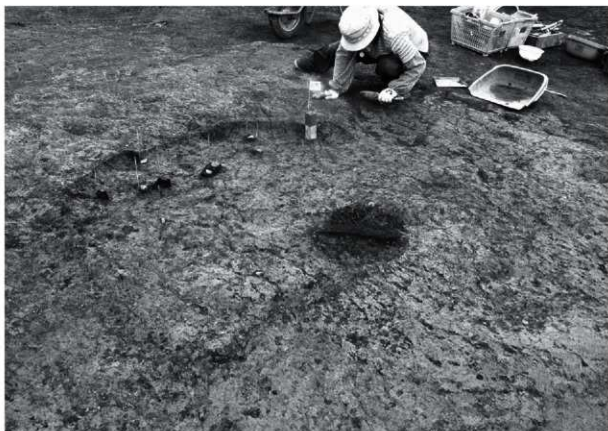
H F - 1 検出状况



周溝完掘状况



H-14 完掘状况



H-15 遺物出土状況



H-16 遺物出土状況



H-17 土层断面



H F-1 完掘状况



H P-1 完掘状况



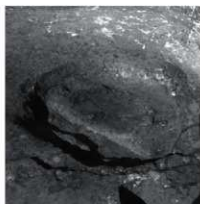
周溝1 土层断面



H-17 完掘状况



H-18 土层断面



HF-1 土层断面



炭化材検出状況



HP-1・2・3完掘状況



H-18 完掘状況



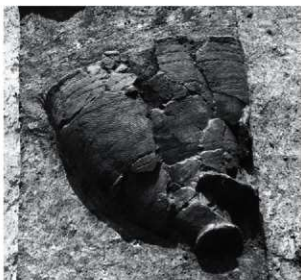
H-19 土層断面



H-19 遺物出土状況



H-20 土層断面



H-20 覆土中土器出土状況



覆土中土器出土状況



H-20 遺物出土状況



床面石器出土状況



床面石器出土状況



HP-1·2·10完掘



HP-6遺物出土状況



HP-7土層断面



周溝2土層断面



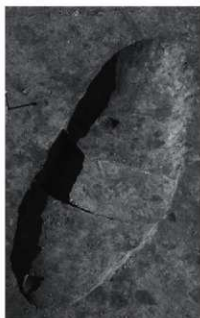
H-20完掘状況



H-21 西側土層断面



H-21 東側土層断面



周溝 1 完掘状況



H-21 遺物出土状況



H-22 土層断面



H-22 土層断面



炭化材出土状況



H-22 完掘状況



H-23 土层断面



覆土中土器出土状况



HP-3A・B土层断面



H-23 完掘状况



H-24 土層断面



HP-2 土層断面



H-24 西側完掘状況



HP-3 土層断面



H-24 東側遺物出土状況



H-25 土层断面



H-25 完掘状况



H-26 土层断面



H-26 完掘状况



H-26 HP-1 土层断面



H-26 HP-2 土层断面



H-27 土层断面



HP-1 土层断面



H-27 完掘状况



H-28 土层断面



H-28 完掘状况



H-29 土層断面



床面遺物出土状況



HP-9 砂検出状況



H-29 炭化材検出状況



P - 1 遺物出土状況



P - 2 遺物出土状況



P - 3 完掘状況



P - 4 遺物出土状況



P - 5 遺物出土状況



P - 6 完掘状況



P - 7 完掘状況



P - 8 遺物出土状況



P-9 土層断面



P-10 遺物出土状況



P-11 遺物出土状況



P-13 完掘状況



調査区南西部土坑群



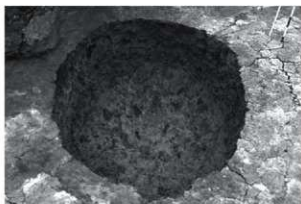
P-12 土层断面



人骨检出状况



人骨检出状况



P-14 完掘狀況



P-15 完掘狀況



P-16 完掘狀況



P-17 土層断面



P-18 完掘狀況



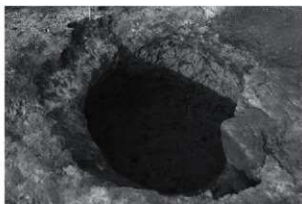
P-19 遺物出土狀況



P-20 完掘狀況



P-21 完掘狀況



P-22 完掘状况



P-23 完掘状况



P-24 完掘状况



P-25 完掘状况



P-26 土层断面



P-27 完掘状况



P-28 完掘状况



P-29 完掘状况



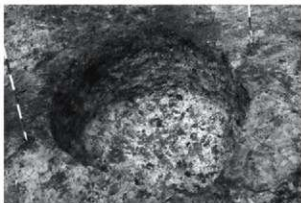
P-30 完掘状況



P-31 遺物出土状況



P-31 完掘状況



P-32 完掘状況



P-33 土層断面



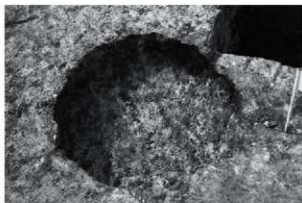
P-34 遺物出土状況



P-35 完掘状況



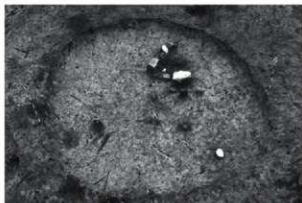
P-36 完掘状況



P-37 完掘状况



P-38 完掘状况



P-39 遺物出土状况



P-40 土層断面



P-41 完掘状况



P-42 完掘状况



P-43 完掘状况



P-44 完掘状况



P-45 土层断面



P-46 完掘状况



P-47 完掘状况



P-48 完掘状况



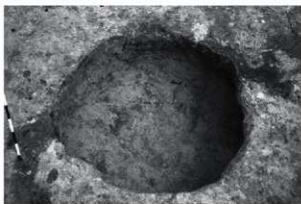
P-49 完掘状况



P-50 完掘状况



P-51 完掘状况



P-52 完掘状况



P-53 完掘状况



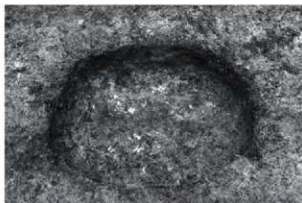
P-54 完掘状况



P-55 土层断面



P-56 完掘状况



P-57 完掘状况



P-58 土层断面



P-59 土层断面



P-58·59 完掘状况



P-60 完掘状況



P-61 遺物出土状況



P-62・63・64 完掘状況



P-65・66・67・68 完掘状況



P-69 完掘状況



P-70 完掘状況



P-71 遺物出土状況



P-72 遺物出土状況



P-73 遺物出土状況



P-74 完掘状況



P-75・76 完掘状況



P-77 土層断面



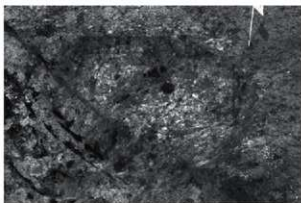
P-78 完掘状況



P-79 完掘状況 (H 23 年度)



P-80 完掘状況



P-81 完掘状況



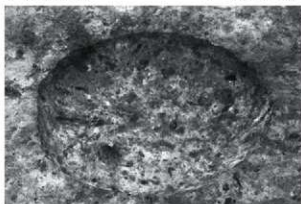
P-82 完掘状況



P-83 完掘状況



P-84 完掘状況



P-85 完掘状況



P-86 完掘状況



P-87 完掘状況



P-88 完掘状況



P-89 遺物出土状況



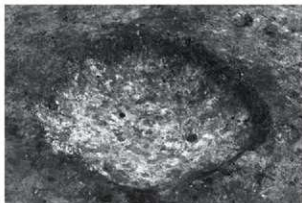
P-89 完掘状況



P-90·91 完掘状况



P-92 完掘状况



P-93 完掘状况



P-94 完掘状况



P-95·96 完掘状况



P-96 遺物出土状况



P-97 土层断面



P-98 遺物出土状况



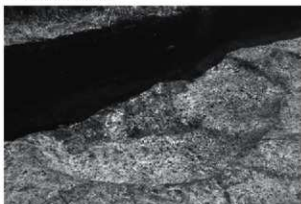
P-99 遺物出土状況



P-99 遺物出土状況



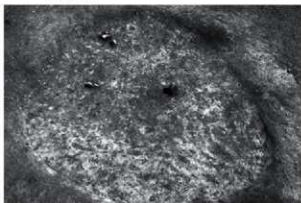
P-100 遺物出土状況



P-101 完器状況



P-102 遺物出土状況



P-103 遺物出土状況



P-104 遺物出土状況



P-105 遺物出土状況



P-106 遺物出土状況



P-107 遺物出土状況



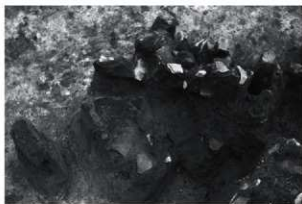
P-108 遺物出土状況



P-108 遺物出土状況



P-113 遺物出土状況



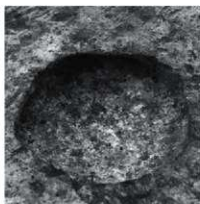
P-113 遺物出土状況



P-108・113 完掘状況



P-109 完掘状况



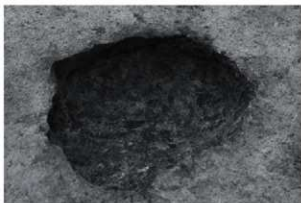
P-110 完掘状况



P-111 完掘状况



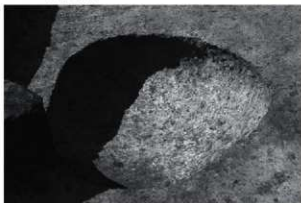
P-112 遺物出土状况



P-114 完掘状况



P-115・116 完掘状况



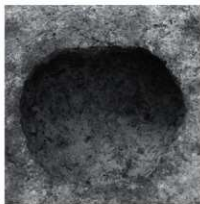
P-117 完掘状况



P-118 完掘状况



P-119 完掘状况



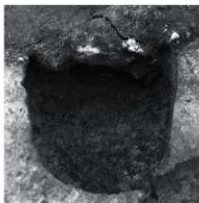
P-120 完掘状况



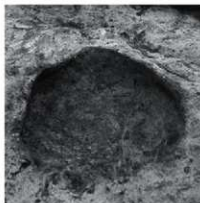
P-121·122 完掘状况



P-123 完掘状况



P-124 完掘状况



P-125 完掘状况



P-126 完掘状况



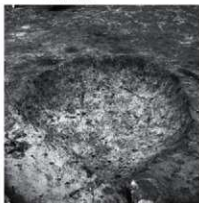
P-127 完掘状况



P-128 完掘状况



P-129 完掘状况



P-130 完掘状况



P-131 遺物出土状况



P-132 完掘状况



P-133 完掘状况



P-134 土层断面



P-135 完掘状况



P-136 完掘状况



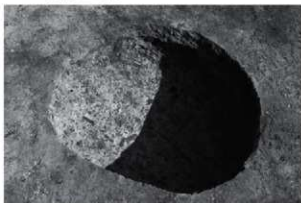
P-137 完掘状况



P-138 遺物出土状况



P-139 完掘状况



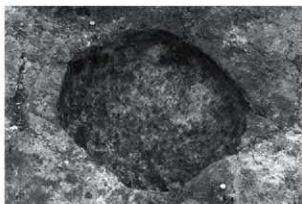
P-140 完掘状况



P-141 完掘状况



P-142 完掘状况



P -143 完掘状况



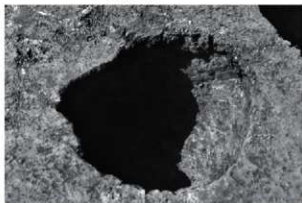
P -144 完掘状况



P -145 · 147 · 153 完掘状况



P -148 完掘状况



P -149 完掘状况



P -150 完掘状况



P -151 完掘状况



P -152 完掘状况



TP - 1 完掘状况



TP - 2 完掘状况



TP - 3 完掘状况



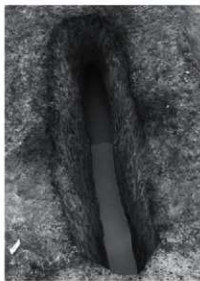
TP - 4 完掘状况



TP - 5 完掘状况



TP - 6 完掘状况



TP - 7 完掘状况



TP - 8 完掘状况



TP - 9 完掘状况



溝状遺構 34 ライン土層断面



33 ライン土層断面



釘先痕検出状況



MP - 2 完掘状況



MP - 3 完掘状況



溝状遺構完掘状況



SH-1・1



SH-1・2

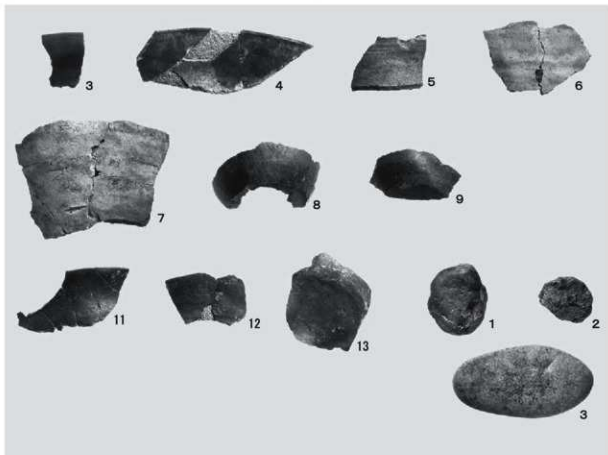


SH-2・10



(s=1/1)

SH-2・14



SH-1・2 出土の遺物



H-4・24



H-7・33



H-8・40



H-9・44



H-9・45



H-9・46



H-9・47



H-9・48



H-9・49

H-4・7・8・9出土の復原土器



H-9・50



H-9・51



H-9・52



H-9・56



H-14・70



H-20・99



H-14・65



H-20・83



H-20・82

H-9・14・20出土の復原土器



H-23・109



H-23・110



H-29・121



P-96・48



P-99・50



P-100・52



P-108・79



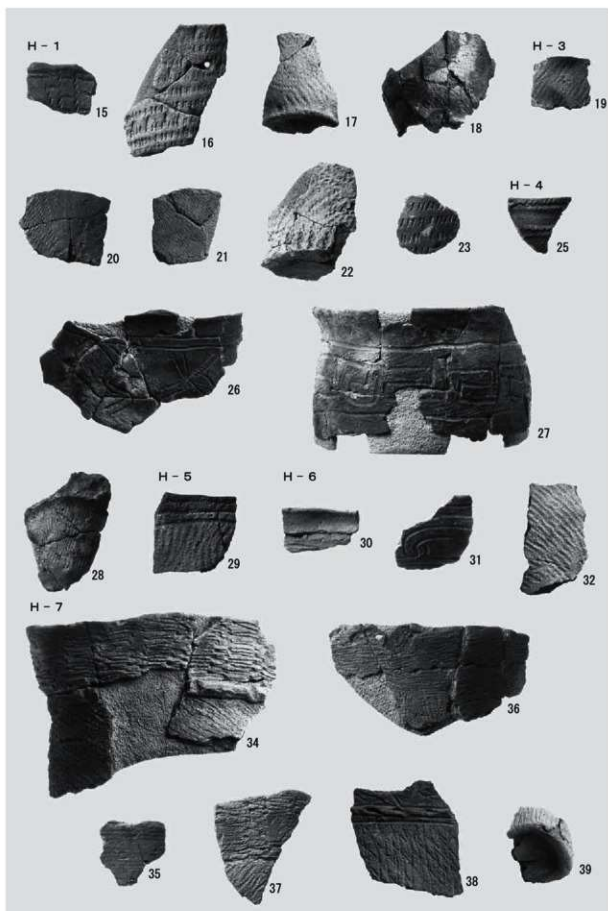
P-108・80



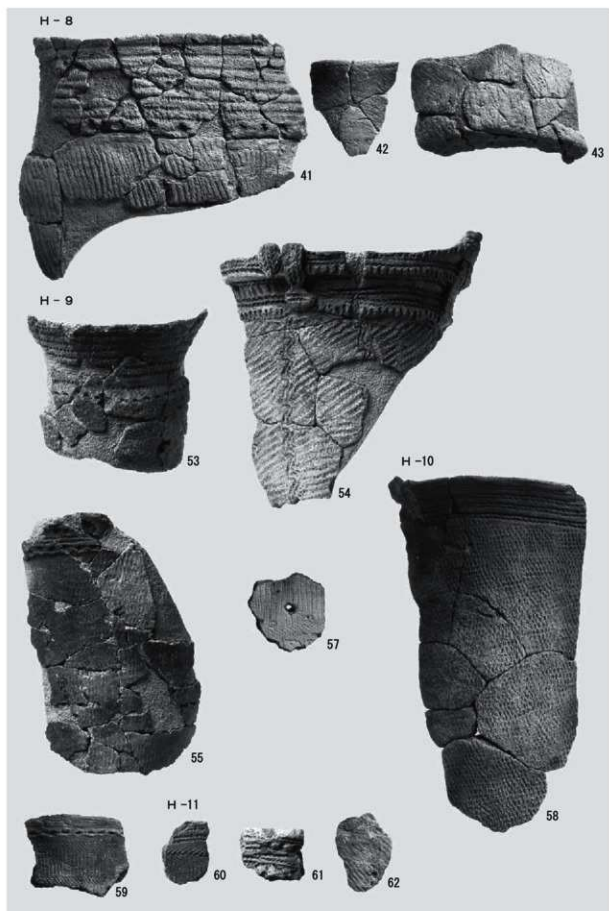
P-102・60



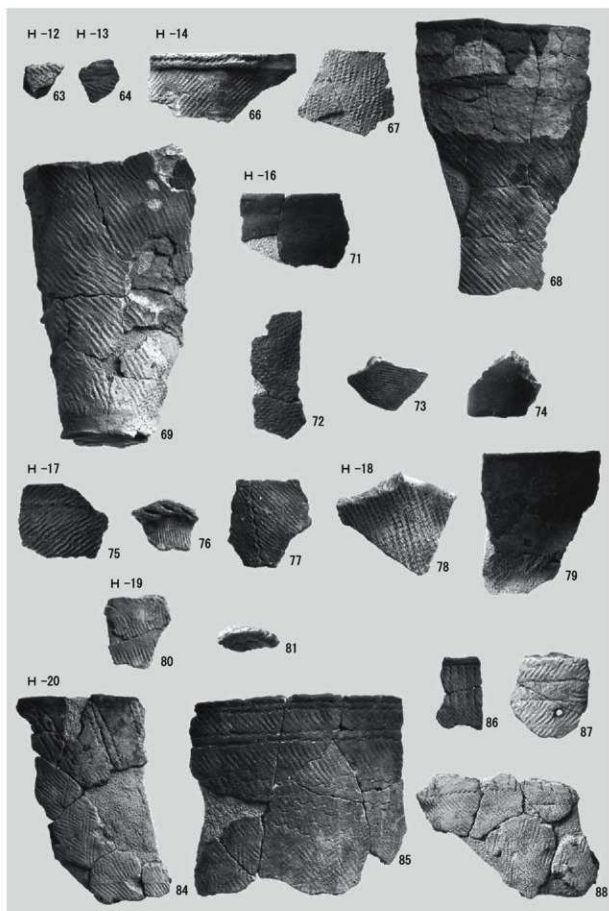
P-113・105



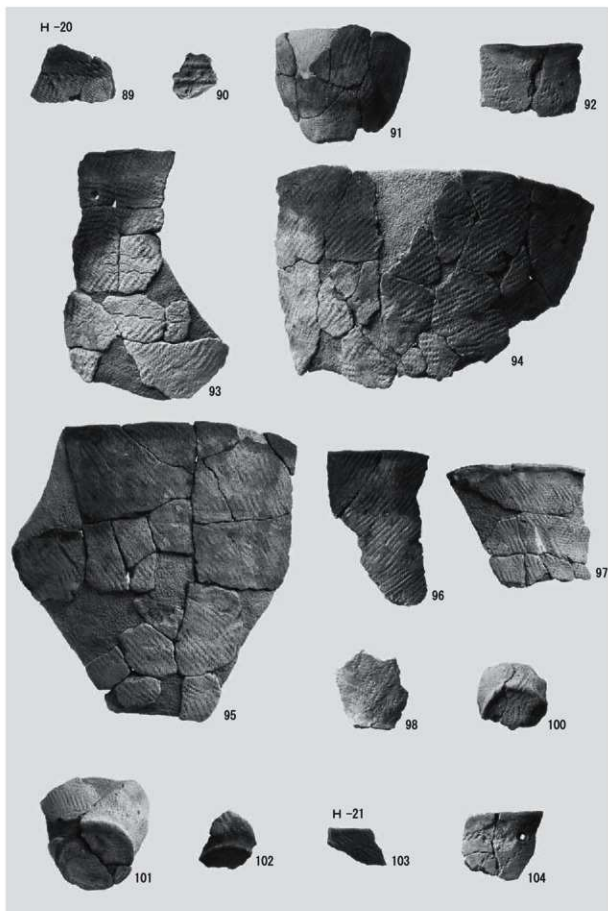
H-1～7出土の拓本土器



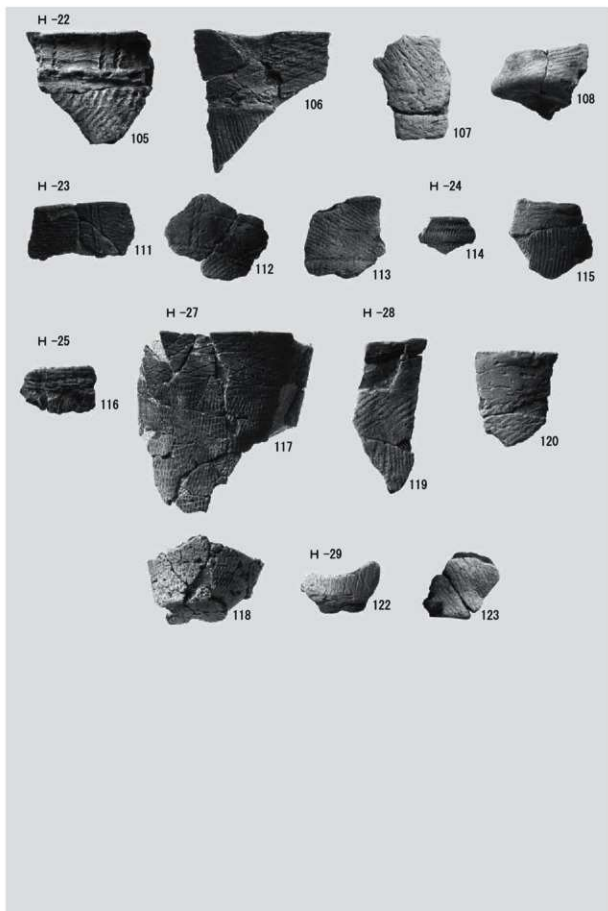
H-8～11出土の拓本土器



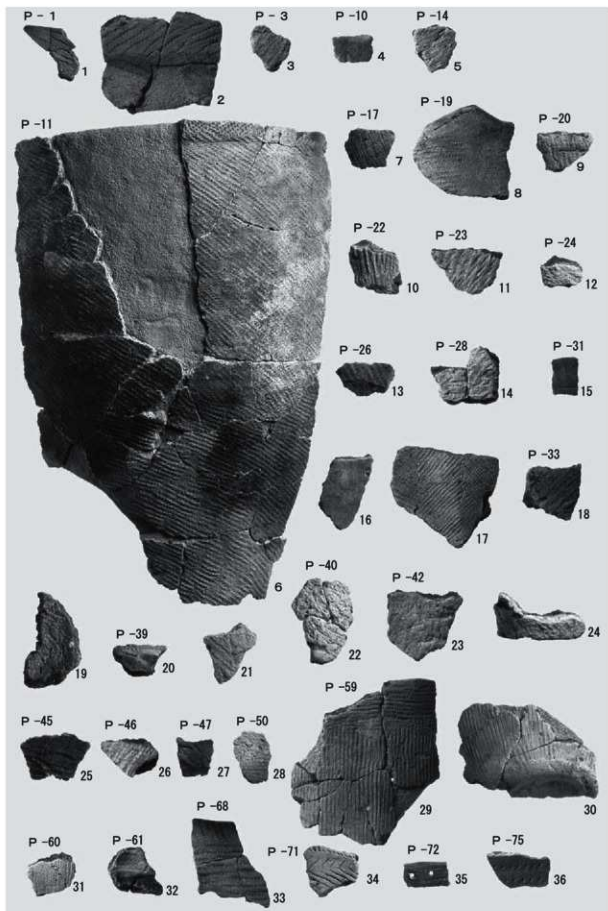
H-12~20出土の拓本土器



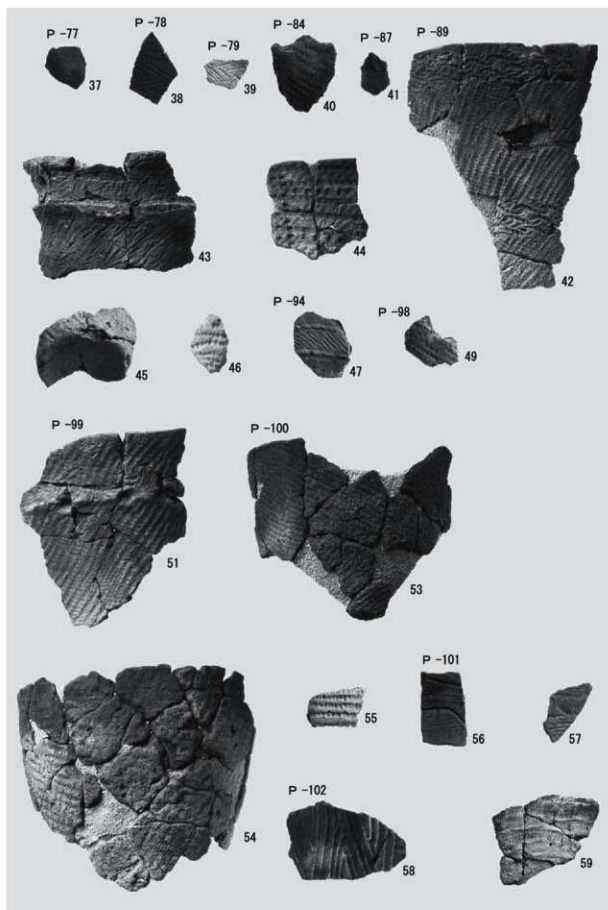
H-20・21出土の拓本土器



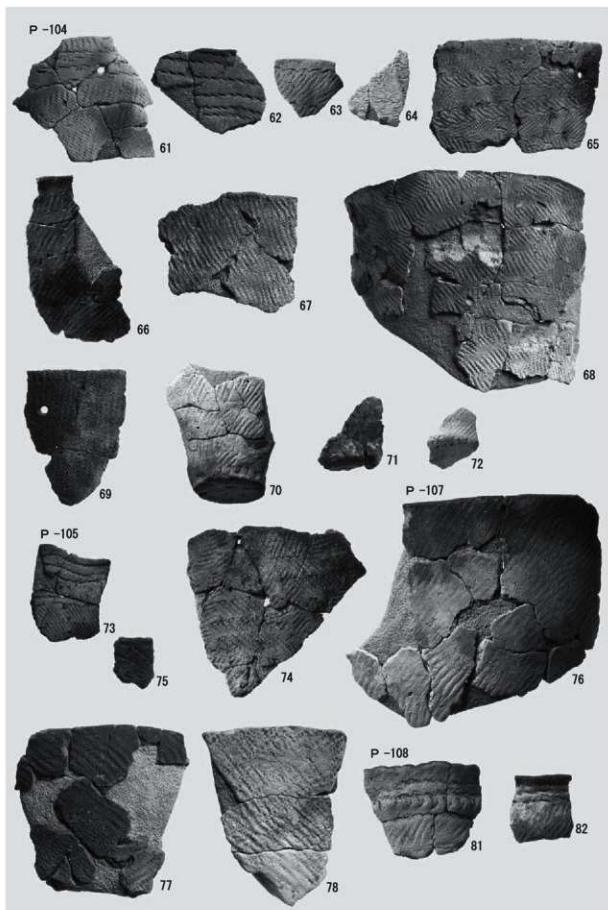
H-22～29出土の拓本土器



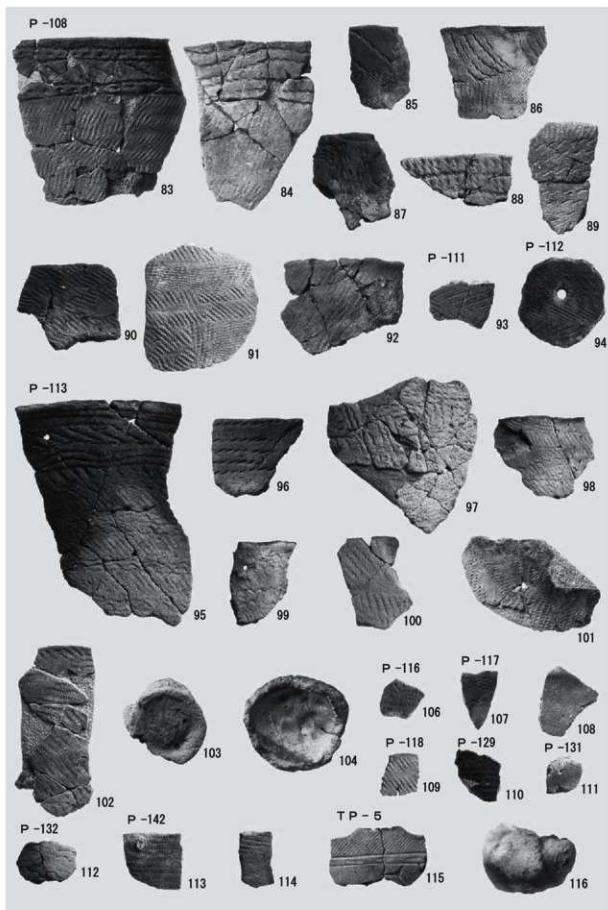
P-1 ~75出土の拓本土器



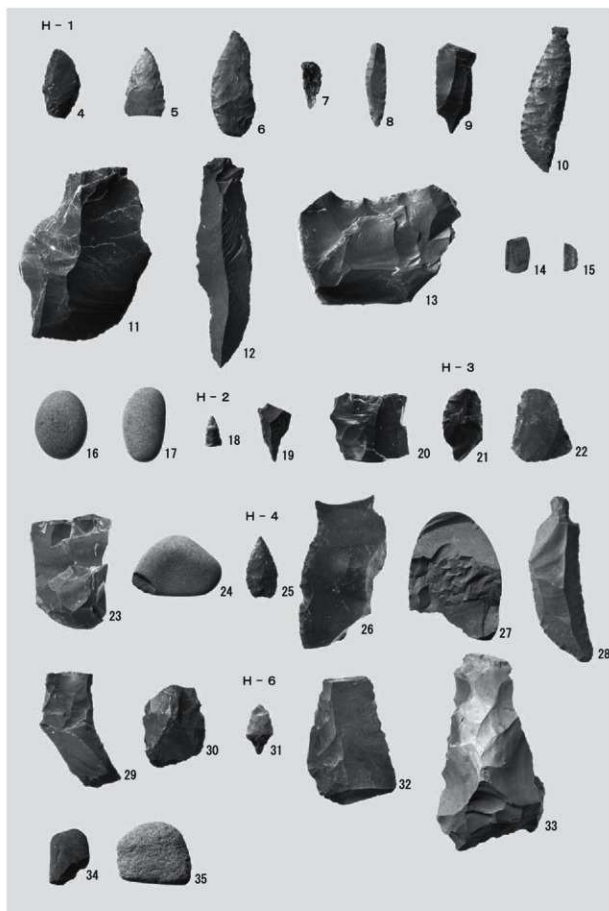
P-77~102出土の拓本土器



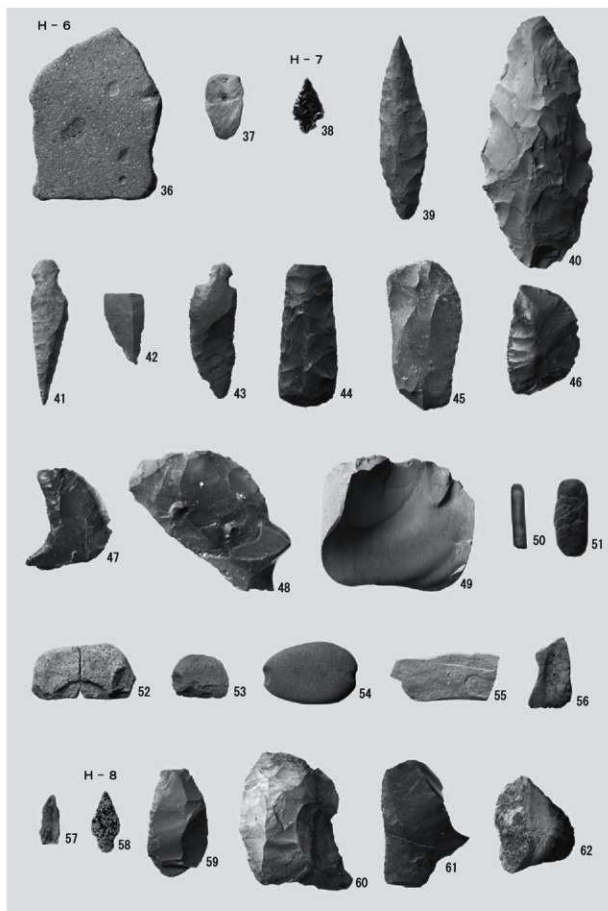
P-104~108出土の拓本土器



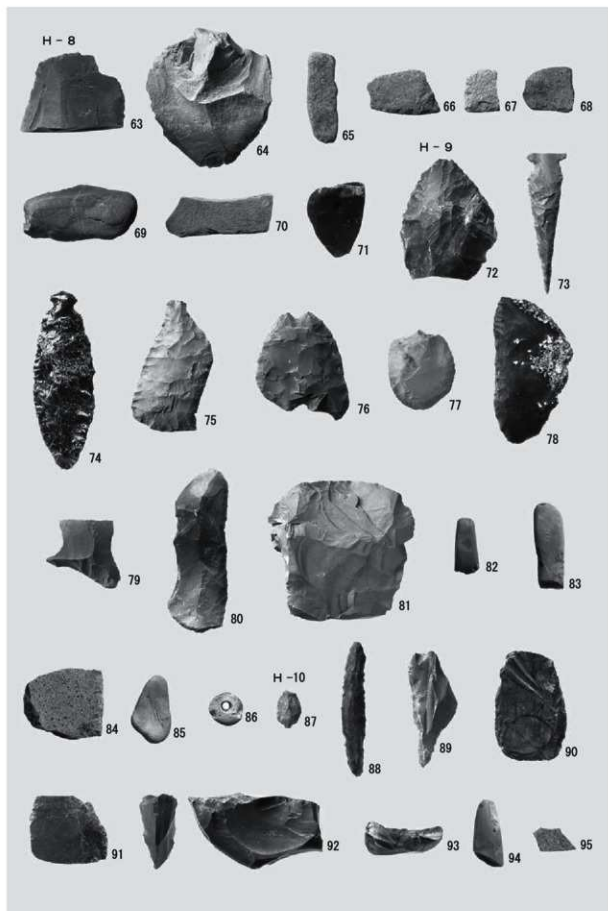
P-108~142・T P出土の拓本土器



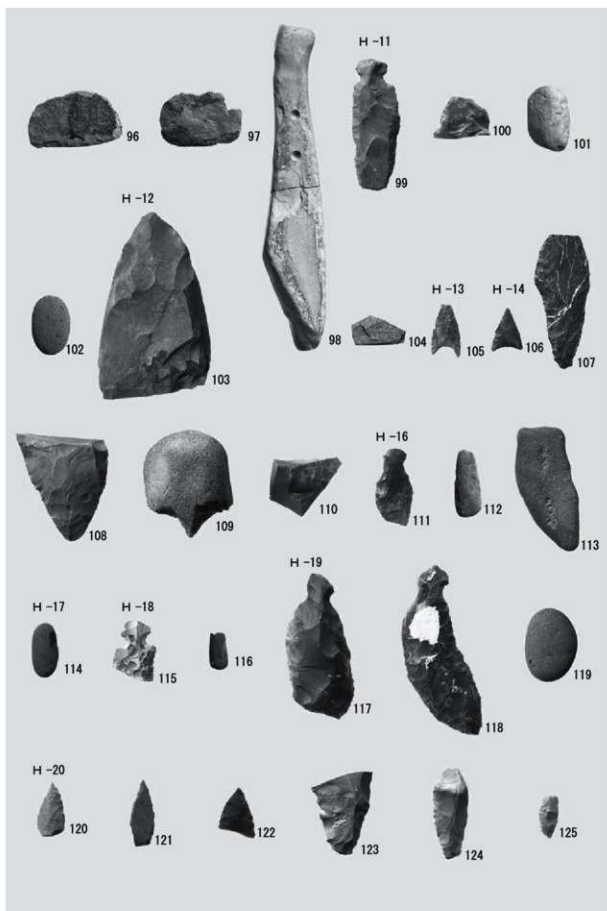
H-1～6出土の石器



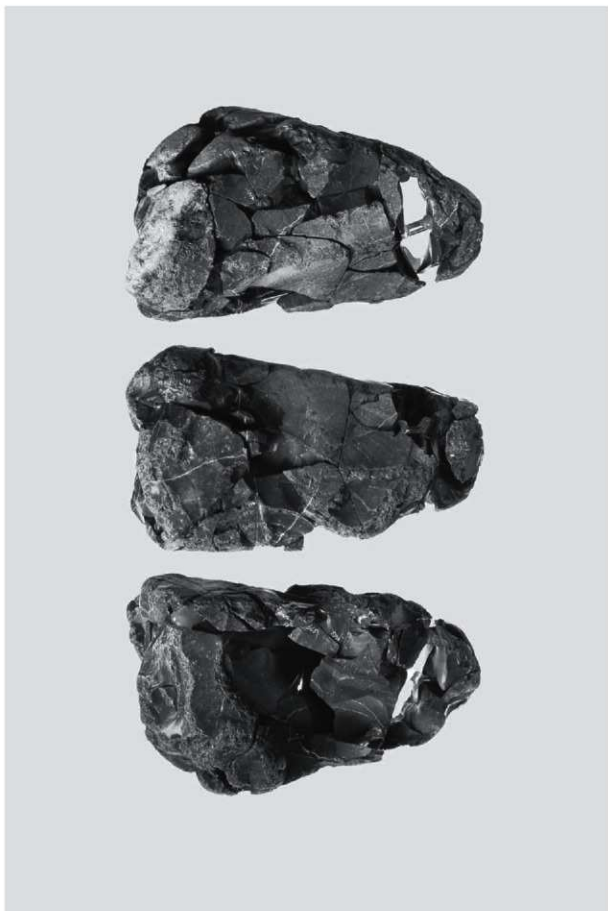
H-6 ~ 8 出土の石器等



H-8～10出土の石器等



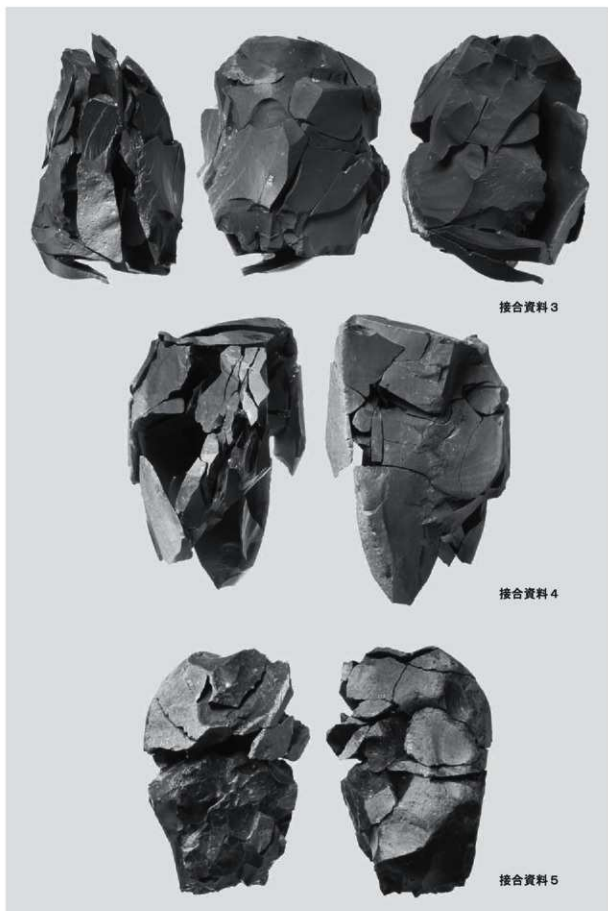
H-10~20出土の石器等



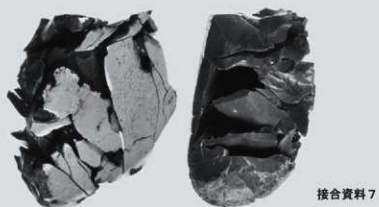
H-20出土の接合資料 1

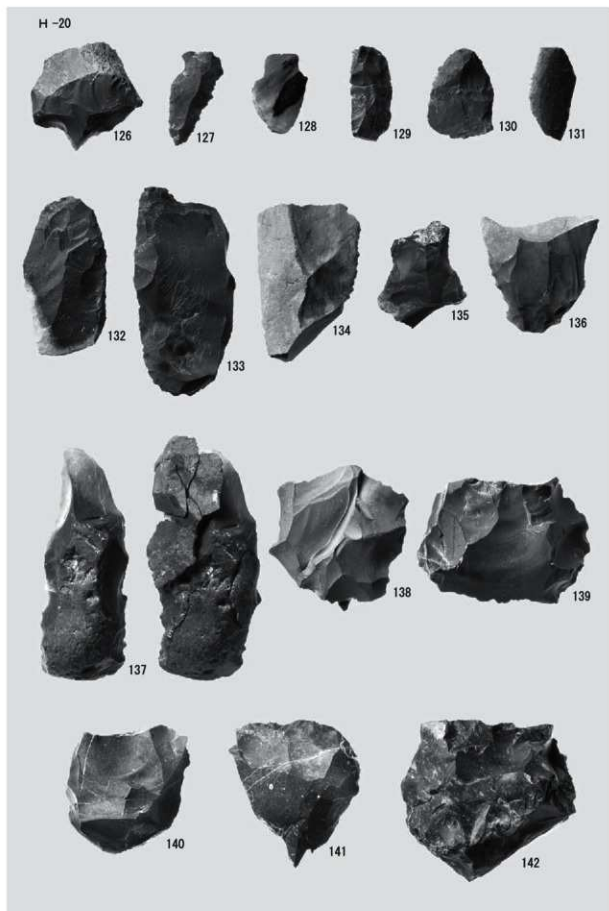


H-20出土の接合資料 2

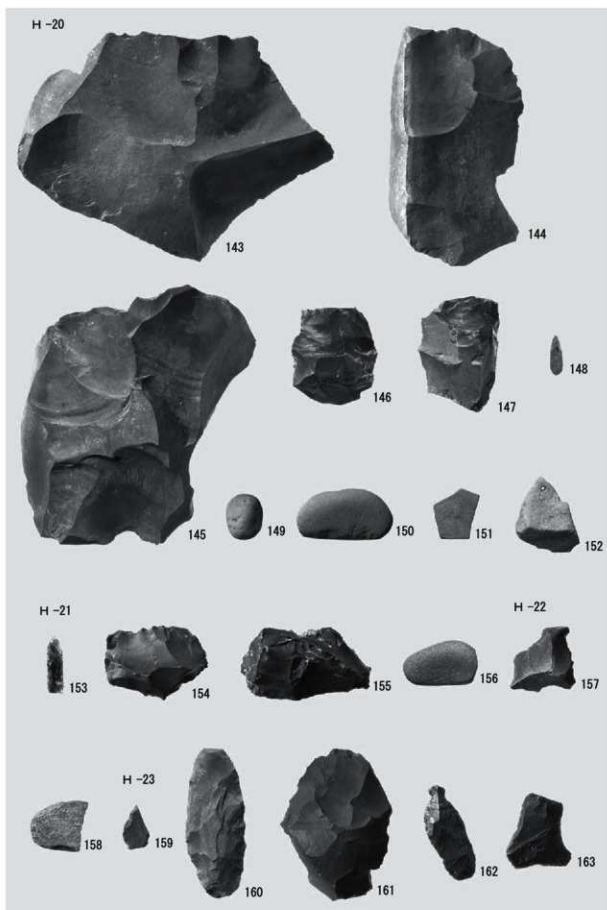


H-20出土の接合資料 3・4・5

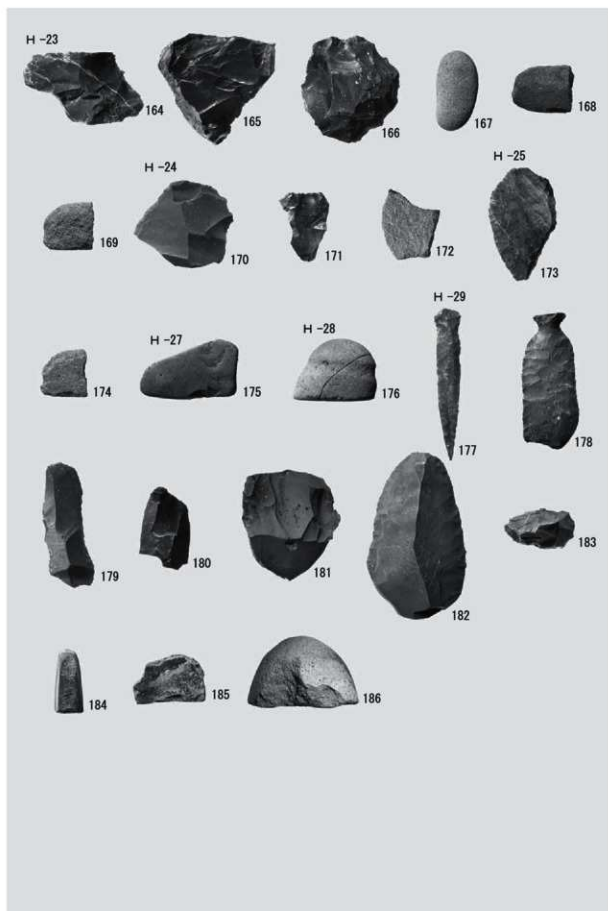




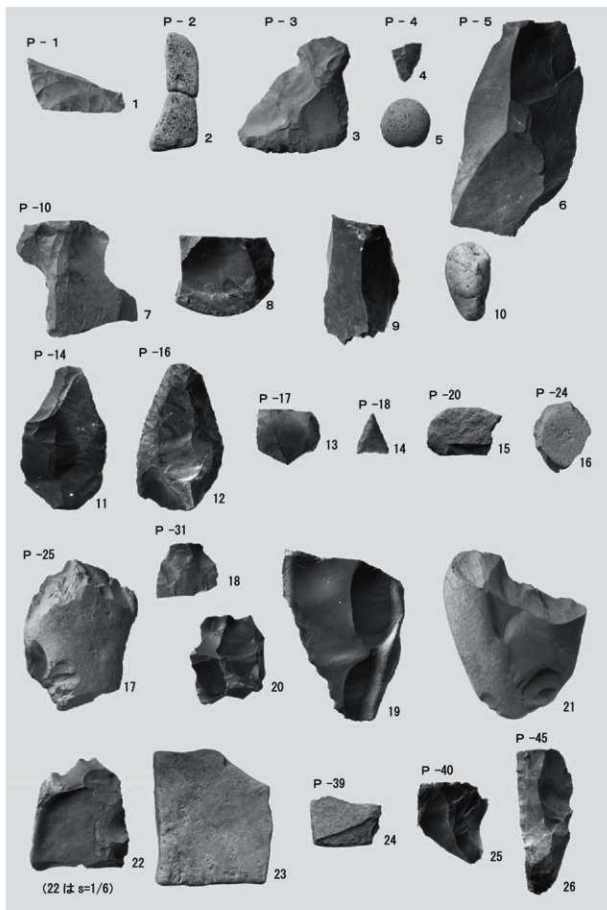
H-20出土の石器



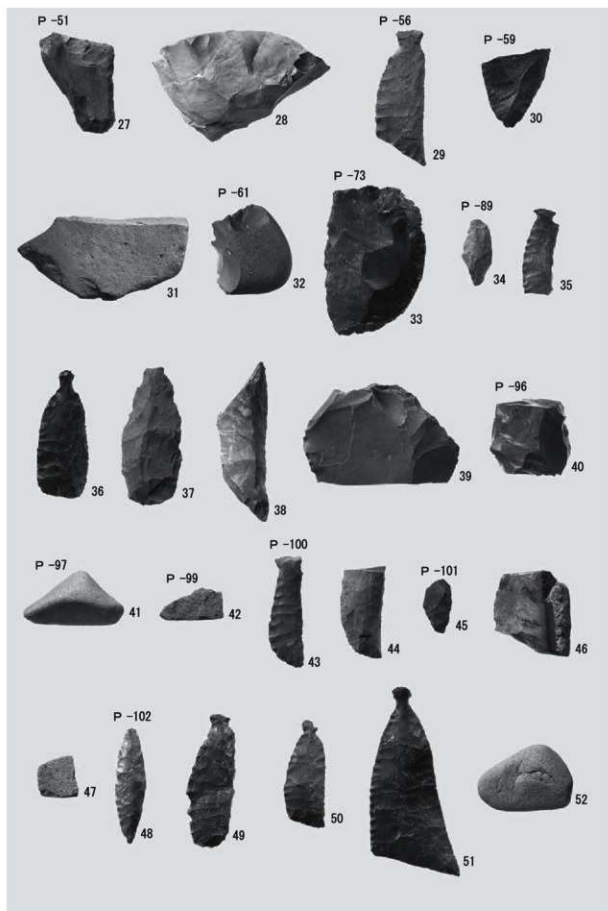
H-20~23出土の石器



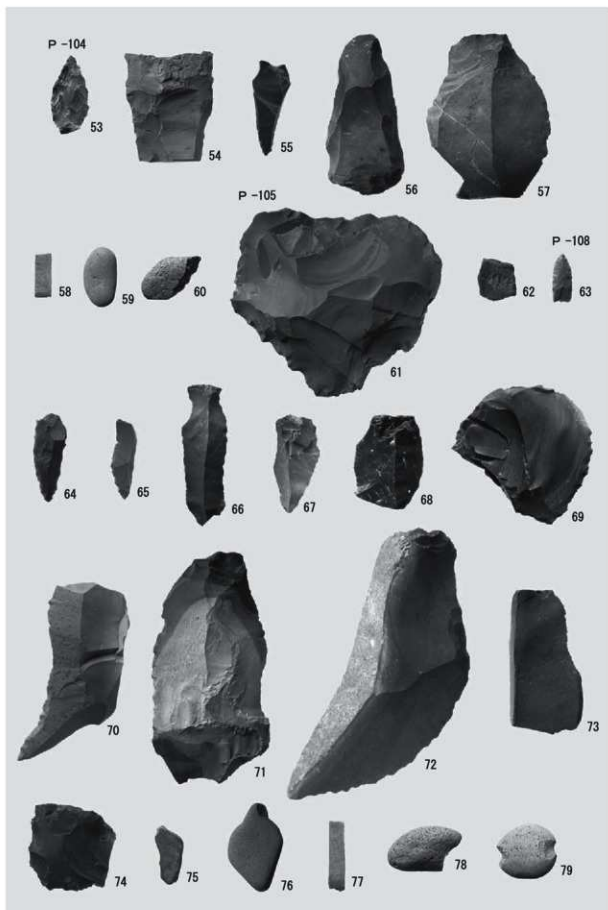
H-23~29出土の石器



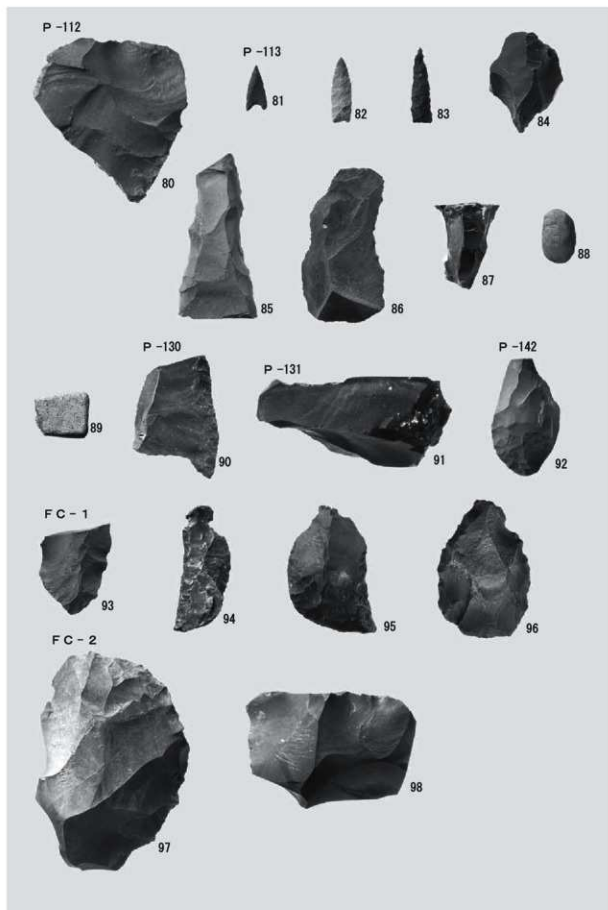
P-1 ~45出土の石器



P-51~102出土の石器



P-104~108出土の石器



P-112~142・FC出土の石器

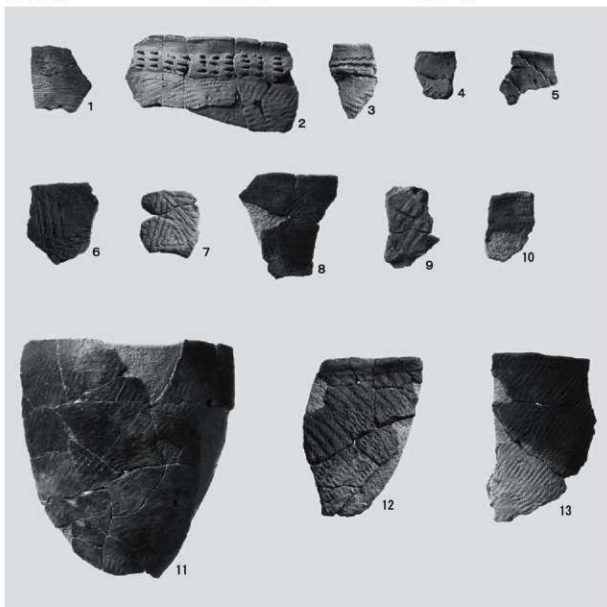


包合層・32

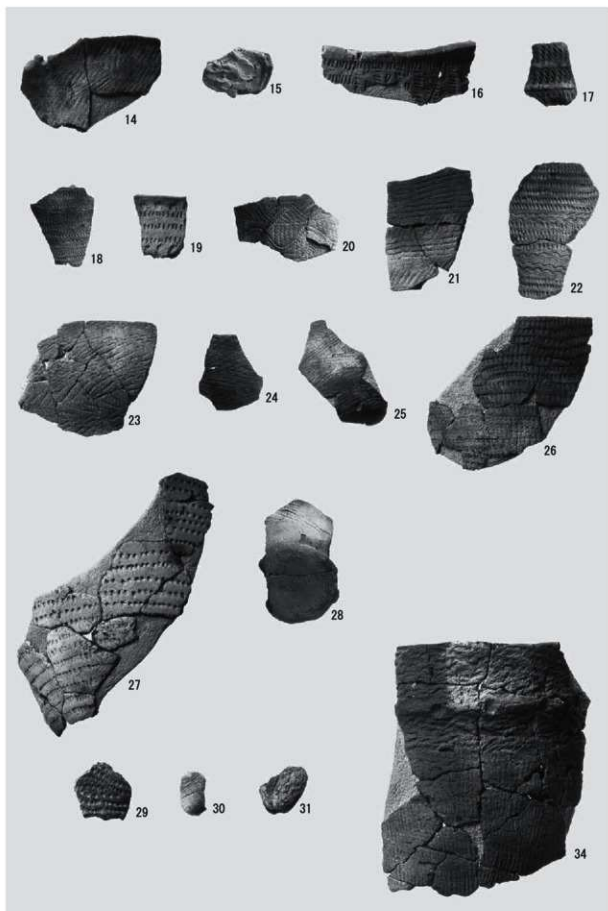
包合層・33

包合層・42

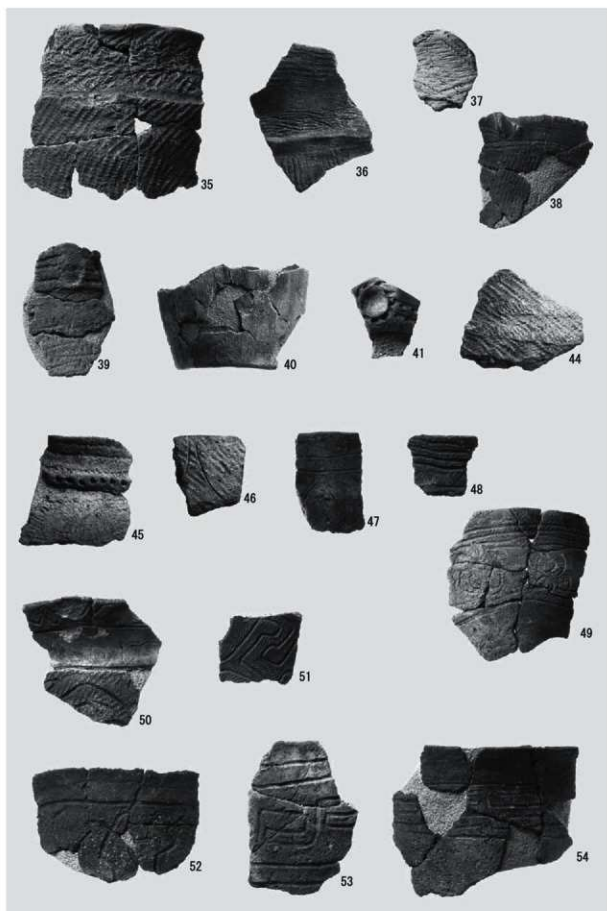
包合層・43



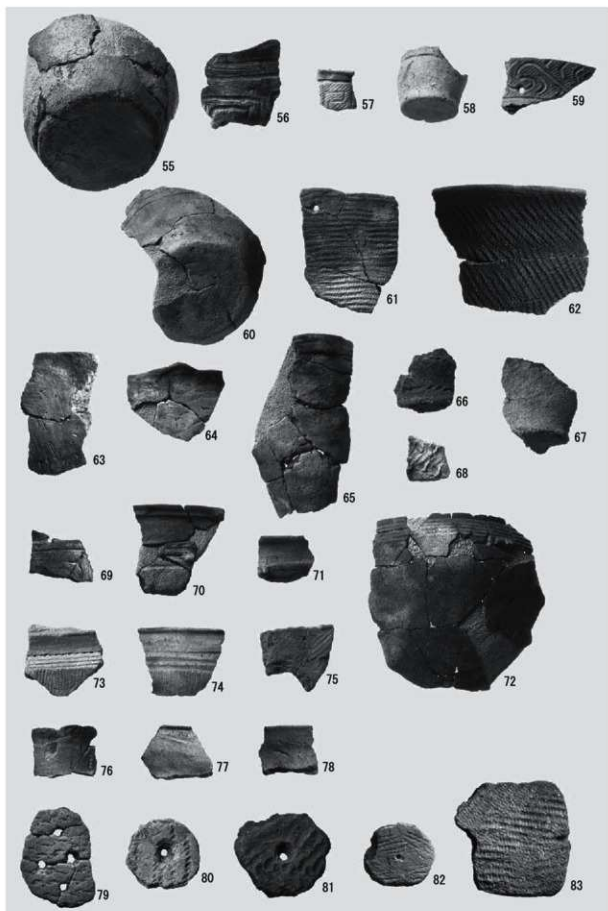
包合層出土の復原土器・拓本土器（1）



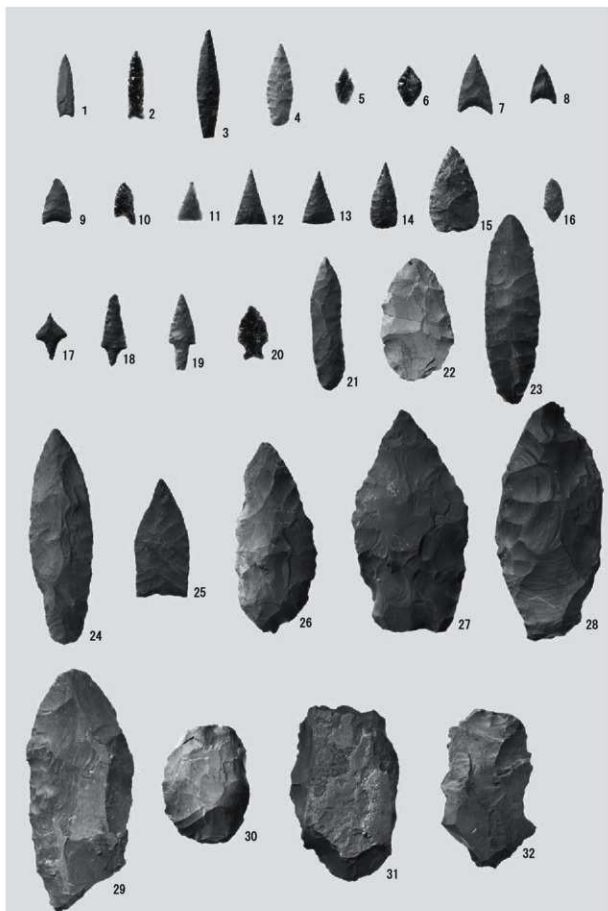
包含層出土の拓本土器（2）



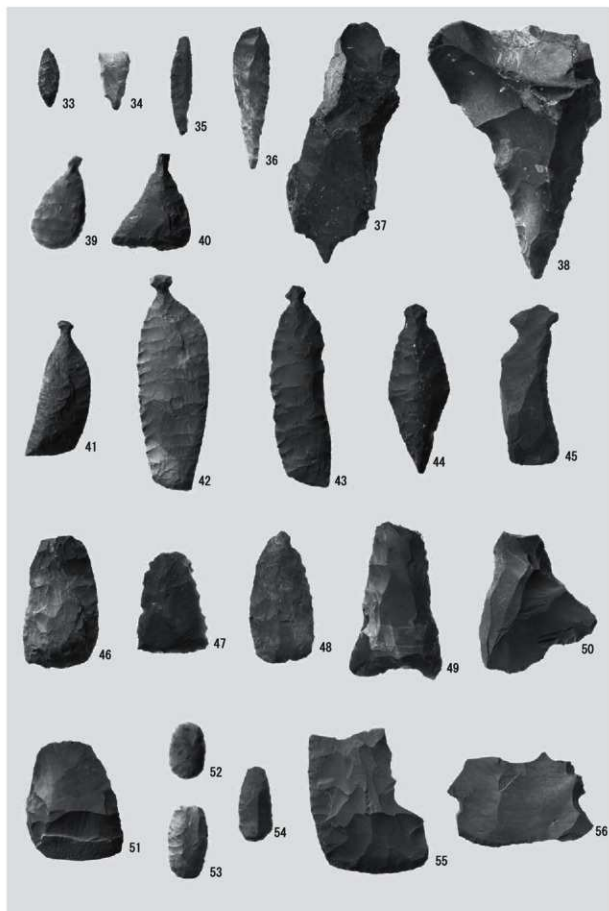
包含層出土の拓本土器（3）



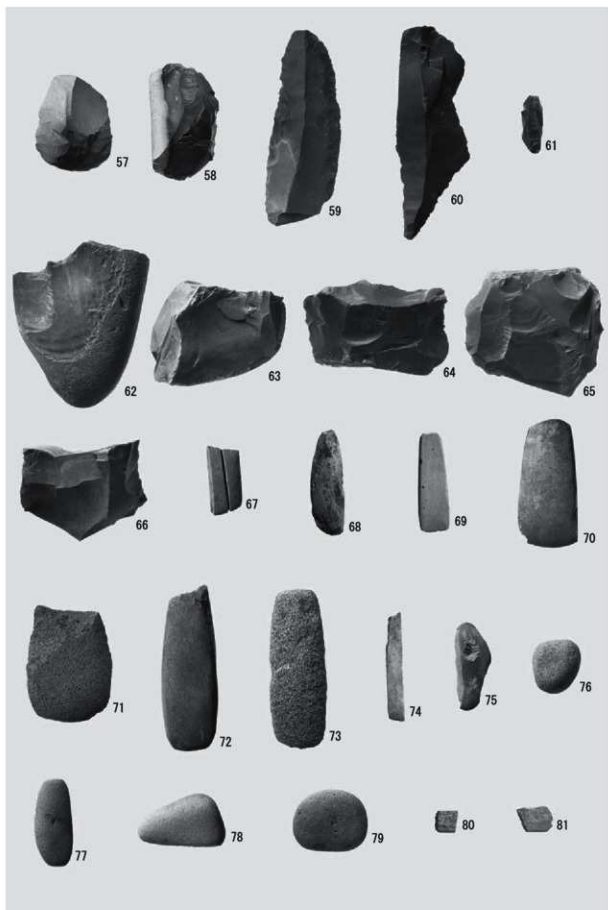
包含層出土の拓本土器（4）・土製品



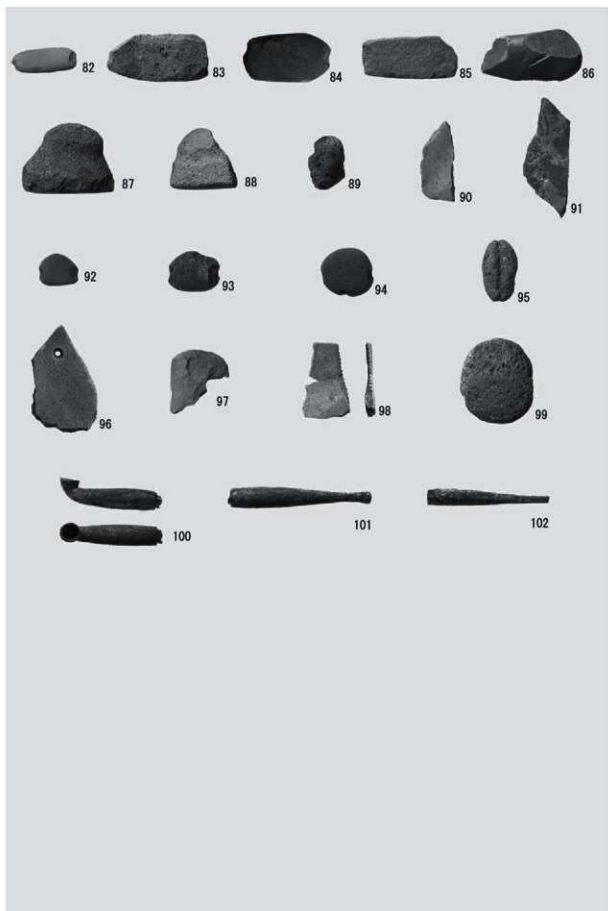
包含層出土の石器（1）



包含層出土の石器（2）



包含層出土の石器（3）



包含層出土の石器（4）・石製品・金属製品

引用参考文献

(公財)北海道埋蔵文化財センター刊行物

- (財)北海道埋蔵文化財センター 2010 『調査年報22』
(財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『調査年報23』
(財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『調査年報24』
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2013 『調査年報25』

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書

- (財)北海道埋蔵文化財センター 1987 『木古内町建川2・新道4遺跡』
津軽海峡線(北海道方)建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書(4)北埋調報43
(財)北海道埋蔵文化財センター 1988 『木古内町 新道4遺跡』
津軽海峡線(北海道方)建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書(5)北埋調報52
(財)北海道埋蔵文化財センター 1989 『美沢川流域の遺跡群XII』
新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報58
(財)北海道埋蔵文化財センター 1996 『中野B遺跡』
函館空港拡張工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報97
(財)北海道埋蔵文化財センター 1996 『西桔梗1遺跡』
一般国道228号函館江差自動車道函館茂辺地道路改良工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報99
(財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『長万部町 富野3遺跡』
北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報131
(財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町 濁川左岸遺跡 -B地区-』
北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報190
(財)北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町 濁川左岸遺跡 -A地区-』
北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報208
(財)北海道埋蔵文化財センター 2010 『森町 石倉1遺跡(2)』
北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報266
(財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町 木古内2遺跡』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 278
(財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町 大平遺跡・大平4遺跡』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 280
(財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『木古内町 蛇内2遺跡』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 281
(財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『木古内町 大平4遺跡(2)・蛇内2遺跡(2)』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 292
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2013 『木古内町 木古内2遺跡(2)』
北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 北埋調報 293

木古内町	1982	「木古内町史」
木古内町教育委員会	1995	「木古内町 釜谷 5 遺跡」
木古内町教育委員会	1999	「木古内町 釜谷遺跡」
函館市教育委員会	1994	「豊原 2 遺跡」
北桧山町教育委員会	2001	「豊岡 6 遺跡」
八雲町教育委員会	2004	「柴浜 2・3 遺跡」
長万部町教育委員会	2002	「栄原 2 遺跡 (2)」
北海道文化財保護協会	2006	「オバルベツ 2 遺跡」

青森県教育委員会	1988	「館野遺跡」	青森県埋蔵文化財調査報告書 119
青森県教育委員会	1989	「表館 (1) 遺跡Ⅲ」	青森県埋蔵文化財調査報告書 120
青森県教育委員会	2004	「向田 (35) 遺跡」	青森県埋蔵文化財調査報告書 373

西田 茂	1993	「ふたたび東銅路Ⅱ式について」	潮見 浩先生退官記念論集「考古論集」
富永勝也	2004	「北海道考古学の現状と課題 縄文時代早期」	「北海道考古学会」第40輯
遠藤香澄	2008	「縄文系平底土器」	小林達雄編『総覧 縄文土器』

日本ペトロロジー学会編	1997	「土壌調査ハンドブック 改訂版」	博友社
小山正忠・竹原秀雄	2004	「新版標準土色帖」	日本色研事業株式会社

報告書抄録

ふりがな	きこないちよう きこないいせき							
書名	木古内町 木古内遺跡							
副書名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）							
シリーズ番号	第304集							
編著者名	村田 大 愛場和人							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238 E-mail mail_domaibun.or.jp ホームページ http www.domaibun.or.jp							
発行年月日	平成26年（西暦2014）年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		O30統		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
木古内遺跡	北海道 上磯郡 木古内町 字木古内 55・56ほか	01334	B-05-3	41° 41° 05°	144° 26° 28°	20110509 ～ 20120715	12,020㎡	北海道新幹線 建設事業に伴 う事前調査
種別	集落跡							
主な時代	縄文時代早期後半、前期後半、後期前葉、撥文文化期							
主な遺物	縄文時代早期後半（東御路Ⅱ式）、前期後半（円筒土器下層b～d式）の土器・石器等							
要 約								
<p>縄文時代 竪穴住居跡29軒（縄文時代早期後半、縄文時代前期後半、縄文時代後期前葉など） 土坑152基（縄文時代早期後半～縄文時代後期前葉） 撥文文化期 竪穴住居跡2軒、溝状遺構1か所（木柵設置のための布掘り跡？） 近世～近代 土坑墓1基</p>								

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第304集

木古内町 ^{きこない}木古内遺跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—
平成26年3月24日 発行

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238
E-mail mail@damabun.or.jp
URL <http://www.damabun.or.jp>

印刷 株式会社 サンキ
〒011-0907 札幌市北区新琴似7条12丁目1-30
TEL (011) 299-1010